

4 会議の経過

- 一 ジュネーヴ軍縮会議後的情勢
- 二 英米準備交渉関係
- 三 会議招請及び非公式交渉関係

(以上 上巻)

四 会議の経過

297

昭和5年1月20日

ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

会議の議事進行の方法に関する打合せについて

ロンドン 1月20日後発
本 省 1月21日前着

第四七号

一月二十日午前十時首相官邸ニ首席全権（英自治領ヲ含ム

尚仏国ハ「タルデュウ」「ブリアン」ノ二名）会合

一、二十一日ノ開会式ニ於テハ各國ハ成ルヘク簡単ニ儀礼的挨拶ヲ為スニ止ムルコト而シテ演説順序ハ英語国名ノ「アルファベット」順ニ依ルコト（今後ニ此ノ種ノ演説ヲ為ストキハ常ニ同様ノ順序ニ依ルコト）ニ決定ス

二、英國原案ハ議長選任モ他ノ役員ノ選任ト同時ニ二十三日會議ニ於テ之ヲ為スコトトシ二十一日ノ會議ニ於テハ

「マクドナルド」ハ「ホスト」トシテ會議ヲ主宰スルコトトナリ居タルカ「スチムソン」ノ意見ニ基キ二十一日

皇帝ノ演説直後「マクドナルド」ヲ議長ニ選挙スルコトニ決定セリ

三、副議長ハ各國首席全権トシ必要ノ場合ニハ「アルファベット」順ニテ議長ノ席ニ着ク事ニ決定

四、二十三日ノ総会ニテハ各國ハ自國ノ立場ニ闊スル一般的報告ヲ為スニ止メ論争ヲ招クカ如キ細目ニ亘ル提言ヲ為ササル事ニ決定

五、二十三日會議ニ於テ第一及第二委員会ヲ設立シ第一委員会ハ各國全権全部出席シテ會議ノ実質的事務ヲ討議スルコトトシ第二委員会ハ首席全権若ハ其ノ代理者出席シテ會議ノ日程其ノ他形式的事務ヲ定メ且會議ノ円滑ヲ計ル為内相談ヲ為シ會議ノ停頓又ハ破裂ノ危険急迫セリト言フカ如キ万一千ノ場合ニ処スルコトトシタントノ英首相ノ提言ニ対シ「スチムソン」ハ第一委員会ニ付テハ夫レニテ差支ナキモ第二委員会ハ之ヲ形式的ニ決定シ置カストモ当然事實上開カルヘキ会合ニシテ斯ル会合ヲ招集スルコトハ議長ノ権限内ニ含マルモノト考フル方然ルヘ

シト述へ「タルデュウ」モ之ニ贊シ「グランヂ」ハ場合ニ依リ各国全権ヨリ此ノ種会合ヲ招集スルコトヲ議長ニ提言スルコトアルヘキコトヲ指摘シ其ノ意味ニ於テ第二委員会ヲ設定セサルコトニ合議成立セリ

六、會議開催期日ハ議事進行ノ如何ニ依リ緩急ヲ按排スルヲ要スヘク各會議毎ニ次回ノ開催期日ヲ定ムルコトニ決定

尚二十三日會議ハ午前十時ニ会合スヘキモ其ノ後ハ議事ニ対スル準備ノ必要ヲ考ヘ十時半ト為スヘキコトニ決定

七、往電第三九号會議ノ目的ニ関スル英國ノ修正案ハ列國ノ見解ヲ調和セムトシテ作成シタルモノナリトノ英首相ノ説明ニ対シ「タルデュウ」ハ右前段ノミナラハ兎モ角後段ノ如キ説明ヲ付加スル以上之ニ言及セラレサル点ニ付テハ會議ニ於テ考慮ヲ加ヘサルモノナリトノ誤解ヲ招ク虞アリ寧ロスカル提議ヲ作ラサル方然ルヘカラスヤト

ノ意見ヲ披瀝シ「スチムソン」ハ今回ノ會議カ腹蔵ナク自由ニ意見ノ交換ヲナシ友誼的解決ヲ見出サントスルモノナル趣旨ニ鑑ミ其ノ目的モ出来得ル丈伸縮性ニ富マシムルコト緊急ナリトテ右意見ニ贊意ヲ表シ「グランヂ」

ハ伊国トシテハ英國案ニ異存ナキモ列国ノ立場ヲ考ヘレハ提議廃止ニ同意スヘシト言ヒ若機ハ英國案通リニテモ日本ハ差支ナキモ之ヲ削除スル意見ニ同意ヲ表スヘントリトシ夫レ以外ニハ會議事務ヲ絶対外間ニ渡ササルニ述ヘ英自治領代表者亦削除論ニ贊意ヲ表シ其ノ通り決定セリ

八、新聞発表ノ件ハ各國側ヨリ全権以外ノ代表者ヲ出シテ新聞委員ヲ設ケ共同公表案ヲ作成ン會議ノ都度発表スルコトトシ夫レ以外ニハ會議事務ヲ絶対外間ニ渡ササルニ決定ス

本日ノ會議ニ付テハ事柄カ主トシテ形式ニ閑シ且ツ其ノ決定ノ単純明白ナルニ鑑ミ英國側ニテ発表案ヲ作リ公表スヘク夫レ以外ハ本會議カ懇篤好意ノ精神ヲ以テ行ハレ諸種ノ事項ニ付満場一致ヲ以テ決定スル処アリタリト一言スルニ止ムルコトニ決定セリ

在米大使ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

298 昭和5年1月21日 ロンドン軍縮會議全權より
略原外務大臣宛(電報)

第一回総会の経過について

別電 一月十八日ロンドン軍縮會議全權より略原外務大

臣宛第四二号

若機全権演説(英語)及びマクドナルド英國全権演説要旨の事前報告について

ロンドン 1月21日後発
本省 1月22日前着

第五一号

二十一日午前十一時上院 Royal Gallery ニ於テ倫敦海軍會議開会ノ公開総会ヲ開ク

英國皇帝陛下ニハ定刻御臨場開会ノ勅語ヲ賜リタル後直チニ還御アラセラレタリ次テ米国首席全権「スチムソン」ヨリ慣例ニ従ヒ開催國タル英國首相ヲ會議議長ニ推薦シタン

ト提議シ仏国首席全権「タルデュウ」之ニ贊シ右ニ決ス茲ニ於テ英首相ハ就任ノ簡単ナル挨拶ヲナシタル後既電要旨

ノ演説ヲナシ「スチムソン」ハ今次ノ會議ハ軍縮ノ第一步トシテ重大ナル意義ヲ有スルモノナリ軍縮ノ事業ハ屢々改善ヲ加ヘテ着々進捗セラルヘキモノニシテ今回ノ協定モ如何ニ完全ナリトモ将来ノ状況ニ適応セサルニ至ルコトアル

ヘク國家安全感ノ増加ニ伴ヒ尚一層ノ軍備縮少ヲ為スニ至ルコトヲ希望スト述ヘ次ニ豪州加奈陀各代表ノ演説アリタル後「タルデュウ」ハ吾人ノ要求ハ地理的歴史的經濟的

ference, it is my agreeable duty to express, on behalf of the Japanese Delegation, our gratitude for His Majesty's cordial message of welcome and good will, and our infinite pleasure at finding him completely restored to good health. To His Britannic Majesty's Government, are due our sincere appreciation and esteem for the initiative they have taken in calling the present meeting, and also our thanks for the courtesy, hospitality and facilities which they are affording us in London.

It is the unanimous desire of the Japanese nation that peace should be lastingly established and the principle of international co-operation be firmly secured and upheld. They are conscious of the compelling need of eliminating the danger of sanguinary and wasteful warfare and of enabling all nations to work out in peace their own destinies with the assurance of international fairness and justice. The intense interest manifested in Japan in the present conference is an eloquent sign of the pacific aspirations of our own country.

in naval disarmament. She is ready to effect not merely a limitation, but an actual reduction in naval strengths, which she considers to be an appropriate and necessary programme of peace, as well as a measure for relieving the nations from numerous financial burdens. Her only concern is to see the sense of national security of the people undisturbed by retaining such force as is adequate for the defence of the Empire but not sufficient for offensive operations.

In conclusion, I desire to reiterate my confident hope that the Conference will be an unqualified success, and that it will fulfil the eager expectancy of sorely-tried humanity and earn the gratitude of generations to come.

「ヤハムナハヌ」演説要訳左へ譲

「今吾各國々其ノ貧富ヲ問バヘ何ノヤ軍備ノ負担リ拈ハ

「軍備競争ノ進展ヲ恐レ且軍備ノ保障ベル安全ヘ価値」
疑惑ア挾ム等シク其ノ害毒ヨリ免ヘナコトヲ希望シシテ
トニリ拘ルベカラカ妨タル幾多ノ障壁存ヘル所シヘヤハ
「リ相互信賴ノ念ヲ欠クカ為ナリ國ノ安固ヲ詰ル為軍備

Japan's policy of peace has been abundantly demonstrated at the Conferences at Washington and at Geneva, and in her earnest participation in the manifold activities of the League of Nations.

Again, it was on pursuance of the same policy that Japan whole-heartedly associated herself with the spirit and aim of the Pact of Paris.

We are now about to embark on the deliberations of this Conference with that universal testament of peace as our starting point. Moreover, I have complete confidence that the Powers here represented fully understand and are sympathetic with the attitudes and policies of each other. Though not unaware of the delicacy and intricacies of the problems that confront us, I see no insuperable obstacles in our path.

It is my happy privilege to declare at this moment that Japan pledges her free and loyal collaboration with the other Powers in the Conference, and that she is prepared to go, in conjunction with them, to the limit

「ハ」依拠シ來ル多年ノ経験ハ全ク失敗ニ終ルハ以
ト今ヤ其ノ迷惑ヨリ覇ヘト平和及安全ヲ他ノ手段ニ求ム
「キ時期至レリユバ

「」世界ハ吾人カ不戦条約ノ署名ニ忠実ナムトベルノ想
捉ハ基礎ニシテ公商議シ世界ノ平和ハ一團安固ナラン
メムヨルヲ期待シシトリ世界ノ平和ヲ切望スル輿論ハ
發言ハ機会ヲ与ケ軍縮問題ヲ専門家ノ狹隘ナル研究ヨリ
取揚ケ創見アル政治家ハ広キ煙ニ移サハコムヲ希望シツ
ヒトニ

「」一九一九（年）以来平和確保ノ為メ実現セラントル各
般ノ進歩就中國連盟ノ權威増加不戦条約ノ成立米國ノ
國際私法裁判所加入及ヒ同裁判所選択条項署名國ノ増加
等ニ依ル政治的安全ノ確立ニ伴ハキ軍備縮小ヲ今直ニ
断行ヤシシハ吾人ノ如ク公ニ奉公スルヤハ其ノ義務遂
行ハ於テ欠クル處アリトシハシ素ヨリ平和及ヒ正義ニ
対ベル絶対的安全保障ハ未タ全カラス危険ハ何レニシテ
ヤカラ冒ササルベカラベ軍備ノ所要量ハ政治的安全ニ依
リ決定セラムキルカハサルヤ一團ノ過大ナル軍備ハ安
全觀ヨ動搖セシムク且一國ハ一定時期ニ於ケル所要軍

備ハ他国ノ軍備ニ対シテ決定セラルコト多キカ故ニ何レノ国ト雖モ国際協定ニ依ルニアラサレハ一定限度以上ノ軍縮ヲ断行セサルヘク且政治的及ヒ法律的安全保障ノ増進ニ伴ヒ軍縮協定ハ之ニ応スル階梯ヲ施ササルヘカラストスルヲ以テ実際ニ通スル見解ナリト信ス

四、余ハ主要海軍國ノ海軍計画ニ於テ安全ノ為必要ナル兵力ト現有又ハ既定計画ニ依ル兵力トノ間ニ開キアリ世界ハ倫敦會議カ右開キヲ除去セン事ヲ期待セルモノナル事ヲ敢テ確信セントス

五、吾人ノ事業ヲ容易ナラシムル為茲ニ二個ノ想定ヲ設ケントス第一ニ過去ノ會議ハ各國カ其ノ地理的位置、國際的責任及戦争ノ場合ニ於ケル攻撃地点等ニ依リ兵力ノ需要ヲ異ニスルモノナル事從テ一艦種ノ一噸ハ他ノ艦種ノ一噸ト全然異ナルモノナル事及各國ノ需要ヲ無視シタル無意味ナル方式又ハ實際ニ副ハサル表面上ノ均勢ヲ基礎トセル協定ノ不可ナルヲ理解セサリシカ為失敗ヲ繰返セリ吾人ハ各國需要ノ均衡ヲ基礎トシ且他國ノ不安ヲ惹起セサルカ如キ最小限度ニ定メラレタル海軍計画ヲ基礎トシテ協定ヲ結ハサルヘカラス

一九三〇年一月二十一日火曜日上院「ロイヤルギヤラリー」ニ開催ノ第一回総会ニ於ケル若槻全權演説英國皇帝陛下親シク海軍會議ヲ開キ給ヘル此ノ記念スヘキ機会ニ方リ日本委員ヲ代表シテ陛下ノ優渥ナル歓迎及親善ノ御謁ニ対シ吾人ノ深厚ナル謝意ヲ致スト共ニ陛下御健康御恢復ノ御模様ヲ拝シ涯リナキ欣喜ノ情ヲ述フルハ洵ニ余ノ幸トスル所ナリ吾人ハ英國政府カ本會議ノ招集ヲ発議セラレタルニ対シ真摯ナル感謝尊敬ノ意ヲ表シ又同政府カ倫敦ニ於テ吾人ニ与ヘラル好意優遇ニ対シテモ感佩ノ念ヲ禁スル能ハサルモノナリ

平和ヲ永遠ニ樹立シ國際協調ノ原則ヲ確保支持スルハ日本國民ノ擧ツテ翹望スル所ナリ日本國民ハ戰争ノ慘禍及濫費ヲ除キ以テ各国民ヲシテ國際關係ニ於ケル公正ト正義トノ保障ノ下ニ各自ノ運命ヲ平和ノ間に開拓スルヲ得セシムルノ必要喫緊ナルヲ認メ居レリ我国ニ於テ今次ノ會議ニ対シ表示セラレタル興味コソハ實ニ帝国ノ平和ニ対スル要望ヲ最モ有力ニ証明スルモノト言ハサルヘカラス

日本ノ和平政策ハ華盛頓會議及「ジュネーヴ」會議ニ於テ端的ニ闡明セラレ又吾國カ國際連盟各般ノ事業ニ対シ熱心

六、第二ニ軍備ハ陸海空ノ三軍ニ截然分割シ得スト雖實際的處理トシテハ之ヲ各別ニ論議シ唯或一点ニ關シ結論ニ達スル場合之ト他ノ二軍トノ関係ヲ忘レサレハ可ナリ各國ハ三軍ノ各々ニ付同一ノ利害ヲ有スルモノニ非シテ例へハ英國ノ国防ハ專ラ海軍ニ依ラサルヘカラス從テ英國カ現実ニ平和ニ貢献スルハ海軍國トシテナラサルヘカラス之客年六月米國大統領カ駐英大使ヲ通シ余トノ間ニ再ヒ海軍問題ヲ論議シ兩國間ノ困難除去セラレタル上ハ華盛頓會議ニ參加セル海軍國ヲ招請シテ海軍兵力ノ均衡ヲ協定セントシタル所以ニシテ該協定ハ後日軍縮準備委員会ノ一層廣汎ナル事業ト関連シ且一般的軍縮大會議ノ一項目トナルヘ(ケレハナ)リ

七、吾人カ其ノ最大軍備ノ一ヲ協定ニ依リテ制限シ然モ國ノ安全ヲ減セス却テ之ヲ増スヲ得ハ倫敦會議ハ人類造化ノ一大階梯タルヘシ

米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

299 昭和5年1月21日

第一回総会における若槻全權の演説

吾人ハ今ヤ此ノ不戦條約ヲ出発点トシテ本會議ノ審議ヲ進メントス而シテ余ハ參加各國カ相互ニ其ノ態度及政策ヲ充分ニ了解シ好情ヲ以テ相接スルモノナルコトヲ確信セントス從テ吾人ノ直面スル問題ハ機微錯雜ナルモノアリトスルモ余ハ之カ為ニ吾人ノ前途ニ超ニヘカラサル障礙アリト認ム能ハス

日本ハ本會議ニ於テ參加諸國ト隔意ナキ忠実ナル協力ヲナスヘキコトヲ誓ヒ且參加諸國ト相携ヘテ海軍軍備ヲ極度迄縮少スルノ用意アルコトヲ此ノ機ニ於テ宣明スルハ余ノ欣幸トスル所ナリ

日本ハ單ニ海軍力ノ制限ニ止マルコトナク之カ現実ノ縮少ヲ行ハント欲スルモノナリ是蓋シ平和達成ノ適切緊要ナル方途タルト共ニ各國民ノ財政的重荷ヲ輕減スルノ手段タレハナリ唯此ノ縮少ニ付キ日本ノ関心スル所ハ帝國ヲ防衛スルニハ足ルモ攻擊的作戦ニ不充分ナル程度ノ勢力ヲ保有シ以テ國民ノ國家安全感ヲ動搖セシメサルノ点ニアリ

4 会議の経過

302 昭和5年1月23日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

比率問題に関する若槻全権のマグダナルド首相との会談について

米へ転電シ仏、伊へ暗送シ、仏ヨリ連盟へ転報セシム
出ノ次第ヲ語リタル上「ス」ニ対シ述ヘタル所ト同様ノ趣旨ヲ告ケ「ハ」來意ハ我方ニ於テモ充分考慮ヲ加フ可キ旨回答シ置キタリ

第五三号(極秘)
二十二日「ハンケー」若槻ヲ來訪シ總理ノ命ニ依ル旨ヲ前置シタル上会議ハ非公式会談ヲ骨子トスヘキ次第ハ御承知ノ通ニテ英國トシテハ過般仏トノ間ニ覚書ヲ交換シタルモ斯ノ如キ方法ハ将来之ヲ採ラサルコトソニ交渉ハ總テ非公式会談ニ依リ進ムルコト致度ク昨日首相ト「タルジュー」トノ間ニ打合セ濟ミナルカ明日ノ会議ニ於テモ論争ヲ招クカ如キ事項ニ言及セサル方然ルヘシトノ首相ノ意見ナルカ貴見如何ト尋ネタルニ付若槻ハ「スチムソン」來訪申

ロンドン 1月22日後発
本省 1月23日前着

第五二号(極秘)

二十二日「スチムソン」若槻ヲ來訪シ明二十三日ノ会議ニ於テハ先日ノ打合セニ依リ各國其ノ国防上ノ必要ヲ一般的ニ陳述スルコトニナリ居ルモ米国ハ此ノ際右必要ニ言及セサル積リナリ御承知ノ如ク会議ハ目今融和的空氣内ニ進行セントシツアリ然ルニ明日ノ会議ニテ若シ各國カ各々其ノ国防上ノ必要ヲ露骨ニ陳述スルニ於テハ極メテ不調和ノ音響ヲ報スル事トナルヲ虞ル今回ノ会議ハ是非成功セシメサルヘカラサルカ其ノ為ニハ主ナル討議ハ成ルヘク私的非公式会合ニ於テ致度ク明日ノ会議ハ素ヨリ公開ノモノニア

第五二号
ロンドン 1月22日後発
本省 1月23日前着

300 昭和5年1月22日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

互譲の態度にて会議の成功を期したき旨のス

ティムソン全権の談話について

ロンドン 1月22日後発
本省 1月23日前着

二十二日「スチムソン」若槻ヲ來訪シ明二十三日ノ会議ニ於テハ先日ノ打合セニ依リ各國其ノ国防上ノ必要ヲ一般的ニ陳述スルコトニナリ居ルモ米国ハ此ノ際右必要ニ言及セサル積リナリ御承知ノ如ク会議ハ目今融和的空氣内ニ進行セントシツアリ然ルニ明日ノ会議ニテ若シ各國カ各々其ノ国防上ノ必要ヲ露骨ニ陳述スルニ於テハ極メテ不調和ノ音響ヲ報スル事トナルヲ虞ル今回ノ会議ハ是非成功セシメサルヘカラサルカ其ノ為ニハ主ナル討議ハ成ルヘク私的非公式会合ニ於テ致度ク明日ノ会議ハ素ヨリ公開ノモノニア

301 昭和5年1月22日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

会議の方式などに關し英國側より申出について

ラサルモ相当多人数ノ会合ナレハ其ノ内容自然新聞等ニモ現ハルル事トナルヘク從テ会議ノ成功ニ最重要ナル互譲ヲ困難ナラシムルニ至ルノ虞アリ依テ唯今議長ニ面会シテ右米国側ノ考ヲ伝ヘ尚是ヨリ仏伊代表ニモ申入レ明日ノ会場ニ於ケル米国ノ態度カ出抜ケナリトノ感ヲ与ヘサル様致度キ考ナリト述ヘタルニ付若槻ハ閣下カ會議ノ成功ヲ念トシ空氣ヲ良好ナラシメン事ニ腐心セラレ種々斡旋ニ努メラルハ余ノ最多トスル所ナリト謝意ヲ表シ尚御話ノ如キ態度ハ米丈ニテ之ヲ採ラントセラルルヤ又ハ列国何レモ同様ノ態度ニ出テニ事ヲ希望セラル儀ナリヤ腹藏無キ御意見ヲ伺度シト尋ネタルニ「ス」ハ自分ハ米国ノ態度丈ヲ申上ケントシテ參上セリト答ヘタルニ付若槻ハ先日ノ打合セモアリ日本ハ主張ノ概要ヲ述フルニ止ムル考ナルカ御話ノ次第ハ充分考慮ヲ加フヘシト答ヘタリ

米ニ転電シ仏、伊ニ暗送シ仏ヲシテ連盟ニ転報セシム

302 昭和5年1月23日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

第五五号(極秘)
二十二日求メニ依リ若槻英首相ト首相官邸ニ於テ会見ス「クレーギー」斎藤陪席
(マクドナルド)日英間ニ何等カノ諒解ニ達スルコト是非其ノ必要ナルヲ思ヒ過去數次ノ会談ニ付熟考ヲ運ラシタルカ日本ノ主張セラルル比率ハ米海軍ニ対スルモノニシテ英海軍ト関係ナキハ最難点ニテ之ニ同意ヲ与フルコトハ絶対ニ不可能ナリ今日ハ全然友誼的ニ又駁引ナク我々二人ニテ懇談ヲ遂ケタキ次第ナルカ双方ニテ受諾シ得ヘキ何等カノ方案ナキヤ

(若槻)先般來ノ御話ニテ首相ノ苦衷ハ充分諒解スル処ナルモ余モ亦非常ナル苦境ニ立テリ現ニ昨日議会解散ニ直前反対党ハ政府ニ向テ政府ノ軍縮ニ対スル要求ハ之ヲ動カスコトナキヤ如何ト肉薄シ政府ハ其ノ態度ヲ動カササルヘキ堅キ決心ヲ表明シテ國民ノ信賴ヲ求メ居レリ此ノ度余ハ外交事務ニ不馴ナル身ヲ以テ全権ノ任務ニ當レルコトナレハ既ニ總テラ閣下ノ前ニ投出シテ御考慮ヲ仰キ居ルモノナルニ付比率問題ニ付テハ全ク動キ得サル立場ニ在リ乍然御話

ノ如ク我々兩人ニテ自由ニ将来ヲ拘束スルコトナク御話ス
ルハ誠ニ望ム処ニシテ何等カ解決ノ方法ニ付御考アラハ承
リタシ

(マ) 別ニ新案ヲ有スルモノニアラス唯日本側カ既ニ申上
ケタル処ニ基キ何ノ辺迄融和 (accommodate) セラルヘキ
ヤラ聞カムト欲ス英國トシテハ英海軍ニ関係ナキ比率ヲ基
トスル日本ノ要求ヲ基礎トシテハ到底調印ヲ為ス能ハス若
シ日本ニシテ其ノ立場ヲ固持セラルレハ何事モ為スコト能
ハサルベシ

(若槻) 理屈上ヨリ言ヘハ英米均勢トナリ居ルヲ以テ米ニ
比率ヲ執レハ英ニ対シテモ同様ナリト我カ国民ハ信シ居ル
ニ不拘現実ノ数字ヨリ之ヲ見レハ艦種ニ依リ英ニ対スル比
率ハ米ニ対スルト同シカラサル嫌アリ日本カ英ヲ目標トン
テ比率ヲ執レハ艦種ニ依リテハ米ニ対シ著シキ低率トナリ
國民ノ到底満足シ得サル処ナリ日本ハ初メヨリ七割ナル劣
勢ニ満足スルカ故ニ毫モ攻撃ノ意思ナキコト明白ナルニ不
拘其ノ主張ノ認メラレサルハ國民ノ諒解ニ苦ム処ナリトス
ルモ已ムヲ得スト言ハサルヘカラス乍然斯ル説明ヲ繰返ス
モ効果ナカルヘシ實ハ本日米国國務長官來訪明日ノ會議ニ

於テハ米国ノ軍備上ノ必要ニ付言及セサル由ヲ述ヘラレタ
ルカ余ニ於テモ明日ハ概括的ノ言明ヲナスニ止メ我要求ノ
委細ハ別ニ陳述ノ機会アルヘキヲ以テ差当リ會議ノ空氣ヲ
悪化セシメサルコトヲ念トシ度キ所存ナリ閣下ニ於テハ日
本カ如何ナル要求ヲナスヲ以テ至当トセラル考ヘナリヤ
余トシテハ考ヘ付カサルニ苦シミ居ル次第ナリ
「マ」御好意ハ深ク謝スル所ナリ唯日本側ノ採ラレ居ル態
度ヲ思フ毎ニ全ク当惑ヲ感スルモノナリ最近新聞紙ニ余カ
日本ノ七割要求ヲ拒絶セリトノ報道現ハレ日本全權一行中
ニモスル懸念ヲ洩サレタルモノアルヤノ噂ヲ耳ニセルカ右
ハ決シテ英國側ヨリ出タル報道ニ非ス

尚繰返シテ言ハニ余ノ最惱ミトスル所ハ日本カハ時型ニ
於テ米国トノ関係ノミヲ考ヘ其ノ対英比率ヲ考慮セス十
割、十一割ニ及フモ已ムヲ得ストナスカ如キ点ニアリ日本
ノ主張ノ最大欠点ハ其ノ「リジディティ」ニアリ解決ノ路
ヲ発見スルカ為ニハ余リニ伸縮性ヲ欠クモノト謂ハサルヘ
カラス若シ日本カ或ル國例ヘハ米国トノミ交渉セラルルカ
如キ場合ニ於テハ斯ル態度モ諒解シ得ヘシ唯列國協調ヲ計
ラントスル今日右様ノ態度ハ我最モ困却スル所ナリ

ナク此ノ上正面ヨリ話ヲ進ムルモ詮ナカルヘキニ付此ノ際
別途解決ノ途ヲ考究セシムルコトモ一策ト思考セラル我方
ハ何時ニテモ代表者ヲ出スノ用意アリ

「マ」然ラハ右様決定スヘシ(尚稍氣色バミテ)余ノ執リ得
ル最惡ノ措置ハ此ノ際日本ニ対シ華府比率ノ増率ヲ認メ貴
方ノ主張セラルル七割ヲ承認スヘシ但シ一隻ニテモ之ニ超
過シテ建造セラルレハ之ヲ條約違反トスト揚言スルニアル
ヘシ(対米比率ハ英國ノ閑知セサル所ナリトノ意ナラム)

「若」論理難シキ御言葉ニテ理解シ難キモ華府會議ノ時ハ
英米勢力同一ナリシヲ以テ事容易ナリシモ今回ハ英米間數
字ノ同シカラサルコト困難ノ点ナリ日本國民ハ必ス其ノ論
理ヲ考証スヘシ乍併此ノ点幾度繰返スモ同様ナレハ此ノ上
ハ「クレーギー」氏ノ非公式会談ニ譲リタシ

「ク」右会談ハ全然記録ヲ取ラズ最非公式ニ行フコト致
シタシ此ノ時「若」ハ往電第五六号「タルデュウ」來訪ノ
仔細ヲ話シタルニ「マ」ハ明日ハ未タ到底事務ヲ進ムル程
度ニ達シ居ラスト考フ今少シク私的会合ヲ重ネタル後更メ
テ討議スルコト致シタシト述ヘタリ

尚本日会見ノ当初二十四日日英全權全部ノ会合(自治領代
貴説ニ対シテハ余モ賛意ヲ表ス目下貴我双方ニ何等ノ成案
ト諒承セラレタシ

「クレーギー」氏ト我方代表者ト談合ヲ為サシムヘシトノ
サルコトノ信念トナリ居レリ余カ如何ニモ頑固ナルカ如キ
ハ誠ニ不本意ナルモ素ヨリ一己ノ立場ヨリ已ムヲ得サル次第ナルコト
ニ非ス國論ヲ代表スル立場ヨリ已ムヲ得サル次第ナルコト
ト諒承セラレタシ

尚本日会見ノ当初二十四日日英全權全部ノ会合(自治領代

表一、二名ヲ加フ」ヲ催シタキ旨先方ヨリ申出アリ之ニ同意シ置キタル処以上ノ如ク会談行詰リトナリタル関係上首相ハ会談ヲ終ルニ先立チ再ヒ全員会合ノ件ニ言及シ如何ナル問題ヲ上議スヘキヤト申出テタルニ「若槻」右会合ハ寧ロ「クレーギー」委員会ノ結果ヲ俟チ開催スル方然ルヘキニ非スマト述ヘタルニ対シ「マ」ハ出来得ル丈速ニ事務ヲ進ムルノ必要ニ鑑ミ二十四日日英全権委員（自治領代表者一、二名ヲ加ヘ）会合シテ比率問題ニ関係ナキ主力艦問題及若シ時間アラハ艦種間ノ噸数融通問題ヲ討議スルコトニシテ之ニ当ラシムルコトニ定メタリ

談合ナレリ尚「ク」トノ内交渉ハ斎藤及海軍代表者一名ヲ米ニ転電シ仏伊ニ暗送シ仏ヲシテ連盟ニ転報セシム

303

昭和5年1月23日

ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

仏国主張の制限方式に關しタルデュー全権よ

り説明について

ロンドン 1月23日前発
本省 1月23日後着

第五六号（極秘扱）

第五九号

ロンドン 1月23日後発
本省 1月24日前着

第五九号

往電第五五号ニ関シ（極秘扱）

二十三日午前ノ会議後「リード」ヨリ「スチムソン」ノ命ニ依ル趣ヲ以テ午後二時は非共面会致シタシト申出テタルニ依リ若槻会見シタル処明日ノ会合（往電第五五号末段日英全権全員会合ニ米側ヨリモ参加スルコトナリタル趣ナリ）ハ余リニ唐突ニシテ其ノ意ノ奈辺ニアルヤヲ知ラスト述ヘタルニ対シ若槻ハ明日午前十一時ニ日英会見スルコトニ話合済ナルモ米国側ヨリモ之ニ参加セラルルヤ否ヤハ全然承知シ居ラスト答ヘタルニ「リ」ハ実ハ「マクドナルド」ヨリ十一時ニ日英米三国ノ会合ヲ催シタシト宛モ日本側ヨリ右会合ヲ求メタルカ如ク申出アリタリ日本側カ希望セラルニ於テハ何時タリトモ会合ヲ致スヘキモ米国側見解ニテハ此ノ種会合ハ尚三四日延期スル方然ルヘント言ヘリ若槻ハ日本側ヨリ発案シタル次第ニアラサルコトヲ明瞭ニシタル後本日午後四時「マ」カ各国首席全権ノ參集ヲ請ヒタル機会ニ於テ「スチムソン」ヨリ右日英米会合ハ暫ク

二十二日午後「タルデウ」「ブリアン」兩人ニテ若槻ヲ來訪会談シタルカ其ノ際「タ」ヨリ仏國ノ主張スル制限方式ニ付日本側ノ意見ヲ尋ネタルモ若槻ハ即座ニ意見ヲ述ヘ難キ旨ヲ答ヘタルヲ以テ「タ」ハ然ラハ日仏専門家ヲシテ研究セシメ度シト述ヘタルニ対シ若槻ハ之ニ賛成スルト共ニ制限方式ニ付何等具体的提案ヲ有セラル次第ナリヤト問ヘル処「タ」ハ一九二一年ノ華府會議ノ流儀ヲ今モ強制セントスルカ如キハ一九二四年ノ壽府會議ノ轍ヲ履ムモノト言フヘク自分一己ノ當座ノ思付ナルカ一定期間ニ對スル各國建造計画ヲ例へハ百トスレハ之カ実行ヲ七十五等迄ニナル様繰延フルカ如キモ一案ナルヘシト答ヘタリ依テ若槻ハ右方式及何等具体的数字ヲ仏國側ヨリ二十三日ノ会議ニ提案セラルヤト問ヒタル処「タ」ハ自國ノ立場ヲ略述スルニ止ムヘシト述ヘタリ

米ニ転電シ、仏伊ニ暗送シ、仏ヲシテ連盟ニ転報セシム
304 昭和5年1月23日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

一月二十四日の日英米全権会議の延期に関する米国側の申出について

ロンドン 1月23日前発
本省 1月23日後着

第五六号（極秘扱）

305 昭和5年1月23日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

非公開総会における各國全権の概括的声明について

ロンドン 1月23日後発
本省 1月24日前着

第六二号

本二十三日午前十時「セント、ゼームス」宮ニ於テ第一回非公開総会ヲ開ク各國トモ全権ノ外各十五名ヲ限リ出席ス議事要領左ノ通り

一、「ハンケー」ヲ事務総長トスルノ件及議長欠席ノ場合各國首席全権「アルハベット」順ニテ議長ヲ代行スルノ件ヲ決定ス

二、次イテ会議ハ委員会ニ入り其ノ構成、議事方法及新聞

發表ノ件ヲ決ス

三、本日ノ會議ニ於テ各國ハ其ノ要求ヲ提示スルコト無ク
唯各立場ニ関スル一般的見解ヲ述フルニ止ムルコトトナ

リタルカ各國ノ声明要旨左ノ如シ

「スチムソン」米國ノ要求ハ各國ノ均シク諒解スル所ナリ
英米均勢ハ今次會議進捗ノ基礎タルヘク又軍備ハ世界ノ一
般的情勢ト相関連スルモノナルカ故ニ軍備ノ一般的縮小ニ
伴ヒ米國モ亦軍備ノ縮小ヲ実行スヘシ

「タルジュー」仏國ノ所要量ヲ決定スヘキ各般ノ要素ハ第
一地理的要素即チ(1)三個ノ海洋ニ接スル本国ノ地位(2)広大
ニシテ且ツ世界ニ散在スル海上領土(3)海岸線(4)交通路第
二經濟的因素即チ本国ト海上、領土及海上領土双互間ノ
經濟關係並ニ對外貿易量第三軍事的因素即チ殖民地軍ノ本
國輸送及經濟的總動員ノ必要等ニシテ是等ノ点ニ付仏國ハ
世界ノ第二位乃至第四位ヲ占ム右ハ仏國ノ絶対的所要量ヲ
決定スヘキ要素ナルモ國際協定ニ依リテ之ヲ相對的所要量
ニ引下クルコトヲ得ヘク就中中國政情殊ニ國際紛争ノ場合
ニ於ケル他國ノ協力ノ存在ハ右相對的所要量決定ニ關係ス

ル所大ナリ

「マクドナルド」各國ノ要求ハ各軍備測定ノ基本タルヘシ
ト雖モ右ハ各國ノ蒙ルヘキ危險ノ程度ニ依リテ異ルモノナ
リ英國ノ要求ヲ要約スレハ左ノ三点ニ帰ス(1)英國ノ危險ノ
全部ハ大陸ニ接スル諸島國タル事實ニ存ス英國ハ其ノ生命
ヲ維持センカ為ニ何等ノ障害無ク世界各國ト交通セサルヘ
カラス(2)英國カ各屬領ノ維持ヲ欲スルハ自己ノ近親ヲ維持
セントスルモノニシテ英國ノ海軍ハ世界ノ各地ニ涉リテ其
ノ警察及平和ノ目的上絶対ニ必要ナリ(3)英國人ノ心理上其
ノ安全感ハ海ニ依ルノ外之ヲ求ムルコトヲ得ス

「グランジ」伊國ハ島國ト同様ナル地理的地位人口ノ稠密
及食糧原料品ノ欠乏等ニ応スル兵力ヲ必要トスルモ軍備ノ
相對性ニ鑑ミ歐州大陸ノ何レノ一国ヨリモ低カラサル条件
ノ下ニ如何ニ低キ数字ニテモ受諾ノ用意アリ且之ヲ切望
ス

「若槻」別電第五八号ニ依リ声明ス

四、本會議ノ席上英國海外領土代表ノ陳述中豪州及「ニュ
ージーランド」代表ハ通商貿易保護ノ為海軍ノ必要ナル
所以ヲ述ヘタル点ハ注目ニ値ス

五、議事終了後會議進行ノ手続ヲ定ムル為首席全權間ニ打

合セヲナスコトトン散会セリ

米、仏、伊ヘ転電セリ

306 昭和5年1月24日 ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

第二回首席全權會議における決議事項について

て

ロンドン 1月24日後発

本 省 1月25日前着

第六四号(極秘級)

二十三日往電第六一号全員委員会直接英首相ハ首席全權ヲ
別室ニ招キ事務簡捷ノ趣旨ニ依リ取急キ會議ノ議事方法ニ
付同日午後会合セソコトヲ求メ四時首相官邸ニ首席會議ヲ
開催セリ

出席者五国全權「ブリアン」「モエントン」決議事項左ノ
通

一、議題ノ重要且機微ナルニ鑑ミ日下尚各「デレゲーション」
「」問ノ非公式会合ヲ最重要視スヘキモ議題ニ依リテハ
直ニ首席會議又ハ全員委員会ニ付議シ差支無キモノ有之

ン」カ発意シタル様見受ケタリ)一同諒承セリ

右討議中注意スヘキ点左ノ如シ

一、「マクドナルド」ハ機密非公式ノ会合ニ重点ヲ置クヘ
キコトヲ力説シ「スチムソン」「グラント」ハ之ニ賛成
シタルカ「タルヂュウ」ハ之ニ正面反対セサリシモ全員
委員会ノ重要ナルコトヲ主張セリ

二、「タ」ハ首席会合ハ専門家會議ノ結果ヲ俟テ之ヲ行
ノ有益ナルヘキコトヲ説キタルカ「マ」及「ス」ハ首席
会合ハ必スシモ其ノ報告ヲ俟テノミ会合スルノ必要ナカ
ルヘシト論セリ

三、「マ」ハ目下(一)艦艇表研究ニ関スル専門家会合(二)頓数
融通問題ニ関スル英、仏間ノ委員会(三)日英間ノ「クレー
ギー」委員会行ハレツツアリ右ノ内(一)ハ各国独自ノ見解
ヲ固持シ稍不成功ニ傾キツアルカ如キモ此ノ種委員会
ハ討議進捗ニ有益ナリトノ見解ヲ述ヘタリ

四、「マ」ハ討議ノ熟スルヲ俟テ始メテ議題一覽表ヲ事務
総長ヨリ配布セシムルノ案ヲ提出シ其ノ機ヲ利用シテ例
へハ主力艦問題詳言スレハ(イ)其ノ全廢(ロ)隻數ノ維持又ハ
減少(ハ)代換延期(シ)艦型備砲砲艦齡ノ問題ハ首席會議ニテ討
ハシタルカ「タルヂュウ」ハ機密非公式ノ会合ニ重点ヲ置クヘ
キコトヲ力説シ「スチムソン」「グラント」ハ之ニ賛成
シタルカ「タルヂュウ」ハ之ニ正面反対セサリシモ全員
委員会ノ重要ナルコトヲ主張セリ

尚後者ノ説明トシテ日本ハ英ヲ目安トセス一種ノ比率ヲ
主張シ居リ其ノ比率カ英ニ対シ何等危険ヲ与ヘサルコト
ヲ切論スルモ英ヨリ看レハ決シテ然ラス此ノ問題ハ仏伊
ニ関係ナク米ニハ間接ニ関係アルモノナルカ到底目下ノ
状態ニテハ全員委員会ニ上程スヘキモノニ非スト述ヘタ
リ

六、若槻ハ議題表ヲ基礎トシテ審議スルコト此ノ際至当ナ
ルヘク難問題ハ非公式会合ニテ話ヲ進ムルコトトシ比較
的容易ナル問題ハ之ヲ全員委員会ニ提出スルコト策ノ得
タルモノナルヘシ例へハ主力艦問題ノ如キハ其ノ一例ナ
ルヘシト思考ス但シ反対意見アラハ必スシモ之ヲ主張ス
リ

ルモノニ非スト述ヘタリ
米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

307 昭和5年1月24日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

二十四日の日英米全權會議の延期について

ロンドン 1月24日後発
本 省 1月25日前着

ロンドン 1月24日後発
本 省 1月25日後着

大臣宛第六九号

右議題一覽表

308 昭和5年1月24日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

別電 一月二十四日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務
事務總長より送付越したる議題一覽表に對
修正希望方申入れについて

第六五号(極秘級)

往電第六四号首席会合ノ後「スチムソン」若槻ハ「マクド
ナルド」ト鼎坐シ往電第五九号明二十四日午前ノ日英米全
權全員会合ニ付熟議シタルカ「ス」カ此ノ種ノ会合ヲ數日
後ニ開催スル方可然ト提言シ若槻モ同意ナル旨ヲ述ヘタル
ニ対シ「マ」ハ必スシモ米國側ノ參加ヲ求メタル次第ニ非
ス幾分「ス」ニ誤解アリタルモノト思考スト答ヘ尚所謂
「クレーギー」委員会カ本日開催ノ違ナク明日正午トナリ
タル以上日英米全權會議ハ之ヲ延スコトシ可然ト答ヘ若
規カ明日ノ右會議ハ補助艦問題ト關係ナキ主力艦問題等ヲ
討議スル筈ナリシニ非スヤト注意セルモ「マ」ハ來週迄延
期スルコトトスヘント主張シ之ニ同意スルコトトナセリ

二、潛水艦ノ部(イ)(ロ)順序ヲ顛倒ス
三、特種艦艇ノ次ニ(及艦齡超過艦艇)ヲ追加ス

四、第一ノ七トシテ「商船及商船ノ軍艦ニ変更スルモノノ
備砲及装甲設備ノ制限」ノ一項ヲ加フ
五、主力艦ノ部ニ代換期間延長ノ一項ヲ加フ

(2) 大型ノ減少ヲ小型其ノ他ノ噸数増加ニ依リ調和シ全体ノ
噸数ニテ比較ヲ取ラハ如何
(3) 米カ果シテ目下主張シ居ル噸数全部ヲ建造スルヤ疑問ニ
シテ從テ日本ノ履ム危険率モ更ニ小トナルヘシ
(4) 日本ノ現有勢力ハ米ノ六割ニアラスヤ
(5) 世界ニ対スル責任交通路ノ防禦責任範囲ノ相違
等ノ理由ヲ挙ケタルニ対シ我方ヨリ逐一反駁ヲ加ヘ英國側
提案ノ数字ニテハ暫定協定ニテモ不可ニシテ対米七割ハ絶
対必要ナリ又(3)ノ理由ニ対シテハ「一九三六年十二月三十
一日迄日本ハ米ノ現ニ保有スル噸数ノ七〇(パーセント)
以上ヲ建造セサルヘシト謂フ程度ナラハ日本ニ於テモ差支
ナカルヘシト述ヘ置キタリ尚我方ヨリ「ホウキンス」ヲ日
英勢力比較ニ於テ除外セル理由ヲ質シタルニ対シテハ艦齡
古ク八時砲艦ト比較シ得サルモノト考ヘ除外セルモ會議ノ
結果如何ニ依リテハ何トカ之ヲ処置スルノ必要アルヤモ知
レスト答ヘ又前記(2)ニ関連シ日本ノ対米総括的七割保有ノ
原則ニ対シテハ異議ナキヤトノ質問ニ語ヲ濁シ寧ロ之ヲ認
メ難シトノ印象ヲ与ヘタリ
右ノ如ク本日ノ会談ハ何等進展ヲ見シテ散会シタルカ右

一日迄日本ハ米ノ現ニ保有スル噸数ノ七〇(パーセント)
以上ヲ建造セサルヘシト謂フ程度ナラハ日本ニ於テモ差支
ナカルヘシト述ヘ置キタリ尚我方ヨリ「ホウキンス」ヲ日
英勢力比較ニ於テ除外セル理由ヲ質シタルニ対シテハ艦齡
古ク八時砲艦ト比較シ得サルモノト考ヘ除外セルモ會議ノ
結果如何ニ依リテハ何トカ之ヲ処置スルノ必要アルヤモ知
レスト答ヘ又前記(2)ニ関連シ日本ノ対米総括的七割保有ノ
原則ニ対シテハ異議ナキヤトノ質問ニ語ヲ濁シ寧ロ之ヲ認
メ難シトノ印象ヲ与ヘタリ
右ノ如ク本日ノ会談ハ何等進展ヲ見シテ散会シタルカ右

会談中「クレーギー」ハスル「リデッド」ノ態度ヲ執ル國
ハ日本ノミニシテ飽迄其ノ態度ヲ維持セラルニ於テハ已
ムヲ得ス英米間ノミニテ協定スルノ外ナシト激昂ノ面持ニ
テ語リタリ
米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

311 昭和5年1月24日 在仏國安達大使より
幣原外務大臣宛(電報)

日仏両国の海軍軍縮の見解の一一致点などに關する新聞論調について

パリ 1月24日後発
本省 1月25日前着

第二二号

二十四日ノ「タン」ハ英米間ニ「パリチー」ヲ認ムルノ原
則ハ確定セルモ二國ノ要求ハ全ク異レルヲ以テ如何ニシテ
之ヲ實現スルカハ問題ナリ「マクドナルド」「スチムソン」
ノ宣言ニ徴スルモ英米二國ハ完全ナル行動ノ自由ヲ保持セ
ントシツタルカ如ク右二國間ノ予備交渉ハ從来唱ヘラレ
タルカ如ク其ノ利益ニ適応セル軍備縮小ノ方式ヲ他国ニ強
ヒントスル迄ニハ達シ居ラサルカ如シ日本ト英米トノ間ニ

モ何等ノ予備協定成立セス日本ノ巡洋艦ニ対スル七割要求
ハ「パリチー」ニ閔スル英米両政府間ノ計算ヲ根本ヨリ覆
ヘセリト為シタル後第五十七議会ニ於ケル貴大臣ノ演説中
日本ノ軍縮ニ対スル方針ハ他ヲ脅威セス他ヨリ脅威セラレ
サル海軍力ノ保有ニアリトノ点ヲ指摘シ右ハ現在ニ於テ國
家ノ安全ノ必要トスル防禦ニ閔スル最モ正当ナル觀念ニシ
テ海軍軍縮ニ対スル右日本ノ見解ハ仏國ノ夫レト異ル所ナ
シトノ趣意ヲ述ヘタリ

倫敦全權、米、伊ニ転電シ、全權ヨリ英ニ転報セシム

312 昭和5年1月27日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
事務總長より議題表修正案の送付について

本省 1月28日前着

往電第六八号ニ関シ

第七四号

二十五日夕刻会議事務總長ヨリ議題表修正案ヲ送付越シタ
ルカ右ハ我方修正意見ヲ全部採録アル以外原案ニ左記三点
ヲ追加シタルモノナリ

会談中「クレーギー」ハスル「リデッド」ノ態度ヲ執ル國
ハ日本ノミニシテ飽迄其ノ態度ヲ維持セラルニ於テハ已
ムヲ得ス英米間ノミニテ協定スルノ外ナシト激昂ノ面持ニ
テ語リタリ
米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

ナカルヘシトノ意見ヲ述ヘタルモ一同ノ同意ヲ得ルニ至ラス三時間ニ亘ル意見交換ノ結果更ニ議事ノ進行ヲ見ス僅ニ総噸数主義ハ仏國側ヨリ比率問題ハ伊國側ヨリ提出セラレタルコトヲ議題ニ書添ヘテ更ニ明二十八日午前十時ヨリ討議続行ニ決シ散会セリ

尚「セント、ゼームス」宮ニハ毎日新聞記者集合シ居ルニ付本会合モ将来同所ニ於テ開ク方外部ニ与フル印象良好ナルヘシトノ見地ヨリ左様決定セリ

米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

314

昭和5年1月27日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

英仏伊各國専門委員との意見交換について

ロンドン 1月27日後発
本省 1月28日前着

第七七号(極秘扱)

昨二十六日以来伊仏英専門委員ト我方委員ト意見交換ヲ行ハシメタリ其ノ要点左ノ通

一、二十六日午後伊国「ビシヤ」大佐來訪シ今次協定ノ結果主力艦艦型及主砲口径縮小ノ事トナルモ十六吋砲艦二

ハ之ヲ得ル限り潜水艦ニ対シテ融通ヲ行ハサルコトニ同意シ得

(イ)英ハ軽巡ノ最大噸数ヲ七千噸ニ制限セムトスル意見ナル處仏トシテハ依然一万噸迄ノ六吋砲巡洋艦ヲ建造スル必要アルヘキコトヲ認ムルモ八吋砲級巡洋艦ノ所要量ヲ保有シ得ハ五六年程度ノ短期間ニ対シテハ七千噸ヲ超ユル六吋砲巡洋艦ヲ建造セサルヘキコトヲ約シ得次テ右ニ関スル我方ノ意見ヲ尋ネタルニ依リ軽巡駆逐艦一括主義ナルコト駆逐艦単艦噸数ヲ一千五百噸トシ嚮導駆逐艦ヲ少量化ニ制限スル方針ナルコトヲ説明シ置ケリ

三、二十七日午後日英専門委員会見ノ際知リ得タル事項

(イ)英仏両国間ニ於テ保有量討議ニ先立チ総噸数及艦種別主義ニ関シ過日來研究中ナリシカ仏ハ遂ニ(a)主力艦(b)航空母艦(c)八吋巡洋艦(d)六吋及以下ノ水上補助艦(e)潜水艦ノ五類別ニ同意セリ

(ロ)融通ニ関シテハ前号中(a)及(b)ハ全然融通外ナルコトニ両国一致セルモ仏ハ(c)ヨリ(d)ヘ又(e)ヨリ(a)ヘ融通セントス

ルニ対シ英ハ反対シ未決ナリ(d)内ノ融通ニ関シ種々研究セルモ仏カ一、六〇〇噸型多数ヲ現有セル事實及大陸海

隻ハ建造ノ権利ヲ放棄シ得サル事及主力艦保有量減少ニハ反対ナル事歐州大陸最強海軍国ト均勢力ヲ条件トシテ如何ナル軍縮ニモ応スル事総噸数主義等伊国主張ノ要点ヲ縷述シ尚日伊ノ根本主義ノ相似ヲ説キテ支持ヲ請フモノノ如クナリシカ我方ニ於テハ適宜応酬シ置ケリ

二、二十七日午前仏「ド」大佐ニ就キ確カメタル英仏交渉ニ関スル仏側意見

(イ)英側ノ主張ニ対シ仏側ハ軽巡ト駆逐艦トノ間ニ一千八百五十噸ノ限界ヲ置ク事ニ大体同意セリ但現有二千六百噸級ヲ駆逐艦トシテ保有セムカ為ニハ駆逐艦全保有量ニ対シ非常ニ高率ノ融通ヲ要スルコトナルニ依リ結局歐州大陸国ニ対スル特例トシテ軽巡駆逐艦ヲ一括スル事ニ英仏ノ諒解成ル筈

(ロ)仏ハ本来総噸数主義ニシテ妥協案ニ於テモ融通ハ上下両方面ニ行フ意向ナリソカ八吋砲巡洋艦ニ於テ所要量ヲ得ハ軽巡ヨリ大型ヘノ融通ハ之ヲ為ササルコトニ同意シ得

軽巡駆逐艦ハ一括主義ナルニ依リ仏ノ関スル限り融通問題起ラス潜水艦ニ付テハ其ノ保有量ヲ低下シタキ英ノ希望ヲ考慮シ仏ハ真ニ最少所要量ヲ要求スルモノナルカ仏

ノノ如クナリシカ我方ニ於テハ適宜応酬シ置ケリ

315 昭和5年1月28日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

上へ戻る

別電

一月二十八日ヨンデン軍縮會議全權より幣原外務

大臣宛第八一號

議題に関する英仏伊各國の提案について

ムハムン 1月28日後発
本省 1月29日前着

第八〇号

一十八日「ヤハムゼイムス」宮首席全權會議開催

(一) 昨日ノ會議ニテ決定セル通り「一般問題」ノ項目中ニ仏

伊両國全權ノ提案ヲ併記シタルモノヲ原案トシテ上議シ

更ニ英國側提案ニシテ艦種別制限案ナル一項ヲ加くヨ

ヲ一括シテ各國全權二名ヨリ成ル委員会ニ付託スルコム

ニ決定(右委員会ニハ専門委員ヲ帶同シ得)

(二) 右委員会ハ別電第八一號ノ諸提案ニ付方式及手続ニ関ス

ル一切ノ問題ヲ考慮シ且報告スルコムニ決定

(三) 前項ノ決定ニ当リ英米側ハ伊国提案ハ之ヲ制限方式ノ問

題ニシテ上議スベキモノナリト主張ハ(「マ」ハ例ベハ

日英間ノ比率問題ノ如キ実質問題ハ両國ノミニテ考究ス

ベク委員会ニ付託スル性質ノヤノリ非スト説明シ若規ハ

1. System of global tonnage. Transactional proposal.

London, 28th Jan. p.m., 1930.

Received, 29th Jan. a.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 81.

(France)

比率問題ハ日本モ適當ノ時期ニ至レバ之ヲ論セサルヘカラサルモ茲ニテ実質ニ入ル必要ナシトテ之ニ賛意ヲ表セリ) 伊國側ハ比率ハ方式ノ問題ノミニ非ス実質的問題ヲ含ムヲ以テ追テ適當ノ時期ニ至リ實質的ニ考究スルモノナル留保ノ下ニ委員会付託ニ同意スベシト述ヘタリ

四) 一般問題以外ノ議題ニ付テハ別ニ議題委員会ヲ設クルノ議出テタルモ明確ナル決定ニ達セス

(五) 全權一般議題委員会任命ノ目的ヲ以テ二十九日午前十時「ヤハムゼイムス」宮ニ於テ本會議開催

(六) 右本會議ニハ新聞記者ヲ入場セシムルコムニ決定

米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

(別電)

London, 28th Jan. p.m., 1930.

Received, 29th Jan. a.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 81.

(France)

1. System of global tonnage. Transactional proposal.

2. Classification.

3. Transfer. The amount and conditions thereof.

(Great Britain)

System of limitation by categories.

(Italy)

1. Determination of ratios

2. Determination of levels of total tonnages of several countries.

Zenken.

~~~~~

316

昭和五年一月二八日 ムハムン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

会議の現状に対する米國側の態度に關しリー

ムハムンモハスニテ據シヘント

ムハムン 1月28日後発  
本省 1月29日前着

第八二一號(極秘級)

一月二十八日「ヨーロッパ」ハ松平ニ對シ極秘トシテ左ノ通内

話セリ

昨今会議ニ関スル狀況ヲ見ルニ英國側ニ於テハ何等具体案

ヲ有セスノ如キ状態ニ於テハ何時ニナリテモ會議ノ進展ヲ見サルベク而シテ仏伊ニ於テハ地中海ニ関スル協定等ヲモ考慮シ居ルモノノ如キモ英國ハ別トシ日米両國ニ於テハ斯ノ如キ問題ニ何等ノ興味ヲ有セス米國全權ニ於テハ日英米三國間ニ於ケル具体的な解決案ヲ講究中ニテ今週中ニハ完成スベキ付然ル上ハ右ヲ提示スベシ「マ」首相ハ過日日英米三國全權ノ会合ヲ進メタル事アルモ斯ノ如キハ徒ニ他ヲ刺戟スルニ止マリ実効少シト思ハルルニ寧ロ各別ニ非公式内交渉ヲ為シ問題ノ解決ヲ計ル事然ルベク又非公式ノ会商ヲ經スシテ直ニ本會議ニ上程スルカ如キハ之亦避ケ度キ方針ナリ何レニセヨ右具体案ハ日本側ニ提出セスシテ英國側ニ提出スルカ如キハ全然為ササルニ付右ノ点ハ含ミ置カレ度シ尚日本側ニ於テ七割要求ニ対シ何等緩和ノ態度無キト同シク米國側ニ於テモ政府及上院方面ニ於テ從来ノ態度ヲ枉クヘキ模様無キニ付具体的な解決ヲ計ル必要アリ何等比率等ニ触レスシテ日英米三国ノ要求ヲ都合良キ解決方法ヲ講シ度ク其ノ方針ニテ具体案ヲ提出スル積リナリ云々

## 比率問題に関する日英全権全員会議の経過について

ロンドン 1月29日前発  
本省 1月10日前着

第八四号（極秘扱）

二二ハ日英全権（英ミリハ本国ノ外ニサハ）  
オード一參加）下院首相室ニ於テ會見「クノービー」「マ

ルコム、マクドナルド」佐藤斎藤陪席

トシテ行詰リノ形トナリ居ル状況ヲ概説セシム

「若槻」首相トハ度々意見ノ交換ヲ為シ既ニ双方ノ立場明察、ナリ居ノリ、言ふノミ今日又行、全體之實會合ノニ至る。

見ヲ陳フルノ機ヲ得タルヲ喜フ「クレーギー」氏ト我方隨

員トノ非公式会談ハ不幸ニシテ解決ノ端緒ヲ与ヘサリシモ

此の機会に於テ重複ニ臘ハス我アハ立場ヲ籠ヤシ日本ハ唯其ノ国防ヲ念トスルノミニシテ他ノ海軍國ト力ヲ争ハシ

トスルモノニアラス対米七割要求モ決シテ他国ノ海軍力ニ  
接近センカ為ニ主張スルモノニアラス退イテ守ランカ為ニ

衡ヲ保タムトスルノ趣旨ニ出ツ

【著】日本ハ況シテ米国ヲ想定敵國トハヤハニ非サハニ  
隣接海軍国ノ實力ハ之ヲ考慮セサルヲ得ス若シ米国ノ保有

量カ十八ヨリ低下スレハ我方数字モ十二ニ接近スヘク何トカ  
米ノ数字ヲ下クルコト能ハサルヘキヤ

「ヘンダーソン」若シ英國側ヨリ米ニ対シテ十八ノ数字低

下シ得ヘキヤ

「若」日本ハ比率トシテハ七割ヨリ低下スルヲ得ス但シ米保有量ノ低下ニ従ヒ我方ノ保有量カ其ノ割合ニ低下スルハ

勿論ナリ

【財部】隻数ハ減セストスルモ米モ一万噸ヲ十三トシ他ノ五隻ハ夫レ以下ノ噸数ノモノト為サシムル余地ナキヤ

「マ」英米間交渉ノ概要ヲ申上クレハ米ハ英トノ「パリテイー」ヲ次ベノモニニニモ直良遇也ヲ有ニナシ関係ニハ

時ハ一万疊以下ニテハ不可ト為シ六時ニ付テモ七千疊以上

ノモノノミヲ欲シ居レリ

ノ際ハ英國ニ十一ーヲ求ムヘク矢張リ日本ノ対英比率ハ高率

「マ」貴説ノ態度ハ初ヨリ維持セラレタル処ニシテ英政府亦之ニ対シ多大ノ同情ヲ寄セ居コト御承知ノ通ナリ唯余ノ苦痛トスル処ハ其ノ不幸ナル結果ヲ招ク点ニシテ日本側ニ於テ充分之ヲ了得セラレサルヲ遺憾トス一国カ其ノ防衛ノ必要勢力ヲ維持スヘキハ当然ナルモ其ノ結果トシテ第三國カ窮地ニ陥ルコトハ念頭ニ置カレシコトヲ切望ス対米関係ニ於テ如何ナル比率ニ立タルルトモ英國トシテハ日英間ノ比率ヲ第一ニ考量セサルヘカラス此ノ点諒トセラレタシ「若槻」始メテ会談ノ際ハ英米間仮協定ハ仮定的ノモノナリトノ御話ナリシカ今日ニテハ英米間ニハ稍決定的ノ数字協定セラレタルヤ

「マ」未タ何モ無キモ英國側ハ十二、十五、十八ノ数字ヲ提唱シ居ルモ未タ十二モ十八モ決定セス十五ニ付テハ英國側ハ之上造ラサル決心ニシテ日本ニ振宛テタル十二ハ英國ニ対シ遙ニ七割ヲ超過シ居ルニ拘ラス之ヲ認メムトスルモノニシテ十八ハ英國カ小型多数ヲ有セサルヘカラストノ見地ヨリ米国ノ紙上計画ヲ縮小シ最小限度ノ建造ニヨリ平トナルヘシ吾人ハ何処カニテ此ノ論理ノ循環ヲ打切ラサルヘカラス

尚最近貴方ニ於テハ米国側ト会见ノ噂アル処果シテ如何米国側ニテハ日本トノ比率問題ニ付研究中トノコトナル処面会ノ日ニテモ定マリタル次第ナリヤ

「若」斯ル話ナシ只斯ル希望米国側ニアリトノコトヲ耳ニセリ

「マ」是非日米会談ノ上日本ノ主張ヲ直接米国ニ述ヘラレタシ若シ八時ニ付日英間ニ協定成立セハ其ノ他ノ艦種總テヲ包含シタル全体ノ比率問題ニ付協定ヲ見ルハ左迄困難ニ非スト思考ス

「若」米国側ヨリ話アラハ喜ンテ面会スヘク尚自分カ一昨日來首席全權会合ノ席上比率ヲ云為スル事ヲ避ケタルハ御承知ノ通ニシテ右ハ英米ト日本トノ間ニ内相談ヲ為スヲ然ルヘシト思考シタルカ故ナリ

又日本側カ八時型ニ重キヲ置クハ兼々申述ヘタル通ナルカ補助艦全体ニ亘リテモ話ヲ進メ度キ意向ナリ

「マ」全体ニ就テノ協定ヲ作ラントセハ先ツ八時六時等ニ

「若」此ノ会合ノ全然非公式ナル性質ニ顧ミ双方トモ全然

拘束セラルル事無ク仮定的立場ニ於テ申上クル次第ナルカ

総括的ニ見テ日本ノ対米七割ハ差支無シトノ御考ナリヤ单

ニ考量ノ基礎トシテ伺ヒタシ

「マ」右ハ英ニ対シ如何ナル比率トナルヤ（ト言ヒ掛ケテ

「ク」ニ注意セラレ）英國ノ重キヲ置クハ予テ松平大使ニ

モ申上ケタル通比率ニ非スシテ其ノ實際的結果ナリ若シ隻

数及噸数ヲ基礎トシテ「プログラム」ヲ作り英國全部カラス

受諾シ得ヘキモノナルニ於テハ比率ノ如何ヲ問フモノニア

「若」日本ノ対米総括的七割ハ英ニ比シ七割ヨリ余程低率

トナルヘシ右ハ何等双方ヲ拘束スルモノニ非ストノ前提ニ

テ申上クル次第ナルヲ以テ数字ニ付御研究ヲ仰キタシ

「マ」今日ハ一二新シキ点モ出テタルニ付今少シク会談ヲ

続ケタシ「クレーギー」「斎藤」二人間ニ更ニ非公式ニ話

合ヲ行ハシメタシ

「若」諒承、尚此ノ種両国全権会議ハ極メテ有意義ニ付今

後モ必要ニ応シ度々開催ヲ希望ス

尚「クレーギー」斎藤会合ハ二十九日午前十一時ニ決定

二十九日午後六時求ニ応シテ若槻（斎藤中村帶同）下院事務室ニ首相（「クレーギー」「ペレール」同席）ヲ往訪ス。

「マクドナルド」（明日委員会設置ノ関係モアリ制限方式ニ

ニ関スル英仏間今日迄ノ交渉振りヲ一応會議長トシテ各国全権ニ通報スル事ニ仏國側ト打合セ置キタルニ付御

來訪ヲ願ヒタリ英仏間ニ於テハ艦種間ノ融通問題ニ付種々難点アリタルカ主力艦及八吋型ニ関シテハ無融通ノ事ニ同意セリ輕巡洋艦及駆逐艦ニ付テハ馬耳塞（アルヂエ

リー）間ノ連絡其ノ他地中海ニ於ケル必要上三千噸五吋砲ノ特殊艦型ヲ必要トシ従テ巡洋艦駆逐艦ノ戦闘タル区別ヲ認ムル事ヲ困難トシ若シ右兩者ヲ別艦種トスルナラ

318 昭和5年1月30日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛（電報）  
若槻・マクドナルド会談における制限方式に  
關於英仏間交渉通報について

本省 1月31日前着

第八六号

米国ニ転電、仏、伊ニ暗送セリ

八十割ノ融通ヲ必要トスト主張シ居レリ仏側ニ於テハ未タ全ク数字ヲ提出セサルニ付右主張カ如何ナル實際的結果ヲ齎スヘキヤ不明ナルモ英國ハ之ニ同情的考慮ヲ加フヘク引続キ内交渉ヲ進ムル筈ナリ本問題ハ巡洋艦駆逐艦ノ區別ノ甚タ曖昧トナレル現状ニ関連シテ複雜ナル關係ヲ生シ居レリ

(二)右ニ関連シテ御尋ネシタキ一事アリ一九二七年寿府ノ所謂仮協定（嚮驅一八五〇噸驅逐艦一五〇〇噸備砲五吋艦齡十六年嚮驅ハ保有率一割六分）ハ英國側ニ於テハ今日ニテ hold good ト考ヘ居ルモ日本側ノ御意向如何

「若槻」（一）英仏間談合ノ御報告ニ對シ感謝ス日本トシテハ輕巡洋艦駆逐艦ハ一艦種トシテ制限スル事然ルヘシトノ専門家ノ意見ニテ其ノ協定ヲ得レハ最モ望マシキ義ナルモ強テ之ヲ固持スルモノニ非ス唯之ヲ別艦種トシテ取扱フ場合ニハ若干ノ融通ヲ必要トス

(二)寿府ノ仮協定ハ現ニ有効トハ認メサルモ（此ノ時「マ」及「ク」ハ法律的ニ有効ニ非サルモ日英米間ニテハ working agreement トシテ認メラレ居レリト言ヲ挾メリ）今回ノ討議ニ於テ決シテ之ヲ無視スルモノニ非ス唯

御注意ヲ請ヒ度キ一点ハ日本ハ嚮驅ノ最大噸数トシテ二千五百噸ヲ適當トナスモノナルカ右ハ仏カ現ニ大型嚮驅ヲ有スル実情ヲ考ニ入レタルニ過キシテ實ハ二千五百噸乃至千八百五十噸ノ艦型ハ出來得ル丈ヶ隻數ヲ鮮カラシメ度キ本意ナルニ付仏ノ現有勢力以上ニハ何国モ此ノ艦型ヲ建造セサル協定成立スルニ於テハ千八百五十噸ヲ最高噸数トナスコトニ反対スルモノニ非ス尚艦齡備砲ニ付テハ仮協定通ニテ差支ナシ唯一割六分ノ点ニ付テハ日本カ現ニ千七百噸型ヲ右歩合以上ニ保有スル事実ニ顧ミ増率ヲ必要トス

「マ」右歩合ノ点ハ容易ニ解決シ得ヘシ又千八百五十噸型ニ関スル御趣旨モ了得セリ英ニ於テハ右仮協定ヲ重シルハ之ニ基ク協定ヲ計ルコト捷径ナリト考フレハナリ之ハ別問題ナルカ明日ノ會議ニテ設置スヘキ委員会ニテ全權二名宛出席スルコトトナリ居タルモ其ノ後種々難問題シ結局専門委員（広キ意味ノ専門委員ヲ指ス）ヲ出席セシムル方可然ト存セラルルカ日本側ニ異議ナキヤ

「若槻」日本ノ関スル限り一般方式問題ニ付テハ強テ主張スルコトナシ成ルヘク事務ノ進捗ヲ希望スルヲ以テ専門

家ニ委ス方其ノ趣旨ニ適フ儀ナラハ特ニ異議ナシ

「マ」実ハ全權中ヨリ委員ヲ選任スルニ困難ヲ生シタリ

(英、米双方共選任難ノ口吻ナリキ)

「若」日本ノ閥スル限り如何様ニテモ差支ナシ

「クレーギー」(首相ト耳打シタル後)仏其ノ他欧大陸諸

国間ニ首相ノ説明セル英、仏話合ノ筋合ニテ艦種別若ハ

融通ノ問題ニ付協定ヲ纏メムトスルコトニ付テハ日本側

ニ異議ナキヤ

「若」仏國海軍大臣ト会談ノ機会ニ於テ日本ノ専門家カ二

千五百噸ヲ以テ巡洋艦駆逐艦ノ境界線トスルノ案アルコ

トヲ内話シ置キタルカ前述ノ如キ二千五百噸型嚮駆ヲ此

ノ上何国ニテモ建造セサル条件ニテ仏及大陸諸国ノ協定

成立ニ異議ナシ

米ニ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

319 昭和5年1月30日

ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

比率問題に関する斎藤・クレーギー会談について

ロンドン 1月30日後発

本省 1月31日前着

第八八号

二十九日午前十一時斎藤「クレーギー」首相官邸ニ於て会

談要領左ノ通

(一)先ツ「ク」ハ英米仮協定交渉ノ当初ニ於テハ双方ヨリ殆

ト協定不可能ナル数字ヲ持寄リ之ヲ基礎トシテ話ヲ進メ

タル次第ニシテ日英間ニ於テモ右ト同様ノ心持ニテ話合

ノ糸口ヲ開キタシ八時型ニ付テハ差当リ全權間ニ交渉行

詰リトナリ居ルニ付暫ク之ヲ措キ日本側主張ノ他ノ一点

タル総括的七割問題ニ付数字ヲ挙ケテ考究シタシト述へ

米ノ保有量ヲ大型十八万噸小型十二万噸駆逐艦十五万噸

潜水艦六万噸(仮リニ「パリチイ」ヲ認ムルコトトシ)

総計五十一万噸トセハ日本ノ持分タル七割ハ即チ三十五

万七千噸トナルヘキ処今仮リニ日本ノ保有量ヲ大型十万

八千四百噸(斎藤ハ斯ル数字ノ到底日本側ノ承認セサル

ヘキ旨念ヲ押シ「ク」ハ之ヲ諒承シ居レリ)小型九万八

千四百噸駆逐艦十一万六千噸(小型及駆逐艦ノ数字ハ

「ク」ノ有セル現有勢力表ヨリ取レリ)潜水艦六万噸ト

セハ其ノ総計三十八万二千八百噸トナリ対米七割ニモ約

三万噸超過トナリ多少「スクラップ」ノ必要ヲ生ス更ニ  
英國側ノ保有量ヲ仮リニ大型十四万六千八百噸小型十九  
万二千二百噸駆逐艦十五万噸潛水艦五万噸(英國ハ特ニ  
「パリチイ」トシテモ之以上ヲ建造セサルヘシトノ仮  
定)計五十三万九千噸トスレハ右日本ノ対米七割ハ対英  
六割六分余トナルヘク何レノ関係ニ於テモ日本ノ要求ニ  
近キ比率ニ落着クコト左程困難ニアラサルヘシト述ヘタ  
リ

(二)斎藤ハ海軍専門委員ノ希望ニ基キ日本側ヨリ数字ヲ提出

スルコトハ成ルヘク之ヲ控ニル所存ニテ専ラ「ク」ヲシ

テ数字ヲ挙ケシムルコトトシ隨時質問又ハ此評ヲ為スノ

態度ヲ執リタルカ斎藤カ米国側所有量トシテ計上シタル

小型十二万噸ハ其処迄引下ヶシメ得ル見込アル次第ナリ

ヤトノ質問ニ対シ「ク」ハ大体其ノ辺ニテ落着ケタキ希

望ナリト述ヘ又斎藤カ潛水艦ハ如何ナル場合ニ於テモ英

国トシテハ五万噸以上ヲ建造セサル積リナリヤト問ヒタ

ルニ対シ「ク」ハ大体其ノ見込ナリ尤モ他國カ其ノ保有

率ヲ増加スルニ於テハ英國ハ駆逐艦保有量ヲ十七万五千  
噸位ニ増加スル必要アルヘシト説明シ又斎藤カ我方潛水

(四)本日会談ノ結果ヲ綜合スレハ

(1)英國側ハ米国ノ小型保有量ヲ十二万噸程度ニ止ムルノ

希望ヲ有スルモノノ如ク

(2)潛水艦ニ付テハ成ルヘク少量ニテ「パリチイ」ノ原則

ヲ認ムルノ意向ヲ有スルカ如シ又

(3)日本ノ総括的七割要求ニ付スル「ク」ノ態度ハ稍緩和

シ来リタルノ感アリ

米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

320 昭和5年1月30日

ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

## 第三回総会の経過について

Received Jan. 31st, a.m., 1930

別電 一月二十一日ヨンムン軍縮会議全権より幣原外務大臣宛第九〇号

議題委員会設置に關する件トマサノ全権の動議  
ニシテ

ムハル 1月30日後発

本省 1月31日前着

第八九号

三十日午前十時第三回総会開催「マクダナルド」開会ノ辞  
ヲ述タル後「グランデー」、議題表中ノ伊國提案ニ於  
テハ主義実質ノ問題ニシテ手続問題ニ非サルヲ以テ討議ト  
後日ニ譲リ英仏提案ヲ攻究スルニ同意スト声明シ次ニ「ベ  
チマソノ」ヨリ別電第九〇号ノ通委員会設立ノ動議アリ続  
イテ「ギブンハ」ヲシテ寿府會議以来ノ経過ヲ説明セシメ  
「タルヂョ」「ベチマソノ」ノ動議「ヤロハヌ」シ「トナ  
クサンダー」英國提案ニ付一語シテ全会一致前記動議ヲ可  
決セリ尚右委員会ニ出席スベキ各國代表者ノ選定ハ各「ト  
レゲーンム」ニ於テ成可ク速ニ決スルコトナリ

米ニ転電シ仏伊ニ郵送セリ

(別電)

London, Jan. 30th, p.m.

## 第五回首席全権会議の経過について

ムハル 2月4日後発

本省 2月5日前着

第一〇三〇号

四日午前十一時半ヨリ「ヤントゼイムス」宮ニ於テ各國首  
席全権会合

「ヤ」首相ヨリ

(一)新聞関係ヲ考慮シ成ルベク速ニ総会ヲ開クコト  
(二)各代表部間ノ内交渉ハ成ルベク早目ニ切上ケ協定ニ達ス  
ルニ努ムルコト

(三)議題表列挙ノ細目討議進捗ノ方法ヲ講スルコト

ヲ提議シ談合ノ結果総会ハ制限方式委員会ノ決定ヲ考量ス  
ル意味ニテ七日午前之ヲ開クコトト為シ(一)及(二)ニ付テハ日  
仏両国ヨリ尚重要点ニ付代表部間ノ内談ヲ必要トスルモノ  
アルヲ以テ之カ完了迄(三)ノ討議ニ入ルモ実効少カルベシト  
ノ反対出テ結局極力内交渉ノ進捗ニ努ムルコトトナリ  
尚次回首席全権会合ハ五日午後六時開催ノ筈

米ニ転電シ仏伊ニ郵送セリ

Gaimudajin, Tokio.

No. 90.

Resolved that questions of method and procedure included under heading entitled "General Questions" in agenda now under discussion by chiefs of Delegations and including particularly suggestions of French and British Governments as to limitation by global tonnage or by categories respectively and including methods of transfer suggested by French Government be referred to a committee composed of representatives to be appointed by Delegations represented in Conference with directions to examine carefully possibility and probable effect of said methods with reference to fleets of said respective Nations and to report its views thereon to Conference through Chiefs of respective Delegations.

Zenken.

321

昭和5年2月4日 ムンデン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

322

昭和5年2月5日 ムンデン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

## 日米全権会議における英米間交渉経過を聽取 及び主力艦問題など協議について

ムハル 2月5日後発

本省 2月6日後着

第一〇五号(極秘)

米国側ヨリ会見ヲ求メ来ルニ付四日午後三時若槻、財  
部、松平「ラッソ、ホテル」ニ於テ「ベチマソノ」「ヨー  
ジ」「ヤロー」ト会談ス

先づ「ヨ」ハ昨夜「マクダナルド」及「トーナー」ト  
会談セル処(米側ヨリハ前記三名ノ外「アダムス」出席ノ  
由)右ハ何等協定ヲ遂ケタルニ非ス且細目ニ涉ラス一般政  
策ノ問題トシテ談合ヲ為シタル次第ニシテ以下陳フル所ハ  
之ヲ個々別々ニ取扱ハス「コノボジット、ピクチャー」ト  
シテ考クタシト前提シタル後

1、条約ノ有効期間ニ付テハ米国ハ最初華府条約代換「パ  
ログラム」完了ノ年即チ一九四二年迄ノ条約ヲ希望セシ

モ英國側ニ於テ長期ニ過クレバ不安ノ念ヲ醸ス虞アルヲ  
以テ次ノ會議(一九三五年)迄ノ短期ノモノヲ可トスト

ノ反対アリ右ハ尤モノ次第ニテ米側ニ於テモ長期トセハ其ノ間ニ事情ノ変化モアルヘク却テ短期ヲ可トスヘシト思考スルニ至レル処日本側ノ御意見如何ト問ヒ「ス」モシ協定ヲ容易ナラシムヘキニ付短期ヲ可トス信スル旨ヲ述ヘタルニ対シ

若観ハ長期ニ亘ル協定ヲ最良ナリトスルモ困難アルニ於テハ短期ト為スモ異議ナシト答ヘタリ

「リ」ハ進ンテ巡洋艦ニ付テハ一両日中ニ米国案ヲ御曰ニ懸ケ得ヘシト思考スル処米国ノ欲スルハ「モデレイト」ノ兵力ニシテ從テ日本モ現勢力ノ儘ニテ差支無キ事ト為スヘキカト思考ス尚比率問題ハ持出ササル事トスヘント述く

三、主力艦ニ付テハ

(1)米国側ハ英國側ニ対シ英國ハ現有二十隻中五隻(Iron Duke, Emperor of India, Benbow, Marlborough, Tiger)米國ハ十八隻中三隻(Florida, Utah, Arkansas)日本ハ金剛ヲ「スクラップ」シ以テ一九三三K

「スクラップ」シ新ニ「ボスト、ジュットランド」型二隻ヲ建造スルコトシテハ如何ト申出テタルカ米国海軍側ニテハ二隻ニテハ強キニ過クルヲ以テ一隻ヲ代換スル「オプション」ヲ保有スレハ可ナリトノ意見ナリ尤右ハ経費ノ問題モアリ又議会ニ於テ協賛ヲ与フルヤ否ヤ不明ナルニ付実現セサル可能性多分ナリト述ヘ右ノ場合米国側ニテハ如何ナル艦ヲ「スクラップ」スルヤトノ財部ノ質問ニ対シ「リ」ハ「ワイオミング」ナルヘシト答ヘタリ

主力艦建造費ハ一隻ニ付米国四千万弗以上英國七百五十万磅ヲ要シ之カ維持費モ亦年二百万弗ニ達シ從テ之カ隻数減少ハ莫大ナル節約トナルヘシト述ヘタルニ対シ

「若」ヨリ艦型縮小ニ伴フ経費ノ節減モ亦主要事項ナリト考フル旨述ヘタル処「リ」ハ頗当リ建造費ハ艦型ノ小ナルニ従ヒ増進スルモノナルカ故ニ艦型縮小ニ依ル節約ハ頗數ニ比例セサルノ嫌ヒアリ加之ナラス一九三六年迄完全ナル

休日トスル以上今迄ハ艦型縮小問題ハ全ク「アカデミック」ニシテ次ノ会議ニ持越スモ差支無シト考ヘル旨ヲ答ヘ尚実ハ英側ハ艦型縮小ヲ希望シ米側ハ之ニ反対ナル為右様

「リ」ハ右ハ結構ナルカ技術上ノ理由ニ依リ今年中ニハ実行困難ナルモ明年末迄ニハ可能ナルヘシト思考スル旨ヲ答ヘタル右ニ付テハ日本側ニテモ御同意ナルヘキヤト尋ねタリ(此ノ点ニ関シテハ往電第二六号御参考アリタシ)

(2)海軍休日ニ関シテハ昨年夏「フーバー」「マ」間会談ニ於テハ「マ」ハ失業問題ノ関係上「ハアフホリデー」ト為シタキ希望ナリシカ昨夜ノ話ニテハ「マ」モ「コンプリート、ホリデー」ヲ決行スルニ同意シタリ斯スル結果ハ失業問題ヲ一層深刻ナラシメ現内閣ノ倒壊ヲ招クヤモ測リ難キモ其ノ運命ヲ賭シテモ之ヲ断行スヘキ堅キ決意ヲ示セリト述フ

(3)昨夏「マ」、「フ」会談ノ際「フ」ヨリ華府会談後英國ニ於テ「ロドニー」「ネルソン」ヲ建造シタル点ヲ指摘セルニ対シ「マ」ハ然ラハ米国側ニ於テ旧艦二隻ヲ

年ニ達スヘキ隻数一五、一五、九ヲ出来得ル限リ速ニ実現シタシ但各國共ニ一、二隻ヲ武装解除ノ上標的及訓練ニ使用スルハ差支ナキコトシタシ提議セルニ對シ「マ」ハ右ハ結構ナルカ技術上ノ理由ニ依リ今年中ニハ実行困難ナルモ明年末迄ニハ可能ナルヘシト思考スル旨ヲ答ヘタル右ニ付テハ日本側ニテモ御同意ナルヘキヤト尋ねタリ(此ノ点ニ関シテハ往電第二六号御参考アリタシ)





- 五、単艦ノ最大排水量ハ會議ノ協定ニ依リ之ヲ定ム吾人ハ  
米英日ニ付テハ一八五〇噸又仏伊ニ付テハ三、〇〇〇噸  
ヲ提議ス
- 潜水艦（存置ノ場合）
- 潜水艦ノ総噸数ハ左ノ如シ
- |   |        |
|---|--------|
| 米 | 六〇、〇〇〇 |
| 英 | 六〇、〇〇〇 |
| 日 | 四〇、〇〇〇 |
- 一、現有潜水艦ハ之ヲ保有スルコトヲ得建造中ノ艦艇ハ前記ノ許容総噸数ニ達スル迄完成スルコトヲ得
- 二、許容噸数ニ一致セシムル場合ヲ除クノ外現有艦艇ハ艦齡十三年ニ達スル迄之ヲ廢棄セサルヘシ
- 三、艦齡滿限又ハ事故ノ為亡失セル艦艇ヲ代換スル場合ヲ除クノ外一九三六年十二月三十一日以前ニハ新艦ヲ起工セサルヘシ
- 四、潜水艦ノ噸数ハ寿府基準噸（surface condition）ニ依ル
- 五、単艦ノ最大排水量ハ會議ノ協定ニ依リ之ヲ定ム
- 六、代換セサル場合ニハ艦齡超過ノ旧噸数ヲ保有スルコト使スル場合ニハ日本ハ主力艦一隻代換ニ関シ同様ノ「オプション」ヲ有スベシ
- 五、現有艦改装ニハ仰角増大ヲ含ムモノトス
- 六、以上ノ原則ハ實質上左ノ結果ヲ生ス
- 米国
- 一、廢棄
- |          |             |
|----------|-------------|
| 「フロリダ」   | 一一、九〇〇（基準噸） |
| 「ユター」    | 一二、〇〇〇      |
| 「アーカンソー」 | 一六、一〇〇      |
| 計        | 七〇、〇〇〇      |
- 二、現有総噸数
- |         |
|---------|
| 五三一、四〇〇 |
|---------|
- 一九三〇年乃至三一年廢棄
- 一九三六年一月一日現在勢力
- 一九三六年十二月三十一日迄ノ残存勢力
- 主力艦
- 一、華府条約代換表ハ次ノ原則ニ依リ左ノ通修正ス  
(1)一五、一五、九ノ總計ニ達スル迄旧艦ヲ直ニ廢棄スルコト
- (2)左記第四項ニ掲タル場合ヲ除クノ外一九三六年十二月三十一日以前ニハ新艦ヲ起工セサルコト
- (3)各國ハ練習又ハ標的用トシテ二隻ノ旧艦ヲ保有シ得ルコト但シ右旧艦ハ華府条約ノ規定ニ從ヒ戰闘用ニ供シ得サル狀態ニ置クコトヲ要ス
- 二、噸数ハ華府基準噸ニ依ル「アイダホ」「ミシシッピ」及「ニューメキシコ」ノ各艦ニハ将来ノ改装ヲ可能ナラシムル為三千基準噸ヲ加ヘタリ
- 三、主力艦代換ノ為何等規定ヲ設タルニ於テハ各國ハ代換セサル場合ニハ旧噸数ヲ保有シ得ヘク該噸数代換ノ権利ハ右延期ニ依リ喪失スルコトナシ

四七一、五五〇

日本

一、廢棄

金剛

一、「現有總噸数

一九二〇年

乃至一九一一年廢棄

一九三〇六年十一月廿一日起ノ残存勢力

一九二六〇

航空母艦

華府条約航空母艦提議ヨリ最小制限一万噸ヲ削除シ以テ此ノ種艦艇ハ總テ該許容噸數中ニ算入スヘン

制限外艦艇

(1) 基準排水量五百噸未満ノ戰闘用水上艦艇ハ總テ之ヲ制限外トス

(2) 単艦基準排水量五百噸以上三千噸以下ノ戰闘用水上艦艇ニシテ左記性能ノ何レヲモ有セサルモノニ限り總テ之ヲ制限外トス

(3) 口徑五吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルコム

(4) 口徑三吋ヲ超ユル砲四門ヲ超ユルコム

(5) 魚雷發射ノ計画又ハ裝置ヲ有スルコム

(6) 計画速力十六哩半ヲ超ユルコム

(7) 口徑三吋ヲ超ユル砲二門ヲ超エ搭載スルコム

(8) 機雷投下ノ計画又ハ裝置ヲ有スルコム

(9) 飛行機着艦装置ヲ有スルコム

(10) 飛行機發進裝置ハ中央線ナラバ一機舷側ナラバ各一機宛即チ合計二機ヲ超ユルコム

(11) 特別「タイプ」ノ現有艦艇ノ或ルモノハ相互ノ協定ニ依リ之ヲ制限外トスルコム

米ヘ轉電シテ、伊ヘ暗送セリ

(付 記)

TENTATIVE PLAN OF

THE AMERICAN DELEGATION

5 FEBRUARY 1930

FOR GREAT BRITAIN

I.

CRUISERS.

Total Tons

Type

118,500- New cruisers carrying guns not exceeding 6"

caliber.

339,000

FOR GREAT BRITAIN

II- 110,000- 11 - 10,000-ton cruisers now completed

carrying 8" guns.

2- 20,000- 2- 10,000-ton cruisers now building car-

rying 8" guns.

2- 16,800- 2- 8,400-ton cruisers now building car-

rying 8" guns.

14- 91,000- New cruisers mounting 6" guns.

21- 101,200- Existing cruisers mounting 6" guns.

70,500- 10 existing OMAHA's.

76,500- New cruisers carrying guns not exceeding 6"

caliber.

327,000

(a) The United States shall have the option of the following:-

150,000- 15- 10,000-ton cruisers carrying guns of 8"

caliber.

70,500- 10 existing OMAHA's.

Hawkins class carrying 7.5" guns until replacement by 6" cruisers. To be replaced by 1934-5.

(b) Great Britain shall have the option of the following:-

176,800- 18 - 10,000-ton (or smaller) cruisers carrying

guns of 8" caliber.

75,000 new ) Cruisers carrying guns of 6" caliber.

75,200 existing)

#### FOR JAPAN

##### Total tons

4- 28,400- 4- 7,100-tons cruisers carrying 8" guns.

4- 40,000 - 4- 10,000-tons cruisers now completed

carrying 8" guns.

4- 40,000 - 4- 10,000 tons cruisers now building

carrying 8" guns.

17 - 81,455 - Cruisers carrying guns not exceeding 6"

caliber.

8,800- Existing or new cruisers carrying guns

not exceeding 6".

1.98,655

##### REPLACEMENTS

1. No cruiser may be replaced until it shall have reached a life of twenty years from date of completion,

delay in scrapping after reaching the age limit.

2. No new vessels shall be laid down prior to 31 December 1936, except to replace vessels reaching the age limit or lost through accident.

3. Maximum unit displacements shall be limited as may be agreed upon in Conference. We suggest 1,850 tons for United States, Great Britain, and Japan, and 3,000 tons for France and Italy.

#### SUBMARINES. (if Retained).

Total tonnage of submarines shall be:-

For United States.....60,000

For Great Britain.....60,000

For Japan .....40,000

1. Existing submarines may be retained and vessels building may be completed up to the above total allowed tonnage.

- 4  
過  
の議  
会  
合  
成  
2. Existing vessels shall not be scrapped except to comply with the allowed tonnage until the vessel has reached an age limit of 13 years.

unless it shall have been lost through an accident.  
2. Tonnages are given in Washington standard tons.  
3. Old tonnage may be retained over the age limit if not replaced, but the right of replacement is not lost by delay in scrapping after reaching the age limit.

##### Destroyers

Total tonnage of destroyers and destroyer leaders shall be:

For United States.....200,000

For Great Britain.....200,000

For Japan.....120,000

1. Existing destroyers and leaders may be retained and vessels building may be completed up to the above total allowed tonnages.
2. Existing vessels shall not be scrapped except to comply with the allowed tonnage until the vessel has reached an age limit of 16 years.
3. Old tonnage may be retained over the age limit if not replaced, but the right of replacement is not lost by delay in scrapping after reaching the age limit.

1. The replacement tables of the Washington Treaty are modified as follows to comply with these principles:-  
(a) Immediate scrapping of old ships down to a total of 15 - 15 - 9.  
(b) No new ships to be laid down prior to 31 De-

ember 1936, except as provided below in paragraph 4.

(c) Each nation may retain two old battleships for training purposes or for use as targets provided these vessels shall be rendered incapable of further warlike service as prescribed in the Washington Treaty.

2. Tonnages are in Washington standard tons. Three thousand standard tons have been added to each of the IDAHO, MISSISSIPPI, and NEW MEXICO to allow for future modernization.

3. Should any provision be made for replacements of battleships, each nation may retain old tonnage if not replaced, and the right of replacement of that tonnage is not lost by such postponement.

4. In order to realize now the parity of battleship tonnage which was ultimately contemplated by the Washington treaty by balancing the RODNEY and NELSON, the United States may lay down one 35,000-ton battle-

ship in 1933, complete it in 1936, and on completion scrap the WYOMING. If the United States shall exercise this option, then a similar option as to replacing one capital ship shall be granted to Japan.

5. "Modernizing" existing ships includes increase in gun elevation.

6. The foregoing principles will result in a schedule substantially as follows:-

FOR UNITED STATES.

Standard

|                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| 1. Scrap FLORIDA               | 21,900        |
| UTAH                           | 22,000        |
| ARKANSAS                       | 26,100        |
| Total.....                     | <u>70,000</u> |
| 2. Total tons now on hand..... | 532,400       |
| Scrap in 1930 - 31.....        | <u>70,000</u> |
| Remaining 1 January 1936.....  | 462,400       |
| Scrap WYOMING in 1936.....     | <u>36,000</u> |
|                                | 436,400       |

1 new ship..... 35,000

AIRCRAFT CARRIERS.

The minimum limitation of 10,000 tons shall be stricken from the definition of aircraft carriers in the Washington treaty, so that all such vessels shall be charged against the permitted tonnage.

EXEMPT CLASS.

(a) That all naval surface combatant vessels of less than 500 tons standard displacement be exempt.  
(b) That all naval surface combatant vessels of 500 to 3,000 tons individual standard displacement should be exempt from limitation, provided they have none of the following characteristics:-

(1) Mount a gun greater than 5-inch caliber.

(2) Mount more than two guns above 3-inch caliber.

FOR JAPAN.

Standard

|                                   |               |
|-----------------------------------|---------------|
| 1. Scrap KONGO                    | 26,330        |
| 2. Total tons now on hand         | 292,400       |
| Scrap in 1930-31                  | <u>26,330</u> |
| Remaining until 31 December 1936. | 266,070       |

(c) That all naval vessels not specifically built as fighting ships nor taken in time of peace under

Government control for fighting purposes, which are employed in fleet duties or as troop transports or in some other way other than as fighting ships, should be exempt from limitation provided they have none of the following characteristics:-

- (1) Mount a gun greater than 6-inch caliber.
- (2) Mount more than four guns above 3-inch caliber.
- (3) Are designed or fitted to launch torpedoes.
- (4) Are designed for a speed greater than 16.5 knots.
- (5) Are armoured.
- (6) Are designed or fitted to launch mines.
- (7) Are fitted to receive planes on board from the air.
- (8) Mount more than one aeroplane-launching apparatus on the center line; or two, one

on each broadside.

(d) Certain existing vessels of special type to be exempted by mutual agreement.

324

昭和5年2月5日 ロンドン軍縮會議全權より  
整原外務大臣宛(電報)

金證及密の漏洩防止方に関するレコード全權より

指標全權く解説記入

ロンドン 2月5日後発

本省 2月6日前着

第1〇八号

往電第1〇五号く閱シ

五日倫敦「タイムズ」主催午餐会ノ席上「ハーバー」く若槻「対ソ川日ノ英米会談ノ内容相当詳細ニ紐育「タイムズ」紙ニ現ハシタル處右ハ米国側ヨリ洩レタルモノニアラサルト勿論ニシテ米国政府ニテハ右記事ハ甚タ「ミスリー」イング」ノモノナリトテ打消ニ力メツツアリ右記事ハ日本ニヤ転報セラルルトトアルベク又四日ノ日米会談ノ内容モ何處ヨリカ漏洩スルトナキヲ保シ難キニ付其ノ場合ニ於ケル打消方「キャップル」大使ニ電報シ置キタリ就テハ此

ノ点ニ付貴國外務省側ノ御協力ヲ得タント申出テタルニ付若槻ハ諒承シ置キタリ右御含マ置キヲ請フ

米ハ転電シ仏伊ハ暗送セリ

325 昭和5年2月6日 ロンドン軍縮會議全權より  
整原外務大臣宛(電報)

第六回首席全權會議における次回総会の議題

なにとぞ開かる協議記入

ロンドン 2月6日後発  
本省 2月7日前着

第一〇九号

往電第一〇三号く閱シ

五日午後六時ヨリ「ヤノム、ゼームス」宮ニ於テ首席全權会合

余裕

」、「タルジウ」モ不在トナルベク又第一委員会ノ事務モ予想程進捗セサルニ顧マ同日開催ノ予定ナリソ

会ヲ延期シ十一日午前十一時ヨリ公開総会ヲ開キ其ノ際

潜水艦問題ニ対スル各國ノ立場ヲ説述スルトニ決定セリ「タルジウ」ベ本問題ニ関スル仏國ノ立場ハ簡単シテ潜水艦廃止ニハ反対ナリ又商船攻撃禁止条約ニ付テハ

326 昭和5年2月6日 ロンドン軍縮會議全權より  
整原外務大臣宛(電報)

八吋型巡洋艦及び米國試案に關する齋藤・ク  
レーギー金證記入

ロンドン 2月6日後発

本省 2月7日前着

第一一〇号

其ノ後斎藤ハ「クレーギー」ト隨時会談ノ機会ヲ有シタル處八吋型巡洋艦ニ関シ「ク」カ度々米国ハ仮令十八隻保有ノ権利ヲ得ルトスルモ実際ニハ之ヲ建造セサル見込アリト言ヘルニ関連シ斎藤ハ然ラハ米国ヲシテ右起工ヲ延期セシメ例ヘハ一、二隻ヲ一九三五年後ニ至リ起工スル様計画ヲ立テシムコトトセハ事実問題トシテ日本ノ七割保有ヲ可能ナラシメ且一九三五年次回會議ニ於テ更ニ本件ニ考慮ヲ加フルノ余地ヲ生スヘク右ハ米国ノ工業力ニモ顧ミ無理ナキ提案タラサルヘキヤト述ヘタル処「ク」ハ之ヲ「マクドナルド」ニ内話シタルニ「マ」ハ面白キ案ナルモ要スルニ米側カ承諾スヘキヤ否ヤカ問題ナルヲ以テ米側ト内談シ差支ヘナシト言ヘル趣ニテ「ク」ハ他ノ話ノ序ヲ以テ米側ニ本案ヲ仄メカシタル処米側ニテモ即座ニ賛成ハセサリシモ別ニ異論モ唱ヘサリシ由ナリ

六日朝「ク」ハ斎藤ニ対シ昨夜米案ヲ入手シタルカ日本側ノ感想如何ト問ヒタルニ付斎藤ハ未タ熟読ノ機会ナク且何人ノ意見ヲモ聽カサルニ付何等意見ヲ申述フルヲ得サルモ

トタル由ナリ

如何ト云ヒタルコトアリシヲ誤解セルモノナラムカト答ヘタル由ナリ

「ク」ハ米国側ハ本案作製ノ為過去一ヶ月ヲ費シ米代表部内ノ種々ナル意見ノ相異ヲモ相当調和シテ漸ク出来上リタルモノナレハ之ヲ変更セシムルコトハ仲々困難ナルヘキモ首肯シ難キ点多々存ス唯米側カ自発的ニ大型ヲ二十一ヨリ十八ニ引キ下ケタルコト丈ハ英國ノ満足トスル所ナリト語リタル趣ナリ

米ヘ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

327 昭和5月2月6日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

米國全權聲明書發表問題に関する若槻・リー

ド会談について

第一一一号

六日午後六時「リード」若槻ヲ來訪シ本日正午頃市俄古  
「トリビューン」記者ハ出所ヲ明言セサリシモ米国ノ英側ニ對スル提案ニハ大型巡洋艦二十一隻ノ要求ヲシツツ十八

差当リノ感想トシテハ同案ハ全ク日本側ノ立場ヲ無視セルモノニシテ到底討議ノ基礎トナスコトスラ困難ナルモノノ如ク加フルニ英米側ニ振当テラレタル嶼数モ英國ノ考へ居ラル所ヨリ遙ニ高率ナルカ如ク見ユト述ヘタルニ「ク」ハ其ノ通ナリト答へ且ツ本案ハ全ク米国側ノミニテ作成セルモノニシテ英國側ニハ予メ相談ナカリシコトヲ訴ヘ居リタル由ナリ尚斎藤ハ「ロドニー」「ネルソン」「ト鈞合ヲトル為米国ニ於テ一隻代換ヲ行フノ案ニ閔スル英側ノ感想ヲ問ヒタル処「ク」ハ右ハ到底承諾シ難キ所ニシテ華府條約規定ノ事項ヲ変更セントスルハ決シテ「フェア」ニアラスト持チ出シタルモノナリトモ聞キ及ヘルカ如何ト尋タル処「ク」ハ「マクドナルド」カ「フーバー」ト如何ナルコトヲ話シタルヤハ承知セサルモ多分右ノ話ハ自分カ國務省側ニ対シ艦型縮小ノ必要ヲ説キタル際國務省側ハ右縮小ノ場合ニハ「ロドニー」「ネルソン」カ優越ノ立場ニ立ツヘキノミナラス嶼数上ヨリ見テ英國側ニ有利トナリ過クヘキコトヲ理由トシテ反対セルニ付然ラハ釣合ヲ取ル為一二ノ例外ヲ設ケテ大型艦ヲ造リ唯備砲ハ十二吋トスルコトトセハ

## 若槻・タルデュー会談における潜水艦問題討議について

議について

ロンドン 2月7日後発  
本省 2月8日前着

### 第一一五号

六日午後「タルジウ」若槻ヲ來訪シ明朝巴里ニ帰リ十日夜迄不在スルヲ以テ十一日ノ総会ニ於テ潜水艦ニ付日本側ヨリ何等言及セラルヤ本件ニ関シ大体仮側ト見解ヲ同フセル貴方御意向伺ヒタク參上セリト述ヘタルヲ以テ若槻ハ潛水艦ニ閂スル我方意向ハ屢次声明ノ通ニテ之ヲ不当ナル商船破壊ノ為ニ使用スル意思ナキハ勿論ナリ唯潛水艦ハ同艦種間ニ於ケル戰闘ヲ目的トスルコトナク主力艦以下ニ対スルモノナルニ依リ他ノ國ノ保有量トハ全ク關係ナク現有勢力ヲ以テ我方所要量トスルモノナル處貴方ニ於テハ何等具体案ヲ有セラル次第ナリヤト尋ネタル処「タ」ハ十一日ニハ何等詳細ノ点ニ言及スルコトナク国防上歴史上ノ理由等ヨリ潛水艦廢止ニ反対スヘク（華府會議ニテハ米ハ日仏ト同意見ナリシト述ヘ）尤モ使用上水上艦艇ト同様ノ制限ヲ之ニ加フルニハ同意見ナリ次回総会ニ於テ本点ニ関シ形

體間ニ於ケル戰闘ヲ目的トスルコトナク主力艦以下ニ対スルモノナルニ依リ他ノ國ノ保有量トハ全ク關係ナク現有勢力ヲ以テ我方所要量トスルモノナル處貴方ニ於テハ何等具体案ヲ有セラル次第ナリヤト尋ネタル処「タ」ハ十一日ニハ何等詳細ノ点ニ言及スルコトナク国防上歴史上ノ理由等ヨリ潛水艦廢止ニ反対スヘク（華府會議ニテハ米ハ日仏ト同意見ナリシト述ヘ）尤モ使用上水上艦艇ト同様ノ制限ヲ之ニ加フルニハ同意見ナリ次回総会ニ於テ本点ニ関シ形

式ハ兎ニ角其ノ趣旨ニ於テ同様ナル声明ヲ為スコト望マシク之カ為日仏ヨリ夫々一両名ヲ出シ予メ其ノ解決ノ案ヲ究スルコト致シタシト申出タルニ付同意シ置ケリ

米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

329 昭和5年2月8日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 軍縮會議における英國の立場についての覺書

議會提示に関する若槻・マクドナルド会談について

六日午後「マクドナルド」ヨリ至急会見ヲ求メ来リ若槻往訪ス

七日午後「マクドナルド」ヨリ至急会見ヲ求メ来リ若槻往訪ス

第一一八号

六日午後「マクドナルド」ヨリ至急会見ヲ求メ来リ若槻往訪ス

第一一九号

一、「マ」ハ昨夜米国側ニ於テ発表セル「コンミニケ」ハ困難ナル事態ヲ釀シ当惑ノ至ナリ右ノ經緯ハ御承知ナリヤト尋ネタルニ付若槻ハ昨夕「リード」來訪ノ次第（往電第一一一号）ヲ述ヘ且右ニ関シ日本新聞記者ヨリ頻リニ情報供給方ヲ迫ラレ居ルモ会談ノ内容ハ一切洩サ

ハ嚴秘ニ付シ來レルカ會議關係者モ多キ事故不謹慎不注意ノ者全然無之トハ言ヘサルモ日本側ヨリ前述ノ如キ記事漏洩シタルモノニ非サル事ヲ確信ス英米ノ声明書發表セラレ且此ノ種ノ新聞記事等現ルルニ於テハ或ハ幾分細目ニ亘リ發表ノ必要アルニ至ルヘキカト思考スル旨述ヘタルニ「マ」ハ英國覺書案内容ヲ略述シ要スル（ニ）右ハ英國独自ノ立場ヲ説明セルモノニシテ交渉ノ内容ニ亘ルモノニ非ス例ヘハ日本カ独自ノ立場トシテ七割ヲ主張ノ中心トセラルカ如キ筋合ノ文案案ナリト説明セリ依テ若槻ハ右覺書ヲ見タル上ニテ當方發表如何ヲ決定スヘシト述ヘ「マ」ハ目下米並ニ仏伊等ニモ申入レ中ナルカ日本ニ於テモ右事態カ會議進捗ノ妨トナラサル様御配意ヲ請ハサルヲ得スト懇請シ若槻ハ事態ニ善處スルノ必要ニ付同感ノ意ヲ表シ今日迄ノ處未タ重大事態ヲ來セリトハ考ヘス只其ノ悪影響小ナラン事ヲ切望ス我方ニ於テ何等公表ヲ為ス場合ニハ必ス御通報致スヘシト言ヒタルニ「マ」ハ深ク感謝ノ意ヲ表セリ

二、若槻ハ稍等ヲ弁ヘサルノ嫌アルモ拝眉ノ序ヲ以テ率直ニ御尋ねシ度キハ米国案ニ所謂「ポスト、ジュトランドニ申出テタルモノアリ（往電第一二〇号）

之ニ對シテハ交渉ノ内容ニ付テハ一切回答セサル旨ヲ答申出テタルカ元來我方ニ於テハ固ク秘密ヲ守リ交渉内容等

型一隻代換ノ件ハ英國ニ於テ承認セラルヘキヤト問ヒタルニ対シ「マ」ハ否々ト答ヘ若観ハ米案ハ未タ一瞥シタルノミナルニ付尚確タル意見ヲ申上ケ兼ヌルモ其ノ主力艦ニ関スル提案ハ我方ニ於テ大体同意ヲ表シ差支無キ

様見受ケラルモ右ノ点ノミハ日本ノ同意シ難キ処ニシテ而モ特ニ目立チタル事ナルニ付御尋ネシタル次第ナリト言ヒタルニ「マ」ハ米国案ノ如何ナル点ニ付テモ英米間ニ協議シタル事無ク昨日初メテ之ヲ受領シ只今漸ク之ヲ読了シタルニ過キスト云ヒ尚繰返シ青天霹靂ノ如キ米「コンミニュニケ」ノ為ニ折角穩和ナリシ會議ノ空氣ヲ攪乱セルハ誠ニ遺憾ノ極ナリト繰返シタリ

三、次テ「マ」ハ日英間ノ内交渉ハ打切りノ形トナリ居レルカ如何ニシテ之ヲ再開致スヘキヤ斎藤「クレーギー」ノ私的会談ニ依リ何等討議ノ基礎タルヘキモノ見出サレタリヤト尋ネタルニ対シ若観ハ実ハ右私的会談ハ余一己ノ参考迄ニ行ハシメ居ルモノニシテ他ノ全權ニモ報告セシメ居ラス只自由無責任ノ会談中何者カラ案出シ得サルヘキヤト期待シ居ル次第ナルモ未タ其ノ結果ヲ見ス今後今少シク継続セシメ度キ所存ナリ又日本ハ米提案ニ対シ

一応回答ノ要アルヘク其ノ後ニテ貴首相ト会談ノ機会ヲ得度シト思考スト述ヘタルニ「マ」ハ同意ヲ表シタル後貴全權ハ之ヨリ暫クノ間米側ノミト話合ヲ進メラル事然ルヘシトノ御考ナリヤト尋ネタルニ対シ若観ハ然ラス度々申上ケタル通リ英米両國ノ好意的考量ヲ待チテ始メテ協定ニ達シ得ルモノナルニ付常ニ連絡ヲ保チツツ協議ヲ進メタシト考フルモ前記米案ノ次第アルヲ以テ差当リ米ト会談スヘク其ノ内容ハ貴方ニ通報ヲ怠ラサルヘシト答ヘ「マ」ハ謝意ヲ表シ此ノ次ノ会談ノ「イニシアティブ」ハ貴方ニテ執ラレ度シト希望シ若観ハ勿論其ノ必要アラハ申出スヘキモ何時ニテモ呼出シアリタキ事並ニ場合ニ依リテハ斎藤「クレーギー」ヲ通シテ申入ヲ為ス事モアルヘキ旨ヲ付ケ加ヘ「マ」ハ諾意ヲ表シ会談ヲ終レリ(尚本件ニ関シ「マッシングリ」カ佐藤ニ洩シタル處ニ依レハ米国側「コンミニュニケ」発表ノ直後「タルジュー」同人ヲ帶同シ「マクドナルド」ヲ訪問シ万一千英米ニ國間ニテ既ニ協定ヲ遂ケ仏國ヲ既成事實ノ前ニ置カントスルカ如キ実情ナルニ於テハ仏國側トシテハ即刻倫敦ヲ引揚クヘシト申入レ右ニ対シ「マ」ハ全然英米間ニ協定成リタ

ルニ非サル旨懇説セリトノ事ナリ)  
米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

330 昭和5年2月8日

ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 軍縮會議における英國の立場に関する覚書中の注意すべき点について

ロンドン 2月8日前發  
本 省 2月8日後着

第一九号

七日午後「マ」首相ヨリ若観宛送付越シタル覚書中注意スヘキ点左ノ通

#### 一、協定ノ効力

今回会議ノ協定ハ一九三六年迄有効トシ一九三五年ニ次ノ會議ヲ開催スヘシ各國政府ハ一九三六年未以前ノ一定期日前ニ協定ノ規定通り其ノ計画及現有勢力ニ必要ナル修正ヲ加フルニ同意スヘシ一九三五年ノ會議ハ一九三六年以後ノ状態ヲ處理スルモノトス

#### 二、融通

主力艦航空母艦潜水艦ニ付テハ融通ヲ認メス

#### 六、潜水艦

八時型ヨリ六時ヘノ協定ニ依ル一定百分比ノ融通ヲ認メスル融通ニハ協定ニ依ル valuating factor ヲ用フ

三、倫敦會議ニ於テ成立スヘキ條約ノ批准後十八ヶ月内ニ華府條約規定ノ主力艦制限隻數ニ到達スヘシ

一九三五年ノ會議以前ニハ現存艦ノ代換ヲ行ハス其ノ間ニ主力艦問題全部(隻數艦型備砲)ヲ関係各國ニ於テ交渉スヘシ

英國政府ハ相當期間内ニ戦艦全廃協定ノ成立ヲ希望ス

#### 四、航空母艦

一万噸以下ノ艦艇ヲモ航空母艦割当噸数十三万五千噸ヲ十萬噸トシ他国割当量ヲ華府條約比率ニ依リ調整ス

#### 五、巡洋艦

英米交渉ハ英帝国ノ所要ハ五十隻ニテ三十三万九千噸ナリトノ仮定ノ下ニ行ハレタル処最終ノ協定ハ単艦艦型制限ニ関スル今回會議ノ決定ニ係ルモノトス壽府條約規定ノ八時巡洋艦ノ噸数制限ハ之ヲ変更セス单艦最大排水量ヲ六千噸又ハ七千噸ニ制限シ且輕巡中一定歩合ニ限り前記最大排水量ノモノヲ建造スヘキ協定ヲ作ルヘシ

潜水艦ニ関スル華府条約ニ服スヘシ

七、特殊艦艇

艦隊ノ付隨的任務ニ從フモ艦隊勢力ニ入ラサル補助艦艇ハ之ヲ特定シ各國政府ハ毎年就役又ハ建造中ノ此ノ種艦艇ノ単艦排水量ヲ示セル表ヲ發表スヘシ

331 昭和5年2月8日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

米側試案漏洩問題に関する松平・リード会談について

第一二〇号

ロンドン 2月8日前發  
本省 2月8日後着

二月七日新聞連合社ヨリ当地出張員ニ対シ時事新報ニ掲載セラレタル米国側ヨリ探り得タリト称スル米提案ノ内容ニ關シ事実確カメ方申越シタルニ対シ岩永ヨリ問合セアリタルニ付當方ニ於テハ協議ノ上斯ノ如キ新聞掲載事項ニ対シテハ「ヨンファーム」モセス又論議モセサルコト為シ往電第一二一號「リード」ヨリ申出ノ次第モアリタルニ付不取敢松平「リード」ヲ往訪シ右事実及當方ノ方針ヲ内密ノ

331 昭和5年2月8日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

米側試案漏洩問題に関する松平・リード会談について

第一二一号

ロンドン 2月8日前發  
本省 2月8日後着

二月七日新聞連合社ヨリ当地出張員ニ対シ時事新報ニ掲載セラレタル米国側ヨリ探り得タリト称スル米提案ノ内容ニ關シ事実確カメ方申越シタルニ対シ岩永ヨリ問合セアリタルニ付當方ニ於テハ協議ノ上斯ノ如キ新聞掲載事項ニ対シテハ「ヨンファーム」モセス又論議モセサルコト為シ往電第一二一號「リード」ヨリ申出ノ次第モアリタルニ付不取敢松平「リード」ヲ往訪シ右事実及當方ノ方針ヲ内密ノ

332 昭和5年2月8日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

軍縮に関する米国試案に関する松平・リード両全權の個人的協議について

ロンドン 2月8日前發  
本省 2月8日前着

第一二二号

往電第一二〇六號ニ關シテハ目下当地ニ於テモ米国側へ回答振リニ対シ慎重協議中ニテ未タ回答ノ運ヒニ至ラサルカ今七日往電第一二〇號ノ用向ヲ以テ松平カ「リード」ヲ往訪セシ際松平ハ全ク日本委員ノ資格ヲ離レ友人間ノ話トシテ今回ノ米国案ハ自分ノ一見シタル所ニ依レハ從來日本側ニ見ユル旨述ヘタル処「リード」ハ之亦座談トシテ述フル所ナリトテ米国側ニ於テハ相當日本側ノ立場モ考慮シタルモノニシテ自分ノ記憶スル所ニ於テハ大型巡洋艦ニ於テハ隻數ニ於テ日本ハ米ノ六割六分三分ノ二ニ当リ八時砲ニ於テハ米ノ一六三ニ対スル一〇四即チ六割四分二厘ニ当リ噸數ニ於テハ十八万噸ニ対スル十万八千即チ六割ヨリ六割一分ニ当リ居レリ尤モ米国ハ多分十八隻ハ建造セサルヘク十五隻ニテ止ムルヤモ知レサレトモ此ノ点ハ今日約言スルコト

在米大使ヘ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

333 昭和5年2月9日 在米国出淵大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

軍縮會議に関する新聞報道について

ワシントン

本省 2月9日前着

(一)米国側提案ニ關スル「スチムソン」ノ声明ハ國務省ヨリ比較及噸數ニ於テハ今記憶セサルモ全体ニ於テ隻数、砲

軍縮新聞報

4 会議の経過

九割五分ニ当リ居レリ表ニハ明記無キモ「オマハ」以外ノ新造艦ハ大体「オマハ」級ノ大キサニナルヘク又六時砲ノ

含ミトシテ話シタル処「リード」ハ右通報ヲ深ク感謝シ米國側ニ於テモ嚴重内容ノ漏洩ヲ取締リ居ルカ本件ニ付テハ直ニ取調フヘキ旨申シ居リタルニ付松平ハ右出所ニ重キヲ置ク次第ニ非ス单ニ我方ノ態度ヲ通報スル趣旨ナル旨ヲ述ヘ尚米国側ニ於テ「ステートメント」ヲ発シタル結果日本新聞記者連ニ於テ日本委員ノ沈黙ニ対スル不満ノ声モアルニ付若規全權ニ於テ米国側發表殊ニ英米均等ニ対スル説明ヲ発シタル経緯ヲ説明シタルモ我方ニ於テハ差当リ内容ノ發表ヲ為ササル積リナリ尤今後事情ノ發展ニ伴ヒ何等カ發表ノ必要生スルニ至ルヤモ知レス其ノ節ハ予メ通報スヘキ旨申述ヘタル処「リード」ハ國務卿ニ於テモ深ク感謝スルコトト思ハル旨述ヘタリ

米ニ転電、仏、伊ニ暗送セリ

332 昭和5年2月8日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

軍縮に関する米国試案に関する松平・リード両全權の個人的協議について

ロンドン 2月8日前發  
本省 2月8日前着

ナリト述ヘタルニ付松平ハ我方ニ於テハ專ラ噸數ヲ以テ計算シ居ルカ今日ハ何等本件ニ付議論ノ為ニ來リタルニ非ス又其ノ權限モ有セサルニ付是等ハ追テ研究ノ上我方委員ヨリ改メテ論議スヘシトテ深入リスルコトヲ避ケタリ其ノ節「リード」ハ駆逐艦ニ付テハ最初百五十二隻所要額ヲ書入レ置キタル所専門家カ之ヲ噸ニ換算シテ二十万噸ト為シタルモノニテ自分モ其ノ噸數ノ多キニ驚キタル次第ナルカ右ハ英側ニ於テ下リ得ル程下ル余地アリト述ヘタリ右何等御参考迄

モ公表セラレ尚「コットン」國務長官代理ニ於テ本声明ハ英米ニ対シ各艦種毎ニ對等ノ噸数ヲ与ヘラルコトヲ意味ス即チ米国ニシテ希望スルニ於テハ大型及小型巡洋艦ニ付英國側ト全然同一噸数ヲ建造シ得ヘキ訳ナリト説明セル旨報セリ

(二)右声明ニ関シ紐育「タイムス」華府通信ハ米国ノ三十二万七千噸ハ現有三十万五千噸ニ対シテハ勿論英米予備文渉ニ基ク三十一万五千噸ニ比スルモ增加トナリ居リ却テ大統領ニ於テ現実ノ縮減ヲ切言シ来リ且行政府ニテ二十八万五千噸ヲ目標トシ居リタルコト对比シテ今回ノ増加ハ極メテ顯著ナル事實ナル処右ハ英國側ニ於テ五十隻ヲ此ノ上低下シ得サル所以ヲ米国側ニ納得セシメタル結果トモ見ラルヘク又対英均勢ヲ殊更ニ主張スル上院方面ノ空気ヲ考慮ニ入レタルモノトモ見ラルト述ヘ又紐育「トリビューン」ハ本件提案ノ或ル部分殊ニ巡洋艦噸数増加ノ点ニ付華府官辺ニテハ意外ノ感アルモノノ如シ尤モ大統領カ前以テ該提案ヲ承知シ居ラサリシ筈ナシト報ス

(三)議会方面ノ反響ニ付テハ下院海軍委員長「ブリテン」カ米国ハ大型巡洋艦建造ノ権利ヲ放棄セリトテ非難セル外アリタルカ尚協定ニ達セサル点アリ間ニ合ハサルヘントコトニ意見一致ス  
(一)第一委員会専門委員会(制限方式討議中)ヲシテ原則決定ノ後ハ引続キ細目問題ニ付討議ヲ進メシムルコトニ決ス  
(二)第四回総会潜水艦ノ討議ハ英國側(多分首相以外ノ全權)ヨリ先ツ意見ヲ述べヘ他ノ四国ハ「アルファベット」順ニ依リ発言スルコト英自治領ハ発言セサルコトニ決定此ノ点討議ニ当リ先ツ全廢論ヲ主張スル国即チ英、米、伊国之ニ次クヘシトノ論アリ其ノ際「グランジ」ハ伊国ノ全廢論ハ會議全体ノ決定如何ニ依ル条件付ノモノナルコトヲ述ヘ結局前項ノ如ク決セリ  
(四)「マ」ヨリ第五回総会ニ於テ主力艦問題ヲ上提シタント言セラル諸問題ニ触ルルニ先立チ同条約ノ変更ヲ包含スル主力艦問題ヲ討議スルハ輿論ノ趨向ニ鑑ミ面白カラスト反対シ決定ニ至ラス  
米ニ転電シ仏、伊ニ暗送セリ

#### 4 會議の経過

上院側ニテハ未タ何等批評ヲ加ヘ居ラサル趣伝ヘラレ又紐育「ワールド」華府通信ハ該案ヲ以テ英國ニ降服セルモノナリトナス大海軍論者ノ攻撃アルヘキモ専門家間ニ於テハ小型ヲ必要トスル意見高マリ居ルニ付米国カ多数ノ小型艦ヲ保有スルヲ得ヘキコト乃至ハ英米間ノ主力艦「パリティ」ヲ即時ニ実現シ得ヘキコトヲ以テ右攻撃ヲ緩和セシメ得ルヤモ知レスト報セリ

全權ニ転電ス  
334 昭和5年2月10日 ロンドン軍縮會議全權より  
モノナリトナス大海軍論者ノ攻撃アルヘキモ専門家間ニ於テハ小型ヲ必要トスル意見高マリ居ルニ付米国カ多数ノ小型艦ヲ保有スルヲ得ヘキコト乃至ハ英米間ノ主力艦「パリティ」ヲ即時ニ実現シ得ヘキコトヲ以テ右攻撃ヲ緩和セシメ得ルヤモ知レスト報セリ

335 昭和5年2月11日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

第七回首席全權會議における次回総会その他  
會議事協議について

第一二二四号  
十日前十一時半「セントゼイムス」宮ニ於テ首席全權会合

(一)「マクドナルド」ヨリ第四回(十一日)総会ニ於テハ潛水艦問題以外制限方式問題ヲモ提出サルヘキヤトノ相談

335 昭和5年2月(11)日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)  
(館長符号)  
佐藤公使ヨリ堀田局長ヘ  
貴電第五〇号ノ漏洩事件ハ當方ニテモ嚴重取調中ニテ責任者判明ノ場合ハ海軍、外務側ニ拘ラス断然タル処分方全權ニ御願スル心組ナリ就テハ問題ノ時事特電ハ確ニ倫敦ヨリ発電セラレタルモノナリヤ或ハ東京本社ニテ何レヨリカ洩レ聞キタル情報ヲ小野特電トシテ掲載シタルモノナラサルヘキヤ御取調ヘノ上至急小生宛御回電ヲ請フ  
(次官ヘモ写一通提出シ置ケリ 沢田)  
(ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報))  
第四回総会における潛水艦問題討議の経過に  
ついて

336 昭和5年2月11日  
ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)  
第四回総会における潛水艦問題討議の経過に  
ついて

ロンドン 2月11日後発

本省 2月12日前着

## 第一二七号

十一日午前十一時ヨリ「セントゼイムス」宮ニ於テ第四回総会（公開）開催席頭議長ヨリ制限方式問題ニ関スル専門委員会ノ事業終了セルヲ以テ其ノ報告ヲ受クル為明十二日第一委員会ヲ開催スヘキ旨披露シタル後潜水艦問題ニ関スル一般討議ニ入ル

一、「アレキサンダー」ハ

潜水艦廃止カ英國政府年來ノ主張ナルコトヲ明カニシタル後

(1) 潜水艦ノ廃止カ人道的見地及軍縮ノ本義ヨリシテ望マシキコト

(2) 潜水艦乗組員ノ就務状態カ非衛生的ニシテ且ツ平時ニ於ケル災害ノ危険大ナルコト

(3) 其ノ廃止ハ直接又間接ニ（他ノ艦種ノ減少ヲ誘致スヘキニ依リ）國費ノ節約ニ寄与スル所大ナルヘキコト

(4) 潜水艦乗組員ノ就務状態カ非衛生的ニシテ且ツ平時ニ於ケル災害ノ危険大ナルコト

等ヲ挙ケテ之カ全廃ヲ主張スルト共ニ不幸ニシテ右主張

會議ニ於テ仏國カ主力艦ニ付比較的劣勢ヲ受諾セルハ全ク他ノ防禦的艦種ニ付キ建造ノ自由ヲ有スルコトヲ条件トセルカ為ニシテ同國ハ其ノ国防上潜水艦ヲ絶対ニ必要トスト述ヘ最後ニ「潜水艦ハ水上艦ニ関スルト同一ノ規則ニ準拠スルニ非サレハ商船ニ対シ行動スルコトヲ得ス」トノ趣旨ノ條約案ヲ起草スヘキ委員会ヲ任命スル決議案ヲ提出セリ

四、「グランデ」ハ

潜水艦ノ存在ハ之ニ対抗スヘキ他ノ艦種ノ増加ヲ誘ヒ真ノ軍縮ヲ阻害スト為ス主張ト他方潜水艦ヲ以テ劣勢海軍

國カ優勢海軍國ノ攻撃ニ対抗スル唯一ノ武器ナリト為斯主張トハ主力艦ヲ潜水艦ト同時ニ廃止スル事ニ依リ調和シ得サルヘキヤ伊國ハ潜水艦廃止ニハ主義上賛成スルモ之ヲ他ノ艦種ト一括論議セン事ヲ欲スト述ヘ次テ財部ヨリ別電第一二八号ノ趣旨ノ声明ヲ為シ英各自治領及印度代表者ヨリ夫々英海相ノ主張ニ賛成ナル旨ノ簡単ナル發言アリタル後議長ハ唯今米國全權ヨリ(1)潜水艦ノ廃止(2)

水上艦ニ関スル戰時法規ニ依ル潜水艦使用ノ規律(3)潛水艦ノ艦型制限ノ三問題ニ関スル協定ノ可能性ヲ研究報告

ニシテ容レラレサルニ於テハ艦型及隻数ヲ極端ニ縮小シ潜水艦ヲ純然タル防禦的武器ト為スト共ニ其ノ商船攻撃禁止ニ関スル華府條約ヲ復活セサル可カラスト論シ

二、「スチムソン」ハ

米國ハ華府會議ノ際ニハ潜水艦ノ商船攻撃ニ關スル協定成立セルヲ以テ全ク人道的考慮ヲ棄テ專ラ海軍戦略上ノ見地ヨリ之カ廃止ニ反対セルモ今ヤ本問題ヲ率直ニ再考スヘキ時機至レリト信スト前提シ潜水艦カ防禦的武器ニシテ且ツ建造費低廉ナリトノ論ニ対シ専門的反駁ヲ加ヘタル後米國ハ之等専門的論議ヲ離レテ潜水艦廃止ヲ主張スルモノナリトテ其ノ濫用カ米大陸ノ大戦参加ノ直接ノ原因トナレル兵器ノ存続ヲ許容スルカ如キハ不戦条約ノ下ニ召集セラレタル今次會議ノ目的ニ背反スルモノナルコトヲ力説セリ

三、「レーヴ」ハ

(1) 潜水艦ヲ他ノ艦種ト差別的ニ取扱フ理由ナキコト(2)潜水艦ハ一切ノ海軍國殊ニ劣勢海軍國ニトリ欠クヘカラサル防禦的武器ナルコト(3)其ノ使用ハ他ノ艦種ト同一ノ条件ニ於テ之ヲ律シ得ヘキコトノ三点ヲ詳述シ華府

スヘキ委員会ヲ命令スル趣旨ノ決議案ヲ受領セルカ両者ヲ一括第一委員会ニ付託スヘシト提議シ右ニ決定セリ  
米ニ転電シム、伊ニ郵送セリ

337 昭和5年2月(12)日 ロンドン軍縮會議全權より

松原外務大臣宛(電報)

第四回総会における潜水艦問題討議の際の財部全権の声明について

ロンドン  
本省 2月12日前着

第一二八号

只今種々潜水艦ニ関スル声明ヲ拝聴シタルカ予ハ戦争ノ慘禍ヲ最小限度ニ縮小セムコトヲ切望スルニ於テ敢テ人後ニ落ツルモノニアラス從テ潜水艦全廃論ノ人道的動機ニ対シテハ全幅ノ同情ヲ表明セムトスルモノナリ然レトモ今日拝聴セル提案ノ或ルモノニ付テハ唯一点異レル意見ヲ開陳セサルヲ得ス

由來潜水艦ノ価値ハ他ノ艦種ニ於ケルト同シク其ノ体ニ依ラス其ノ様ニ依リテ之ヲ決定スヘキモノニシテ潜水艦ヲ他ノ水上艦ヨリ區別シ特ニ非人道的武器ナリト為スハ実ニ謂

ナシト言ハサルヘカラス

潜水艦固有ノ用途ハ近海ニ於ケル敵ノ攻撃ヲ防クニ在リテ  
日本ノ如キ多数ノ島嶼水道及防禦地點ヲ有スル國ニトリテ

ハ此ノ種防禦的武器ハ欠クヘカラサル処ニ属スト言ハサル

ヘカラス

尤モ明カナル一例ヲ挙ケムカ航空機ハ日ヲ逐フテ發達シ平  
和的交通ニ多大ノ貢献ヲ為シツツアリト雖戦争ノ武器トシ  
テモ亦大ナル威力ヲ示シツツアリ而モ之ヲ濫用セムカ防禦  
力ナキ人命財産ニ慘害ヲ加フヘキコト遠ク潜水艦ノ比ニア  
ラサルナリ航空機ハ潜水艦ヨリモ行動ノ範囲広ク海上ニ止  
マラス陸上ニ於テモ其ノ暴力ヲ振フコトヲ得ヘシ武器ハ善  
惡両用ノ具ナリトハ航空機ノ場合ニ於テモ亦之ヲ看取スル  
ニ難カラズ

斯ル根本思想ニ立ツモノナルカ故ニ日本ハ世界大戦ノ怖ル  
ヘキ経験ヲ繰返ササラムカ為潜水艦ノ使用ヲ厳格ニ規律セ  
ムトスルノ提案ニ対シテハ衷心賛同ノ意ヲ表明セムト欲ス  
我ニ於テハ既ニ潜水艦ニ関スル華府条約ニ署名シ且直ニ之  
ヲ批准セルカ今次會議ニ於テモ一切ノ参加国カ近キ将来ニ  
於テ実施シ得ヘキ満足ナル協定ニ達セムコトヲ切望シ此ノ

持シ何等纏ラス又

(三)米側ニ於テ「ロドネー」型一隻代換新造ノ件ニ付テモ英  
側ハ強硬ニ反対シ

(四)駆逐艦及潜水艦ニ付テハ雑談ヲ交ヘタルノミニテ何等進  
捲スル処ナカリキ尚自分(「リ」)ヨリ「マ」ニ対シ多分  
明日日本側ヨリ米国案ニ対スル対案ノ提示ヲ受クル筈ナ  
リト内話シ置キタル関係モアルニ付(十一日「セントジ  
エームス」宮総会後若規ハ多分松平ヨリ「リード」ニ我  
カ対案ヲ交付スルコトナルヘシト告ケ置キタリ)自分  
ニ提示セラルル案ハ「マ」ニモ送付セラレタント語レル  
ニ付若規ハ然スヘント約シ且今後トモ内話ノ結果ヲ相互  
ニ通牒スルコトニ付賛意ヲ表シ置キタリ  
米ヘ転電シ仮、伊ヘ暗送セリ

339 昭和5年2月12日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 軍縮會議における日本全權の態度に関する声

#### 明について

ロンドン 2月12日後着  
本省 2月13日後着

合法的且防禦的ナル武器ノ不法ナル使用ヲ非トスル約定ニ  
対シテハ全幅ノ支持ヲ与ヘムトスルモノナリ

ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 若槻・リード両全權會議における英米交渉の 内容通報について

ロンドン 2月12日後発  
本省 2月13日前着

#### 第一二九号

十一日午後「リード」若槻ヲ來訪シ将来日英米間相互ノ私  
的會議ノ結果ハ相互ニ腹藏ナク通牒スルコト致シタシト  
前提シ唯今「スマソン」「アダムス」及自分ノ三名英首  
相官邸ヲ往訪「マクドナルド」「ヘンダーソン」及「アレ  
キサンダー」ト會見米国提案ニ基キ討議セルカ

(一)米国側カ八時大型巡洋艦ヲ「十一隻ヨリ十八隻ニ引下ケ  
方確言セルコトニ付テハ英國側ハダイニ満足ノ意ヲ表シ  
居ルモ

(二)其ノ差三万噸ヲ小型巡洋艦噸數ニ繰リ入ルル為換算セル  
噸數過大ナリトテ苦情ヲ述ヘタルニ対シ米側ハ自説ヲ固

#### 第一三二号

倫敦海軍會議ニ於ケル帝国全權ノ態度ニ関スル声明書  
日本全權ハ倫敦海軍會議ハ恒久平和ノ確立ニ対スル人類一  
般ノ切望ニ基キ招請セラレタルモノト信ス

帝国ハ人類ノ幸福ヲ増進シ且ツ諸国民ノ財政的負担ヲ輕減  
スル為海軍軍備ノ全般的縮小ノ實現ニ対シ全幅ノ協力ヲ為  
サントスルノ決意ヲ有ス  
然レ共海軍力ノ相対性ニ鑑ミ日本ハ國ノ安全ヲ確保スルニ  
足ル海軍力即チ極東方面海洋ノ安寧ハ日本ノ最モ重キヲ置  
ク處ナルニ依リ同方面ニ於ケル其ノ国防ニ必要ナル勢力ヲ  
保持セントヲ欲ス  
日本全權ノ態度ハ右方針ニ基クモノニシテ概言スレハ左ノ  
如シ

#### 制限方式

総領數主義又ハ艦種別主義ノ適用ハ嚴ニ過クル時ハ關係各  
國間ノ協定ニ達スルニ適セサルヲ以テ日本全權ハ或ル艦種  
間ニ融通ヲ認メ以テ兩者ヲ調和スル方式ニ賛成ス  
主力艦

ルノ用意アリ

又華府条約ニ規定サレタル主力艦ノ艦型ヲ三万五千噸ヨリ  
二万五千噸ニ縮小スルタメ協定ノ成立センコトヲ希望ス  
備砲ノ最大口径ヲ十四吋ニ減シ艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年  
ニ延長セントヲ懇意ス

年トスヘシ

### 航空母艦

航空母艦ノ制限ニ関スル華盛頓条約ノ規定ハ一万噸以下ノ  
航空母艦ニモ拡張適用スルコトトシ艦齡ハ一万噸ヲ超ユル  
モノニ付テハ二十年ヲ二十六年ニ又一万噸以下ノモノハ二  
十年ニ延長スルコトトスヘシ

### 補助艦

日本全權ハ從来繰返シ述ヘタル通他關係國ノ保有ノ力ニ對  
シ適當ナル比例ノ海軍力ヲ保有スルコト必要ナリト考フル  
モノナリ從テ若シ關係國ニ於テ其ノ海軍力ヲ縮小スルニ於  
テハ日本モ亦右ニ比例シ減縮ヲ行フノ用意アリ

### (一) 巡洋艦、駆逐艦

日本ハ八吋砲巡洋艦ニ特ニ重キヲ置クヲ以テ他國ノ保有  
スル勢力ヲ考慮スルト共ニ其ノ国防ニ充分ナル最小限度  
ノ海軍力ヲ保有セン事ヲ欲ス

340 昭和5年2月12日 ロンドン軍縮會議全權より  
整原外務大臣宛(電報)

松平・リード両全權會議において軍縮について

別電 二月十二日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大  
本電ト同様転電セリ

其ノ噸数ニ付テハ日本ハ現有勢力ノ維持ヲ提議ス潜水艦  
ノ最大型ヲ制限シ又其ノ艦齡ヲ十三年ト定ムヘシ  
商船ニ対スル使用ヲ嚴重ニ律セムカ為他ノ諸國ト協力セ  
ムトスルモノナリ

### (二) 潜水艦

六吋砲巡洋艦ノ單艦最大噸数ハ七千噸又ハ七千五百噸ト  
シ又嚮導駆逐艦及駆逐艦ノ單艦最大噸数ハ適當ニ之ヲ制  
限スヘシ尚嚮導駆逐艦ノ隻数モ亦之ヲ制限スルコトヲ要  
ス艦齡ハ巡洋艦ニ付テハ二十年トシ駆逐艦ニ付テハ十六  
年トスヘシ

臣宛第一三四号

軍縮に関する日本試案

付記 軍縮に関する日本試案(英文)

ロンドン 2月12日後発  
本省 2月13日後着

### 第一三三号

二月十二日夕刻松平ハ「リード」ヲ往訪シ別電第一三四号

帝国試案ヲ手交シ実ハ貴方提案ハ腹蔵無ク云へハ帝国ノ到

底承諾シ得サル所ニシテ本案ハ米国案対案ノ形式ヲ採ラス

日本独自ノ立場ヨリ立案シタルモノナル事從テ米案記載ノ

事項中全ク触レサル部分モアル事及英米ハ均勢ノ立前ナル

ニ付日本案ニテハ態ト英國ニ対スル数字ノ記入ヲ控ヘタル

ニ論議スルコトモ可然又ハ場合ニ依リ望マシキニ於テハ自

分ト貴下(「リ」)トノ間ニ全ク非公式ニ種々談合スルコト

モ辞セスト申添エタル処「リ」ハ大イニ多トシ其ノ旨直ニ

「スチムソン」ニモ申伝ヘ置クヘシト申述ヘタリ尚本日モ

「リ」ハ往電第一一二号所報ノ如キ砲数、隻数、噸数等ニ

閥スル詳細ノ数字ヲ示シ米案ノ弁明ヲシタルニ付松平ハ

(甲) 代艦艦齡ハ将来旧艦ノ代艦トシテ建造セラルヘキ新

ス

第一三四号

海軍軍備制限ニ関スル帝国試案

### 一、 主力艦

(一) 一九三六年未前ニハ主力艦ヲ起工セサルコトトス

(二) 主力艦艦型備砲及艦齡等ニ関スル制限ノ協定ヲ遂クル

(イ) 艦型ハ二万五千噸迄備砲口径ハ十四吋迄ノ範囲内ト

ス

艦ニ対シテハ二十六年迄ノ範囲ニ於テ延長シ既成艦

ニ付テハ代換開始期代換期間ニ関連シテ之ヲ協定ス

(ハ)華府条約ニ規定セル現代換表ハ代換開始期ノ延期及

代換期間ノ伸長ニ伴ヒ改訂セラルヘキモノトス

(乙)華府条約ニ規定セラレタル隻数ハ変更セサルモノト

ス

### 一、航空母艦

(ア)華府条約ノ航空母艦ノ定義中ヨリ一万噸ノ制限ヲ削除

シテ此ノ種艦船ハ排水量ノ如何ニ拘ラス全部同条約ノ

航空母艦制限量中ニ含マシムルコトトス

### 二、艦齡

一万噸ヲ超ユルモノ 艦齡一十六年

一万噸以下ノモノ 艦齡二十年

### 三、補助艦

次ノ表ハ米国仮提案中ノ数字ヲ参照シ作成セリ

(ア)八吋砲巡洋艦米英共ニ十五隻ヲ保有スル場合

八吋砲巡洋艦

米 既製建造中及計画十五隻十五万噸

日 既製及建造中十二隻十万八千四百噸

八吋砲巡洋艦  
米 既成建造中及計画十八隻十八万噸

日 既成及建造中十二隻十万八千四百噸 新巡洋艦一一

隻一万七千六百噸

軽巡洋艦(六吋砲以下)

米 「オマハ」級十隻七万五百噸 新巡洋艦七万六千

五百噸

日 八万一千七百噸

計

米 三十一万七千噸 日 二十万七千七百噸

駆逐艦

米 十五万噸

日 十万五千噸

潜水艦

米 八万一千噸

日 七万七千九百噸

補助艦総計

米 五十五万八千噸

日 三十九万六百噸

軽巡洋艦(六吋砲以下)

米 「オマハ」級十隻七万五百噸 新巡洋艦十一万八千五百噸

日 現有軽巡ノ内十七隻八万一千四百五十五噸 新巡洋艦二万六千三百噸

計 米 三十三万九千噸 日 二十一万六千一百五十五噸

駆逐艦 米 十五万噸

日 十万五千噸

潜水艦 米 八万一千噸

日 七万七千九百噸

補助艦総計 米 五十七万噸

日 三十九万九千五百五十五噸

註 (イ)但シ米国カ潜水艦ヲ六万噸トスル時ハ駆逐艦ヲ

十七万一千噸トナスコトヲ得

(ア)補助艦ノ代換方法艦種制限等ハ後日協議セラル

四、五国会議招請ノ趣旨ニ鑑ミ数量ヲ協定スルニ当リテハ

五国全部ノ立場ニ関シ充分考慮打合セラル要ス

米 仏 伊ニ転電セリ

### (本記)

*Confidential.*

### JAPANESE PROPOSAL IN REGARD TO THE

#### LIMITATION OF NAVAL ARMAMENTS.

##### I. Capital Ships.

- 1) No capital ships shall be laid down before the end of 1936.

- 2) Agreement shall be reached as to the limitation of the type and gun calibre of capital ships.

- a) The maximum displacement to be not less than 25,000 tons and the maximum gun calibre not less than 14".

b) The replacement age to be extended to no

longer than 26 years in case of the new ships to be built in replacement of the old ships; agreement to be reached as to the time when replacement shall begin and the period in which replacement shall be completed in case of ships already existing.

c) The existing schedule for replacement shall be revised with a view to postponing by some years the time when replacement shall commence and further, to prolonging by some years the period in which replacement shall be completed.

d) There shall be no change in the numbers of vessels stipulated in the Washington Treaty.

(1) IN CASE BOTH AMERICA AND GREAT BRITAIN HOLD 15 8-inch GUN CRUISERS.

| TYPE OF VESSEL                            | AMERICA                                          | GREAT BRITAIN | JAPAN                                               |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------|
| 8-inch Gun Cruisers                       | Built, building and projected<br>15..... 150,000 |               | Built and building<br>12..... 108,400               |
| Light cruisers (6-inch gun or<br>smaller) | OMAHA Class<br>10..... 70,500                    |               | From among those now<br>possessed<br>17..... 81,455 |
| Submarines                                | New Cruisers<br>..... 118,500                    |               | New Cruisers<br>..... 26,300                        |
| AUXILIARY CRAFT TOTAL                     | 570,000                                          |               |                                                     |
| TOTAL                                     | 339,000                                          |               | 216,155                                             |
| Destroyers                                | 150,000                                          |               | 105,000                                             |
| Submarines                                | 81,000                                           |               | 77,900                                              |
| AUXILIARY CRAFT TOTAL                     | 570,000                                          |               | 399,055                                             |

N.B. (a) If the United States of America fix the amount of submarines at 60,000, her amount of destroyers may be changed to 171,000.

(b) The method of replacement of auxiliary craft, limitation of type, etc., shall be discussed later.

(2) IN CASE AMERICA (OR GREAT BRITAIN) HOLD 18 8-inch GUN CRUISERS.

| TYPE OF VESSEL                             | AMERICA                                          | GREAT BRITAIN                         | JAPAN                         |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|
| 8-inch Gun Cruisers.                       | Built, building and projected<br>18..... 180,000 | Built and building<br>12..... 108,400 | New Cruisers<br>2..... 17,600 |
| Light Cruisers (6-inch guns or<br>smaller) | OMAHA Class<br>10..... 70,500                    |                                       | 81,700                        |
|                                            | New Cruisers<br>..... 76,500                     |                                       |                               |
| TOTAL                                      | 327,000                                          |                                       | 207,700                       |
| Destroyers                                 | 150,000                                          |                                       | 105,000                       |
| Submarines                                 | 81,000                                           |                                       | 77,900                        |

II. Aircraft Carriers:

1) The 10,000 ton limit shall be deleted from the definition of the aircraft carriers in the Washington Treaty so as to include within the allocated tonnage all ships in that category irrespective of their displacements.

2) Age limit:

Ships of more than 10,000 tons ..... 26 years.

Ships of less than 10,000 tons..... 20 years.

III. Auxiliary Craft.

Taking into consideration the figures contained in the American tentative proposal, the following table has been prepared:

## AUXILIARY CRAFT TOTAL

558,000

390,600

N.B. (a) If the United States of America fix the amount of submarines at 60,000, her amount of destroyers may be changed to 171,000.

(b) The method of replacement of auxiliary craft, limitation of type, etc., shall be discussed later.

IV. In view of the spirit in which the Five Power Conference has been convened, it is considered essential that, in the final settlement of figures, the positions of all Powers concerned should be borne in mind.

341 昭和5年2月(13日)

在米国出灘大使<sup>ハムラ</sup>  
幣原外務大臣宛(電報)

「ハヤコル」ハ中立化関係の日米協定の構想<sup>シナリオ</sup>閣  
チ<sup>ハヤコル</sup>ハ中立化・タイムスの報道<sup>シナリオ</sup>ト

ワシントン

本省 2月13日前着

第五三号

軍縮新聞報

十日発紐育「タイムス」倫敦特電 (straight) <日米間ノ

巡洋艦問題解決ヲ援ケル為此ノ際比律賓中立化即チ米国ハ  
同島ヲ日本ニ対スル海軍作戦上根拠地トシテ使用セス同時

342 昭和5年2月13日

ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

米国全權<sup>シナリオ</sup>トハ「ハヤコル」ハ諸島の中立化を

ハヤコル

ロンドン 2月13日後発

本省 2月14日前着

第五五号

軍縮新聞報

十日発紐育「タイムス」倫敦特電 (straight) <日米間ノ

巡洋艦問題解決ヲ援ケル為此ノ際比律賓中立化即チ米国ハ  
同島ヲ日本ニ対スル海軍作戦上根拠地トシテ使用セス同時

ハヤコルノ口吻ヨリ察スルニ同國トシテハ米國側ヨリ本件ヲ提起スル場合ニハ之カ討議ニ応スヘキヤノ模様ナリ何ノ途本件ニ付テ先ツ以テ米國輿論カ如何ニ之ヲ受入ルルヤラ見ル必要アリト報シタリ

全權ハ転電ス

343 昭和5年2月13日

ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

米国全權<sup>シナリオ</sup>トハ「ハヤコル」ハ諸島の中立化を

ハヤコル

ロンドン 2月13日後発

本省 2月14日前着

第五三号

軍縮新聞報

十日発紐育「タイムス」倫敦特電 (straight) <日米間ノ

巡洋艦問題解決ヲ援ケル為此ノ際比律賓中立化即チ米国ハ  
同島ヲ日本ニ対スル海軍作戦上根拠地トシテ使用セス同時

ハヤコルノ口吻ヨリ察スルニ同國トシテハ米國側ヨリ本件ヲ提起スル場合ニハ之カ討議ニ応スヘキヤノ模様ナリ何ノ途本件ニ付テ先ツ以テ米國輿論カ如何ニ之ヲ受入ルルヤラ見ル必要アリト報シタリ

ハヤコルハ中立化・タイムスの報道<sup>シナリオ</sup>ト

ハヤコルハ中立化・タイムスの報道<sup>シナリオ</sup>ト

ハヤコルハ中立化・タイムスの報道<sup>シナリオ</sup>ト

ハヤコルハ中立化・タイムスの報道<sup>シナリオ</sup>ト

ハヤコルハ中立化・タイムスの報道<sup>シナリオ</sup>ト

4 会議の経過

343 昭和5年2月13日

ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛(電報)

ハヤコル

軍縮新聞報

十一日「ジャパンタイムス」ハ米国案ガ米国上院ニ対スル

顧慮等ニ出デタルヤノ弁明モ行ハレ居ル処強大ニシテ地理的位置モ良キ米国ノ安全ガ決シテ問題トナリ得ザルコトハ上院ニテモ知悉スル処ナルベク米国トシテハ日本ニ均等ヲ認ムルモ何等脅威ナキ筈ナリ況シヤ日本ガ六割ノ代リニ七割ヲ持チタリトテ之ガ脅威トナルトハ想像ダモナシ得ズ唯六割ト七割トニ依リ差ラ生ジ得ベキハ米国ガ日本近海ニ進攻シ来ル場合ニ日本ニ対シ五割以上ノ優越ヲ有スルヤ否ヤ即チ日本ヲ擊破シ得ルヤ否ヤノ点ノミナリト述ヘ

十三日大毎ハ潜水艦全廃論ヲ反駁シタル後若シ英米ノ論ガ日仏保有量引下ゲノ為ノ間接射撃ナリトスルモ日仏ガ之ニ応ジ得ザルハ明ナリト述べ報知モ全廃論ヲ反駁シテ潜水艦現有勢力維持ハ撤回スルヲ得ズト述ブ

又嘗テ七割無用論ヲナシタル鷺尾（往電第六号参照）ハ「アドヴァータイザー」ニテ大巡問題解決最善ノ策ハ米十八隻ニ対シ日本十二隻十二万噸ト定メ但シ当分ハ一万噸九隻トン之ニ古鷹級ヲ大巡トシテ算へ合計十三隻十一万八千噸トスルニ在ルベク又潜水艦ニ付テハ米国ハ日本トノ均等ニ反対スベキ合理的理由ナク噸数ニ付テハ日本ハ現有勢力ヲ主張シ居ルモ寿府會議ノ日英案ハ六万噸ナリキト述べ右二

リ

345

昭和5年2月14日 ロンドン軍縮會議全權より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 日本全權の態度に関する声明書への各紙の反響について

付記 ロンドン軍縮會議における日本全權の態度に関する声明書

ロンドン 2月14日後発  
本省 2月15日前着

十四日新聞情報

一、十三日夜發表我方声明書ノ反響ヲ見ルニ「タイムス」

ハ社説ニ於テ主力艦航空母艦ニ関スル提案力单ニ近似セ

ル事ヲ挙ケ大型巡洋艦ニ関スル（国防ニ充分ナル最小限度ノ海軍力）云々ノ句ヲ引用シテ是ハ英米トノ協議ノ結果ニ待ツヘキモノニシテ未タ纏ルニ至ラス此ノ争点ハ會議ノ難闘ノ一トシテ存シ居レリト論シ「テレグラフ」ハ

声明書ニハ何等事新ラシキ点ナキモ日本ハ依然補助艦殊ニ大巡ノ対米七割ヲ断乎トシテ要求スルモノト諒解スト言ヒ「ポーラー」ハ大巡七割要求ヲ明示セサルハ注目ニ値スルモ是ハ日本カ讓歩セルコトヲ意味セルモノニ非ス

点ニシテ解決セバ輕巡駆逐艦ノ七割問題ハ英米ニトリテ左シテ重大ナラザルベク寿府會議ニ於ケル試案ニテハ六割ヨリモ七割ニ近カリキ云々ト述ベタリ

尚十二日浜口總裁ハ最初ノ選挙演説ヲ東京ニテ為シ其中「軍縮ニ対スル政府ノ方針ハ各種ノ機会ニ言明セル處ニシテ我全權ハ目下銳意努力シ居リ國民ハ全權ノ絶大ナル努力ニ対シ満腔ノ謝意ヲ表スルト同時ニ會議ノ重大ナルニ鑑ミ最モ慎重ナル態度ヲ持スルヲ要ス然ルニ先般議会ノ公開ノ議場ニテ政友会ガ政府訓令ノ内容ニ付キ公然ノ言明ヲ要求スル態度ニ出デタルハ國家ノ為メ遺憾ナリ全權ニ十分手腕ヲ揮ハシメ會議ノ成功ヲ期スルニハ其際議場ニテ質問討論ヲナスヨリモ他ニ適當ノ時機方法アルベキヲ信ジタリ要ハ政党ヲ超越スル重大外交問題ニ対シ冷静ナルニ在リ」ト述べ犬養総裁ハ同日仙台ニ於ケル演説中「我對米七割要求ハ全權ノ明言セル處ナルヲ以テ余ハ右ガ我主張ノ最小限度ナルヤヲ質問セルモノニテ浜口氏ガ然リト云ヒサヘスレバ之レガ國民全般ノ力トナリ全權ノ後援トモナルベカリシニ之ヲ以テ余ガ攻撃スルモノト感違ヒシテ解散ヲ急ギ為メニ全權ノ立場ヲ苦シクシタルハ國家ノ為メ遺憾ナリ」ト述ベタ

定ラ取付クル心組ナラント述ヘタリ

(付記)

倫敦海軍會議ニ於ケル帝国全權ノ態度ニ関スル声明書

日本全權ハ倫敦海軍會議ハ恒久平和ノ確立ニ対スル人類一

般ノ切望ニ基キ招請セラレタルモノト信ス帝国ハ人類ノ幸

福ヲ増進シ且諸国民ノ財政的負担ヲ輕減スル為海軍軍備ノ

全般的縮少ノ実現ニ対シ全幅ノ協力ヲ為サントスルノ決意

ヲ有ス

然レ共海軍力ノ相対性ニ鑑ミ日本ハ國ノ安全ヲ確保スルニ

足ル海軍力即チ極東方面海洋ノ安寧ハ日本ノ最モ重ヲ置ク

所ナルニ依リ同方面ニ於ケル其ノ国防ニ必要ナル勢力ヲ保

持セムコトヲ欲ス日本全權ノ態度ハ右方針ニ基クモノニシ

テ概言スレハ左ノ如シ

制限方式

総噸数主義又ハ艦種別主義ノ適用ハ嚴ニ過クル時ハ關係各

國間ノ協定ニ達スルニ適セサルヲ以テ日本全權ハ或ル艦種

間ニ融通ヲ認メ以テ兩者ヲ調和スル方式ニ贊成ス

主力艦

日本全權ハ一九三〇六年迄主力艦ヲ起工セサルコトニ同意ス

ルノ用意アリ又華府條約ニ規定サレタル主力艦ノ艦型ヲ二  
万五千噸ヨリ一萬五千噸ニ縮少スルタメ協定ノ成立センハ  
トヲ希望ス備砲ノ最大口径ヲ十四吋ニ減シ艦齡ヲ一十年ヨ  
リ一十六年ニ延長センコトヲ懇願ス

航空母艦

航空母艦ノ制限ニ関スル華府條約ノ規定ハ一万噸以下ノ航  
空母艦ニモ拡張適用スルコトトシ艦齡ハ一万噸ヲ超ユルモ

ノ付テハ二十年ヲ一十六年ニ又一万噸以下ノモノハ一十

年ニ延長スルコトスベシ

補助艦

日本全權ハ從来繰返シ述ヘタル通り他關係國ノ保有力ニ對  
シ適當ナル比例ノ海軍力ヲ保有スルコト必要ナリト考フル

モノナリ

従テ若シ關係國ニ於テ其海軍力ヲ縮少スルニ於テハ日本モ

亦右ニ比例シ減縮ヲ行フノ用意アリ

〔巡洋艦、駆逐艦〕

日本ハ八時砲巡洋艦ニ特ニ重キヲ置クヲ以テ他國ノ保有

スル勢力ヲ考量スルト共ニ其ノ国防ニ充分ナル最少限度

ノ海軍力ヲ保有セムコトヲ欲ス

六時砲巡洋艦ノ単艦最大噸数ハ七千噸又ハ七千五百噸ル  
シ又嚮導駆逐艦及駆逐艦ノ単艦最大噸数ハ適當ニ之ヲ制  
限スベシ尚嚮導駆逐艦ノ隻數モ亦之ヲ制限スルコトヲ要  
ス艦齡ハ巡洋艦ニ付テハ二十年トシ駆逐艦ニ付テハ十六  
年トスベシ

(2)潜水艦

潜水艦ノ防禦的特性ト広ク散在スル多島ノ島嶼ヨリ成ル  
我国特殊ノ地理的事情ニ鑑ミ日本全權ハ此種艦艇ヲ保有  
スルノ必要ナルコトヲ確信ス尤モ日本ハ潜水艦ノ商船ヒ  
対スル使用ヲ敵重ニ律セムカ為他ノ諸國ト協力セムベ  
ルモノナリ其ノ噸数ニ付テハ日本ハ其ノ現有勢力ノ維持

ヲ提議ス潜水艦ノ最大型ヲ制限シ又其ノ艦齡ヲ十二年ト  
定ムくハ

(右英文)

Statement setting forth the attitude of the Japanese Delegation in the London Naval Conference.

It is the belief of the Japanese Delegation that the

London Naval Conference has been convened in response to the universal yearning of mankind for the

establishment of an enduring peace. Japan is determined to contribute her full share in bringing about an all-round reduction in the naval weapons of war to the end that human happiness may be increased and the financial burden of the peoples may be lightened.

In view, however, of the relativity of naval strengths against one another, Japan desires to maintain such force as will ensure safety and security of the nation—a force necessary for her national defence in the Far Eastern waters, whose tranquillity constitutes her primary concern.

The attitude of the Japanese Delegation, predicated upon these considerations, may be outlined as follows:

*Method of Limitation.*

Too strict an application of either of the principles of global tonnage or of division into categories would not be suitable for arriving at an agreement among the Powers concerned. The Japanese Delegation is in favour of a formula which would harmonise the two

extremes, allowing transfers in certain categories.

#### *Capital Ships.*

The Japanese Delegation is ready to agree not to lay down any capital ships until 1936.

It also deems it desirable that an agreement should be reached so as to reduce the size of capital ships to 25,000 tons from 35,000 tons stipulated in the Washington Treaty. The maximum gun calibre should be reduced to 14 inches. Japan advocates the lengthening of the age limit from 20 to 26 years.

#### *Aircraft Carriers.*

The provisions for the limitation of aircraft carriers in the Washington Treaty should be extended to those of less than 10,000 tons. The age limit for aircraft carriers of more than 10,000 tons should be lengthened from 20 to 26 years and for those of lesser types shall be set at 20 years.

#### *Auxiliary Craft.*

The Japanese Delegation considers it necessary to

hold, as has been repeatedly intimated, a strength in adequate proportion to that of the other Powers concerned.

If, therefore, those Powers will see their way to reducing their strength, Japan is prepared to effect reduction to a proportionate degree.

#### (1) *Cruisers, Destroyers.*

Japan attaches special importance to 8-inch gun cruisers, and desires to maintain a minimum strength sufficient for national defence, taking into consideration the strengths held by other Powers.

The Maximum individual tonnage for 6-inch gun cruisers should be 7,000 or 7,500 tons, and that for flotilla leaders and destroyers be adequately limited. It is necessary that the number of flotilla leaders be also limited. The age limit for cruisers should be set at 20 years and that for destroyers at 16 years.

#### (2) *Submarines.*

In view of the character of submarines, eminently adapted to defensive uses, and in view of peculiar

geographical condition of Japan, consisting of many widely scattered islands, the Japanese Delegation is convinced of the necessity to retain this category of warcraft.

At the same time, Japan is willing to co-operate with the other Powers to regulate strictly the use of submarines against merchant marine.

As to the tonnage, Japan proposes to maintain her existing strength. The maximum size of submarines shall be limited and their age limit set at 13 years.

~~~~~

346 昭和5年2月14日 藩原外務大臣より
　　ヒノヘ軍縮会議全権宛（電報）

　　潜水艦問題に關する本國艦隊代理大使との取

　　締立の件

　　本省 2月14日発

経過
第五六号

4 会议の結果
　　十一日在京仏国代理大使本大臣より來訪し潜水艦問題に關する英米側と仏国との主張と甚だシク相違し而リ倫敦会議ノ前途ハ極メテ多難ナルヤニ既受ケハルル處同問題ニ關シテ

　　ヒノ日本及仏国ノ主張相似タル所多キリ付テハ田仏提携シト回問題ニ対スルコト最必要ナリト思考セラルト迄くタヘル本大臣ハ外洋ニ出動スルコトカ特性トスル巡洋艦ト異リ潜水艦ハ防禦ヲ特性ムベニヤハナルカ故ニ比率ヲ離ノ自國所要量ヲ要求ヤンレバサハリシテ且チ潜水艦ニ付テハ田仏ハ主張ハ相通スル所多キロ認ム英米側ノ潜水艦全廢罷ハ根拠ハ人道的見地ニ出ツルモノナル處潜水艦ノ商船攻撃ニ關シト既リ華府会議ニ於テ協定成立シ居リ若シ右協定ヲ不充分ナラニテ認ムルニ於テハ改メテ一層厳格ナル協定ヲ取締ハシムベシト同ナルベク或ハ潜水艦ニ依ル商船ハ臨検搜索ヲ一切禁止スルコトスルモ差支ナカルベシ右ハ固ヨリ本大臣（已）ハ私見ニテ帝国政府ノ意見トシテ決定ヤルヤハニトラサルカ何ソニスルキ商船攻撃ニ關スル問題ハ何等カノ方法ヲ以テ協調ニ達スルコト不可能ニトバスト信ス又英米側ニテハ潜水艦存置反対論ノ理由トシテ潜水艦カ必スシヤ防禦的兵器ニアラス寧ロ攻撃ニ使用セラルルコト多キロ及航空機ノ發達ニ伴ヒ潜水艦ノ効用著シク減少セルコト等ヲ挙ケ居ルヤ攻撃ニ使用セラルルコトトリルノ故ヲ以テ潜水艦ノ廃止ヲ主張スベキヤノトヤハ巡洋艦等

ノ如ク一層攻撃的ナル兵器ハ全部之ヲ廢止スルコトヲ要スト

ト謂ハサルヘカラス又潜水艦ハ有力ナル兵器ニアラストノコトナレハ之カ保有ヲ認ムルモ何等差支ナキ理ニテ何レモ

有力ナル議論トハ認メ難ク從ツテ自分ハ潜水艦ニ関シ會議ニ於テ満足ナル協定ニ達スルコト不可能ニアラスト思考ス

ト答ヘタル処仏代理大使ハ潜水艦ノ商船臨検搜索禁止ニ関シテハ仏国政府ハ異ナル見解ヲ有スト思考スル旨ヲ述ヘタリ更ニ同代理大使ハ軍縮全般ノ問題ニ関連シ仏国ハ此際既ニ連盟軍縮準備委員会ニ於テ決定シタルモノハ之ヲ尊重ストノ保証ヲ英國ヨリ取り付ケ置キ度キ意向ナル旨ヲ述ヘ帝國政府ノ所見ヲ質シタルニ付本大臣ハ海軍問題ハ準備委員会ニ於ケル一般軍縮問題ト離レ別個ニ協定シ得ヘキモノト考フル次第ナルカ準備委員会ノ決定ハ倫敦會議ニ於テ成立スヘキ協定ニ依リ prejudice セラルヘキモノニアラサルコト勿論ノ義ナリ然カレトモ準備委員会ノ決定事項ニ対スル同意ヲ倫敦會議協定ノ条件トスルカ如キコトハ帝國政府トシテ賛同シ難キ所ナル旨答ヘ置キタリ

347 昭和5年2月15日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
ト考フル次第ナルカ準備委員会ノ決定ハ倫敦會議ニ於テ成立スヘキ協定ニ依リ prejudice セラルヘキモノニアラサルコト勿論ノ義ナリ然カレトモ準備委員会ノ決定事項ニ対スル同意ヲ倫敦會議協定ノ条件トスルカ如キコトハ帝國政府トシテ賛同シ難キ所ナル旨答ヘ置キタリ

考フル次第ナルカ準備委員会ノ決定ハ倫敦會議ニ於テ成立スヘキ協定ニ依リ prejudice セラルヘキモノニアラサルコト勿論ノ義ナリ然カレトモ準備委員会ノ決定事項ニ対スル同意ヲ倫敦會議協定ノ条件トスルカ如キコトハ帝國政府トシテ賛同シ難キ所ナル旨答ヘ置キタリ

安保、樺山、リード会談において米国試案に

対する我が主張開陳について

ロンドン 2月15日後発

本省 2月16日前着

第一四五号

米国仮案ニ関スル先方起案ノ趣旨ニ付テハ往電第一二二一号松平「リード」会談中ニモアル通りニテ此ノ際我方トシテハ帝國主張ノ理由ヲ繰返シ説明スルニ止マラス先方ノ兵力調査比較上ノ謬見ヲ充分説破シ置クヲ必要ト認メ安保ヲ申テ「リード」ニ説明セシムヘキコトヲ「スチムソン」ニ申入レ置キ十三日安保、樺山「リード」ト会談シタリ其ノ要点左ノ如シ

一、安保ハ金剛級一隻ト「フロリダ」級三隻トハ砲力射距離力ニ於テ格段ノ差アリ極言スレハ第一線ニ立チ得サル旧式戦艦二隻ノ代リニ第一線ニ立チ且航空母艦大巡等ニ対シテモ大ナル威力ヲ有スル高速力主力艦一隻ヲ條約規定ノ時期ニ先立チ廢棄スルコトトナリ日本側ニ不利大ナリト仔細ニ説明セル処「リ」ハ日本ノ理由ノアル処初メテ諒解セリ充分研究スヘキモ米国ハ元来英國ニ対シ真ノ

著シク接近スル困難アリト云ヘルニ対シ安保ハ砲数隻数ノミニテ勢力ニ格ヲナスハ謂レナク噸数ヲ以テスヘキモノナリト強調シ置ケリ

五、右ノ外駆逐艦潜水艦艦型等ニ触レ意見ヲ交換セリ
米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

348 昭和5年2月15日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

補助艦対米七割要求問題に関するキャップスル

米国大使との会談について

付記 四月二十六日在本邦米国大使より幣原外務大臣宛の覚書

日本の補助艦対米七割要求に関する二月十四日の会談に關連する問題について

本省 2月15日後6時30分発

第六〇号 極秘

十四日在本邦米国大使本大臣ヲ來訪別ニ本国政府ノ訓令ニ

依ル訳ニアラス只雑談ノ為來訪セル次第ナリト冒頭シ倫敦

會議ノ進行状態ハ自分モ甚々不満ニ感シ居レリ軍縮問題ニ

付米国ノ輿論乃至政府当局ノ最モ念頭ニ在ルコトハ英國ト

ノ均勢問題ニシテ日本トノ問題ハ寧ロ「セコンダリー、イ

四、「リ」ハ今回ノ米案ト日案ニ基キ隻数噸數砲数ノ各方面ヨリセル勢力比較表ヲ示シ米案ニ依ルモ日本ノ考ヘル如ク日本ニ不利ナラス又日案ニ依レハ日本ノ勢力ハ英ニスモノ相当ニアリト述ヘタリ

三、八時巡洋艦問題ニ関シ「リ」ハ八時巡洋艦ト六時巡洋艦トノ価値ニ付テハ各国將官ノ意見区区ニシテ米国將官中ニモ八時巡洋艦ハ防禦力充分ナラス六時砲弾ニ依リ相當ノ損害ヲ与ヘ得ヘク八時巡洋艦ハ外見程有効ナルモノニ非ス六時砲艦多数ヲ有スル方却テ有効ナリトノ説ヲナスモノ相当ニアリト述ヘタリ

四、「リ」ハ今回ノ米案ト日案ニ基キ隻数噸數砲数ノ各方面ヨリセル勢力比較表ヲ示シ米案ニ依ルモ日本ノ考ヘル如ク日本ニ不利ナラス又日案ニ依レハ日本ノ勢力ハ英ニ

ンポーランス」ヲ有スルニ過キス然レトモ米国ノ輿論中ニハ日本カ六割以上ノ比率ヲ有スル時ハ比島ヲ攻略スル危険アリ七割要求ハ此用意ニ出テタルモノナリトナスマノアリ斯クノ如キハ素ヨリ馬鹿氣タル議論ナルモ實際ニハ斯カル疑念カ米国公衆ノ胸中ニ現存スル次第ナルヲ以テ自分ハ日本カ専門的見地ヨリ七割ヲ必要トスル理由ヲ「スチムソン」又ハ其ノ他米国全權ニ「コンヴィンス」セシムル様セラレテハ如何カト思考ス尤モ米国ノ対英均勢ト云フモ之ヲ専門的ニ理由付クルコトハ不可能ナルト均シク日本ノ七割要求ヲ専門的ニ説明スルコトモ不可能ナルヤモ知レスト述ヘタルニ付本大臣ハ七割要求ノ専門的理由ヲ討議スルトキハ自然日米戦争ヲ仮想シテノ論議ニ亘リ會議ヲ小戦場化スルコトナル危險アリト思考スト答ヘタル処米大使ハ右ハ會議ニ於テ討議セラレテハ如何トノ趣旨ニ非ス只日本全權ヨリ米国全權ニ対シ可然話合ハレテハ如何トノ意ナリト述ヘタルニ依リ本大臣ハ何レニスルモ實際ノ結果ハ大差ナカルヘキヲ恐ル貴大使トノ間故自由率直ニ申上クレハ我軍人ハ日本カ七割以下ナル場合米国カ日本ヲ攻撃セハ日本ハ絶対ニ勝算ナシ七割ナレハ日本カ米国ヲ攻撃スルコトハ固ヨ

ト問ヘルニ付本大臣ハ「ロカルノ」條約ハ或意味ヨリ云ヘハ同盟条約ナルカ嘗テ四國条約ニ付キテスラ米国上院ニ於テ議論沸騰シタルコトアルニ鑑ミ自分ハ米国ニ於テハ斯カル条約ヲ締結セラルル可能性全然無之モノト考ヘ居リ從テ此種条約ノ締結方ニ付未タ曾テ考慮シタルコトナシト答ヘタリ米大使ハ自分ノ見ル所モ同様ナルカ若シ日米間ニ一切ノ問題ヲ仲裁裁判ニ付スル協定成立ストセハ上院ノ協賛ヲ得ルコト必シモ不可能ニ非ルヘキカト思考スト述ヘタルニ付本大臣ハ横浜家屋税問題ノ例ヲ引用シ仲裁裁判ノ問題ニ関シテハ日本ニ於テ歴史的困難アル旨ヲ縷述シ老政治家ハ今尚仲裁裁判ニ信ヲ置カサルニ付自分ハ余程用心ヲ以テ此問題ヲ取扱ハサルヘカラサル立場ニアルコトヲ了解セラレ度シト答ヘタル処米大使モ亦最近ニ於ケル自國ノ例ヲ挙ケテ同感ノ意ヲ表セリ本大臣ハ更ニ米大使ノ辞去スルニ際シ淡白ニ云ヘハ過日「スチムソン」カ米国ノ主張ヲ公表シタルコトハ甚タ不幸ナリト思考ス蓋シ右公表中ニハ日本ニ関スル部分ハ曖昧トナリ居レルモ日本新聞記者ハ極力其ノ内容ヲ探知セントスルヲ以テ其ノ間何レカノ方面ヨリ多少内容漏洩スルコトアルベク之ニ想像加ハリ新聞紙上両国ノ

リ不可能ナルモ米国ヨリ攻撃セラレタル場合日本ハ多少ノ「チャанс」アリトノ印象ヲ有シ居リ從ツテ政府トンテハ絶対ニ勝算ナクトモ可ナリト云フカ如キコトヲ提唱シ得ヘキモノニ非ス海軍ヲ何等勝算ナキ情態ニ陥ルコトハ軍人ノ士氣ヲ低下セシムルニ至ルヘク此程憂慮スヘキ事態ハナシ次ニ専門的見地ヲ離レテ考フルモ日本ノ公衆ハ何故ニ米国カ我七割要求ニ反対スルヤニ付其ノ理由ヲ解セス又米国カ日本ノ比島攻略ヲ恐ルルヲ馬鹿馬鹿シキ杞憂ナリトシ仮令日本カ比島ヲ軍事的ニ占領シ得ヘシトスルモ右ハ僅ニ日本米大使ハ夫レハ貴説ノ通ナルカ兎ニ角米国ノ公衆ハ右ノ如キ夫レ程真ニ憂慮スルヤニ付其ノ杞憂ナルコトヲ確信セシムル何等カノ方法ナカルヘキヤト尋ネタリ依ツテ本大臣ハ貴方ニ於テ何等カノ御意見ニテモアル次第ナリヤト反問セル處米大使ハ直接之ニ答フルコトヲナサス嘗テ「クローデル」大使カ米国側ニ於テ太平洋「ロカルノ」條約ヲ締結スル意ナキヤト云ヒタルコトアリシカ右ニ対スル御意見如何

(編注) (尚右)会談中米大使ハ極秘トシテ自分カ日本ニ向ケ出発ノ数日前米国全權内部ノ協議会席上一米国全權ハ若シ米国カ大艦隊ヲ日本近海ニ送リ飛行機ヲ放チ爆弾ヲ投下シ東京市ヲ焼キ拵フコト可能ナルヘキヤト問ヒタル処其ノ場ニ居合ハシタル「プラット」外一名ノ専門家ハ専門的見地ヨリ全然不可能ナリ日本ノ海軍ハ米国艦隊カ日本近海ニ近ヅクコトヲ不可能ナラシムル実力ヲ有スルコト一点ノ疑ヲ容レストノ一致セル意見ヲ述ヘタリト付言セリ御参考迄)

米ニ転電シ仏伊ヘ暗送セラレ度シ

(編注) 本電報の最後の（）内は発電に際し削除された。

(付記) MEMORANDUM OF CONVERSATION

The representative of a Japanese newspaper called on me and said there was a story going around that during the conversations of the American delegation previous to the London Conference Admiral Pratt had

stated that the United States could not permit Japan to have 70% in auxiliary craft because with this ratio it

would be impossible for the American fleet to bombard Tokyo from the air. He said that this story came from a very reliable source and that it had made a deep impression. He also said it was reported that I had used this argument with Baron Shidohara as a reason why Japan should not have 70%.

As to this last statement I said that I had no collection of ever discussing aircraft with the Minister for Foreign Affairs and that if he thought I would use any such argument he must have a very low opinion of my intelligence. As he insisted, however, that at least this statement about the bombardment was correct, I told him that since a totally incorrect version of what was said had got out, probably by people who wished to make trouble, there seemed nothing for me to do but tell the truth. I told him that these meetings of the American delegation were entirely informal and con-

the cruising radius of planes was not sufficient, that the enemy planes would always report a fleet approaching its shores and that any number of planes sent forward by a fleet would never be able to cope with the far greater number which could be sent from the shore. Thus the only mention of the bombardment of Tokyo by planes from a fleet was instantly dismissed as something technically impossible. There was not at that time or at any other any discussion of the use of aeroplanes in connection with talk of ratios. The defence against an aeroplane attack would be from the land, not from an enemy fleet. This, I assured him, was the exact truth as to what was said and it proved his story entirely and absolutely false. I have no idea how any one knows the subject was mentioned at all. I can think of no reason why it should have been distorted to say the exact opposite of what actually happened unless it was told by someone willing to prevent an agreement by telling an outrageous lie.

fidential, that no minutes were taken but that I happened to remember exactly what occurred. The night before the meeting I had been talking with a member of the American delegation who happened to be enthusiastic about aviation and he had discussed the possibilities of an air attack for a fleet two or three hundred miles from an enemy shore. It was because of this discussion that I remembered so well what was said on the subject the next day. The Delegation was discussing with Admirals Pratt and Jones the proper composition of a fleet, including aircraft carriers. The member with whom I had talked the night before put the question directly to one of the Admirals, I think Pratt, as to whether it would not be possible for a fleet a long way out of sight of land to send forward a squadron of planes to drop bombs on an enemy city—I think he said “Tokyo, for example”—which planes could then return to the fleet. The Admiral’s answer was instantaneous and categorical. He said that it could not be done, that

planes to drop bombs on an enemy city—I think he said “Tokyo, for example”—which planes could then return to the fleet. The Admiral’s answer was instantaneous and categorical. He said that it could not be done, that

349 昭和5年2月17日 案原外務大臣より
ムハドノ軍縮会議全權宛 (電報)

我が邦力艦船ハハトハ參照機密の九隻ニ減
少シ諸方ニハシテ

本稿 2月17日後5時15分発

第1回

主力艦問題ハ闇カ我現有十隻ヲ華府条約協定隻數九隻ニ減
スルハニベカラ御裁量ハ依リ応諾セハシ前段ナシ謂今左
記主力艦ハ闇ベル項ハ此点ハ付繪明瞭ハ欠クハ付右度シ
圖報ハ
近專門事項ハ闇ベル意見ハ海軍次官ニハ海軍首席隨員宛電
報軍縮官房機密第四五番1ハ付御承知アリ度シ

350 昭和5年2月17日 ハシメ軍縮会議全權より
案原外務大臣宛 (電報)

日本米金權外續ハ諸士ハ日本試験試験の結果
レハシテ

ハシメ軍縮会議全權より
本稿 2月17日後着

十七日「セントゼイムス、ペレイス」ニ於テ日本英國米国全権内協議（米国側ノ発意ニ依ルモノト了解ス）開催、日、若槻、財部、松平英、「マ」「ヘンダーソン」「アレキサンダー」米、「スチムソン」「リード」「ロビンソン」出席ス

先ツ「ス」ハ日本案ニ対スル米側所見ヲ「リ」ヨリ申述フヘシト言ヒ

(+) 主力艦ニ付テハ英米側ハ一九三六年迄製艦休日ヲ提唱シ日ハ一九三五年末ト言ヒ大体意見合致セルヲ喜フ但米案タル一五一一五十九実現ノ為戦艦ヲ廃棄スル点ニ付テハ言及セラレ居ラス右ニ関シテハ先日安保大将トノ会談ノ際（往電第一四五号）日本側ニテハ金剛廃棄ヲ好マレサル様承知セルカ米トシテハ金剛ニ限ラス何レカノ一隻ヲ廃棄スレハ足レリト考ヘ居レリ尚米ハ右廃棄ト製艦休日トハ不可分ニシテ一ヲ捨テ他ノミヲ取ルヘカラスト考ヘ居ルモノナルコトヲ御諒解願度シ加之戦艦ニ関スル是等華府条約ノ改変ハ補助艦制限ト又不可分ニシテ其ノ一方ヲ節約シ得タル資金ヲ以テ他方ノ充実ニ當テルカ如キハ当ヲ得タルモノニ非スト思考ス

論ヲ招クトキハ徒ニ事ヲ紛糾セシムル虞アリ

「リ」(+)之ヨリ航空母艦ニ移ルヘキカ大体ニ於テ日英米ニ意見合致シ華府条約ノ欠点ヲ補ヒ得ヘキカ如キハ欣快ニ存ス

「若」此ノ問題ニ付テハ日本ハ最モ多ク犠牲ヲ払フ訳ナルモ競争防止ノ精神ヨリ我方ハ進ンテ此ノ案ノ提出ヲナシタルナリ

「リ」艦齡ニ関スル件ハ追テ専門家ノ意見ヲ徵スヘシ

「若」日本対案現在ノ保有量ヲ維持センコトヲ希望ス本艦種ノ制限ハ单艦一万噸以下ヲモ制限ニ入ルルコトニテ実現致シタシ

「リ」(+)補助艦ニ関スル日案ヲ検スルニ米カ大型二十一隻

ノ主張ヲ低下シテ十八隻トナシタルニ拘ハラス何等之ニ対応スル低下ヲ考ヘラレサリシカ如キニ失望セリ日カ新艦二隻ヲ建造セソコトヲ提倡セラルルハ増勢ヲ意味スルモノト考ヘサルヲ得ス英側ニ於テ斯ル日本ノ増勢ニ依リ其ノ兵力調節ニ非常ナル困難ヲ感シ居ルモノト想像セサルヲ得ス八吋砲ノ数ヨリ見レハ日本ハ英ノ十割以上ヲ有スルコトトナルヘシ

「ス」米ノ立場ハ華府条約ニ依リ不完全ナリシ補助艦ニ付此ノ際制限ヲ約定スルヲ重要視スルニ在リ

「若」戦艦ノ制限ニ止マラス華府条約ニ規定ナキ艦種ニ付テモ競争ヲ避クヘキハ我方ニ於テモ全ク同感ナリ但シ戦艦廃棄案ニ付テハ日本ハ同条約ノ根柢ヲ動カサアルヲ緊要トスル見地ヨリ容易ニ同意シ難シ右条約ハ関係国間ニ於ケル勢力ノ釣合ヲ充分ニ考慮シテ年々ノ代換表ヲ作成シ居ルモノナルヲ以テ之ヲ其ノ儘維持スルコト最至当ナリト思考ス主力艦ニ於ケル経費ノ節約ハ艦型縮少艦齡延長ヲ以テ之ヲ計ルコト然ルヘシ尚米ハ廃棄ト休日トヲ相関不可分トセラルカ其ノ理由如何

「リ」(右「若」)ノ問ニ答ヘルコトナク) 廃棄案ハ英米ニ於テ最モ多キ犠牲ヲナントスルモノナルノミナラス英ノ「タイガー」ノ如キハ大体金剛ト同艦種ノミナラス速力ニ於テ之ニ優サレリ

「若」日本ハ華府条約ヲ忠実ニ遵守センコトヲ欲スルモノニシテ右精神ヨリ規定ノ釣合ヲ維持シ代換ノ際艦型ヲ縮少スルコト及休日ノ設定ヲ以テ縮限ノ実ヲ挙ケンコトヲ考ヘ居ルモノニシテ今日之カ廃棄ヲ企テ单艦勢力ノ比較

「若」今回会議ノ当初伊国側ヨリ一般問題トシテ比率問題ヲ提起シタル際日カ之ニ賛意ヲ表セサリンハ御記憶ノ通ナルカ右ハ方式ノ問題ヲ論スル際ニハ必スシモ比率ヲ定ムルニ及ハストシタルモノニシテ現実ニ数字ヲ論スル際ニ之ヲ定ムレハ可ナリト考ヘタルニ依ルモノナリ数字ノ討議ニ当リテハ比例ヲ考量ノ基礎トナスヘキハ海軍力ノ相対性ニ鑑ミ曰ムヲ得サル所ナリ日米間ニ戦争アルヘキコトハ吾人ノ全然想像タモセサル所ナルモ太平洋ニ於テ大海軍力ヲ有スルモノハ日本ト米国ナルヲ以テ日本側ニ於テ其ノ海軍力ヲ定メンカ為ニハ勢ヒ米国トノ釣合ヲ考量セサルヲ得ス若シ不戦条約ヲ出発点トセハ忌憚ナク云ヘハ平等ヲ主張シ得ヘキカト考ヘルモ日本ハ唯退イテ守ルニ足ルノ勢力ニテ甘ンセントスルモノニテ専門技術上ノ研究及過去実戦上ノ経験ニ照シ七割丈ハ必ス之ヲ有セサル可カラストナスモノナリ嘗テ英ハ独逸ノ海軍力ニ六割ノ優勢ヲ期シタル歴史アリ一〇、一〇、六ノ比率ニテハ六割保有スルコトハ実力ニ於テ六割七分ノ劣勢ニ立ツコトトナリ斯ノ如キハ退イテ守ルニモ足ラサルモノトシテ日本国民ハ不安ノ感ヲ懷クニ至ルヘシ米カ大型ニ於テ一

五、一八若クハ二一隻ヲ保有スルニ当リ之カ七割ヲ保有スル為ニハ軽巡及駆逐艦ニテ之カ調節ヲナス覚悟ナルヲ以テ二一隻カ一八隻ニ減シタルニモセヨ總体ノ比率ニ関係ナシ日本ハ條約ニ比率ノ明記ヲ主張セサルモ實際数字ノ決定ニ際シ考量スルノ已ムヲ得サルコトヲ諒得セラレタシ

尚砲ノ數ニ付テハ華府条約ニ於テハ全然考量セス之ニ加フルニ最近八時砲九門ノ艦出現シタル所ナルカ其ノ勢力カ八時砲十門ヲ有スル旧艦ヨリモ劣勢ナリトハ受取り難ク速力居住性装甲等ノ点ヨリ備砲一門ヲ減スルモ全体ノ勢ハ増加スルモノトシテ計画セラレタルモノト考ヘサルヘカラス日本ハ華府會議當時ニ於テ申述ヘシ如ク砲ノ數ニ拠ラス噸数ヲ以テ比較ノ基準トスルコトヲ正当ト考ヘルモノナリ

「マ」日本全權ハ英國ノ立場ニ立チテ考量ヲ廻ラサレンコトヲ希望ス若櫻全權ハ太平洋ニハ二大海軍国アリト述ヘラレタルモ尚南方ニモ我豪州「ニュージーランド」等アリ我八時型一五隻中二隻ハ南太平洋ニ五隻ハ支那方面ニ振当テサルヲ得スト考ヘ居ル処若シ日本ニシテ御主張ノルヲ得サル次第ナリ

予ハ数々日本カ極東ニ於ケル「スタビライジング、フォース」ナルコトヲ公言シ居リ日本ノ存在ハ此ノ意味ニ於テ米国ニトリテモ利益ナリト考ヘ居レルモノナルヲ以テ華府會議以来増進セラレタル親善関係ニ顧ミルモ米案ヲ顧ミラレサリシコトニ付「リード」氏同様大ナル失望ヲ感セサルヲ得ス日本カ米国ニ対シ九年前協定セル比率ノ変更方ヲ提案セラルハ米国民ノ心裡ニ頗ル悪影響ヲ与フヘキコトヲ虞ルモノナリ吾人ハ日本側ノ海軍ノ都合ヲ考慮シ海軍専門家ノ意見ニ反シ大型巡洋艦ヲ二十一隻ヨリ十八ニ減少方ヲ断行セル次第ニシテ日本側ニ於テモ同様ノ犠牲ヲ払ハレサルニ於テハ米国民ハ理解ニ苦シム（此ノ時「マ」ハ参内ノ為退席ス）

「若」緑返シ申上ケルコトトナルヘキモ米国側カ大型ヲ二

比率ヲ保有セラルルニ於テハ英ハ一五隻全部ヲ東洋ニ振向クルノ外ナク而カモ日本ハ砲百十二門ヲ有シ英ハ百四門ヲ有スルノミトナリ到底我太平洋方面ニ於ケル人心ノ安カナルヲ得サルヘシ

「若」日英ヲ比較スル時ハ數ニ於テ接近スルモ日本ハ時代遅レノ四隻ヲ有シ又軽巡ニ於テ著シク劣勢ナリ此ノ点ハ充分ニ御考慮ヲ仰キ度シ

尚英米カ八時ニ於テ同勢力ヲ保有セラルレハ事容易ナルモ其ノ間相異アルコト難問ヲ招ク原因ナリ日本ハ決シテ英米ニ対抗スルカ如キ意見ヲ有スルモノニ非ス

「ス」二ヶ月前華府ニテ申上ケタルコトハ其ノ後ノ事実ニ依リ益々確トナレリ米国ハ華府會議ニ於テモ亦其ノ後ニ於テモ日本ノ主張ニ副フコトニ常ニ努力シ来レリ華府會議ニ於テハ米国ハ日本ニ対シ太平洋上ノ保障ヲ提供シテ日本ノ国防上ノ必要ニ満足ヲ与ヘタリ即チ一ハ比率ヲ五、五、三トシ日本カ其ノ近海ニ於テ防禦ヲ全ウシ得ルニ充分ナラシメニハ防備ノ現状維持ヲ約シテ日本ニ安心ヲ与ヘタルコト之ナリ今ヤ吾人ハ更ニ一步ヲ進メ日本側ノ主張ニ副フ為メ其ノ提案中ニ於テ大型巡洋艦ニ関シ其

十一隻ヨリ十八隻又ハ十五隻ニ減少セラルモ日本ハ之ニ比例シテ其ノ噸数ヲ定ムルヲ以テ米国カ二十一隻ヲ有スル場合ハ日本ハ小型ヲ減少シ米国カ十五隻ヲ有スル場合ハ日本ハ小型ヲ増加シ結局総括的ニハ日本ノ保有量ハ大ナル差異アルコトナシ

本日ハ卒直ニ御話スル次第ニ付多少極端ニ亘ルヤモ知レサル次第日本ニ於テハ米国カ寿府ニ於テハ水上補助艦総噸数四十五万噸ヲ主張セラレタルニ今回ハ四十七万七千噸ヲ主張セラルルヲ怪シムモノサヘアリ日本トシテハ米国カ總噸数ヲ更ニ減少セラルレハ何時ニテモ之ニ応シ減少スルノ用意アルコトヲ明カニシ置キタシ

主力艦比率問題ニ関シテハ日本ハ只今ノ御話トハ全ク異ナリタル考ヲ有スルモノニシテ日本ハ既ニ華府會議ノ際ニ於テモ国防上七割ヲ必要ト考ヘ居タルモ唯會議ヲ纏ムル必要上且防備現状維持ノ約定成立ニモ鑑ミ主力艦ニ限リ六割ヲ承認シタル次第ナルカ國民ハ右ニ付頗ル不満ノ意ヲ表セリ日本ノ七割要求ハ國民ノ信念ニシテ予ノ私見ニアラス故ニ之ヲ無視シテ七割以下ノ條約ニ署名シ得サル予ノ困難ナル立場モ亦充分御諒察ヲ請フ

「リ」米国ニ於テハ日米間相互ニ攻撃スルカ如キ場合ヲ全
ク想像シ得ス一定ノ海軍力ヲ有スル日本カ極東ニ於ケル
平和ノ保護者タル事米國カ西半球ニ於ケルト同一ナル事
充分了解シ居レリ米海軍ハ大西洋「カリビアン」海等各
所ニ膠着ヲ余儀ナクセラル部分ヲ包含スルヲ以テ米国民
ハ日本カ此ノ際比率ノ増加ヲ要求セラル動機ヲ理解ス
ルニ苦ム可シ日本提案実行ノ場合ハ米側カ廢棄ヲ要求ス
サエ為シ得ル理由ハ到底国民ニ説明シ得サル可ク斯カル
案ヲ基礎トスル約定ニ署名スルモ上院ノ批准ヲ得ル望ミ
絶無ナリ

「若」日本案採用ノ場合ニモ日本側ハ輕巡駆逐艦ニ於テ廃

棄ノ要アル事ハ御留意願ヒタシ尚「リ」ノ卒直ナル所言

ニハ謝意ヲ表スルモノナルカ此種ノ談合ニテハ虛心坦懐

ノ必要ヲ信スルヲ以テ我方ヨリモ最モ卒直ニ申上ケンカ

日本國民ハ日本ハ七割ノ兵力ニテハ米國ヲ攻擊シ得サル

事明白ナルニ反シ真ノ假定ナルカ米國ハ理論上日本ヲ攻

擊シ得ヘク從テ米カ七割ヲ拒ミ六割ヲ主張スルハ其ノ場

合攻擊ニ便ナラシメムトスルカ為ニ外ナラストノ結論ニ

之ニ從事スル場合ハ一定ノ減税ヲ認ムヘシトノ反対党側提
案ニ對シ政府之ヲ拒否シタルモ五票ノ差ヲ以テ敗レタルニ
アル處新聞報ニ依レハ反対党ノ中心タル急進社会党ハ一昨
年十一月ノ「ポアンカレー」内閣以来政權ニ離レ居レルカ
為仮令自ラ政權ヲ握ルニ至ラサルニセヨ少クトモ内閣ヲ改
造セシメテ之ニ割込マントスルノ策ヲ講シ居タル折柄十七
日前記課税問題ノ審議ニ当リ首相ハ病氣他ノ閨僚モ會議其
ノ他ノ関係ニテ不在ナルモノ鮮カラサリシニ乘シ中間派ノ
左翼ヲ動カシテ政府ヲ陥ルニ至リタルモノナリ後繼内閣
トシテハ軍縮会議トノ関係モアリ多分再ヒ「タルヂューム」
ノ組閣ヲ見ルヘシトノ説有力ナリ
軍縮全権ニ転電セリ

352 昭和5年2月18日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全権宛（電報）

潜水艦問題に関する仏國臨時代理大使との会 談について

本省 2月18日後5時10分発

第六五号
往電第五六号ニ関シ

到達スルノ外ナク此ノ感想ヲ覆スコトハ絶対ニ不可能ニ
シテ從テ我々ハ七割以下ノ比率ニ依ル條約ニハ到底調印
シ能ハサル困難ナル立場ニ在ルコトヲ充分諒得セラレタ
シ（話ノ是以上進マサルヘキ形勢ヲ見テ）

「ヘンダーソン」ハ英國側ハ本日ハ「インテレスティッド、
スペクティイター」トシテ参列シタルカ日米双方ニテ更ニ
慎重考慮ノ上再会セラルコト望マシキト提言シ

「ス」ハ日本案通リニテハ到底上院ノ協賛ヲ得難キ旨ヲ切
言シ右ニテ会議ヲ終リ次回会合日ニ関シテハ追テ決定ス
ルコトトシテ散会セリ

米ニ転電シ、仏、伊ニ暗送セリ

351 昭和5年2月18日 在仏國河合臨時代理大使より
幣原外務大臣宛（電報）

パリ 2月18日後発

本省 2月19日前着

タルデューエ内閣の總辭職について

第四七号

「タルヂューム」内閣十七日夜總辭職ヲナセリ直接ノ原因ハ
同日下院ニ於テ商工業者ニ対スル課税ニ関シ妻カ夫ト共ニ

十七日在京仏國代理大使本大臣ヲ來訪シ潛水艦問題ニ關ス
ル過日貴大臣トノ会談ニ関シ「ブリアン」外相ヨリ電報ニ
接シタル處右電報ニ依レハ仏國政府ハ潛水艦ニ關スル華府
條約ノ文書ヲ不完全ナリト思惟スルモノナルカ仏國トシテ
ハ潛水艦ノ軍艦トシテノ行動ヲ水上艦ト同程度ニ迄制限ス
ルコトハ之ヲ認ムル覺悟ニシテ此ノ仏國ノ立場ハ米國全權
ニ於テモ之ヲ承認スヘシトノ確信ヲ有スル處貴大臣ニ於テ
モ此ノ仏國ノ地位ヲ了解セラレムコトヲ希望スト述ヘタル
ニ付本大臣ハ右華府條約ノ文言不完全ナリトハ何處ヲ指サ
ルモノナリヤト反問シタル處仏代理大使ハ同條約第一條
及第四条ノ趣旨ヲ説明シ第四条ノ文言ハ潛水艦ニ依ル商船
ノ臨檢及搜索ヲ實際上不可能ナランムモノニシテ過大ノ
制限ナルヤニ認メラル仏國ノ必要上ヨリ云ヘハ仏國ハ水上
艦ノ保有量僅少ナルヲ以テ若シ潛水艦ニ依ル臨檢及搜索ニ
シテ實際上不可能トナルニ於テハ水上艦ノ巨大ナル噸數ヲ
保有セサルヘカラサルコトナルヘキニ依リ此ノ点ハ仏國
トシテ最重大視シ居レル所ナリ故ニ若シ右仏國ノ立場會議
ノ認ムル所トナラサルニ於テハ仏國ハ已ムナク會議ヲ脱退
セサルヘカラサル破目トナルヘキニ付テハ日本政府ニ於テ

モ此ノ点御了解ノ上右条約ノ第一条及第二条以上ニ進ミテ
第四条ト同様ナル意味ノ嚴重ナル規定ヲ別ニ設クヘキコト
ヲ主張セラレサランコトヲ切望スト述ヘタリ依テ本大臣ハ

過日御話シタルコトハ日本ハ潜水艦ヲ以テ商船ノ行動ヲ阻

害スルカ如キ考ナク從テ會議ノ形勢ニ依リテハ華府条約第

一条及第二条以上ニ進ミテ更ニ嚴重ナル規定ヲ設クルコト

ニ異存ヲ有セストノ趣旨ニテ如何ナル程度ノ嚴重ナル規定

ヲ設クヘシト云フカ如キ提案ヲ為スノ意思ヲ有スル次第ニ

ハ非ス尚先刻御説明ニ依レハ「ブリアン」外相ハ右仏國ノ地位ハ米國全權ニ於テモ之ヲ承認スヘシトノ確信ヲ有セラル趣ナルカ右ニ付既ニ米仏全權間ニ意見ヲ交換セラレタル次第ナリヤト質シタル處仮代理大使ハ勿論意見交換ノ結果ナルヘシト思考スル旨答ヘタリ尚本大臣ハ本件仏國ノ主張力會議ノ認ムル所トナラサルニ於テハ仏國ハ會議ヲ脱退

スルノ已ムナキニ至ルヘシトノ御話ナリシ處右ハ「ブリアン」外相ヨリノ電報トシテ読ミ上ケラレタル字句ノ中ニハ

記載ナキ様ナルカ別ニ訓電ニテモアリタル次第ナリヤト質問シタル處仮代理大使ハ狼狽ノ色ヲ浮ヘ別ニ訓電ニハ接セ

ナルモ仏國ノ立場ヨリ考ヘテ右ノ措置ニ出ツルナルヘシト

スルノ已ムナキニ至ルヘシトノ御話ナリシ處右ハ「ブリアン」外相ヨリノ電報トシテ読ミ上ケラレタル字句ノ中ニハ

記載ナキ様ナルカ別ニ訓電ニテモアリタル次第ナリヤト質問シタル處仮代理大使ハ狼狽ノ色ヲ浮ヘ別ニ訓電ニハ接セ

ナルモ仏國ノ立場ヨリ考ヘテ右ノ措置ニ出ツルナルヘシト

推測シタルニ過キスト弁明シ居リタリ
往電第五六号ト共ニ米仏ヘ転電シ伊ヘ暗送アリ度シ
ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

353 昭和5年2月19日

ロンドン 2月19日前發

イタリア代表部発表の同國軍縮政策の要点について
本省 2月20日前着

第一五五号

伊国代表部ハ十九日同國ノ軍縮政策ニ関スル「ステートメント」ヲ我方及英米仏代表部ニ送付シタル後新聞ニ対スル説明書ト共ニ之ヲ發表セリ其ノ要点左ノ通

伊太利ノ軍縮政策ハ縮減及一國標準ノ二原則ヲ基調トスルモノニシテ右原則ヲ今次會議議場ノ現状ニ適用スレハ左ノ如シ

一、伊国ハ五國カ一九三六年迄主力艦代換ヲ延期センコトヲ提議ス

二、伊国ハ主力艦ノ廃止ヲ考慮スルノ用意アリ

三、伊国ハ最強歐州大陸國ノ航空母艦現有總噸数ヲ超過セサルヘキ事ヲ約ス

四、華府条約ニ規定セラレサル艦艇ニ付テハ伊国ハ最強歐州大陸國ノ保有總噸数ヲ超過セス且如何ナル時期ニ於テ

モ外國ノ此ノ種艦艇現実保有總噸数ヲ超過セサルコトヲ約スルノ用意アリ即チ伊国ハスル國家カ條約有効期間中ニ為スヘキ如何ナル減縮ヲモ受諾スルノ用意アリ

五、伊国ハ潛水艦總噸数ニ付テモ同様ナル約束ヲ為スノ用意アリ

六、伊国ハ少クモ龍骨据付六ヶ月以前ニ建造セラルヘキ艦艇ノ船体主要寸法及主要兵裝ノ要目ヲ通報スヘシトノ一

九二七年四月ノ寿府提議ヲ保持ス

七、伊国ハ主力艦廃止ヲ含ム軍備ノ大縮減ト関連シテ潛水艦全廢提議ニ好意的考慮ヲ加フルノ用意アリ

昭和5年2月19日 在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)
日本側の八吋砲巡洋艦対米七割の要求等に關するヘラルド・トリビューン紙の社説についてて

ワシントン 2月19日後發
本省 2月20日前着

國ニ過大ナル讓歩ヲ為サントスル意アリト信シ居ルコト明白ナリ制限ニ依リ日本側ノ受クル利益ハ主トシテ經濟上ナル處日本カ補助艦制限ヲ妨クルカ如キ程度迄其ノ主張ヲ固執スル結果遂ニ米国ヲシテ無制限ニ建造スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルニ於テハ日本ハ何レノ國ヨリモ打撃ヲ受クヘシト論セリ

全權ニ転電セリ

355 昭和5年2月(20)日 ロンドン軍縮會議松平全權より
幣原外務大臣宛(電報)

補助艦に関する日本の主張貫徹の困難について

(館長符号)

本省 2月20日着

松平全權

若槻ヨリ

幣原大臣

左ノ電報ハ若槻ヨリ閣下及浜口首相ノ御参考ニ供スルモノナルニヨリ其御含ミニテ両閣下御覽ノ上ハ御火中ニ願度シ米国全權ハ今回ノ會議ニ於テ協定成立スルトセバ戰艦ニ関スルモノト補助艦ニ関スルモノトハ之ヲ一条約ニ規定シテ上院ノ批准ヲ求ムベキコトヲ固ク決心シ居ルモノノ如ク若

カナラザルモ今後我全權ヨリ閣下ニ向ツテ發スル電報ニハ細心ノ御注意ヲ払ハレ政府ニシテ會議ノ決裂ヲ欲セラレザルニ於テハ御回電ニ当ツテ自ラ其意ノ表ハル様御留意相成度シ

帝国ノ為メ痛心ノ余リ事態極度ニ至ラザル前ニ老婆心ナガラ右御考慮ヲ請フ

356 昭和5年2月21日 幣原外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

財部全權と協議し具体的妥協案作成の上請議するよう若槻全權へ伝達方について

本省 2月21日後4時発(沢田)

松平大使

幣原

浜口總理並ニ幣原ノ私見トシテ若槻全權限リニ左ノ通内密ニ伝ヘラレタン

貴電篤ト拝承今日迄閣下ガ関係各國代表者トノ折衝ニ当リ情理ヲ尽クシテ適切且堅実ニ我主張ヲ支持セラレタルハ閣僚一同ノ感謝ニ堪ヘザル所ナリ累次ノ貴電ニ依ルニ主力艦並ニ航空母艦ノ問題ハ略ホ妥協成立ノ望アルモノノ如ク唯

シ戰艦ニ関スルモノト補助艦ニ関スルモノトヲ別個ノ條約案トシテ提出スルトキハ上院ハ戰艦ニ関スル分ハ批准ヲ与ヘサルベント認メ居ルガ故ニ一括シテ條約案ヲ作成スル考ナルガ如シ故ニ我方ヨリノ交渉ガ戰艦ヲ先ニスルト否トニ拘ラズ今回ノ會議ニ於テハ補助艦ニ関スル協議成立セザル場合ニ於テハ戰艦ニ関シテノミ協議ヲ成立セシムルコト能ハザルコト今ヨリ能ク御承知置相成度シ

又補助艦ニ関シテハ政府ノ御訓令通り大巡ニ付テハ七割、潜水艦ニ付テハ七万八千噸結局総括的ニ七割ト言フ趣旨ヲ以テ我方ノ主張ヲ高調シ居リ今後モ之ガ為ニ努力スル考ナルモ英米共ニ難色アリテ今ノ處日本ノ主張貫徹スペキ見込ヲ立ツルコト能ワズ此儘ニテ何所マテモ我主張ヲ曲ケザルトキハ遂ニ協定不成立トナルモ計リ難ク其場合輿論ハ極度ニ日本ヲ攻撃シ日本ノ國際的立場ハ頗ル困難ノモノトナルベシ万々一斯ノ如キ場合トナラバ日本ハ何処マテモ自制的ニ米国ニ対シ七割以上トナルガ如キ造艦ハナザルベントノ声明ヲ発シ日本ノ誠意ヲ披瀝シタル上引揚タル覚悟ナルモ予ハ事態ヲ斯ノ如キニ至ラシムルハ日本ノ為メ甚ダ不利不幸ナリト信ズ我全權委員中ニハ皆予ト同論ナルヤ否ヤ明

補助艦問題ニ至リテハ閣下ノ至大ナル努力ニ拘ハラズ英米共ニ我主張ヲ容ルニ難色アルハ諸般ノ情勢誠ニ已ムヲ得ルザモノアルヲ認ムルノ外ナシ熟ラ思フニ最後迄我主張ヲ固執シテ別ニ局面展開ノ策ヲ講セズ遂ニ會議ヲ決裂ニ導クガ如キコトアラバ其帝國ノ将来ニ及ホス影響ノ極メテ重大ナルニ顧ミ予等兩人ハ全然閣下ト憂ヒヲニス然レドモ今直チニ当地ニ於テ具体的ノ妥協案ヲ作ラムトセバ海軍部内ノ議ヲ纏ムルニ困難ナル事情アリ予等ハ固ヨリ毫モ責任ヲ回避セムトスルモノニ非ザルモ自然ノ筋途トシテハ閣下ニ於テ會議ノ形勢ニ従ヒ先ツ財部海相ト御協議ノ上適當ナル展開策ヲ案シテ之ヲ政府ニ請議セラレ安保大將ノ側面的斡旋ヲ以テ海軍部内ヲ動カスノ方法ニ出デラレムコトヲ切望ス

357 昭和5年2月22日 在仏國河合臨時代理大使より
幣原外務大臣宛(電報)

フランスにおける新内閣の組織について

本省 2月23日前着

パリ 2月22日後発

第五四号

「ショーテン」ハ結局中間諸派ヲ糾合シテ「十一」日内閣ヲ組織セリ主ナル閣員ハ外相 Briand 海相 Albert Sarraut (元華府會議代表) 法相 Steeg 藏相 Dumont 土木相

Daladier ニシテ内相ハ首相兼摂シ尚新ニ予算省ヲ設ケタ

リ新聞論評ヲ綜合スルニ急進社会党ト前記諸派ノミニテハ下院ニ於テ過半数ヲ得ルコト能ハサルニ付社会党ノ支持ヲ要スル處同党ト中間派一部ノ政綱調和ニ相当困難アルノミナラス「ショーテン」ハ最初「タルジュ」等ノ入閣ヲ求メ右派ノ一部ヲモ合同シテ社会党ノ興廃ニ関係ナキ内閣ヲ造ラントシタルモ「タ」ノ拒絶ニ会ヒテ其ノ計画ヲ変更スルニ至レルカ如キ經緯モアリ社会党今後ノ態度ハ逆睹シ難シトテ新内閣ノ運命ニ付危惧ノ念ヲ懷クモノ尠カラス新内閣ハ二十五日議会ニ其ノ施政方針ヲ説明シ直ニ軍縮會議ニ代表ヲ派遣スル予定ニシテ海相外相等ノ外首相自身モ出馬スベシト報セラル

軍縮會議全權ニ転電セリ

358 昭和5年2月24日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

軍縮會議に関する新聞掲載論説について

下院ニ於テ過半数ヲ得ルコト能ハサルニ付社会党ノ支持ヲ要スル處同党ト中間派一部ノ政綱調和ニ相当困難アルノミナラス「ショーテン」ハ最初「タルジュ」等ノ入閣ヲ求メ右派ノ一部ヲモ合同シテ社会党ノ興廃ニ関係ナキ内閣ヲ造ラントシタルモ「タ」ノ拒絶ニ会ヒテ其ノ計画ヲ変更スルニ至レルカ如キ經緒モアリ社会党今後ノ態度ハ逆睹シ難シトテ新内閣ノ運命ニ付危惧ノ念ヲ懷クモノ専カラス新内閣ハ二十五日議会ニ其ノ施政方針ヲ説明シ直ニ軍縮會議ニ代表ヲ派遣スル予定ニシテ海相外相等ノ外首相自身モ出馬スベシト報セラル

ロンドン 2月24日後発
本省 2月25日前着

第一六一號

二十三日軍縮新聞情報

「オブザーバー」掲載「エドワード・ベル」ノ会見談

戰時米国カ強大ナル海軍ヲ必要トスル事ニ付テハ何人モ異論ナキ所仏国人中ニハ米国カ強大ナル海軍ヲ必要トスル所以ヲ諒解シ居ラサル者アリ仏國ハ何等外敵ノ惧ナシ仏國ノ恐ルルハ独伊ナルモ此等両国ハ英米ノ協力無クンハ仏國ヲ攻撃スルコト能ハサルヘシ英米両国ハ仏蘭西ノ戰時債務免除ニ関シ非常ナル讓歩ヲ為シタルニ拘ラス仏國カ之ヲ利用シテ軍備ヲ増加センカ英米両国ニ於ケル反感ハ甚タ強キモノトナルヘシ日本カ本會議ヲシテ真ノ軍縮及平和ノ會議タラシメン為凡ユル努力ヲ為サンコトヲ希望ス日米ノ関係ハ過去ニ存シタル疑惑モ一掃サレ米国民ハ日本人ヲ目シテ最モ驚歎スヘキ人種トナシ居レリ日本ニ対スル攻擊ハ即チ吾人ニ対スル「ボテンシャル」ナ攻撃ト見做スヘキナリ

「サンデー、タイムズ」所載 Wickam Stead ノ論文

會議遲々トシテ進行セサルハ各国共海軍存在ノ目的ヲ究メ

サルヲ以テナリ二十年前ニアリテハ海軍ハ敵国ノ攻撃及封鎖ノ為ニ存シタリ米国ノ大戦参加ハ海洋ノ自由ヲ標榜シタルモノナルカ國際連盟ノ成立後ハ中立国ノ消滅ト共ニ海洋自由ノ観念モ其ノ意義ヲ失ヒタル道理ナルモ米国ノ連盟不参加ニ因リ米国ニ閑シテハ右觀念尚存シタルモ不戦条約ニ依リ各國ハ戦争ヲ否認シタルヲ以テ中立国ナル概念モ存在セサルニ至レリ唯不戦条約違反者ニ対スル制裁ニ関シテハ米国ハ一言モ保障ヲ与ヘ居ラス輿論ノ道徳的圧迫ニテ戦争ヲ忌避シ得ト為スノミ仏蘭西カ攻撃国ニ対スル保障ヲ必要トスルハ要スルニ海軍存在ノ意義如何ヲ質問シタルモノナリ倫敦會議カ不戦条約成立ノ今日海軍ノ存在ハ何ヲ目的トスヘキカヲ最初ヨリ決定セントシタルニ於テハ或程度ノ進捗ヲ見タルナルヘシ英米両国ニシテ戦争ハ不可避ノモノト認ムルニ於テハ軍縮ヲ思ヒ止マルヘシ今日ノ如キ事態ヲ持続スルニ於テハ世界各國ハ不戦条約及 MacDonald Hoover 共同声明ヲ目シテ不吉ナル仮面ニ過キスト見做スヘシ二十四日「デイリー、エキスプレス」ハ會議ハ全然失敗ニ終リ一九三五年迄延期セラルヘシ右ハ官刃側ノ否認ニ拘ラス一個ノ事實ナリト論シ「ポスト」ハ會議ハ未タ死セス唯

米国ハ一言モ保障ヲ与ヘ居ラス輿論ノ道徳的圧迫ニテ戦争ヲ忌避シ得ト為スノミ仏蘭西カ攻撃国ニ対スル保障ヲ必要トスルハ要スルニ海軍存在ノ意義如何ヲ質問シタルモノナリ倫敦會議カ不戦条約成立ノ今日海軍ノ存在ハ何ヲ目的トスヘキカヲ最初ヨリ決定セントシタルニ於テハ或程度ノ進捗ヲ見タルナルヘシ英米両国ニシテ戦争ハ不可避ノモノト認ムルニ於テハ軍縮ヲ思ヒ止マルヘシ今日ノ如キ事態ヲ持続スルニ於テハ世界各國ハ不戦条約及 MacDonald Hoover 共同声明ヲ目シテ不吉ナル仮面ニ過キスト見做スヘシ二十四日「デイリー、エキスプレス」ハ會議ハ全然失敗ニ終リ一九三五年迄延期セラルヘシ右ハ官刃側ノ否認ニ拘ラス一個ノ事實ナリト論シ「ポスト」ハ會議ハ未タ死セス唯

359 昭和5年2月25日 キヤッスル米國大使會談錄

仏国の態度如何により日英米三国のみの協定となる場合への対処方に關し協議について

倫敦海軍會議ニ関スル在本邦米国大使幣原大臣
会談錄

昭和五年二月二十五日在本邦米国大使幣原大臣ヲ來訪シ昨日ノ各新聞ハ倫敦會議ノ前途ニ付悲觀説ヲ伝ヘ或ハ仏國新内閣ノ態度ニ依リテハ日英米三国ノミニテ協定セントスルカ如キ空氣アル趣ヲ報シ居ル處右ニ付自分ハ未タ「スチムソン」ヨリ何等ノ電報ニ接シ居ラサルモ貴大臣ノ御手許ニハ何等カノ報道アリタリヤト尋ねタルニ付

幣原大臣ハ更ニ報道ニ接シ居ラスト答ヘラレタル処

「カ」大使ハ仏國ノ態度ハ會議ニ於テ相当難関ナルヘシト
考ヘラルル次第ナルカ仏伊ノ出様ニヨリテ日英米三国ノミ
ノ會議トナル情勢ニ立至ルコトアリトセハ右ニ対シテハ如
何ナル御考ヲ有シ居ラルヘキヤト問ヒタルニ付
幣原大臣ハ今日迄自分カ全權ヨリ受ケタル報道ニテハ尚未
タ三国ノミニテ協定スルコトニ付考慮スヘキ時期ニ達シ居
ラスト認ム從テ政府トシテハ本件ニ付何等考慮シタルコト
ナク今日ニ於テモ依然五國協定ノ成立ヲ希望シ居ル次第ナ
ルカ万一二仏伊不参加ノ場合英國ハ日英米三国ノミニ協定ニ
同意シ得ヘキ立場ニ在リト考ヘラルルヤト反問セラレタル
処
「カ」大使ハ英國ハ困難ヲ感スルナルヘシト述ヘ何レニス
ルモ三国協定トナラハ「協定外ニ立ツ第三國ノ軍備拡張ニ
依リ形勢ニ著大ナル変更ヲ來ス場合ニハ三国ハ今回ノ協定
ヲ再考スヘシ」トノ条項ヲ設クルニ於テハ協定其ノモノノ価
値ハ非常ニ減少スヘシ旁々英國カ三国ノミニ協定ニ同意ス
ルヤ否ヤニ付テハ自分トシテハ見当付カサル次第ナルカ又
他ノ一面ヨリ見レハ三国共軍縮協定ノ成立ヲ熟望シナカラ
ク然ルニ右ノ如キ条項ヲ設クルニハアラサルヘシト考フル旨
答ヘラレタリ

次テ「カ」大使ハ二月一日來訪ノ際述ヘタル戦争其ノ他ノ
非常時ニ際シ民間設備ヲモ強制使用スレハ格別現在ノ米国
造艦計画ヲ以テスレハ一九三六年迄ノ六ヶ年間ニ於テハ大
型巡洋艦ハ最大限度十隻ヲ建造シ得ルニ過キナルヘシトノ
点ニ言及シ若シ官私一切ノ設備ヲ動員使用セハ米国ハ大型
巡洋艦ニ於テ一九三三年ニ日本ト同勢力トナルヘク一九三
四年ニハ十八隻ノ建造ヲ完了シ得ヘシト述ヘタリ
尚右会談中「カ」大使ハ「ジョーンズ」少将帰米ノ由ナル
處同少将ハ極メテ率直頑強且一本調子ノ人物ニテ自己ノ所
言ハ何所迄モ固持シ大局ヨリ見ルノ明アル人ニ非ス其ノ点
ヨリ見レハ「プラット」大將ノ方カ遙ニ立派ナル人ニテ
答ヘラレタリ

「ジョーンズ」ノ帰米ハ會議ノ為ニハ好都合ナルヘシト述
ヘタルニ付
幣原大臣ハ「ジョーンズ」ノ海軍部内ニ於ケル勢力ニ付尋
ネラレタル処
「カ」大使ハ海軍各方面ノ人士トノ接觸ニ依リ得タル印象
ニ拠レハ「ジョーンズ」ハ老提督間ニハ不動ノ勢力ヲ有シ
居ルモ若キ軍人ノ間ニ於テハ時代後レト見ルモノ多キ模様
ニテ海軍全体ヨリ云ヘハソレ程勢力アリトハ云ヒ難シト答
ヘタリ

次テ幣原大臣ハ仏國新全權團中ニ「サロー」ノ名ヲ見ル処

同氏ハ華府會議ニ於ケル言動ニ徵スルモ議論好キノ人ニテ

幾分「ジョーンズ」少将ニ似タルヤノ感ヲ与フト述ヘラレ
タル処
「カ」大使ハ同感ノ意ヲ表シタリ

尚「カ」大使ハ過日一日日本人ヨリ米国ハ世間ニ伝ヘラルル
如ク多数ノ大型巡洋艦ヲ建造シ如何ニセムトスル次第ナリ
ヤトノ質問ヲ受ケタルカ恰モ右日本人ハ米国カ現ニ多数ノ
大型巡洋艦ヲ現有シ居ルモノナリト為スヤノ口吻ナリシヲ
以テ米国ハ新ニ相當数ノ大型巡洋艦ヲ建造シテ初メテ日本

何等ノ協定ヲモ作ラス會議ヲ決裂セシムルヨリモ仮令効果
多少渺クトモ何等カノ協定ヲ成立セシムル方三国ノ國際関
係上有益ナラスマトモ感シ居ル次第ナリト述ヘタルニ依リ
幣原大臣ハ三国ノ努力ニモ拘ラス仏伊ノ態度ニ依リ會議ノ
協定スルコトノ可否ニ付考慮スルコトハ価値アル問題ニシ
テ直チニ之ヲ排斥スヘキ筋合ニハアラサルヘシト考フル旨
答ヘラレタリ

(欄外注記) 之ハ一切外部ニ示サザルコト（欧米局長）
360 昭和5年2月26日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

第八回首席全權會議における議事促進の方法

に関する協議について

ロンドン 2月26日後発 本省 2月27日後着

第一六五号

仏國新代表部ノ着英ヲ待チ明ニ二十七日首席全權會合ノ予定
ナリシ處同國新内閣又復瓦壊セルヲ以テ二十六日午後四國

首席全權及在英仏國大使下院首相室ニ会合新事態ニ処スヘ
キ今後ノ議事手続ニ付協議セリ経過左ノ通

(一)「マクドナルド」ハ會議促進ノ必要ヲ力説シ成ルヘク今
後三週間位ノ内ニ何等カノ協定ニ達シタク之カ為先ツ

「ユーロピアングループ」（英仏伊）及「ハイシーズグ
ループ」（英米日）ノ各部ニ於テ内交渉ヲ遂ケ其ノ上ニ

テ双方ノ結果ヲ一括シ五國ノ協定ニ達スルノ順序ヲ可トスヘシ「ハイシーズグループ」内ニ於テハ相互ノ立場最

早充分明瞭トナリタルコトナレハ「クロウズグリップス」ニテ事ニ当リ各方面ヨリ何程ノ讓歩ヲ為シ得ルヤヲ

審議シ成ルヘク來週半頃迄ニ仮協定ヲ達スル目算ヲ以テ協議ヲ進メタシト述ヘタルニ対シ「スチムソン」ハ異議

ナク若機ハ我方トシテハ固ヨリ協定ニ達スル為全力ヲ注

クヘキモ早急ニ纏リ得ルヤ否ヤハ實際協議ノ上ナラテハ

見据ヲ着ケ難カルヘシ但シ期日ヲ切リテ協議ノ促進ヲ計

ラントスルコトハ別ニ異議ナシト述ヘ「マ」提案ノ趣旨ニテ議事促進ヲ試ムルコトトセリ

次ニ「ユーロピアングループ」ニ関シ「マ」ハ仏國ノ政情ヲ考慮スルノ要アルハ勿論ナルモ近々仏國全權モ來会

スヘク（「フロリオ」ハ來週月火曜頃ナルヘシト言ヘリ）英國ハ何時ニテモ意見交換ノ用意アルモノニシテ此ノ

「グループ」内ノ協議ニ付テモ同シク期日ヲ限リテハ如何ト提議シタルカ「グランジ」ハ伊國ハ何時ニテモ議事

促進ノ用意アルモ本件話合ノ直接關係國タル仏國ノ全權來着ヲ待チタル上事ヲ定ムルノ外ナカルヘシト述ヘ結局

實際上可能ナル範囲内ニ於テ非公式交渉ヲ継続促進スルコトト暫定セリ

「ユーロピアングループ」ト「ハイシーズグループ」トヲ區別シ内交渉ヲ遂ケ差支ナシトノ「マ」ノ發意ノ裏面ニハ「ハイシーズグループ」ノ協定成リタル時ハ場合ニ依リ「ユーロピアングループ」ノ協定成立ノ如何ニ拘ラ

ス直ニ日英米三国ノ軍縮協定ヲ作ルコトヲ得ヘントノ底意アルニ非スヤト察セラル又本日「マ」ト「ス」トノ話

振リノ模様ヲ見レハ英米ノ間ニハ既ニ余程相談ヲ付ケ居ルモノノ如ク協同ニテ日本ノ讓歩ヲ求メ来ル惧アリト認

メラル

(二)專門委員會事業ノ全般即チ制限外艦艇及特種艦問題ノ討議ハ殆ト終了シ又潛水艦問題ニ付テハ法律家ノ非公式会合アリタルヲ以テ之等問題進行ノ現状ヲ事務總長ヨリ各國代表部ニ報セシメ其ノ上ニテ第一委員會又ハ總會ヲ開ク可キヤ否ヤヲ決スルコトトセリ

(三)尚「マ」ヨリ先週中新聞ニ現ハレタル惡印象ヲ一掃スル為來週中總會ヲ開催シ度種々議題ヲ考慮セルモ制限外艦艇等ノ問題ハ余リニ小ナルヘク又潛水艦問題ハ尚早ニテ

結局名案無キ處何等思付無キヤヲ諧リタルモ各全權何レモ成案無ク其ノ儘トナレリ

米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

361 昭和5年2月26日

幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

軍縮會議の決裂説などの報道に鑑み會議内外の狀況照会について

本省 2月26日後0時30分発

第七一号

二十五日各紙ハ二十四日倫敦發電報通信、倫敦會議ハ準備ノ不完全、仏國政情ノ不安定、伊國ノ氣乘薄等ノ為決裂シ一九三五年迄閉会スルコトトナレリトノ「デーリー、エキスプレス」記事ヲ掲ケ又同日東京日日ハ米國側ニ於テハ仏伊ヲ除外シ日英米三国会議トナサントスルノ意アルヤニセラル旨ノ貴地特電ヲ掲ケ二十六日ノ時事亦同趣旨ノ特電ヲ掲ケ居ル處此種ノ報道ヲ生ムニ至ルカ如キ顯著ナル情勢ノ變化アリタル次第ナリヤ會議内外ノ空氣當方参考迄ニ

4 會議の経過
米へ転電仏伊へ暗送アリ度シ
電報アリ度シ

362 昭和5年2月26日

幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

全權への支援決議に関する貴族院各派共同声明問題について

本省 2月26日前11時30分発

明問題について

第七二号

二十五日矢吹海軍政務次官來省シ貴族院各派共同聲明問題ニ關シ公正會ニ於テハ全權ノ絶大ナル努力ニ対シ十分ノ支持後援ヲナス意味ニテ右声明ヲ適當ト認メ火曜会研究会其他各派ニ交渉シタル次第ナル処火曜会ニ於テハ全權ノ賛成ナルモ停会中各派共同声明ヲナスガ如キハ極メテ異常ノ場合ナラバ格別現ニ全權ノ努力ニ全ク信賴シ得ル状況ニ於テハ適當ナラズ又惹イテ外國ノ輿論ヲモ刺激シ徒ニ事態ヲ緊張セシムル虞ナントモ限ラザルベキニ付キ參加セザルコトニ決定シ又研究會ニ於テモ同様全權ニ対シ深ク感謝シ居リ全權支持後援ノ趣旨ニハ全然賛成ナルモ現ニ全權ノ最善努力ニ信賴シ得ルニ拘ラズ本件声明ヲナスガ如キハ其時期ヲ得ズトナシ不参加ニ決セリ依テ公正會ハ右事情ニ鑑ミ

二十五日総会ニ於テ本件声明ヲ見合ハスコトニ決定セル旨
事情逐一説明アリタリ

363

昭和5年2月26日

整原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全権宛(電報)

日英米三国のみにての協定に関するキヤッス
ル米国大使との会談について

本省 2月26日後6時50分発

第七三号

二十五日在京「カッスル」大使本大臣ヲ來訪シ昨日ノ各新聞ハ倫敦會議ノ前途ニ付悲觀説ヲ伝ヘ或ハ仏國新内閣ノ態度ニ依リテハ日英米三国ノミニテ協定セントスルカ如キ空氣アル趣ヲ報ン居ル處右ニ付自分ハ未タ「スマソン」ヨリ何等ノ電報ニ接シ居ラサルモ貴大臣ノ御手許ニハ何等カノ報道アリタリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ更ニ報道ニ接シ居ラスト答ヘタル处「カ」ハ仏國ノ態度ハ會議ニ於テ相当難関ナルヘシト考ヘラル次第ナルカ若シ仏伊ノ出様ニヨリ日英米三国ノミニ会議トナル情勢ニ立至ルコトアリトセハ右ニ対シテハ如何ナル御考ヲ有シ居ラルヘキヤト問ヒタルニ付本大臣ハ今日迄自分カ全權ヨリ受ケタル報道ニテハ尚

未タ三国ノミニテ協定スルコトニ付考慮スヘキ時期ニ達シ居ラスト認メラレ從テ政府トシテハ本件ニ付何等考慮シタルコトナク今日ニ於テモ依然五國協定ノ成立ヲ希望シ居ル次第ナルカ万一日不参加ノ場合英國ハ日英米三国ノミノ処「カ」ハ若シ三国協定トナラハ「協定外ニ立ツ第三國ノ軍備拡張ニ依リ形勢ニ著大ナル変更ヲ來タス場合ニハ三国ハ今回ノ協定ヲ再考スヘシ」トノ条項ヲ協定中ニ插入スルノ外ナカルヘク然ルニ右ノ如キ条項ヲ設クルニ於テハ協定其ノモノノ価値ハ非常ニ減少スヘシ傍々英國カ三國ノミニ協定ニ同意シ得ルヤ否ヤニ付テハ自分トシテハ見当付カサル次第ナルカ又他ノ一面ヨリ見レハ三國共軍縮協定ノ成立ヲ熱望シナカラ何等ノ協定ヲモ作ラス會議ヲ決裂セシムルヨリモ仮令効果ハ多少渺クトモ何等カノ協定ヲ成立セシムル方三國ノ國際關係上有益ナラスヤトモ感シ居ル次第ナリト述ヘタルニ依リ本大臣ハ三國ノ努力ニモ拘ラス仏伊ノ態度ニ依リ會議ノ成效ヲ期待シ得ナルニ於テハ三国ノミニテ協定スルコトノ可否ニ付考慮スルコトハ価値アル問題ニシテ直チニ之ヲ排斥スヘキ筋合ニハアラサルヘ

シト考フル旨答ヘ置キタリ

米ニ転電シ仏伊ニ暗送アリ度シ

364 昭和5年2月(27)日

ロンドン軍縮會議全権より
整原外務大臣宛(電報)

仏伊両国が會議脱退の場合の日本の態度に關する照会への対処方針について

本省 2月27日前着

ロンドン

いて

第一六七号

往電第一六五号ニ閲シ

今後行ハルヘキ日英米三国交渉カ極メテ機微ノ性質ノモノタルヘキハ申迄モナク万一彼我ノ提案等外間ニ漏洩スルニ於テハ徒ニ新聞ノ論戰ヲ招キ相手國ノ態度ヲ硬化セシムルコトナキヲ保シ難クスケテハ成立シ得ヘキ協定モ不成立ニ終ルコトアルヘク依テ當方に於テモ嚴重注意ヲ加ヘ極メテ少數ノ隨員ヲ限り枢機ニ參與セシメ以テ機密漏洩ヲ防止セントス就テハ御如才モ無キコト乍ラ貴方ニ於テモ同様充分ノ取締ヲ講セラル様致シタク右重ネテ申進ス
米ニ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

ヲ避ケ居ル次第ナリ為念

366

昭和5年2月28日

ロンドン軍縮會議全権より
整原外務大臣宛(電報)

会談行詰り打開の為松平・リード両全権間に

て自由討議の開始について

ロンドン 2月28日後発

365 昭和5年2月28日 ロンドン軍縮會議全権より
整原外務大臣宛(電報)

會議の機密漏洩に嚴重注意方に關し申進につ

本省 3月1日前着

ロンドン 2月28日後発

第一六八号

往電第一六五号ニ閲シ

日英米三国間ノ内相談ヲ成ルヘク速ニ進行セシムル為ニハ之迄ノ如ク双方只堅クナリテ相対スルヨリモ自由勝手ニ意見ヲ交換シ其ノ間ニ略双方ノ同意シ得ル様ノ考案ヲ発見スルニ努ムルヲ可ナリト認メ二十五日ヨリ松平「リード」両三回会見シ如何ナル談話モ之ニ依リテ他日相互ニ拘束ヲ受ケサルノ了解ノ下ニ意見ヲ交換シツアリ此ノ意見ハ自由勝手ニ述フルヲ趣旨トシツアルカ故ニ々政府ニ報告セス稍モノニナルラシク認メラルモノ丈ヲ報告スルコトト致度ク御含相成度シ今迄ノ處ニテハ從来ト大ナル相違ナク双方主張ノ距離ハ可ナリ大ナリ兩人会見ヲ重ヌルニ從ヒ漸次此ノ距離ノ近寄ル様相成ルコトヲ希望シ居レリ米ヘ転電セリ

367

昭和5年2月28日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

仏國の政變による會議の前途への悲觀的報道
の流布について

往電第一六五号ニテ既ニ御推察ノコトト存セラル尙會議内外ノ空氣ハ會議カ開会以来主トシテ形式的問題ノ討議ニ傾キ一般ニ重要視セラレ居タル實質的諸問題ニ閲スル進行涉々シカラサル矢先仏國政變ニ依リ一頓挫ヲ來セルヲ以テ当初ヨリ仏國ノ進退ニ付疑ヒヲ抱ケル記者中殊ニ本會議ノ成功ヲ傷ツケント且論見居ル一二米國新聞及當地保守党系新聞中ニハ會議ノ前途ヲ悲觀セル報道ヲ流布シ或ハ米國全權力最早會議ノ緩慢ヲ忍耐シ兼ヌルニ至レリト為シ或ハ伊國全權ハ再ヒ帰英セサルヘシト報シ又ハ日英米三国協定トナルヘシト速断スル者鮮カラサル模様ナルカ二十六日首席全權會議後ノ声明ニ依リ二十七日諸新聞共ニ右ハ諸種ノ悲觀説ヲ緩和シ會議ハ予定通繼續セラルヘシトノ印象ヲ与ヘタリト報シ居レリ

尚貴電第七六号末段電通所報ハ事実無根ナルノミナラス若槻ハ余リ早ク日本カ三国會議ニ共鳴スル意思アルカ如キ態

度ヲ示スハ英米トノ交渉ノ上ニ不利益ナリト認メラルルカ故ニ質問者カ此ノ点ニ触ル時ハ常ニ三国會議ノ如キコトハ考ヘ居ラスト答ヘ居レリ此ノコトハ貴地ニ於テモ御注意相成度シ米ヘ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

368

昭和5年2月28日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

松平・リード會議中の一二の経過報告について

ロンドン 2月28日後発
本省 3月1日前着

第一七〇号(極秘)

往電第一六八号

ハ略々協定成立シ残リ居ル処ハ英國側ニ於テ米國側六時巡洋艦ノ噸數ニ約七千噸減少方ヲ主張シ居ルモ斯ノ如キコトハ約十五分ニテ協議纏ルヘシト話シ居リタルカ昨二十七日ニ至リ米國側ニ於テ十四万六千五百噸ヲ十四万三千噸ニ減少スルコトニ纏リタル旨通知シ来レリ米ヘ転電セリ

369 昭和5年3月1日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

會議の機密漏洩防止に万全を期すよう通達に

本省 3月1日後6時発

第七九号

貴電第一六七号ニ閲シ

当地各新聞ハ既ニ貴地発連合通信又ハ各社特電ニ依リ貴電第一六五号首席全權會合ノ議事内容及未タ貴方ヨリ報告ニ接シ居ラサル松平「リード」會議ノ内容ニ閲シ夫々別電第八〇号ノ一及一ノ通相当具体的ナル記事ヲ掲載シ居ル処今ヤ極メテ機密ヲ要シ且ツ益々機微ナル三国交渉ノ本筋ニ入ラントスル際ノコトナルヲ以テ彼我ノ提案乃至対案提出ノ

第一六九号

貴電第七一号ニ閲シ

(一)二月二十六日ノ会見ニ於テ「リ」ハ英米間ニ於ケル懸案求ハ取止ムルコトセリ

事実スラ外間ニ漏洩スルコトハ面白カラスト思考スルニ付
当方ニ於テ機密ヲ厳守シ漏洩ノ防止ノ為万全ヲ期スヘキハ
勿論ナルカ貴方ニ於テモ右ノ含ニテ一層充分ナル注意ヲ加
ヘラルル様致度シ

370 昭和5年3月1日

幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

二月二十六日の首席全權會議及び二十七、八
日の松平・リード会談に関する各紙の報道に
ついて

本省 3月1日後6時発

第八〇〇号

一、二月二十八日各紙ハ連合通信又ハ各社特電トシテ二十
六日ノ首席全權會合ノ經過ヲ伝ヘ同會合ニ於テ「マ」首
相ハ會議ヲ日英米ノ海洋組及英仏伊ノ歐州組ニ分チ各々
其ノ間ノ問題ヲ考究シ仮協定ヲ得レハ之ヲ總會ニ付議ス
ルコトヲ提案シ各國全權之ニ賛成セル旨ヲ報セリ

二、同日松平「リード」会談ニ関シ時事特電ハ二十七日
「リ」ハ松平全權ヲ來訪シ約二時間ニ亘リテ重要會見ヲ
行ヒタルカ「リ」ハ日米交渉開始ノ打合セノ外米國ノ第

二次提案ヲ提示セルモノノ如シト報シ其ノ内容ニ関シ米
國側ニ於テハ広汎ナル讓歩ヲ為シタリト称ストテ駆逐艦
ニ於テ七割ヲ許シ潛水艦ニ於テ六万噸「パリチー」、八
吋型ニ於テ米十八隻ニ対シ隻数ニ於テ六割七分タル十二
隻ヲ認メ噸数ニ於テ六割二厘即チ一万噸級八隻、七千百
噸級四隻計十万八千四百噸ヲ承認スルモノノ如シト報シ
同日朝日特電ハ右ハ「リ」ノ私案トシテ内示サレタルモ
ノニシテ其ノ内容ハ補助艦ノミノ問題ニシテ且日米間ノ
保有量ニ触レタルモノトシテ左ノ数字ヲ挙ケタリ

（第一案）八吋型 米十八万噸、日十万八千噸 六吋型
米十四万七千噸、日九万五千五百噸 駆逐艦 米十五万
噸、日九万七千五百噸

（第二案）八吋型 米十五万噸、日九万噸 六吋型 米
十八万九千噸、日十二万二千八百噸 駆逐艦 米十五万
噸、日九万七千五百噸
潛水艦ニ付テハ兩案共米六万噸日四万五千噸程トス右ハ
日本ノ大巡ニ於ケル保有量ヲ六割トシ輕巡及駆逐艦ライ
ツレモ六割五分トセルモノナリ

尚同日朝日特電ハ松平全權カ二十八日「リ」ニ手交シタ

ル対案ノ骨子トシテ左ノ如ク報セリ

- (一)大型ニ於テ米十八万八千噸ノ時ハ日ハ十二万六千噸、米十
五万噸ノ時ハ日十万八千四百噸タルコト
- (二)潛水艦ニ付テハ日米共現有勢力ヲ保有スルコト
- (三)補助艦ヲ総括シテ日ハ対米七割ヲ保有スルコト
- (四)軽巡ニ付テハ米十四万七千噸又ハ十八万九千噸ノイツ
レヲ持ツ場合ニモ日ハサキニ提案セル保有噸数ヲ多少
低下スル代リニ駆逐艦ニ付米ノ十五万噸ノ保有量ヲ引
キ下ケルカ又ハ日ノ保有量ヲ引キ上ケルコト又日ハ軽
巡ノ単艦噸数ヲ制限スル問題ニ付更ニ協議スル用意ア
ルコト

371 昭和5年3月3日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

松平・リード会談の内容漏洩防止方の努力に
ついて

本省 3月3日後発

貴電第七九号ニ関シ

洩ノ場合米国側ノ提案トシテ受取ラレヌ様外觀ヲ繕フコトニ細心ノ注意ヲ払ヘリ状況右ノ如クナルニ付當方ニテモ嚴密ナル注意ヲ加フル必要ヲ認メ居ルコト貴電ノ通ナリ御含ミ置ヲ請フ

372 昭和5年3月4日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

第九回首席全權會議の経過について

ロンドン 3月4日後発
本省 3月5日前着

第一七七号

四日午前十一時ヨリ「セント、ゼイムス」宮ニ於テ首席會議(米ハ「スチムソン」病氣ノ為「ギブソン」仮ハ他ノ全權未着ノ為「フルリュウ」大使出席)ヲ開キ事務総長ノ調製ニ係ル第一委員会事業ノ現状一ツ書ヲ基礎トシテ討議ヲ開始セルモ各國全權ニ於テ右文書等ニ付未タ充分研究ノ暇ナカリシ為結局問題ノ實質ニ入ラス单ニ左ノ通議事進行方法ニ関スル決定ヲ見タルノミニテ散会セリ

(一)木曜日六日午前第一委員会ヲ開キ専門委員会第二報告

(特殊艦船及制限外艦船)ヲ審議ス

(二)金曜日七日午前更ニ首席會議ヲ開キ第一委員会カ首席ノ考慮ニ移セル諸点其ノ他ニ付協議ス
(三)潜水艦問題ハ仏國全權ノ來英(「フ」ハ木曜日夕ナラムト云ヘリ)ヲ待ツテ審議スヘキモ夫レ迄ノ間専門家ヲシテ潛水艦艇型問題ヲ研究セシム
米ニ転電シテ、伊ニ暗送セリ

373 昭和5年3月5日 在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

軍縮に関するボラー上院議員等の論議及び各紙の論調について

ワシントン
本省 3月5日後着

第八一号

軍縮新聞報

一、一日上院議員「ボラー」ハ「ラヂオ」ニテ若シ會議失敗セハ世人ハ不戦条約ノミナラス各國政府ノ軍縮ニ関スル誠意ニ信ヲ措カナル可ク其ノ結果恐ルヘキモノアルベシ現ニ一般ハ軍費輕減ヲ希望シ居ルニ拘ハラス政府ハ遂巡何事ヲモ為サス各國カ現ニ戦争勃発當時ヨリモ更ニ大

ナル軍備ヲ擁シ居ルコトハ國際間ニ大戦前ト同様ノ猜疑及不安ヲ生セシメサルヲ得ス故ニ此ノ際軍備ニ多大ノ削減ヲ加フル以外ニハ各國ニ安全感ヲ与フルノ道ナシト述べ次テ會議公開ヲ主張シ米國全權召還論ヲ駁シ全權ハ最後迄踏ミ止マルヘキナリト述ヘタルカ三日上院ニ於テ「スワンソン」ハ米國全權ハ「パリチー」及削減ナル一大目的達成ノ為倫敦ニ赴キタルモノニシテ右ノ結果ヲ見シシテ引キ揚タルカ如キハ大ナル誤リナリト述ヘタリ

二、二日当國州知事大学総長等千二百名連署ニテ米國全權ニ対シ削減及不戦条約ニ基ク協議ニ関スル協定ヲ支持スル旨ノ陳情書ヲ電報セル処三日倫敦発紐育「タイムス」

374 昭和5年3月6日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

松平・リード両全權會議による事態打開の努力について

別電一 三月六日着ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第一八一號
一九三六年末における日英米三国の保有量に関する第一次日本側試案
二 三月六日着ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第一八二號
同右、第二次日本側試案

本省 3月6日後着

第一八〇号（極秘親展）

一、英米ト我方トノ間話合行キ詰リノ状況ニアリシコトハ御承知ノ通ナルカ此ノ際我方ヨリ進ンテ会見ヲ求ムルハ面白カラス然レ共若シ先方ヨリ何等カ申出テアラハ松平ニ於テ我方ノ立場ヲ「コンミット」スルコトナク自由ニ詰合ヒラスル心組ニテ事態ノ推移ヲ待チ居リタル処二月二十五日「リード」松平ヲ來訪シ「リ」ヨリ英米間妥協略成立シタルカ日英米三国ノ協定ナラハ伊ハ之ニ参加スヘク左スレハ結局仏國モ参加スルニ至ルヘシトノ見込ナルカ日米間交渉ノ現状ヲ打開スルタメ我々兩人ノ間ニ相互通ニ何等「コンミット」スルコトナク意見交換ヲ試ミタシト申出テタルニ付松平ハ之ヲ応諾シタリ

二、「リ」ハ全然忠付キノ案ニシテ米国案ト称スヘキモノニモアラス又自分自身モ之ニ拘束セラルコトナキ全クノ一試案ナリトテ

(1)「八吋艦」日本ハ現ニ建造中ノ四隻ヲ完成スルコト、米国ハ差当リ十五隻建造シ第十六第十七第十八ノ三隻ハ次回會議前ニハ竣工セシメサルコトトシ（自分個人

トシテハ造ラサルコトニ賛成ナリ）第十六ヲ一九三三年ニ第十七ヲ三四四年ニ又第十八ヲ三五年ニ夫々起工スルコトトスヘク而シテ日本ハ次回會議ニ於テ全然 Free hand ニテ其ノ所要ノ数量ヲ主張スルコトトナルヘシ迄ノ実際勢力トシテハ日本ハ米国ニ対シ七割二分ヲ有スルコトトナルヘク米国側ニ於テハ権利トシテ十八隻ヲ得居ル証ナルニ付日米双方共ニ国民ヲ納得セシメ得ヘキカト思考ス即チ八吋艦ニ付テハ見様次第ニ六割トモ見ヘ七割トモ見ユルコトトナルヘシ

(2)「軽巡」米国「オマハ」級十隻七万五百噸ノ外新造一万三千噸、日本現有二十一隻九万八千噸ノ外艦齡（二十年）超過艦一万噸（但右一万噸ハ代換セサルコト）合計十万八千噸即チ対米七割五分

(3)「駆逐艦」米国十五万噸日本九万噸即チ六割

(4)「潜水艦」米国六万噸日本五万一千噸、前回米国提案ノ日本保有量四万噸ヲ改メ日本カ今日以上新ニ建造セナル場合一九三六年ニ有スヘキ数量五万二千噸即チ対米八割六分トナルコト

ノ案ヲ示シ之ヲ全体トシテ考フルニ八吋ヲ仮ニ七割二ノ案ヲ示シ之ヲ全体トシテ考フルニ八吋ヲ仮ニ七割二

分ト見做セハ日米間ノ比率ハ七割一分トナリ若シ八吋ヲ六割ト見レハ全体ニ於テ六割七分強トナルヘシト述ヘタリ

三、松平ハ八吋ニ付テハ米国カ一八万噸ノ権利ヲ有スルニ對シ日本ハ一〇万八千噸以上ノ権利ナキニ付結局六割トナリ日本側ノ満足ヲ得難シトテ大巡ニ付米国カ終リノ三隻ヲ建造セサル場合ニハ日本ハ現在噸数ニテ満足シ米国カ之ヲ造ル場合ニハ日本モ亦米ノ七割ヲ保有シ得ル如ク建造スルコトヲ得ヘシトノ趣旨ノ別電第一八一号ノ如キ日本側ノ一試案ヲ示シ其ノ案ノ特色ヲ説明シ米国側ノ考量ヲ求メ置キタリ松平ハ又駆逐艦ニ付米国側ハ十五万噸ニ減シタリト云フモ艦齡ノ関係上現在保有ノ大部分ハ自然ニ廢棄セラルヘキモノニシテ一九三六年ニ十五万噸迄達スルカ為ニハ多數新造スルコトナルヘキモ日本側ニテハ艦齡ニ達スルモノ専ク新造セラルヘキモノ殆ト無キ為比率ノ表面以外實際上著シキ劣勢トナルヘシトテ海軍専門家作成ノ表ヲ示シテ説明シタルニ対シ「リ」ハ右ハ一理アレトモ米国ノ駆逐艦中ニハ優秀ナルモノアリ保存ニモ注意サレ居ルニ付三十万噸ノ大部分カ廢棄セラル

訳ニハ非スト弁明シ居リタリ

四、「リ」ハ右ノ提案ヲ書物トシ二十五日夜又ハ二十六日朝持參スヘキ旨ヲ約シ松平ヨリモ米国案ニ付研究シ置クヘキハ勿論ナルモ米国側ニ於テモ日本案ニ対シ成ルヘク研究ヲ加ヘラレ度シト申シ置キタリ

五、二十七日朝「リ」ハ約束ノ書モノヲ持參セシテ來訪米国側ニテハ「リ」ノ為シタル提案ニ關シ内部ニ大議論アリ昨日中ニ纏マラス「モロウ」ハ賛成ナレトモ「ロビンソン」「アダムス」之ニ反対シ「ギブソン」ハ異議ナキモノノ如キモ議容易ニ纏マラス書モノモ亦從テ未タ準備ナラス何レ後刻持參スヘシト述ヘ尚数字ハ内部ノ反対ニモ鑑ミ「リ」ノ案トカ又ハ米国ノ提案トカ云フカ如キコトハ決シテ云ハレサルコトヲ希望スト述ヘタルニ付松平ハ先方ノ立場ヲモ考量シ之ニ同意ヲ表スルト共ニ此ノ案ニテハ到底日本全權ノ同意ヲ得ルコト能ハスト述ヘ尚日本側保有ノ艦齡超過艦（軽巡）二隻ノ代換問題ハ如何ニスル考ナリヤト試ミニ尋ネタル処代換ハナキ趣旨ナリト述ヘタルニ付松平ハ他ノ諸点ハ別トシ之丈ケニテモ代換出来サル古船二隻ヲ我保有量ノ内ニ算入スルカ如キハ

甚^タ意味ナキコトナルノミナラスノ如クムハ日本側ニテハ何等増艦セス米国獨リ建造スルコトナルヘク我造船機能ヲ停頓セシムルカ如キコトトモナルニ至リ甚^タ不都合ナリト述ヘタルニ「リ」ハ其ノ点ハ考慮スヘシト答ヘタリ松平ヨリ本案ニテハ日本側同意ヲ得ルコト能ハサルヘキニ付我方ノ試案ニ付充分考量セラレ米国側ノ意向ヲ開陳サレ度ト申述ヘ置キタル処「リ」ハ之ニ同意シ引取リタリ尚松平ヨリ米国側ニ於テ大巡ヲ確定的ニ十五隻ト為スコトヲ得サルヤト述ヘタルニ対シ「リ」ハ米国側最初ノ計画ハ三十三隻ナリシ処「フーバー」ノ尽力ニ依リ二十三隻トナリ更ニ「ゼネラルボウド」ニテ二十一隻トナリタルモノヲ漸ク十八隻迄下ケタル訳ニテ之以上ノ削減ハ目下ノ処到底不可能ナリト述ヘタリ

六、二月二十七日午後「リ」ハ書キ物ヲ持チ來訪シタルカ其ノ節古船代換ノ問題ニ関スル今朝ノ御語ヲ「スチムソン」ニ伝ヘタル処「ス」ニ於テモ右ハ充分ニ考量スヘシト申居リタリト語レリ

七、二月二十八日米国側提案ニ対シ我方ノ「コンメント」未タ成ラサリシニ付断リ旁々松平「リ」ヲ往訪シタル際

「ラット」等ニ於テ非常ニ反対シ居リタルモ軍縮ノ目的ヲ達スル為ニ切下ヶヲ断行シタル次第ナルカ米ノ六万噸ニ対シ日本カ七万八千噸ヲ要求サルルカ如キハ自分等ノ諒解ニ苦ム処ナリ

ト述ヘタルニ付松平ハ

(イ)大型三隻ノ起工カ若干繰延ヘトナルモ建造ノ権利ノ保有セラル限リ日本側ヨリ見レハ依然十八隻六割ト数量ヲ要求スル「フリー」、ハンド」ヲ有スト云フモ次回フルノ外ナク又次回會議ニ於テ日本側ハ再ヒ其ノ所要量ヲ要求スル

ニ我主張ヲ貫徹シ得ル保障ヲ有スル次第ニモ非ス仮リニ之ヲ獲得シ得ルトスルモ起工迄ハ相当年月ノ遅延ヲ免レス之ニテハ到底日本側トシ同意スルコト能ハス

(ロ)輕巡ノ保有量比較的少キモ右ハ決シテ之丈ケニテ充分ナリト云フ意味ニハ非ス日本側ニ於テ大巡ト潜水ノ所要量ニ重要性ヲ置ク結果全体ノ比率ヲ高メサル為已ムナク切リ下ケタル迄ノコトナルニ付他ノ「カテゴリ一」ノ數カ変化スル場合ニハ又此ノ数モ変化スルコトアルヘク

(ハ)潜水艦ニ関シテハ日本カ劣勢海軍国タル事實並ニ日本

「リ」ハ先日日本側ヨリ示サレタル案（別電第一八一號）ハ米国側ニ於テ到底同意シ難キ旨ヲ述ヘ結論丈ヶヲ簡単ニ書認メタル覚エヲ手交シ且英國側ニ於テモ到底承認シ得サルヘキ旨ヲ述ヘタリ

八、三月二日松平「リ」ヲ往訪シ我方第二次ノ案トシテ別電第一八二号ノ通ノ一案ヲ提示シ置キタル処

九、三日午後「リ」ハ松平ヲ來訪シ日本側第二次ノ提案ニ関シ本朝米代表全員会合ノ上審議シタルモ同意ヲ得ス英國側ニ於テモ右ニ反対ノ意向ナルカ

(イ)先ツ八時艦ニ付テ見ルニ米國カ最後ノ三隻ヲ一九三三、三四、三五年ニ起工ヲ延期セシハ米国側ニ取り讓歩ニシテ之ニ依リ日本ハ次回會議ニ至ル迄所要ノ実勢力ヲ保有シ得ルノミナラス次回會議ニ於テ更ニ全然「フリーハンド」ニテ必要トスル処ヲ主張シ得ル訳ナルニ拘ラス日本側カ更ニ同期間に大型二隻ノ建造ヲ求メラルルハ我等ノ到底同意ヲ表シ得サル処ナリ

(ロ)軽巡ノ保有量ヲ低下サレタルハ結構ナルモ

(ハ)潜水艦ノ日本側保有量ハ如何ニモ多キニ過ク米国カ現有九万噸ヲ六万噸ニ引下ケルコトニハ軍人連特ニ「ブルニ

困難ナリト思考ストテ此ノ上トモ同案ニ付講究ヲ加ヘラ
レンコトヲ望ム旨申述ヘ居リタリ
別電ト共ニ米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

(別電一)

本省 3月6日後着

第一八一号(極秘)

別電甲

一九三六年末ニ於ケル日、英、米三国ノ保有量ヲ次ノ如ク
定ム

八時巡洋艦

米国	一五隻	一五〇、〇〇〇頓
英國	一五隻	一四六、八〇〇頓
日本	一二隻	一〇八、四〇〇頓

六時巡洋艦

米国	既成一〇隻七〇、五〇〇頓新造一一八、五〇〇頓
英國	旧二一隻一〇一、二〇〇頓新一四隻九一、〇〇〇頓

日本 既成八一、五〇〇頓新造二六、三〇〇頓

駆逐艦

頓

日本 既成八一、五〇〇頓新造二六、三〇〇頓

英米両国ニ於テ其ノ潜水艦保有量ヲ減少スル場合ニハ駆逐
艦ニ於テ同量ヲ増加スルコトヲ得

(別電二)

本省 3月6日後着

別電乙

八時巡洋艦

米国、十八隻計画ヲ実行スルコト但シ第十六、第十七、
第十八ハ夫々一九三三年、三四年、三五年ニ起工スルコ
ト

日本、現ニ建造中ノ四隻ヲ完成スルノ外新艦二隻(各八
八〇〇頓) ヲ一九三三年ヨリ三五年迄ノ間ニ起工スルコ
ト

米国、「オマハ」十隻ヲ保有スル外七三、一〇〇頓ノ新
艦ヲ建造スルコト

日本、現有中ヨリ利根以下八隻三三、六二〇頓ヲ「エリ
ミネート」シ十三隻六四、八〇〇頓ヲ保有ス但シ中三隻
一五、三〇〇頓ニ対シ一五、一〇〇頓ノ代換ヲ行フコト

米国一五〇、〇〇〇頓、英國一五〇、〇〇〇頓、日本一
〇五、〇〇〇頓

潜水艦

米国八一、〇〇〇頓、英國八一、〇〇〇頓、日本七七、
九〇〇頓

総計

米国 五七〇、〇〇〇頓

英國 五七〇、〇〇〇頓

日本 三九九、一〇〇頓

英米両国ハ其ノ軽巡洋艦保有量ノ内四二、〇〇〇頓ヲ減シ
八時艦三〇、〇〇〇頓ヲ建造スルコトヲ得但シ其ノ実行ニ
際シテハ着手ノ二ヶ年以内ニ其ノ旨各締約国ニ通知スルコ
ト
日本ハ本協約有効期間内ニハ現状以上ニ八時巡洋艦建造ノ
意思ナキモ英米両国何レカニ於テ上記ノ通八時巡洋艦ノ增
加倍造ヲ実行スル場合ニハ日本ハ其ノ軽巡保有量ヲ減シハ
時艦一七六〇〇頓ヲ建造スルコトヲ得八時艦六時艦間ノ代
換標準尺度ハ仮ニ米国提案ヲ採リ一対一、四ノ概算ニ依レ
リ

375

昭和5年3月6日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

斎藤・クレイギー会談における交渉促進の具
体案摸索についてロンドン 3月6日後発
本省 3月7日前着

第一八四号(極秘)

往電第一八〇号松平「リード」会談説明トシテ其ノ前後ニ
行ハレタル斎藤「クレイギー」交渉ノ大要茲ニ電報ス
(往電第一四九号日英米会談ノ翌日(二月十八日)「ク」

ハ斎藤ニ向ヒ昨日表明セラレタル日本側立場ハ英首相ノ甚タ当惑スル所ニシテ日本側ニテ其ノ態度ヲ固持セラルニ於テハ英ハ総テ從来ノ考ヘ方ヲ改変セサルヘカラサル旨ヲ切言セル後累次八時型問題打開策トシテ御互ニ攻究ヲ重ネタル米国側起工延期ヲ根幹トシテ一案ヲ作製セリトテ左ノ案ヲ示シ

	英、米	日本
八時型	一五〇、〇〇〇	一〇八、四〇〇
六時型	一八九、〇〇〇	九五、〇〇〇
駆逐艦	一五〇、〇〇〇	九七、五〇〇
潜水艦	六〇、〇〇〇	五一、七二九
計	五四九、〇〇〇	三五三、六二九

(比率六四%)

米国ヲシテ八時型最後ノ三隻ヲ逐次一九三三、三四、五年ニ起工セシムルコトセハ其ノ竣工ニ先立チ一九三年会議開催ノ運トナルヘク日本現実七割以上ノ勢力ヲ保有シテ同会議席上其ノ主張ヲ再開スルヲ得ヘシト説明ヲ加ヘタルカ斎藤ハ右ニテハ八時型ニ関スル日本ノ立場ノ保障不充分ナルコト又給轄的比率六割四分ニテハ到底

ト云フカ如キ低率ヲ飽迄主張セラルニ於テハ実ニ會議ノ前途ヲ悲観セサルヲ得スト述ヘ英米側ニ於テ我立場ヲ諒解シ之ニ深思熟考ヲ加ヘラレントヲ求メタルカ「ク」ハ日本ノ主張モ去ルコト乍ラ從来海上ノ霸ヲ唱ヘタル英國ノ海軍力ト日本ノ海軍力トカ余リニ接近スルコトハ英國ノ到底諒解シ能ハサル処ナルヘク又米國ハ財政上租税ノ輕減ヲ延期スル丈ニテ充分建艦ヲナシ得ル立場ニ在リ相当ノ保有量ヲ主張スルハ人情已ムヲ得サル処ナリ尚英國カ海上ノ霸ヲ唱ヘタル時代ニ於テスラ一度モ自制シテ海軍制限ヲ提倡セシコトナキニ拘ラス今日容易ニ第一海軍国タル実力ヲ有スル米國カ軍縮ヲ提倡スルハ之ヲ徳トセサルヘカラス万一一回ノ會議カ不調ニ終ラハ米国民ノ神經刺戟セラレ大建造ヲ決行スヘキハ火ヲ賭ルヨリモ

考量ノ余地ナキコト等ヲ指摘シ置ケリ(提案ハ全クノ仮案ナレハ日本ニ電報セサルコトヲ希望ストノ「ク」ノ依頼モアリ尚到底受ケ容レ難キモノナリシヲ以テ當時報告ヲ差控ヘタリ)

(二)爾來隨時會談ノ機會ニ於テ斎藤ハ日本ノ總括的七割要求ハ是非共充分ノ考慮ヲ加ヘラレ度キコト及若シ六割四分ト云フカ如キ低率ヲ飽迄主張セラルニ於テハ実ニ會議ノ前途ヲ悲観セサルヲ得スト述ヘ英米側ニ於テ我立場ヲ諒解シ之ニ深思熟考ヲ加ヘラレントヲ求メタルカ「ク」ハ日本ノ主張モ去ルコト乍ラ從来海上ノ霸ヲ唱ヘタル英國ノ海軍力ト日本ノ海軍力トカ余リニ接近スルコトハ英國ノ到底諒解シ能ハサル処ナルヘク又米國ハ財政上租税ノ輕減ヲ延期スル丈ニテ充分建艦ヲナシ得ル立場ニ在リ相当ノ保有量ヲ主張スルハ人情已ムヲ得サル処ナリ尚英國カ海上ノ霸ヲ唱ヘタル時代ニ於テスラ一度モ自制シテ海軍制限ヲ提倡セシコトナキニ拘ラス今日容易ニ第一海軍国タル実力ヲ有スル米國カ軍縮ヲ提倡スルハ之ヲ徳トセサルヘカラス万一一回ノ會議カ不調ニ終ラハ米国民ノ神經刺戟セラレ大建造ヲ決行スヘキハ火ヲ賭ルヨリモ

明カナリスカル成行トモナラハ英國モ日本モ非常ノ苦境ニ陥ルヘシ此ノ点ハ御互ニ深甚ノ考慮ヲ必要トスル次第ナリト言ヘルヲ以テ斎藤ハ全然攻擊力ナキ日本ノ海軍力ヲ強テ或ル比率以下ニ置カソカ為ニ大建艦案ヲ樹ツルト云フカ如キハ不戦条約ノ精神ニ背馳シ軍縮事業ノ真諦ヲ没却スルモノニシテ平和ヲ好愛スル米國臣民ノ支援ヲ得ヘシトモ思ハレス此ノ上尚米国側トモ熟議セラレ我カ立場ニ充分考慮ヲ加ヘラレンコトヲ希望スト縷述シ「ク」ハ何トカ一種ノ「ヤードスチック」ニ依リ日本側ヨリ見レハ七割ニ近ク我方ヨリ見レハ低率ナルカ如キ案ヲ工夫スルノ外無カルヘント繰リ返シ居タリ

(三)三月三日「ク」ハ松平「リード」会談ニ牽連シ「リード」試案中八時型ニ関スル起工延期ノ主張ハ自分カ米国側ニ説明シテ承諾セシメタル処ニシテ實際上日本ノ立場ヲ充分擁護シタルモノナルニ付深甚ノ考慮ヲ払ハレムコトヲ希望スト述ヘ尚潜水艦ニ付テハ日本ノ主張ニ顧ミ五万二千余噸迄讓歩シタルカ右ハ追テ四万噸位ニ引下ケ貰ヒタキ希望ナリ兎ニ角「リード」試案ニ現ハレタル数字ハ英米側ノ之以上讓歩ヲ難シトスルモノナルニ付其ノ積

376 昭和5年3月6日 ロンドン軍縮會議全權より
整原外務大臣宛(電報)

松平・マクドナルド会談における日米間交渉

に関する意見交換について

ロンドン 3月6日後発
本省 3月7日前着

第一八五号(極秘)

予テ日英米ノ内交渉進行ノ模様ハ相互ニ通報スル約束ヲ為シ居タルニ付松平「リード」ノ交渉模様ハ米国側ヨリ既ニ英國側ニ通報シ居ルコトト察セラレタルモ我方ヨリモ之ヲ為スコト然ルヘント考ヘ三月四日松平「マクドナルド」ヲ下院首相室ニ往訪ス「クレイギー」同席松平ハ先ツ米国側ヨリノ申出テ及之ニ対スル日本側ノ意見(往電第一八〇号)ヲ詳述シ尚我別案(往電第一八一号安保案)ヲモ説明シタル處「マ」及「ク」ハ交互ニ殆ト米国側ト同様ノ所見

ヲ述ヘタルヲ以テ松平モ米国側ニ対スルト略々同様ノ応酬ヲナシ置ケリ

即チ八吋型ニ付テハ松平カ米案ノ如クンハ日本ハ何等ノ権利ナク永ク不確定ノ状態ニ止マラサルヲ得サルニ付我別案ノ如キ形式ニ出ツルコトヲ必要トスト述ヘタルニ対シ「マ」及「ク」ハ右ハ日本ノ七割主張ヲ其ノ儘認ムルモノニシテ同意スルヲ得ス「リード」提案ハ「ク」カ過去一ヶ月間苦心シテ漸ク米国側ヲ納得セシメタル方式ニ依ルモノニシテ実際勢力ヲ見レハ日本ハ有利ナリト「リード」ト同シ論法ヲ用ヒタルニ付松平ハ「リード」ニ対スルト同様ノ反駁ヲ加ヘ置ケリ「ク」ハ尚第十六隻目迄ハ日本ニ大ナル不利ヲ与ヘサルニ付第十七、第十八隻目ノ起工ヲ更ニ延期シテ一九三五年六月トセハ結局次回會議開催後起工ノコトトナシ得ルヤモ知レス米トハ未タ相談セサルモ一案ナルヘシト云ヒタルカ松平ハ夫ニテモ次回會議ニテ日本カ其ノ主張ヲ貫徹スル保障ナク国民ヲ納得セシムルコト困難ナリ從テ我別案ノ如クスル方軍縮ノ精神ニ適フヘシト説明シタルカ「マ」ハ右ハ要スルニ七割ヲ主張スルモノニシテ其ノ結果英ノ増艦ヲ招キ延テ其ノ増艦ヲ促シ鮑ゴツコトナルヘシトノ持論

小巡洋艦ニ付テハ其ノ数ノ甚タシク低下セルコト英國側ノ注目ヲ惹キタルヲ以テ松平ハ「リード」ニ対スルト同様右ハ全体比率ノ関係上現ハレタル数字ニシテ決シテ我所要量ヲ反映スルモノニアラサルコトヲ留保セリ
驅逐艦ニ付英國側カ日本保有量ノ過多ナルコトヲ指摘シタルニ対シ松平ハ米国側ハ自然的廃棄ノ数量高ク新造噸數多キ結果トナリ日本ハ建艦量少ク実力ニ於テ著シク劣勢トナルヘキコトヲ説明セリ

尚松平ハ序ヲ以テ「リード」案ニ從ヘハ一九三六年迄ニ補助艦全体ニ付英國十七万四千噸米国三十二万噸日本七万一千噸年割ニシテ英二万九千米五万日本一万一千噸ヲ建造スルコトトナリ造船機能ノ上ヨリ見テ苦痛ヲ述ヘタルニ「マ」ハ興味ヲ以テ之ヲ聽キ「ク」ハ實際ハ英國側ニ於テモ艦齡ニ達スルモノヲ廢棄セス右数字程ノ建艦ヲ為スコトナカルヘシト述ヘ松平ハ然レ共右数字カ大体ノ見当ヲ示スコトハ争フヘカラスト答ヘタリ

潜水艦ニ付英國側ハ其ノ相變ラス高率ナルヲ指摘シタルヲ以テ松平ハ「リード」ニ対スルト同シク我特殊ノ立場ヨリ

態トナルヤモ知レス然レ共今回會議開催ノ精神ハ平和増進ナル高遠ノ理想ニ基キ各国民ノ競争ヲ止メントスルニアリ實力如何ヲ出発点トシテ目的ヲ達シ得ヘキモノニ非ス從テ最モ實力アル國ヨリ先ツ自制スルニ非スンハ成功ヲ期シ難シト述ヘタルニ「マ」ハ之ヲ首肯セリ

引続キ松平ハ大型巡洋艦ニ付更ニ妥協点ヲ研究センコトヲ英國側ニ求メ「ク」ハ建造延期案以上方策ナシト答ヘ種々問題ヲ重ねタルカ尚松平ヨリ其ノ趣旨ヲ以テ斎藤「ク」問ニ会談ヲ繼續セシムル事ヲ申出英國側之ヲ了承シテ別レタリ

米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

377 昭和5年3月8日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

英國海軍予算案に関する各紙の社説について

テ考ヘ居ラサルハ御承知ノ通ナリト述ヘタルニ「ク」ハ御尤ナルカ自治領ノ関係モアリ困難ヲ感スノ所見ヲ述ヘ「マ」カ七割ハ日本ノ「マジックウエード」ノ感アリテ常ニ難局ノ淵源ヲナセリ日本ノ態度ハ余リニ軍事的ナル恨アリ万一会議不成功ニ終ル場合ハ実ハ日本側ニ於テ七割ヲ維持セラルルコト困難ナル事態ヲ招来スルノ惧アルニ非スヤ

ト述ヘタルヲ以テ松平モ米国側ニ対スルト略々同様ノ応酬ヲナシ置ケリ
即チ八吋型ニ付テハ松平カ米案ノ如クンハ日本ハ何等ノ権利ナク永ク不確定ノ状態ニ止マラサルヲ得サルニ付我別案ノ如キ形式ニ出ツルコトヲ必要トスト述ヘタルニ対シ「マ」及「ク」ハ右ハ日本ノ七割主張ヲ其ノ儘認ムルモノニシテ同意スルヲ得ス「リード」提案ハ「ク」カ過去一ヶ月間苦心シテ漸ク米国側ヲ納得セシメタル方式ニ依ルモノニシテ実際勢力ヲ見レハ日本ハ有利ナリト「リード」ト同シ論法ヲ用ヒタルニ付松平ハ「リード」ニ対スルト同様ノ反駁ヲ加ヘ置ケリ「ク」ハ尚第十六隻目迄ハ日本ニ大ナル不利ヲ与ヘサルニ付第十七、第十八隻目ノ起工ヲ更ニ延期シテ一九三五年六月トセハ結局次回會議開催後起工ノコトトナシ得ルヤモ知レス米トハ未タ相談セサルモ一案ナルヘシト云ヒタルカ松平ハ夫ニテモ次回會議ニテ日本カ其ノ主張ヲ貫徹スル保障ナク國民ヲ納得セシムルコト困難ナリ從テ我別案ノ如クスル方軍縮ノ精神ニ適フヘシト説明シタルカ「マ」ハ右ハ要スルニ七割ヲ主張スルモノニシテ其ノ結果英ノ増艦ヲ招キ延テ其ノ増艦ヲ促シ鮑ゴツコトナルヘシトノ持論

第一八八号

七日新聞情報
一昨日發表セラレタル英國海軍予算案ニ關シ諸紙社説ヲ掲

ケタル処「タイムス」ハ海相ノ行ハントスル大削減ハ此処
数年間ニ重大ナ戦争ナシトノ確信アルニ非サレハ英國ヲ余
リニ大ナル危険ニ曝スモノト謂フヘシ削減ハ比較的容易ノ
事ナルモ一旦必要アル場合ニ増大スル事ハ非常ニ困難ナル
ナサレタルモノナルモ諸外国ニシテ之ニ倣フ事ナカラシカ
這ハ財政的政治的ニ重大ナル誤謬ヲナシタル事トナルヘク

スルニアラスシテ唯現有巡洋艦ノ年齢ヲ延長スルニ過キサ
ルモノナリト言ヘリ

事ナルモ一旦必要アル場合ニ増大スル事ハ非常ニ困難ナル
ナサレタルモノナルモ諸外国ニシテ之ニ倣フ事ナカラシカ
會議ニ於テ諸國ノ一律削減ヲ規定スル五國協定ヲ得テ政府
ノ削減ハ始メテ是認セラルヘシト云ヒ「ポスト」ハ英國カ

一九三六年ニ五十隻ノ巡洋艦ヲ保有センカ為ニハ今後毎年
四隻宛建造スルノ必要アル事實ヲ指摘シテ政府ノ行ハント
スル節約ハ危險ニシテ不健全ナリ節減ノ小ナルニ比シ危險
ハ余リニ大ナリト謂フヘシ政府ハ會議ノ如何ニ不拘行ハサ
ル可カラサル事ヲ延ハシツツアルナリ国防ヲ忽ニスルハ即
チ戰争ニ至ル必然ノ途ナル事ヲ知ラサル可カラスト云ヒ
「ガーデアン」ハ政府ノ削減方針カ前内閣ヨリ繼承セラレ
タル事ヲ挙ケテ右ハ諸外國ヲ軍縮ニ導カントスル英國政府
ノ誠意ヲ示スモノナリ嚴格ニ海軍的見地ヨリ言ヘハ現在英
政策ノ意味スル処ハ其ノ巡洋艦勢力ヲ危險ナル程度迄減少

378 昭和5年3月8日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

若槻首席全權よりマクドナルド首相に對し会

議の成功を切望の旨表情披瀝について

ロンドン 3月8日前發 本省 3月8日後着

第一八九号(極秘)

四日首席全權會議直後「セント、ゼイムス」宮別室ニテ立
話ノ積リニテ若槻ハ「マクドナルド」ニ対シ會議成立ヲ切
望スル其ノ衷情ヲ披瀝シ此ノ目的ヲ以テ心胆ヲ碎キ居ル誠
意ヲ述ヘ今日迄ノ提案ニテハ何トシテモ協定ノ見込ナキニ
付此ノ上トモ英國側ニ於テ我立場ニ充分ノ考慮ヲ払ハレタ
シト希望シタルカ「マ」ハ若槻ノ心情ヲ喜ヒ能フ限リノ努
力ヲ約シ同時ニ英國側ノ苦衷ヲ縷述シテ會談測ラスモ三十
分以上ニ亘レリ其ノ日同シク「スマソン」ニモ一言シ難
局打開ノ一助タラシムル考ナリシカ折悪ク同人微恙ニテ不
来ナリシヲ以テ今七日首席會議席上難談ノ末「ス」ヲ往訪

スルコトトナリ「マ」ニ対スルト同様ノ趣旨ヲ繰返シ「ス」
モ亦其ノ困難ナル立場及め衷協力ノ精神ヲ高調スルト共ニ
協定ニ努力スヘキコトヲ確言シ約二時間ニ亘リ意見交換ノ
後早速松平「リード」會談ノ促進方ヲ計ルヘキコトニ同意
シテ退去セリ
米ヘ転電シ、仏、伊ヘ暗送セリ

379 昭和5年3月8日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

第十回首席全權會議の経過について

ロンドン 3月8日後發 本省 3月8日後着

第一九〇号

七日前十時半ヨリ「セントジエムス」宮ニ於テ首席會議

(仏ハ「タルジュウ」未着ノ為「ブリアン」米ハ「スチュ
ソン」ノ外「ギブソン」出席)ヲ開ク劈頭仏国新代表部ノ
來着歡迎及同國南部ノ水害見舞ニ閔シ挨拶ノ交換アリタル
後

一、第一委員会第一次報告書(往電第一三六号後段専門委
員ノ起草ニ係ル之カ承認ノ為特ニ第一委員会ヲ開催セス

留保スルコトナレリ

右諸点討議中若機ハ甲ノ一二関シ右ハ現有艦船ニハ關係ナク将来ニ対シテノミ同意スルモノナルコト(乙)ノイニ関シテハ日本ハ六時巡洋艦最大七〇〇〇噸乃至七五〇〇噸

最小二五〇〇噸嚮導駆逐艦最大二五〇〇噸乃至一五〇〇噸駆逐艦最大一五〇〇噸ヲ主張スルモ寿府仮協定ノ通嚮導駆逐艦最大一八五〇噸トスル場合ニハ一八五〇噸乃至二五〇〇噸ヲ不用トシ度ク右ハ輕巡洋艦ノ名ヲ以テ制限

噸数以上ノ大型駆逐艦ヲ建造スルコトアルヘキヲ防止スルノ趣旨ナリト主張シ(乙)ニ関シテハ我方カ輕巡ト駆逐艦

トヲ区別スルコトニ同意セルハ兩者間ニ相当ノ融通量ヲ認ムルコトヲ条件トセルモノナルコトヲ述ヘ且軽巡駆逐艦ト潛水艦トノ間ニモ融通ヲ認ムヘキコトヲ主張シ置キタリ又「スチムソン」ハ乙ノ(イ)ニ関シ米国カ歐州各国ト事情ヲ異ニシ艦船ノ行動範囲広キニ亘ルヲ以テ六時巡洋艦ノ艦型縮小ニハ同意シ難シト述ヘ居リタリ

二、月曜(十日)午後再ヒ首席全権會議ヲ開催シ七日午後第一委員会ノ結果ヲ考量シテ制限方式ニ関スル総会開催ノ時期ヲ決定スルコトス

4 会議の経過
右諸点討議中若機ハ甲ノ一二関シ右ハ現有艦船ニハ關係ナク将来ニ対シテノミ同意スルモノナルコト(乙)ノイニ関シテハ日本ハ六時巡洋艦最大七〇〇〇噸乃至七五〇〇噸

ノ建造ヲ行フ場合ニハ日本ニ於テモ之ニ相当スル新艦建造ノ權利ヲ有スルコトセサレハ公平ナラスト答ヘタルニ大位ハ對等トハ称シ難シ即チ米国カ十五隻ヲ超エテ一万噸級

ノ建造ヲ行フ場合ニハ日本ニ於テモ之ニ相當スル新艦建造ノ權利ヲ有スルコトセサレハ公平ナラスト答ヘタルニ大位ハ右地位ノ両國對等ナラサルコトヲ首肯シタルカ米国カ

大型巡洋艦ヲ十八隻ニ迄低減スルニ付テハ大統領並ニ政府

三、「マクドナルド」ヨリ各國間内協議促進ノ要ヲ繰リ返

シテ力説シ英仏会談ハ九日午前英仏米会談ハ十日午前之ヲ行フコトニ談合成立セリ

在米大使ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

380 昭和5年3月8日 帳原外務大臣より ロンドン軍縮會議全權宛(電報)

松平・リード会談の問題点に関する米国大使との会談について

本省 3月8日後8時発

第八七号(極秘)

三月七日米国大使來訪貴電第一八〇号松平「リード」会談ノ大要ヲ説明シタル上右ハ「リード」ヨリ電報シ来レルモノナルカ「リ」ハ恐ラク「ロビンソン」ト相談シ上院ノ批准ニ付テモ相當見込立チ居ルモノナルヘク未タ米国全權委員全部ノ同意ヲ得ルニ至ラサルモ何トカ確信ヲ有スルカ如キ書振りニテ且電信ノ末尾ニ日本カ此案ヲ承諾ストセハ西部太平洋ノ絶對的制海権ヲ掌握スルコト些ノ疑モナク從ツテ之ニ依ツテ妥協ノ望アルモノト考ヘ居ル旨ヲ付記シ居ル由ヲ内話シ右ノ案ニ依レハ日本ハ大型巡洋艦ニ付テハ其主

張ヲ拠棄スルコトナク且事實上対米七割以上ノ現有勢力ヲ以テ一九三五年ノ會議ニ臨ミ得ヘク次回會議ニ於テハ依然七割要求ヲモ自由ニ提出スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ日本側ニ於テモ格別ノ異議ナキコトト想像ス唯タ潛水艦問題ニ至リテハ其ノ解決ヲ求ムルコト甚タ困難ナルカ如シト述ヘタルニ依リ本大臣ハ米国ハ一万噸級十八隻マテ建造スル権利ヲ確保シ其ノ第十六隻ヲ一九三三年ニ起工スルモノトセハ仮リニ建造ニ三年ヲ要スルモノトスルモ一九三六年ニハ既ニ竣工ヲ見ルヘク他ノ一隻モ次回會議ノ際ニハ建造ノ工程可ナリ進捗シ居ルコトナルヘシ然カモ米国ノ此製艦計画ハ列國ノ承認ヲ経タルモノナルニ反シ日本ノ七割要求ニ付テハ列國ヨリ何等承認ノ言質ヲ取付クルコトナク唯タ一九三五年ノ會議ニ於テ之ヲ提出スルヲ妨ケスト云フニ過キススクテハ其ノ會議ニ於テ本件要求ニ關スル日米両國ノ地位ハ對等トハ称シ難シ即チ米国カ十五隻ヲ超エテ一万噸級ノ建造ヲ行フ場合ニハ日本ニ於テモ之ニ相當スル新艦建造ノ權利ヲ有スルコトセサレハ公平ナラスト答ヘタルニ大使ハ右地位ノ両國對等ナラサルコトヲ首肯シタルカ米国カ

大型巡洋艦ヲ十八隻ニ迄低減スルニ付テハ大統領並ニ政府

ヲ固持スルコトナク米国十八万噸ニ対シ十二万噸ヲ保有ス
ル権利ヲ留保シ現存ノ七千噸八時砲艦ノ代換ヲ一万噸級ニ
テ行フコトトシテハ如何トノ意見ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ
古鷹級ハ小型ニテ劣勢ナルカ故ニ今後十数年其ノ艦齡ノ到
ルヲ待チ之ヲ一万噸級ニ代換スルコトニ依リテ満足スヘシ
ト云フカ如キハ承諾スルコト難キ所ナル旨答へ置タリ
米、仏、伊ヘ転電アリ度シ

381 昭和5年3月(12)日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
松平・リード会談の内容漏洩防止方更に要望
について

382 昭和5年3月12日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
六時砲巡洋艦の最大排水量の問題に関する討
議について

383 昭和5年3月12日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
第十一回首席全權會議の議事経過について

第一九九号

十一日午後五時半ヨリ下院首相室ニ於テ首席會議ヲ開ク經
過大要左ノ通

一、十一日午後第一委員会ノ議事経過(往電第一九八号)
ニ関シ「アレキサンダー」ヨリ報告アリタル後一万噸以
下ノ航空母艦ノ問題ニ関シ右一万噸ノ制限ヲ撤去シ航空
母艦全部ヲ華府條約所定ノ航空母艦制限噸数内ニテ賄フ
ノ主義ヲ一同承認セリ

二、次ニ「マクドナルド」ヨリ各國間内協議促進ノ必要ヲ
述ヘ進捗ノ現状ヲ質問セルニ対シ「スチムソン」ハ日米
意見交換継続中ナル旨ヲ披露シ「グラント」ハ各國ノ書出
スヘキ総噸数又ハ各艦種噸数ノ提議未定ナルニ付第一委
員会ヲシテ之ヲ研究セシムルコトカ先決問題ナリト主張

頗ル懸念シ居ル關係モアリ當方ニ於ケル今後ノ交渉上極メ
テ機微ニ属スルニ付申迄モナキ儀乍ラ貴方ニ於テモ漏洩防
止方特ニ嚴重予防アラン事ヲ請フ

大臣ヘ転電セリ

第一九七号

往電第一九〇号乙ノ(1)中六時巡洋艦ノ最大及最小排水量決
定問題ニ關シテハ同電所報ノ通米國側ニ於テ最大排水量ニ
關シ異議アリタル為十一日ノ第一委員会ニ於テハ最小排水
量(所謂不建造帶問題)ニ關シテノミ討議ヲ行ヒタル次第
ナルカ同日ノ首席全權會議ニ於テ若規ヨリ為念最大排水量
ノ問題ハ如何ニ之ヲ処理スル積リナリヤト確カメタル處議
長ハ右ハ勿論後日ノ問題トシテ留保セラレ居ルモノナル事
ヲ明言セリ

セルニ対シ「ス」ハ右ハ華府條約第三条ニ依リ明カナリ
ト述ヘ「マ」ハ此ノ点何等疑義ナキニ付伊國側ヨリ速ニ
所要量ヲ書出サレムコトヲ希望スト言ヘル處「グ」ハ伊
国ハ既ニ屢声明セル通歐州ノ最大海軍国トノ均勢ヲ要求
スルモノニシテ仏國カ七一四、四七九噸ヲ要求スル限り
伊國モ之ヲ要求セサルヲ得スト述ヘ「ブリアン」ハ之ニ
対シ伊國ハ仏國ヲ目標トシテ其ノ均勢ヲ求メラルコト
仏國ノ光榮トスル処ナルモ右ハ地中海問題ニシテ他ノ地
中海海軍国ヲモ加ヘテ論議スヘク本會議ノ如キ世界的會議ニハ不適當ナリト論駁セリ

三、最後ニ「ブ」ヨリ第一委員会ノ決定セル制限方式ハ寿
府軍縮準備委員会ノ懸案ヲ解決シ其ノ事業継続ヲ可能ナ
ラシメタルモノニシテ輿論ニ対シ重大意義ヲ有スヘキヲ
以テ輿論ニ満足ヲ与フル為之ヲ議題トシ總会ヲ開催シタ
シト主張セルニ対シ「マ」ハ右以外ニ一般討議ノ題目ト
為スヘキ問題ナキヤト諮レル處「ス」ハ潛水艦使用制限
ノ問題ニ付華府條約第一条第二条復活ノ件ニ付米仏間ニ
内協議ヲ遂ケ之ヲモ併セテ總会ニ上程スルコトシタシ
ト述ヘ「ブ」之ニ賛成セリ

四、次回首席会議ヲ十三日午後再開スルニ決ス
米ニ転電シ、仏、伊ヘ暗送セリ

384 昭和5年3月12日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

補助艦総括的対英七割の要求をめぐる斎藤・

クレーギー会談の経過について

ロンドン 3月12日後発
本省 3月13日前着

第二〇〇号

往電第一八五号末段ノ趣旨ニ基キ翌五日斎藤ハ「クレイギー」ト会見シ昨日若槻、松平両全權ヨリ首相ニ申入レラレタル次第モアリ其ノ後何等カ案出スル所アリタルヤト尋ネタルニ対シ「ク」ハ我方ニテハ先日ノ案以上工夫ノ余地無シ実際ノ処我海軍当局ハ六割ヲ以テ最モ均衡ヲ得タル勢力ト確信シ居リ日本ハ一方ニ大陸ヲ擁シ他方ニ太平洋ヲ控へ軍略的ニ有利ノ地位ニアリ六割ニテ充分国防ノ目的ヲ達シ得ヘシトノ意見ナリ今日ニ於テモ其ノ根本意見ニ何等変更ナキニ拘ハラス共同和衷ノ精神ヨリ譲歩案ヲ提供シ居レリ然ルニ貴方ニテハ滯英二ヶ月半ニ亘リ種々提案アリタ

ルモ何レモ同シ主張ヲ別ノ形ニテ言ヒ表シタルモノニ過キス一步ノ讓歩ヲモ示サレサルハ失望ノ至リナリ我方ハ六割ス一歩ノ讓歩ヲモ示サレサルハ我方ヨリモ讓歩ヲ求メ何レカ中間ニテ落チ着クノ外無キニ非スヤ我方今日迄ノ提案スラ実ハ海軍側其ノ他ヨリ非常ノ非難アルヘキ事ヲ覚悟シ居レリト述ヘタルニ付

斎藤ハ出発点ヲ六割及七割ト言フハ当ヲ得サルモノニシテ出発点ハ之ヲ国防ノ平等ニ求メサルヘカラス日本ハ平等ヨリ七割ニ低下シ劣勢ヲ以テ防備ノ備ヘヲナサントスルモノナルニ拘ハラス更ニ之カ低トヲ求メラルハ我方諒得ニ苦シム處ナリ乍併此ノ種ノ議論ヲ重ヌマルモ詮ナキコトナレハ数字ニ当リテ全体的協定ニ至ルノ途ヲ探ルコトトル方然ルヘシ試ニ今日迄提出セラレタル英米案中ヨリ我ニ有利ナル数字ヲ摘出スレハ大型一〇八四〇〇軽巡一〇八〇〇〇駆逐九七五〇〇潜水艦五二七〇〇トナリ從テ我カ主張三要点ノ一タル総括的七割ヨリ見テ僅ニ七〇〇〇噸ノ差ニ過キス勿論米国案ハ輕巡中ニ一万噸ノ艦齡超過艦ヲ含ミ斯ノ如キハ我方ノ到底承認シ能ハサル処ナルノミナラス右噸数振当ハ根本的ニ改訂ヲ必要トスルコト勿論ナルモ総括的七割ヲ

認ムルコトカ事實上左程難問題ニ非サルコトハ右数字ニテ明ナルニアラスヤト説明セルニ「ク」ハ熟考ノ後更ニ七千噸ノ艦齡超過艦ヲ加ヘテ七割トスルコト不可ナルヤモ知レス日本側ノ苦衷モ御察シスルニ付其ノ点考究ヲ加フヘシト答ヘタルヲ以テ

斎藤ハ古艦ハ現ニ専門委員会ニテ討議ノ特種艦問題トモ關係アルノミナラス如何ニモ無理矢理ニ辯護ヲ合センカ為ニスルコトノ策タルノ觀アリ主義上同意スルコトヲ得ス何トカ好意的考慮ヲ以テ別ニ総括的七割案ヲ工夫セラレタシト述ヘ「ク」ハ其ノ困難ナル問題ナルコトヲ繰返シ七割ハ英國自治領等ニ対シ攻撃的勢力ナリト主張セルヲ以テ斎藤ハ其ノ意味ヨリスレハ六割ニテモ攻撃的勢力ト言フ事ヲ得且スノ如ク領土ノ一部ヲ切離シテ論スルハ不当ナルノミナラス右論法ハ六割ヲ可トシ七割ヲ不可トスル説明トハナラサル可シ加之均勢ヲ有スル米國ハ脅威トナラス七割ヲ有スル日本ハ脅威ナリト云フハ了解スル能ハサル所ナリト答ヘタリ

尚右会談中「ク」ハ大型ニ付起工延期案ハ条文ノ書方ニテ如何ニモ日本側ノ立場ヲ擁護シ得ヘキニ付是非共之ヲ認メ

385 昭和5年3月(13)日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

松平・リード両全權間の自由会談の進捗について

ロンドン
本省 3月13日前着

第二〇一号

往電第一八九号若槻「スマソン」会見後引続キ松平「リード」間ニ自由会談ヲ為サシムルコトトシ三月八日及十日ノ兩日会談シタル処「リ」ハ八日ノ会見ニ於テ貴大臣「キヤッスル」大使会見ノ情報ニモ接シ居ルニ付何トカ日本側ニテ種々考量シタルカ往電第一八〇号所報艦齡外巡洋艦ヲ二万噸ニ増加シ駆逐艦ニ於テ更ニ五千噸ヲ増シテ九万五千

岬トセハ全体トシテ米ノ五十三万三千五百噸ニ対シ日本ハ大巡ニ於テ十万八千四百噸小巡九万八千四百十五噸ノ外潛水艦五万二千七百噸総計三十七万四千噸対米七割余トナルヘキニ付之ニテ折合ハサルヤトノ申出アリタリ
松平ハ古艦ヲ加フル考ハ糊塗的ニシテ日本国民ヲシテ諒解セシメ得サルノミナラス却テ国民ニ疑惑ヲ起サシムル危険ヲ有スル案ナリ又潛水艦ニ閑スル日本ノ必要量五万二千噸ナル数字ハ日本側ニ於テ如何ニモ同意困難ナル点ナリトテ種々論議ヲナシタルカ十日ノ会見ニテ「リ」ハ大体同様ノ事ヲ繰返シタルモ唯駆逐艦ニ於テ二千五百噸ヲ増シ九万七千五百噸トスルコトニ何トカ内輪ヲ納得セシメ得ヘク從テ古艦ヲ一万七千五百噸ト前同様総計三十七万四千噸対米七割余ト為シテハ如何ト申出テタルモ松平ハ之ニ対シ前回同様承認シ難キ趣ヲ述ヘ其ノ儘別ルルコトトナレリ
尚「リード」ハ日本側ニ於ケル造艦機能保持ノ見地ヨリ必要ノ場合ニハ小巡二隻ニテモ三隻ニテモ艦齡前代換サルルコトニ異存無ク又代換ノ場合ニハ希望セラルニ於テハ艦型ヲ現在ノモノヨリモ大ナラシムルコトモ差支無カルヘキ旨ヲ述ヘタリ又以上ノ外種々ノ点ニ付意見ヲ交換シタルモ

岬トセハ全体トシテ米ノ五十三万三千五百噸ニ対シ日本ハ大巡ニ於テ十万八千四百噸小巡九万八千四百十五噸ノ外潛水艦五万二千七百噸総計三十七万四千噸対米七割余トナルヘキニ付之ニテ折合ハサルヤトノ申出アリタリ
松平ハ古艦ヲ加フル考ハ糊塗的ニシテ日本国民ヲシテ諒解セシメ得サルノミナラス却テ国民ニ疑惑ヲ起サシムル危険ヲ有スル案ナリ又潛水艦ニ閑スル日本ノ必要量五万二千噸ナル数字ハ日本側ニ於テ如何ニモ同意困難ナル点ナリトテ種々論議ヲナシタルカ十日ノ会見ニテ「リ」ハ大体同様ノ事ヲ繰返シタルモ唯駆逐艦ニ於テ二千五百噸ヲ増シ九万七千五百噸トスルコトニ何トカ内輪ヲ納得セシメ得ヘク從テ古艦ヲ一万七千五百噸ト前同様総計三十七万四千噸対米七割余ト為シテハ如何ト申出テタルモ松平ハ之ニ対シ前回同様承認シ難キ趣ヲ述ヘ其ノ儘別ルルコトトナレリ
尚「リード」ハ日本側ニ於ケル造艦機能保持ノ見地ヨリ必要ノ場合ニハ小巡二隻ニテモ三隻ニテモ艦齡前代換サルルコトニ異存無ク又代換ノ場合ニハ希望セラルニ於テハ艦型ヲ現在ノモノヨリモ大ナラシムルコトモ差支無カルヘキ旨ヲ述ヘタリ又以上ノ外種々ノ点ニ付意見ヲ交換シタルモ

大型巡洋艦ヲ増スコトニハ米国側ニ於テモ亦英國側ニ於テモ到底協議ニ応シ難キ旨強ク反対シ居リタリ
米ヘ転電シ、仏伊ニ暗送セリ

386 昭和5年3月(13)日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

米国側は最終讓歩案として事實上我が總括對の旨稟申について

ロンドン 本省 3月13日後着

第二〇二号(極秘)

昨十一日首席全權會議(往電第一九九号)席上ニ於テ座談ノ結果今十二日午前若槻ハ「スチムソン」ヲ往訪シ先ツ過般采松平「リード」会談ニ現ハレタル数字カ未タ日本全權ノ有スル訓令ノ範囲ヲ隔タルコト遠ク之ヲ基礎トシテ敢然決心ヲ定メ政府ニ考量ヲ促スノ域ニ到ラサルモノナルヲ遺憾トス我方ハ請訓ノ回答ヲ得ルニモ相當時日ヲ要スルニ付出来得ル限り速ニ何トカ考量ノ基準タラシメ得ヘキ数字ヲ得タク今日來訪シタル次第ナリト述ヘタルニ「ス」ハ松平

「リード」話合ノ数字ハ我方ニ於テ日本ノ主張ノ一タル総括的七割ニ付充分ノ考量ヲ加ヘ難キヲ忍ヒテ之ヲ充サンコトヲ認メタル対案ナルカ如何ナル点カ最困難ヲ感セラルル儀ナリヤト質問セルニ付若槻ハ第一大型ニ付權利ノ不確定ナルコト第二潛水艦噸数ノ過少ナルコト第三古船ヲ以テ総括的七割ヲ充サントスルノ彌縫的ニシテ到底承認シ難キコトヲ力説セルニ
「ス」ハ兎ニ角松平「リード」談合ノ数字ヲ検討シテ案ヲ練り度シトテ往電第二〇一号ノ数字ヲ擧ケ尚「リチャード」ヲ参加セシメテ種々討議ノ末輕巡ヲ艦齡内トスルコトトシ大型米一八〇、〇〇〇日一〇八、四〇〇輕巡米一四三、五〇〇日一〇八、四五駆逐米一五〇、〇〇〇日九七、五〇〇潛水艦米日何レモ五一、七〇〇合計米五一六、二〇〇日三六七、〇一五即總括的六割九分七厘余ヲ計上セリ右討論中若槻ハ口ヲ極メテ大型ニ閑スル我主張ヲ縷説シタルモ「ス」及「リ」ハ議會ノ決定セル製艦計画ニ変更ヲ加ヘテ起工延期ヲ為スコト迄譲歩シタル以上此ノ上ハ一步モ譲歩ノ余地無ク八千八百噸型二隻ハ勿論一万噸型一隻ヲ加フルコトモ將又十二万噸代換ノ権利ヲ認ムルコトモ此ノ堪

「ス」ハ実ハ英米間ニハ既ニ協定進ミ何時ニテモ條約ヲ締結シ得ル状態トナリタルカ是非共日本側ニテモ此ノ辺ニテモ譲歩ノ余地無ク八千八百噸型二隻ハ勿論一万噸型一隻ヲ加フルコトモ將又十二万噸代換ノ権利ヲ認ムルコト希望ニ堪

ヘスト切言シ若槻ハ右ノ数字ハ尚責任ヲ以テ政府ニ提示シ兼ヌルヲ遺憾トス依テ甚々心苦キ儀乍ラ今日ノ話ハ一応此ノ場限リト致シタシ但シ御趣旨ノ存スル處ハ尚深甚ノ考量ヲ加フヘシト述ヘ引取リタリ

今日ノ会談ノ模様ヨリ得タル印象ニ依レハ日米間ニハ之上日本ヲ有利ニスル見込立タス不取敢申進ス

米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

ルヲ得スト論シ又会議ノ将来ニ関シテハ英米ニシテ安全保障条約ニ賛同スルコトナク又伊国カ依然仏國トノ「パリチイ」ヲ要求スル以上会議ハ來週中ニ決裂スルノ外ナカルヘシトノ観測ニ一致シ居レリ

米ニ転電シ、倫敦全權及伊ニ郵送セリ

387 昭和5年3月13日 在仏国河井臨時代理大使より
幣原外務大臣宛(電報)

安全保障条約問題に関する各紙の論評について

3月13日後発
本省 3月14日前着
パリ 3月13日後発
本省 3月14日前着

第八一号
安全保障条約問題ニ関スル倫敦會議ノ経過ニ関シ当地諸新聞紙ハ本件仏國側ノ要求ニ対スル英米ノ反対ノ原因ハ主トシテ米國上院ノ意向ニ基クモノナリトナスト共ニ仏國トシテハ右要求ニシテ容レラレサル以上其ノ国防上ノ絶對的必要ニ基キ今日迄主張シ来レル海軍力ヲ一頓タリトモ減少ス

388 昭和5年3月14日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
請訓の一部修正方について
ロンドン 本省 3月14日後着
第一〇四号(極秘)
往電第二〇二号末尾「今日ノ会談ノ模様ヨリ得タル印象ニ依レハ日米間ニハ之上日本ヲ」トアルヲ「今日ノ会談ノ模様ヨリ得タル印象ニ依レハ此ノ儘ノ押問答ニテハ日米間ニハ差當リ之以上日本ヲ」ト修正セラレタシ
米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

389 昭和5年3月14日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
八時砲巡洋艦、輕巡洋艦及び潜水艦問題に関する

若槻全權とマクドナルド、クレーギーとの会談について

別電

三月十四日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第二〇七号

八時砲巡洋艦の保有量に関する英米側提案

本省 3月14日後着
ロンドン

第二〇五号(極秘)

三月十三日午前若槻ハ「マクドナルド」ヲ首相官邸ニ往訪シ(斎藤「クレーギー」同席)其ノ後松平「リード」及若槻「ステイムソン」ノ間ニ行ハレタル会談ノ大体ヲ内報シ

次テ「マ」トノ間ニ八時艦問題ニ関スル我方主張ニ付問答ヲ為シタルカ結局「マ」ハ英側トシテハ日本側カ八時艦一隻ヲ建造スルコトモ及十二万噸代換ノ権利ヲ有スルコトニモ同意スルコトヲ得ス同問題ニ付テハ次回会議ニ対スル留保ノ形式ニテ満足セムコトヲ望ム旨ヲ繰返シ述ヘ当座ノ思付トシテ別電第二〇七号(一)ノ趣旨ノ留保案ヲ読ミ聞カセタリ

若槻ハ留保案ニ付テハ米國側ヨリモ話アリ我代表部ニ於テ

一應考究シ見タルモ我方ニ満足ヲ与フル文案ヲ見出シ得サ

ルコト及「マ」ニ於テモ此ノ上考究セラレタシト答
右ニテ「マ」首相ハ國務ノ為中座スルコトトナリタルヲ以テ首相ノ依頼ニ依リ「クレーギー」ト会談ヲ統ク
「ク」ハ十二日日米会談ニ於ケル日本ノ六時艦保有量ハ如何ニモ高キニ過キ英側トシテハ海軍部ヲ説得スルコト困難ナリト述ヘタルヲ以テ「若」ハ日本側トシテハ其ノ保有量中ニ艦齡超過艦ヲ加算スルカ如キハ議會、國民ニ対シ説明ノ余地無ク到底承服シ得サル旨ヲ繰返シ述ヘタル处「ク」ハ「若」ニ於テ他ノ問題ニ付日本側ノ同意取付方ヲ引受クヘシトノ首席全權トシテノ言質ヲ与ヘラルニ於テハ首相ニ説明ノ上英海軍側ノ説得ヲ試ムヘキモ右ノ保障無クシテハ却テ有害ナル結果ヲ齎ラスヘシト答ヘ結局本問題ハ此ノ儘ト為シ置クコトトセリ

次ニ潛水艦ニ付「ク」ハ日英米三国ノ間ニテハ五万二千噸ニテ英國側トシテモ差支無キモ仏ノ潛水艦保有量多キトキハ更ニ再考ノ必要アルヘク要ハ仏國ノ態度ニ依リ最終的ニ決定セラルヘキモノナリト述ヘ居タリ

米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ
(別電)

ロンドン 3月14日後発
本省 3月14日後着

第一〇七号（極秘）

次回会議迄ニ米国カ八時巡洋艦ノ第十七隻目以後ヲ起工スルトキハ日本ハ比例的ニ其ノ八時砲艦保有量ヲ増スコトヲ主張シ得ヘシ但シ他ノ締約国カ之ニ対シ異議ヲ唱フルコトヲ妨クルモノニ非ス

（一）米国側提案

日本ハ本条約有効期間経過後ニ於テ古鷹級ヲ艦齡満期ノ際一万噸型ニ代換スルコトヲ得ルコトヲ主張スルノ権利ヲ留保ス

右ハ何レモ即席ノ思付キトシテ起案サレタルモノニシテ只其ノ趣旨ヲ表ハシタルニ過キス字句ノ末ハ如何様ニモ工夫シ得ヘシトノ意味ニテ提出セラレタルモノナリ御参考迄米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

390 昭和5年3月14日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

若槻・リード会談における米国側最終譲歩案

の提示について

ロンドン 3月14日前發

本省 3月14日後着

第一〇六号（極秘）

三月十三日午後「リード」若槻ヲ來訪シ昨日來米国代表ノ間ニ種々協議ヲ凝シタル処昨日「スチムソン」ノ提示セル小巡ニ於テ米国十四万三千五百噸ニ対シ日本十万八千四百十五噸ナル数字ハ日本ノ対米比率七割五分五厘トナリ如何ニモ高率ニ過クトテ海軍側ノ反対モ激シク切メテハ七割ニ相当スル十万四百五十噸ニ改メタシトノ希望ナリト申出タルニ付若槻ハ実ハ昨日來日本側ニ於テモ昨日ノ提案ニ付種々考究シ居ル処何分ニモ八時砲艦ニ関スル保障充分ナラス又潛水艦ノ数量モ少ク彼此苦慮シ居ル次第ナルカ更ニ小巡ノ噸數ヲ減シ自然總体ノ比率ヲモ低下セシムルコトハ自分ヲ益々困難ナル立場ニ置クモノナリト述ヘタリ「リ」ハ然ラハ小巡ヲ七割ニ止メ別ニ若干ノ古船ヲ加ヘ總体ノ比率ヲ七割ヲ多少越ユルカ如ク按配スルコトモ一案ナリト申出タルモ古船ヲ加フルハ前回ニモ述ヘタル通り國民ニ誤解ヲ与フル虞アリ面白カラストテ若槻ヨリ反対シ夫ヨリ種々ノ応答アリタル結果結局「リ」ハ米国ノ保有量ヲ昨日ノ通トシ日本大巡十万八千四百噸小巡十万四百五十噸駆逐十万五千

五百噸（此ノ点前回ニ比シ増加）潛水五万二千七百噸合計三十六万七千五十噸即チ米国ノ五十二万六千二百噸ニ対シ六割九分七厘五毛ノ数字ヲ提示シ之ニテ日本側ヲ纏メラル

ル様御考量アリタク尚八時艦ニ関スル日本ノ立場ヲ留保スル方式ニ付仮ニ一案ヲ立ツレハトテ即座ニ別電第二〇七号

391 昭和5年3月14日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

米国側は補助艦總括的七割の我が要求を承認
しこれ以上譲歩せしむるは困難の旨具申について

二隻新造ノ問題練習用トシテ日本ノミ若干ノ老齡艦保有ノ問題等ノ審議ニ関シテモ特ニ専門家ニ訓令シテ日本側ノ希望ニ副フ様取計ハシムル等出来得ル限り御尽シ居ル次第ニ付右様ノ事情モ篤ト御諒察ノ上此ノ辺ニテ折合ハレ仏伊ノ参加困難ナル場合ニハ日英米三国ノミノ協定ナリトモ速ニ成立セシメ得ル様考量方希望ニ堪ヘスト申述ヘタリ若槻ハ右ニ対シ本提案中ニハ困難ト認メラルル処モアレト兔ニ角

申出ノ八時艦ニ関スル留保案ニ付テモ亦新ニ提示サレタル数字ニ付テモ充分ニ協議ヲ遂ケ置クヘシト約シ置キタリ尚潜水艦ニ関シ若槻ヨリ日本ノ所要量ト五一七〇〇噸トハ其ノ間ノ開キ余リ大ナリ此ノ数字ヲ増シタル「パリチー」ト

過去二ヶ月余ニ亘リ終始一貫我主張ヲ固持シ遂ニ英米側ヲシテ我方ノ態度ヲ以テ余リニ融通性ヲ欠キ自國ノ立場ニ固着シテ國際協調ノ精神ヲ發揮セサルモノナリトノ不満ヲ洩ラサシムルニ至リタルニ拘ラス毫モ主張ヲ弛ムルコトナク英米側カ強テ不合理ナル低率ヲ我ニ押付ケントスルニ於テハ敢テ決裂ヲ辞セサルノ決意ヲサヘ仄カシテ隱忍先方ヲシテ我主張ニ接近セシメムコトニ努力シタリ
然ルニ最近松平「リード」会談ニ次キ十二日若槻「スチム

ソン」会談ニ於テ看取セラル通米國側ハ事實上既ニ總括的七割ノ原則ヲ認メタルモノニシテ二厘余ノ開キアルコトハ事實ナルモ之米國側カ全然日本ノ主張ニ屈服シタリトノ批難ヲ避ケ乍ラ日本ノ希望ニ副ハムトスル苦心ノ存スル所

会議決裂防止の為の努力に関する各紙の記事について

批難ヲ避ケ乍ラ日本ノ希望ニ副ハムトスル苦心ノ存スル所ナルヘク大型巡洋艦ニ付テハ我主張ニ副ハスト雖事実次回

會議迄ハ大体我方ハ七割以上ハ勢力ヲ保有スルモノト見ル
コトヲ得ヘク潛水艦ニ付テハ我主張ニ比シ少量ナルノ貴感

ハアルモ先方カ其ノ保有量ヲ低下シテ我ト均勢ヲ申出テタルハ一ノ讓歩ナリト認ムルヲ得ヘシ本委員等ノ見ル所ニ依レハ新ナル事態ノ発生セサル限り彼ヲシテ之以上ノ讓歩ヲ為サシムルコトハ難シキモノト認ム然ルニ仏國問題カ中心トナリテ五國協定不成立ニ終ル場合ハ兎モ角日本ノ態度ニ依リテ今回ノ會議ノ破綻ヲ見ルカ如キ場合ニ立到ラハ諸般ノ關係上我方ニ重大ナル影響ヲ及ホスコトトナルヘキニ付深キ考察ヲ為ササルヘカラス今後仏伊ノ態度其ノ他事態ノ推移ニ鑑ムヘキハ勿論ノ義ナルモ此ノ際政府ニ於テ前述交渉ノ成行ニ対シ御考察ヲ加ヘラレ何分ノ御回訓アランコト

尚「テレグラフ」ハ會議決裂防止ノ為仮令内容空虚ナリトモ一定ノ協定ニ達シ参加国ノ面目ヲ立テントスル最後ノ努力各方面ニ行ハルヘシ即チ之迄ニ合意成リタル抽象的並ニ技術的諸点ト日英米三国間ノ実質的協定トヲ包含スル如ク条約ノ成立スル可能性アルヘントノ記事ヲ掲ケタリ

393 昭和5年3月15日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

日本間交渉の經過発表方に関する米国全權の
希望について

393
昭和5年3月15日
ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

ロンドン 3月15日後発
本省 3月16日後着

三月十三日 「リード」 松平ヲ來訪ノ際 「リ」 八日米間交渉

ニ関スル数字カ個々区々ニ外界ニ洩ルルコトハ甚タ面白カ
ラサルニ付此ノ際日英米ニテ経過ノ大要ヲ新聞ニ発表スル
コトト致シ度キ「スチムソン」ノ希望ナリトテ詳細ナル数
字ヲ示シ之ヲ各政府ニ請訓セル旨ノ声明書案ヲ示シタルニ

392
昭和5年3月14日
ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

ロンドン
本省
3月14日後発
3月15日前着

第二〇九号

諸新聞ノ一樣ニ記ス所ニ依レハ十三日會議失敗説盛ニ流布セラルルト共ニ各国全權ノ間ニ決裂防止ヲ目的トル私的會談統々行ハレ從テ同日開カルル予定ナリシ首席全權会合モ之カ為取消シトナリタリ英米ハ仏伊ノ説得ニ力メ伊国ニ向ツテハ仏国ト無関係ニ其ノ所要數量ヲ提示スヘク懲憲シタルモ伊国ハ今ノ讓歩ハ将来ノ主張ニ禍ヲ為スコト並ニ英米カ華府會議ニ於テ仏伊均勢ノ原則ヲ認メタルコト等ヲ理由トシテ応諾セサリシ旨伝ヘラル同日夕刻「ブリアン」カ記者団ヲ引見シテ「余ハ立腹シ居ラス余カ帰国スヘシト云フハ真ナラス會議ハ何等カノ成果ヲ齎スヘク此ノ見解ヲ懷ク限リ余ハ倫敦ニ止マルヘシ」ト語レルコト並ニ英國官辺ニ於テ同日會議ノ結果良好ナル旨述ヘタルコト等ハ會議決

付松平ハ日本側ニハ種々ノ事情アリ今直ニ斯ノ如キコトヲ
發表スルニ於テハ面白カラサル結果ヲ誘致スルノ惧アリト
テ反対シタル処右様ノ御意見ナラハ發表ヲ見合ハスヘシト
テ引取レリ

尚其ノ後松平ヨリ若槻ニ以上ノ会談ヲ伝ヘタルニ對シ若槻
ハ本件ノ如キ交渉未タ纏ラサルモノヲ交渉未了前發表スル
ニ於テハ交渉ノ前途ニ不測ノ障礙ヲ來スヘキヲ以テ其ノ趣
旨ヲ今一応「リ」ニ話シ置クヲ必要トシ松平ハ「リード」
ヲ訪問シ發表ハ全然見合セラレタシト申込タリ

尚右ノ次第ハ「システムソン」ヨリ「マクドナルド」ニ對シ
テモ申伝フルコトニ取計ヒタリ

米ヘ転電シ仮、伊ヘ暗送セリ

米国側最終譲歩案に関するリード全権の私

をキャッスル大使より内示について

卷之三

第九〇号（機密）
十四日午後米国大使來訪 「スチムソン」 ヨリ貴電第一〇一

号会談ノ内容電報ニ接セル旨ヲ告ケ右ト同時ニ別ニ「リード」ヨリノ私電ヲ内示セリ之ニ依レハ仏國カ今日ノ如ク難

問題ヲ提起シテ已マサルニ於テハ米国ハ英國トノ間ニ話合
纏リタル所ヲ両國間ノ条約トシテ締結スルコトトスヘク此

場合ニハ華府条約ニハ全ク触レサル考ナリ此際若シ日本ト

ノ間ニモ協定成立スルコトヲ得ハ特ニ良好ナル反響ヲ輿論

ニ与フヘク若シ協定カ英米両國間ニ限ラルコトトスヘク此

日本ニ對スル関係ニ於テ洵ニ悲シムヘキ結果ヲ見ンコトヲ

恐ル米国ハ輕巡洋艦、潛水艦、老齡艦 制限外艦船速力等

ノ種々ノ問題ニ関シ難キヲ忍ヒテ日本ノ主張ヲ容レ來リタルモノナルカ故ニ今回「スチムソン」ヨリ日本全權ニ提案

セル所ハ最早之以上讓歩スルコト不可能ナリトノコトナリ

右提案ハ若規全權ヨリ日本政府ニ recommend セラレタル

コトト思考スト述ヘタルニ付本大臣ハ右提案ニ付テハ單ニ

報告ニ接シタルノミナルカ全權ヨリ意見ノ稟申ヲ見タル上

ニテ何トカ考慮ヲ加フヘキ旨答ヘ置タリ

米、仏、伊ヘ転電アリ度シ

395 昭和5年3月15日 堀海軍省軍務局長より

左近司ロンドン軍縮會議首席隨員宛

三隻ノ起工及竣工予定ハ全權第一八〇号電ノ通リ一九三

(一)二十粍砲搭載巡洋艦米國保有量十八隻中第十六隻目以後

三年ヨリ一九三五年迄ニ起工シ一九三五年以前ニハ竣工

セサルモノト了解シ差支ナキヤ

(二)全權第二〇六号電ニ指示シアル日米保有量ハ英國側ニ於

テモ承認セルモノナルヤ

(三)補助艦艦種別英國保有量

(四)一九三六年迄ノ我補助艦艦種別新造量(権利トシテ各國

ト明カトナレルニ付客月公表セル仏所要噸数ヲ低下スル

コト困難ナリ

(一)八時一万噸巡洋艦ニ関シテハ伊ノ六隻ニ対シ三十六年末

ニ於テ十二隻ヲ要スル旨ヲ述ヘタルカ英海相ニ於テ難色

アリタリ

(二)潛水艦ハ御承知ノ通仏國国防ノ一大要素ニシテ且根拠地
ノ鮮少殖民地ノ広大ナルニモ鑑ミ所要噸數十萬噸シ其
ノ内三隻ハ大型ノモノト致度ント述ヘタルニ対シ英海相
ハホンノ思ヒ付トシテ六万六千噸ヲ提示シタルカ同意困
難ナリト答ヘタリ

(四)仮領「アフリカ」ト本國トノ交通保持ハ仏ノ最モ重要視

スル處ニシテ海外領域ヲ有セス单ニ地中海ノミヲ考慮ス

レハ足ル伊國トノ「パリチー」ハ同意最モ困難トスル處

ナリ尤モ仏所要額ト雖不動ノモノニアラサルヲ以テ要ハ

伊國側カ現ニ提示ヲ迫ラレツツアル同國所要數如何ニ依

リテ定マルモノト言フヘク此ノ点ヨリ見タル伊國ノ本會

議ニ對スル責任ハ大ナリ

十五日正午半仏海相「ジュメニル」新任挨拶ノ為若規財部
ヲ來訪シ着英後直ニ來訪スヘキ次第ナリシモ新任早々ノ事
ニテ火急英海相ト折衝ノ要アリシカ為遲延シタリト謝シ且
會議開催以来我方カ常ニ誠意ヲ以テ仏側ニ対シツツアルハ
感謝ニ堪ヘスト述ヘタルニ対シ若規ハ同海相新任ニ祝賀ノ
意ヲ表シ從来同様會議成功ノ為常ニ接触ヲ保ツハ我方ニ於
テモ大ニ希望スル処ナリト答ヘタリ尚右機會ニ於テ英國側
トノ交渉振リニ関シ同海相ノ語レル処大要左ノ如シ

(一)地中海協定ニ付英米側ノ同意取付ケ方不可能ナルコト殆

(写)

主務提案 軍務局

三月十五日午後十一時五十五分発電済

発信者 軍務局長

受信者 左近司中將

軍縮官房機密第五四番電

について

米國側最終讓歩案に基づく請訓に関する照会

(電報)

海相ハ会議成功ヲ衷心希望スルハ全ク御同感ニシテ右目的ノ為今後トモ努ムヘキ旨ヲ述ヘ辞去シタリ

米国ヘ転電シ、仏、伊ヘ暗送セリ

397 昭和5年3月17日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

日米妥協案に対する英國側の態度に關しリー

ド全權より説明について

ロンドン 3月17日前發
本省 3月17日後着

第二二三号(極秘)

三月十四日「リード」松平会談中日米交渉ノ経過発表ノ件ニ関スル部分ハ取急キ往電第二一一号ヲ以テ電報致シ置キタル處其ノ他右会談中御参考ニ值ヒスヘシト信セラル点左ノ通申進ス

十三日日本側ニ申出テタル数字ニ付米国全權及顧問等ノ會議ヲ開キ相談ヲ為シタル處反対スルモノモアリタレトモ大体ニ於テ承認ヲ得タリ又英國側ニ対シテモ「スチムソン」及自分ヨリ「マクドナルド」「アレキサンダー」「クレーギ」等ニ右ノ数字ヲ示シ相談シタルニ英海軍側ノ主ナル人

々モ之ニ加ハリ種々ノ議論アリタルモ結局右ノ数字ナラハ承諾差支ナカルヘシトノコトナリ但シ日本カ八時巡洋艦ニ関シ留保ヲ付スル場合ニハ英國モ亦之ニ対抗スル留保ヲ為スヘキ旨述ヘタルニ付若シ英國側ニ於テ右様ノ留保ヲ為ス

ニ於テハ米国ニ於テモ亦日英ノ留保ニ対抗スル留保ヲ為スヘシト申シ置キタリト語レリ

米ニ転電シ、仏、伊ニ暗送セリ

398 昭和5年3月17日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

日米妥協案の成立並びに英仏交渉の経過に關する新聞報道について

ロンドン 3月17日後着
本省 3月18日後着

第二二五号

十七日新聞情報

一、本日ノ各紙ハ日米協定成立セル旨ノ報道ヲ掲ケ居レル處「テレグラフ」ハ右協定ノ内容ハ八時巡米一八〇、〇〇〇日一〇八、四〇〇六時巡米一四四、〇〇〇〇日一〇〇、〇〇〇〇駆米一五〇、〇〇〇〇日一〇四、〇〇〇〇潜米日

共五一、〇〇〇頓右総括比率六九、五四「パーセント」ニシテ尚「リード」ハ戦艦ヲ速ニ廃棄シテ一五一一五ー九隻トナスコトヲモ提案スヘシト報シ「マンチエスター、ガーディアン」ハ「ロイテル」東京来電トシテ日米補助艦協定ニ関シ主ナル新聞ハ満足ノ意ヲ表シ居リ報知ハ日本ハ右協定案カ仮令原要求ニ達セサルモ万一協定不成立ニ終リン時ノ不幸ナル結果ヲ思ヒ之ヲ受諾スルコト賢明ナルヘシト云ヘリ一般ニ信セラル処ニ依レハ海軍部内ニ於テ八時巡洋艦ニ関シ強硬ナル反対予期セラルモ政府ハ近ク承諾ノ電報ヲ發スヘシトノ記事ヲ掲ケリ

二、「テレグラフ」ハ仏ニシテ其ノ一九三六年末ノ勢力ヲ低下セサル場合英カ英米仮協定以上ニ増加ヲ要求スヘシトノ意見「マクドナルド」「アレキサンダー」及自治領代表間ニ採択セラレタリトノ記事ヲ掲ケ左ノ数字ヲ記セリ

駆逐艦ヲ五万噸増製シテ二十万噸トシ巡洋艦三万五千噸ヲ増製シテ三七四、〇〇〇頓トス右ノ内八時巡十五隻ヲ十七隻ニ六時巡三十五隻ヲ四十隻ニ増シ巡洋艦合計五十七隻トス

三、昨十六日「タルジュ」ハChequersニ「マクドナルド」

ヲ訪問シ会談四時間余ニ及ヒタル處右会談内容トシテ「タイムス」ハ「マクドナルド」カ五國協定ニ政治的条項ヲ插入スルコトニ反対ナル態度ヲ確立シタルニ対シ「タルジュ」ハ伊国ノ均勢要求ニ反対ナル仏國ノ態度ニ對スル支持ヲ取り付ケタリト云ハルト報シ「テレグラフ」ハ昨日ノ会談ニ於テハ政治問題ニハ触レス専ラ英仏海軍ノ統計数字即チ大巡潛水艦問題等ヲ主題トシタリト伝ヘ居レリ諸紙ノ報道「ナラス」「タルジュ」ハ同夕刻記者団ニ対スル声明書中ニ於テ(吾人ハ急クコトヲ必要トセス成功ヲ必要トス余ハ満足ナル結果ニ到達スヘシトノ確信ヲ有ス云々)ト云ヘリト伝ヘラレ先週末ノ危機ハ延期セラレ從テ解決ノ余地ヲ存スルコトナリ会議ノ前途ニ多少ノ希望ヲ添ヘタリトスル観測各紙ニ通シ行ハル

四、「テレグラフ」ハ社説ヲ掲ケ真ノ五国海軍協定ノ成立ハ第一仏國カ何ノ程度迄其ノ所要数量ヲ低下スルヤニ依ルヘシ仏國カ何ノ程度迄伊國ノ均勢要求ヲ容ルルヤニ依ルヘシ英國カ歐州海軍國トノ関係ニ於テ英米協定ノ数字ヲ増大スルコトヲ余儀ナクセラルヤモ知レストノコトハ「フーヴア」「マクドナルド」会談ノ基幹ヲ為シタルモノ

ニシテ英國政府ハ不幸ニシテ海軍拡大ニ迫ラレタル場合ニハ何等逡巡スルコトナカルヘク英國ノ軍縮熱カ主トシテ負担過減ノ必要ニ基キタルモノトセル仏國ハ英國政府ノ此ノ態度ニ一驚ヲ吃シタリ若シ英國ニシテ拡大スル時ハ日米モ亦同様ノ挙ニ出ツヘキヲ以テ仏國ノ決意ハ其ノ影響全世界ニ及フモノト云フヘシ世人ノ注視ハ今ヤ東京ニ向ケラレ「リード」ノ所謂最終的提案ニ対スル日本政府ノ回答ヲ待チツアリ該提案ハ日本ノ主張タル七割トハ多少ノ懸隔アルモ経費節減ヲ希望シ真ニ平和的精神ヲ有スル日本ノ回答ハ相当ノ信頼ヲ以テ之ヲ待ツコトヲ得ヘシ茲ニ於テ力説スヘキハ仏國カ其ノ海上安全ノ為不可欠ナリトスル大ナル数字ヲ断然削減スルコトハ會議ニ対スル最大ノ期待ヲ満足セシムルニ最重大ナル関係ヲ有ストノコトナリ云々ト云ヘリ

米ニ転電、仏、伊ニ郵送

399 昭和5年3月18日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

日米妥協案及び英仏会談に関する新聞報道について

ノ警戒ヲ促セリ

外務省ニテハ何等政府ノ意見ヲ発表スル能ハスト云ヘリ海軍ノ態度ニ鑑ミ外務省カ現在如何ナル声明ヲ為スコトモ極メテ不得策ナルヘシ但シ海軍カ現ニ討議中ノ提案ニ対スル批評ヲ民衆ニ訴フルニ至リタル事実ハ海軍ト政府ノ多大ノ懸隔アルコトヲ強ク示スモノナリ

二、本日ノ各紙ヲ通覽スルニ「テレグラフ」及「ヘラルド」カ日本間協定ハ未タ成立セサル旨ヲ報シタル外「タイムズ」「ポスト」「ガーディアン」等社説ニ於テ日米間協定既ニ成レル旨ヲ引用シ仏伊ノ妥協ヲ促ス趣旨ノ論ヲ掲ケタリ

三、十六日「マクドナルド」「タルジュ」会談内容ニ関シ各紙諸種ノ報道ヲ掲ケ居レル処「タイムズ」ハ右会談カ全然海軍噸数ノ数字ニ関スルモノナリシ旨ヲ伝ヘ「テレグラフ」ハ右会見ニ於テ「マクドナルド」ハ「タルジュ」ノ申出ニ依リ伊国ニ強キ圧迫ヲ加ヘテ其ノ要求量ヲ均勢ヨリ遙カ以下ニ低下セシムルコトニ同意シタリトノ風説日曜日ヨリ盛ニ行ハレタルモ右ハ全ク事実無根ナル旨並ニ伊国ハ去ル金曜日仏國ニ対シ均勢ノ原則ハ之ヲ維持シツツモ一九三六年迄ハ主力艦休日ヲ為シ其ノ現有勢

ロンドン 3月18日後発
本省 3月19日前着

第二二六号

一、「タイムズ」ハ海軍省ノ非難ト題シ左ノ通十七日東京特電ヲ掲ケタリ

日本海軍省ハ同日夜国内新聞ニ次ノ声明ヲ発表シ痛烈ニ米国妥協案ヲ非難セリ(一)米国ハ一九三六年迄ニ一万噸巡洋艦十五隻ノミヲ完成スルノミナルモ一九三三年ト一九年五年ノ間に於テ更ニ三隻ヲ起工シ以テ終局ニ於テ十八隻ヲ獲得シ日本ヲ六割ニ釘付ケセントナスモノナリ(二)潛水艦五万二千噸「パリチー」ナル米提案ハ日本ヲシテ一隻ノ潛水艦ヲ建造シ得サラシムルモノニシテ其ノ結果潛水艦廃止ノ第一歩ニ進マントスルモノナルハ明カナリ(三)日本ノ最モ重要トスル要求ハ一万噸巡洋艦七割ト適當ナル潛水艦勢力トナリ若シ此ノ二点讓歩セラルニ非スンハ日本ノ要求ハ満サレサルナリ

右声明ハ結論トシテ米提案ハ外面的ノミノ讓歩ニシテ日本ノ要求達成セラレタリトナスカ如キ報道ニ対シテ国民

ハ認メ難シト答へ置キタリ
米へ転電シ仏伊へ暗送セリ

ハ認メラル日本ノ潜水艦現有保持ノ要求ハ過大ナリト

セラレタルカ大戦當時ノ経験ニ依レハ修理其ノ他ノ関係

上現実ニ戦争ニ使用セラルモノハ全隻数ノ三分ノ一過

キサルニアラスヤ日本ノ総括的七割ノ要求ハ大巡七割及

充分ナル潜水艦勢力維持ノ二大眼目ヲ含ムモノナルニ付

右二点容認セラレサル限り日本ノ七割要求実現セリトハ

云フヲ得ス米国最後ノ提案ハ表面上ハ讓歩トナリ居ルモ

實質上其ノ原主張ヲ維持スルモノナリ右ノ事実ヲ知ラサ

ルカ又ハ何等カ為ニスル宣伝ニ基キ米国ハ日本ノ要求ヲ

認メタリトノ説行ハレ居レルカ右ハ日本国民ニ著シク誤

レル情報ヲ与フルモノナリ日本海軍ハ断シテ斯ル提案ヲ

第九七号 軍縮新聞報

第九七号

(一)十七日発紐育「ヘラルド」東京特電ハ同日海軍当局ノ談
トシテ左記ノ通報シタルカ紐育「タイムス」東京特電及
A、Pハ其ノ概要モ報シ居レリ

八時大型巡洋艦ニ付米国ハ一九三六年迄日本ニ対シ現有
勢力保持ヲ認ムル一方米国自身ハ十五隻ノ新艦ヲ完成シ
其ノ上一九三三年一九三四年及一九三五年ニ各一隻ヲ起
工セントスルモノニテ結局右ハ日本ヲ十対六ノ比率ニ引
留ムルモノナリ潜水艦ニ關シ米国ノ五二、〇〇〇頓「パリ
ティ」ノ申出ハ日本ニ対シ一隻ノ代換スラ之ヲ拒絶セル
モノト同様ニシテ結局ニ於テ潜水艦ヲ全廃セントスル努

受諾セス

(二)十八日ノ華府「ポスト」ハ其ノ社説中大イニ吹聴セラレ
タル三国協定ハ主トシテ日本ニ対シ讓歩セルモノニシテ
日本カ米国巡洋艦勢力ノ七割ヲ獲得スルモノ即チ米国ハ
十八隻建造ノ権利ヲ有シ尤モ其ノ内三隻ニ付テハ前記権
利ヲ行使セストノ規約ヲ作ラントスルモノナルカ右協定
説ハ或ハ會議停頓ノ責任カ仏國ニアルコトヲ示サンカ為
メノ術策ニ出タルモノナルヤモ知レサルカ事實トスルモ

サスト云フニ在リ

又同日各紙夕刊ハ左ノ如キ記事ヲ掲ケタリ

(一)米国最後案ニ關スル全權ヨリノ公報ハ十五日夕海軍省ニ
到達セルカ其内容左ノ如シ

大巡米十八万日十万八千四百

軽巡十四万三千五百及十万四百五十

駆逐艦十五万及十万五千五百

潛水艦日米共五万二千七百

補助艦總括五十二万六千二百及三十六万七千五百

(二)右ニ付キ海軍当局ハ十七日午前左ノ如ク言明セリ

米国最後的提案ナルモノヲ見ルニ之レ單ニ数字的讓歩ニ
シテ実際ノ戰闘力ニ於テハ何等吾人ヲ首肯セシムルニ足
ルモノナシ補助艦中心勢力タル大巡ニ付キ一九三六年迄

日本ヲ現状ノ儘トシ米国ハ十五隻ヲ完成シ別ニ一九三
三、三四、三五年ニ一隻宛起工シ結局十八隻トスト云フノ

テ飽ク迄日本ヲ六割ニテ釘ツケニセムトスルニ外ナラス

又潛水艦五万二千余噸均勢ト云フハ将来日本ニノミニ足

ノ代換モ許サヌコトトナルモノニシテ結局之ヲ廃止ニ導

カムトスル魂胆ニ外ナラス我潛水艦七万八千噸要求ヲ過

4 会議の経過

401 昭和5年3月18日 在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

ワシントン 3月18日後発
本 省 3月20日前着

米国側ヨリ確聞スル所ニ依レハ「リード」ヨリ松平全權ニ

手交セル米国最終案ノ内容ハ大巡米十八万日十万八千四百

軽巡十四万五千及十万一千五百駆逐艦十五万及十万五千潛

水艦日米共五万二千總計米五十二万七千日三十六万六千九

百ニシテ米ハ一九三六年迄ニ大巡十五ヲ完成シ他ノ三隻ハ

一九三三年ヨリ毎年一隻宛ヲ起工スルモノ日本ニハ建造ヲ許

軍縮新聞情報

十七日各紙朝刊ハ左ノ如キ十六日貴地発連合電報ヲ掲ケタ

リ

米国側ヨリ確聞スル所ニ依レハ「リード」ヨリ松平全權ニ

手交セル米国最終案ノ内容ハ大巡米十八万日十万八千四百

軽巡十四万五千及十万一千五百駆逐艦十五万及十万五千潛

水艦日米共五万二千總計米五十二万七千日三十六万六千九

百ニシテ米ハ一九三六年迄ニ大巡十五ヲ完成シ他ノ三隻ハ

一九三三年ヨリ毎年一隻宛ヲ起工スルモノ日本ニハ建造ヲ許

402 昭和5年3月18日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛(電報)

米国側最終案に關する各紙の記事並びに米國

第九一号

案に対する海軍当局の反駁的言明について

軍縮新聞情報

十七日各紙朝刊ハ左ノ如キ十六日貴地発連合電報ヲ掲ケタ

リ

米国側ヨリ確聞スル所ニ依レハ「リード」ヨリ松平全權ニ

手交セル米国最終案ノ内容ハ大巡米十八万日十万八千四百

軽巡十四万五千及十万一千五百駆逐艦十五万及十万五千潛

水艦日米共五万二千總計米五十二万七千日三十六万六千九

百ニシテ米ハ一九三六年迄ニ大巡十五ヲ完成シ他ノ三隻ハ

一九三三年ヨリ毎年一隻宛ヲ起工スルモノ日本ニハ建造ヲ許

リ

米国側ヨリ確聞スル所ニ依レハ「リード」ヨリ松平全權ニ

手交セル米国最終案ノ内容ハ大巡米十八万日十万八千四百

軽巡十四万五千及十万一千五百駆逐艦十五万及十万五千潛

水艦日米共五万二千總計米五十二万七千日三十六万六千九

百ニシテ米ハ一九三六年迄ニ大巡十五ヲ完成シ他ノ三隻ハ

一九三三年ヨリ毎年一隻宛ヲ起工スルモノ日本ニハ建造ヲ許

大ナリト云フモ実際使用シ得ルハ修理及休養ノ為其三分ノ一ヲ出テサルハ世界大戦ノ実証セル所ナリ元来我總括的七割ハ大巡七割ト潜水艦所要量トノ二ノ重要々求ヲ内容トシ初メテ意味ヲナスモノナルニ米案ハ唯其外觀ノミヲ譲リ肝心ノ内容ニ於テハ依然トシテ自説ヲ固執スルモノナリ此真相明カナラサル為カ或ハ為メニスルモノアルハ伝カ米国カ我要求ヲ承認セルカノ如ク伝フルモノアルハ国民ヲ謬マルノ甚シキモノニテ海軍トシテ斯カル提案ハ到底承認シ得サルモノナリ

403 昭和5年3月19日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛 (電報)

交渉内容漏洩の事実の真相及び英米側への挨拶方に関し稟請について

ロンドン 3月19日後発
本省 3月20日前着

第一一八号 (極秘、至急)

往電第二一七号ト入違ヒニ貴電第九一号接受セリ交渉機微ノ際其ノ内容特ニ数字ノ漏洩ハ累々交渉自体ニ及ホスヘキニ付深甚ノ注意ヲ要スルコトハ貴電第七九号ノ御申越モア

一、「タイムス」及「テレグラフ」ハ大要左ノ如キ十八日 東京特電ヲ掲ク

「タイムス」

海軍省及軍令部ハ本日長時間ニ亘ル協議ノ結果米国提案ハ大巡七割相当ノ潜水艦勢力ナル日本ノ基本的所要ニ副ハサルノ理由ニ依リ之ヲ拒否スヘキ旨内閣ニ進言スルコトニ決定セリ右協議ニ先立チ海軍省並外務省ノ代表者ハ十七日夜米国提案ニ閑シ海軍省ヨリ発表セラレタル声明ハ非公式ノモノナリシ旨語レリ如何ニシテ軍人カスノ如キ政治ニ耽リ其ノ發表セル意見カ事實上政府渺クトモ海軍省ノ意見ニ非サル場合ニ於テモ其ノ地位ヲ保チ得ルヤハ外国ノ読者ニハ了解困難ナランモ陸海軍カ政府ニ反対シテスマ大イニ其ノ意見ヲ主張スルコトニハ日本ノ公衆ハ慣レ居レリ

大巡ニ閑スル米国ノ讓歩ハ新聞電報ノ伝フル所ヨリモ少ク海軍ノ大イニ不満トスル所ナルモ政府ハ日米主張ノ懸

隔ト協定不成立ノ場合ニ於ケル製艦競争ト何レカヨリ重ナル危險ヲ齎スモノナリヤラ比較考量スヘシ云々

「テレグラフ」

404 昭和5年3月19日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛 (電報)

米国提案への海軍側及び外務省側の反応などに関する各紙の報道について

ロンドン 3月19日後発
本省 3月20日前着

第二一九号
十九日新聞情報

リ我方ヨリモ屢次申進シタル所ニシテ (往電第一七四号) 当然ノ義ニ有之其ノ上往電第二一一号松平「リード」会談ノ經緯ニ鑑ミルモ本件ハ日本側ヨリ「オーソリタディヴィー」ニ発表スルカ如キコトハ有リ得ヘカラサルコトト確信シ往電第二一七号ノ通松平ニ於テ「リード」ニ応酬シタル次第ナル處此ノ際数字カ区々ニ漏洩スルハ已ムヲ得ストスルモ貴電第九一号ノ如ク海軍省着電トシテ発表セラレ剩ヘ当局ニ於テ公然之ニ批判ヲ加ヘタルコト事實ナルニ於テハ英米側ニ対スル信ヲ失ヒ我立場ヲ著シク不利ナラシムルハ申迄モナシ就テハ至急右事實ノ真相及英米側ニ対スル挨拶方御電示相成度シ

リ我方ヨリモ屢次申進シタル所ニシテ (往電第一七四号) 当然ノ義ニ有之其ノ上往電第二一一号松平「リード」会談ノ經緯ニ鑑ミルモ本件ハ日本側ヨリ「オーソリタディヴィー」ニ発表スルカ如キコトハ有リ得ヘカラサルコトト確信シ往電第二一七号ノ通松平ニ於テ「リード」ニ応酬シタル次第ナル處此ノ際数字カ区々ニ漏洩スルハ已ムヲ得ストスルモ貴電第九一号ノ如ク海軍省着電トシテ発表セラレ剩ヘ当局ニ於テ公然之ニ批判ヲ加ヘタルコト事實ナルニ於テハ英米側ニ対スル信ヲ失ヒ我立場ヲ著シク不利ナラシムルハ申迄モナシ就テハ至急右事實ノ真相及英米側ニ対スル挨拶方御電示相成度シ

二、「デイリー、エキスプレス」ハ

「マクドナルド」ハ十八日「スチムソン」ト面談ノ際米国側ハ其ノ最近ノ提案ニ対シ日本カ受諾ノ用意アルカノ如

キ印象ヲ流布セシメ若シ仏伊協議不調ナル時ハ仏伊ニ閑

レト親交ヲ厚クセシコトヲ念トスルモノニシテ殊ニ海軍問題ニ関シ国防上ノ必要ヲ基礎トスル日本ノ主張ニ共鳴スルモノナルカ故ニ仏國ノ金融市場ハ何時ニテモ日本ノ為メニ開放セラルヘキコトヲ信ス元来米国ハ如何ナル場合ニ於テモ英國ノ參加セサル海軍協定ヲ取結フコト能ハス而シテ英國ハ仏國ノ參加ナクシテ如何ナル海軍協定ヲモ成立セシムルコトヲ得ス蓋英米二国若クハ日英米三国間ニ協定成立スル場合ヲ仮想スルニ若シ第三国カ海軍拡張ヲ行ヒ協約ニ定ムル英國ノ海軍力ニ脅威ヲ構成スルニ至ルカ如キ事態ヲ見ル場合ニハ再考スヘキ旨ノ但書ヲ必要トスヘキ処潜水艦ニ付テハ仏國ハ協定ノ成否ニ拘ラス九万八千噸建造案ヲ遂行スヘキカ故ニ英國ニシテ五万二千噸保有量ヲ協定ストセハ仏國ハ直チニ右勢力ヲ超過シテ脅威ヲ構成スルコトトナルヘク從ツテ右但書ノ「若シ」ナル字句ハ無意義ナリト云ハサルヘカラサルヲ以テナリ此際日本カ仏國ノ為メニ与ヘ得ル最大ノ協力ハ潜水艦ニ關シ国防上必要ナル現有勢力保持ノ主張ヲ固持シ仏國ヲ孤立ニ陥レサルニ在リト述ヘタルニ付本大臣ハ潜水艦問題ハ他ノ補助艦全体ノ問題ト不可分ノ關係ヲ有シ補助艦問題ハ主力艦問題ト密接ナル關係ヲ有ス

係ナク日英米ノ間ニ於テ三國協定ヲ締結スルコトアルヤモ知レサルカ如キコトヲ匂ハセタルハ甚タ誤解ヲ生シシキ次第ナリトノ苦情ヲ持出シ第一米案ニ対スル日本ノ受諾ヲ予断スルニハ何等確タル根拠ナキコト又日本カ将来如何ナル受諾ヲナストモ夫ハ絶対ニ五國協定ノ成立ヲ条件トスヘキモノナルコトヲ述ヘタリトノ記事ヲ掲ケタリ

405 昭和5年3月19日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

仏國側の対日活動に対するリード全権の危惧について

ロンドン 3月19日後発 本省 3月20日後着

第二二〇号(極秘)

往電第一一七号会見ノ際「リード」ハ松平ニ対シ自分ノ心配シ居ルコトハ仏國側カ当地ニテモ亦東京ニテモ運動ヲ開始シ日本ヲシテ此ノ際英米トノ協定ニ加入スルコトヲ引止メムト試ミツツアルコトニテ現ニ当地ニテモ日本委員ニ仏國側ヨリ運動シ居レリトノ風説アリト述ヘタルニ付松平ハ数日前仏國海軍大臣新任挨拶ノ為若規財部両全権ヲ來訪シ

今回英米側ヨリ日本ニ対シ提案ヲ見ルニ至リタル迄ニハ倫敦ニ於ケル彼我全権ノ間ニ所有ル方面ヨリ論議ヲ尽シ検討攻究ヲ重ネタルモノニシテ今日ニ於テハ之ニ承諾ヲ与フルカ然カラスンハ會議ノ決裂ヲ覺悟スルカノ外ニ途ナキ情態ニ達シタリトノ印象ヲ有スル次第ナリ從ツテ既ニ潛水艦問題ノミヲ別ニ引キ離シテ考慮スルコトヲ得ル時期ニアラスト考フ然カレトモ會議ノ決裂カ將タ英米提案ノ受諾カヲ決スルハ重大問題ナルカ故ニ日本政府トシテモ亦自分トシテモ未タ何等ノ結論ニ到達スルコトヲ得ス目下海軍当局ニ於テ専門的見地ヨリ慎重ナル攻究ヲ進メ居リ其ノ結果ヲ待ツテ政府ハ最後ノ態度ヲ決定スル順序トナリ居レリ日本トシテハ仏國カ海軍協定ニ参加センコトヲ切実ニ希望スルモノニシテ英米モ亦同シク仏國ノ參加ヲ希望シ居ルモノト信ス然カレトモ仏國ノ參加ナケレハ英米間ニ協定成立スルコトヲ得ストノ說ニ対シテハ疑ナキ能ハス英國トシテハ仏國トノ戦争ヲ可能性アルモノトハ考ヘ居ラサルヘク然カラハ仮リニ仏國カ其ノ潛水艦建造案ヲ遂行ストスルモ英國ハ之ニ頓着ナク日米両國ト協定ヲ結フ考トナルヤモ知レス日本トシテハ固ヨリ仏國トノ親善關係ニ全幅ノ信頼ヲ置クカ故ニ

タルハ事實ナルモ右様ノ運動アルコトハ未タ聞知セス萬一斯ルコトアリタリトスルモ日本ハ独自ノ立場ヨリ問題ヲ考量決定スヘキモノニシテ單ニ仏國ノ勧誘アリタリトテ之ニ引入レラルルカ如キコトハアルヘキ筋ニアラスト申述ヘ置キタリ

406 昭和5年3月19日 警原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全権宛(電報)

日本側において潛水艦現有勢力保持の主張を固執方仏國代理大使より希望について

本省 3月19日後8時発

第九二号(極秘)

十七日午後仏國代理大使來訪「ブリアン」ヨリ電報アリタル趣ヲ以テ英仏間内交渉ノ困難ナル実情(貴電第一一二二号ト同一内容)ヲ内報シタル後私見トシテ日本ハ潛水艦保有量五万一千噸ニ満足スルモノニアラサルヘシ然カルニ若シ日本ニシテ讓歩シテ英米ノ提案ヲ受諾スルニ至ルコトアリトセハ恐ラク經濟上ノ考慮ニ基クモノナルヘシト思考ス然カレトモ仏國ハ日本ノ東洋ニ於ケル優越セル勢力ヲ認メ之

仮国ノ潜水艦保有量如何ニ付何等危惧ノ念ヲ抱クモノニ非
スト答ヘ置キタリ

米、仏、伊へ転電アリ度シ

ラサルコトヲ切言セリ

407 昭和5年3月19日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日米妥協案に関するマクドナルド首相の電報

をめぐる英國大使との会談について

本省 3月19日後6時発

第九三号（極秘）

十八日午前英國大使來訪「マクドナルド」ヨリ左ノ趣旨ノ
電報ニ接シタル旨内報セリ

「日米仮妥協案ニ付テハ英國政府部内ニ種々異見アリタル
モ日本ヲ含ム協定ニ到達センコトヲ希望スル大局上ノ考慮
ニ依リ英國側トシテモ之ニ同意スル覚悟ヲ決シタリ然レト
モ英國トシテハ右妥協案以上ニハ到底譲歩ノ余地ナキコト
明瞭ナリ恐ラク米國モ同様ナルヘシ日本ニ於テモ英國ノ此
立場ヲ充分了解センコトヲ希望ス」

尚英國大使ハ之ニ付加ヘ八時砲巡洋艦ニ付テハ日本ニ於テ
右ノ案ニ不満ナルカ如ク伝ヘラルモ該案ニ依レハ日本ノ
モ寄ラサル所ナルカ故ニ唯タ何等カノ口実ニ過キサルヘシ
ト考フルモノノ如シト語リタル処大使ハ豪州等ノ自治領カ
如何ナル意向ヲ有スルカニ付電報ニ接シタルコトナキモ
或ハ貴説ノ如キ事情モ存スルナルヘシ日本カ多数ノ優勢ナ
ル巡洋艦ヲ保持スルコトハ世界各地ニ散布セル重大ナル利
益ヲ有スル英帝国ニ対シ不安ヲ感セシムルコト自然ノ勢ナ
リト思考スト答ヘタリ

米、仏、伊へ転電アリ度シ

408 昭和5年3月19日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日米間妥協成立の見込に関する各紙の論評について

ついて

本省 3月19日後7時発

第九四号

軍縮新聞情報

(一) 十六日日々及大毎ハ日米間大体意見一致セル旨ノ報道ニ
関シ日米両國全權ノ態度ヲ賞讃シ又朝日ハ此際日米当局
者ニ對シ斯ク良好ニ發展シ来レル形勢ニ乘シ双方共一層

保有量ハ英國ニ対シ七割ヲ超過スルモノナルカ故ニ英國ト
シテハ日本ニ之レ以上ノ保有量ヲ認ムルヲ得ヘキ立場ニ在
ラサルコトヲ切言セリ

仍テ本大臣ヨリ貴大使モ知ラル通リ我カ要求ノ主要ナル
点三アリ今回ノ妥協案ニ付テ見ルニ第一点タル補助艦總括
七割ノ主張ニ付テハ署ホ我希望ヲ達シタルモ第二点ノ大型
巡洋艦対米七割ノ要求ハ全然考慮ヲ加ヘラレ居ラス第三点

潛水艦保有量ニ付テハ我カ要求ノ一部分ヲ容レタルノミニ
シテ大体トシテハ我カ主張貫徹セススカル情況ノ下ニ於テ

極メテ真剣ニ攻究中ニシテ未タ何等ノ結論ニ到達スルニ至
ラス然カレトモ英國政府同様日本政府ニ於テモ何トカンテ
円満ニ協定ノ成立ヲ見シコトヲ切望スルモノナル旨ヲ答ヘ

次テ雜談トシテ我国一般ノ民衆ハ英國カ何故大型巡洋艦ニ
関スル日本ノ主張ニ反対ナルカラ了解スルコトヲ得サル現
状ナリ蓋我國民中誰一人トシテ英帝国又ハ其ノ構成部分タ
ル何レカノ海外領土ニ対シ開戦スルカ如キコトアリトハ夢
想タモスル者ナシ然カルニ彼等ニ対シ日本カ七割ノ大型巡

洋艦ヲ保有ストセハ豪州等ノ英國海外自治領ニ取リテ不安
交譲ノ精神ヲ發揮シテ成功ヲ收メムコトヲ希望スト述ヘ
報知ハ日米非公式協定成立ノ見込頗著トナレル処大巡七
割要求カ終ニ貫徹シ得ストスレハ我トシテ痛恨事ニハ相
違ナキモ會議決裂ノ結果ヲ想ハハ此際平和ノ為或程度ノ
不利ニ甘ムスルモ已ム無カルヘキカト述ヘ

(二) 十八日大阪朝日ハ日米ハ互讓シテ妥協セサル可ラス吾人
ハ米國ニ大巡十五ニテ満足シ其縮限セル部分ヲ輕巡ニ於
テ補充セムコトヲ勧告シ我當局ニハ大巡七割ヲ或程度迄
減少シ米ノ六割主張ト我七割主張トノ中間ヲ採ラムコト
ヲ勧告スト述ヘ尚時事ニテ伊藤正徳ハ米國カ我七割ヲ認
ムルトシテモ之ヲ讓歩ト云フハ当ラス當然ノコトヲ理解
セル迄ナリト述ヘ

(三)十九日日々及大毎ハ米國最後案ハ体裁以外何等価値ナシ
若シ之ニ同意セハ我國防權ヲ米ニ委スルコトナルヘク
之ヲ拒否スルハ当然ナリト述ヘ中外モ我方ハ既定方針ノ
下ニ邁進スヘシト述ヘタリ

409 昭和5年3月19日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

潛水艦保有量に関する仮国側申入れへの日本

側の対処方をめぐる吉田外務次官と米国大使との会談について

第九五号（極秘）

本省 3月19日後7時発

十八日午前米国大使外務次官ヲ來訪「スチムソン」ヨリ今朝接到セル電報ニ依レハ仏國全權「デュメニル」ハ財部全權ニ対シ日本側ニ於テ米國提案ニ依ル潛水艦保有量ヲ認諾スルカ如キコトナク飽迄モ日本ノ要求量ヲ固持セラルニ於テハ自然英米側ヲシテ聽從ヲ余儀ナクセシメ得ヘシト勧説シオル形跡アリ思フニ仏ハ日本ニ會議決裂ノ責任ヲ負ハシメ自己ノ位置ヲ救ハント欲スルニ非ラサルカト「スチムソン」ハ甚々危惧ノ念ヲ抱クモノノ如シ幣原大臣ハ嘗テ仏國代理大使ニ対シ會議ニ於テ日仏相結ムテ英米ニ当ルノblockヲ作ラントスルカ如キコトノ不可ナル所以ヲ説カレタル由承知シ居ルヲ以テ自分トシテハ日本政府ノ態度ニ対シ些少ノ疑ヲモ有セサル者ナルカ特ニ「スチムソン」ヨリ電報ン來リタルコトナルニ付右内報スル旨ヲ述ヘタルニ依リ次官ハ米国大使ニ往電第九二号十七日大臣ト仏國代理大使会談ノ次第ヲ語リ此際ニ於テ潛水艦問題ヲ切離シテ論議スルカ

如キハ思ヒモ寄ラストコロナリト大臣ハハツキリ申聞ケラレタリト告ケ御話ノ次第ハ直チニ大臣ニ転達スヘキ旨ヲ答ヘ次テ仏國カ會議ヨリ脱退スルコトアリトスルモ英國ハ日米トノ協定ヲ困難トスルカ如キコトナシトノ見込ナルヤヲ質シタル処大使ハ仏國ノ主義原則ニ関スル議論ハ強硬ナルモノアリ其ノ製艦計画ハ大規模ナリト雖之レカ実行ハ遲々トシテ進マサルヲ実情トスルカ故ニ仏國ノ參加ナクトモ英國ハ日米トノ協定ヲ躊躇セサルヘシ將又万一斯ル不幸ナル事態ニ際会スル場合ニハ三国協定ノ内ニ第三國ノ軍備カ協定國ノ一國ニ危險ヲ与フルカ如キ場合ニ対スル留保ヲ付スレハ足レリト断シ話題ヲ転シテ往電第九一号ノ海軍當局言明ノ記事ニ言及シ右ヲ読ミテ深ク心痛シ居ル旨ヲ洩シタルニ依リ次官ハ米國提案ニ対シテ政府ハ目下慎重ニ攻究中ニ属シスル決定ニ達セルカ如キコトナシ然カルニ右新聞記事ハ海軍當局ノ言明トアリテ政府ノ意見方針決定セサルニ先タチ我海軍カスカル声明ヲ公表スルコトハ規律ノ上ヨリモ看過シ難キヲ以テ直ニ海軍省ニ就キ取調ヘタル処海軍次官ニ於テモ何人ノロヨリ右言明ヲ發シタルカヲ知ラサル実情ニテ海軍省ヨリ公式ニ發表シタルモノニアラサルコト判明

シタルヲ以テ目下言明發表ノ徑路取調中ナリト説明シ序ヲ以テ一兩日来東京新聞紙ニ米國提案ノ数字可ナリ正確ニ報道セラレ居ル処右ハ倫敦ニ於テ米國全權側ヨリ得タル情報トシテ電報セラレ居ルモノナルコトヲ指摘シタルニ大使ハ在倫敦全權ヨリノ電報ニ依レハ新聞通信者ノ一人日本全權事務所海軍部員ヨリ聞キ得タル米國提案ノ数字ナリト称スルモノ「スチムソン」ニ示シ確認ヲ求メタルニ依リ目下交渉中ノ案件ニ関シテハ何等言明スルコトヲ得ストテ之ヲ拒絶シタル事實アリト内話セリ
米、仏、伊へ転電アリ度シ

410

昭和5年3月21日 壁原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日英米妥協案成立を切望せる英首相より浜口
首相宛メッセージ伝達の際の英國大使との会

談について

別電 三月二十一日壁原外務大臣よりロンドン軍縮

會議全權宛第九七号

英國首相より浜口首相宛のメッセージ

第九六号（極秘）
本省 3月21日後7時30分発

何ナル必要ニ出シルヤ了解スルコト難クスカル但書ハ田立チテ不快ナル印象ヲ与フルノ嫌アリ又潜水艦ノ均勢ハ元來日本ノ要求セル条件ニ非ス之ヲ英米側ノ讓歩ナルカ如ク認ムルハ正確ヲ欠ク所アルコトヲ語リ次ニ日本政府ハ目下真

面田ニ全体問題ニ付攻究中ニシテ何等ノ結論ニ到達スル迄ニハ尚若干ノ日数ヲ要スベ此際英國政府ニ於テ昨今本邦新聞紙ニ見ハル記事ニ刺戟セラニ性急ニ日本政府ノ結論ヲ促カサルルカ如キトナキ様希望スルヨリ述く置キタリ

英國大使ハ之ニ同感ヲ表シ別電「メ・ヤービ」ヲ浜口首相ニ伝フルコトニヤ本大臣ノ裁量ニ依リ差控ハシニ差支ナキ血ヲ答くタリ

米、仏、伊、軸電アリ度

(別電)

第九七号 本省 3月21日後7時発

In my opinion, nothing should be left undone to prevent such a disaster as the break-down of the compromise. It is a result of prolonged negotiation between the three Powers, and embodies the furthest concessions to which we or the Americans could go. It appears to

スリ止マリ而モ此ノ讓歩スラ本艦種ニ於ケル米国及英國ノ均勢ヲ条件トスルノ保障アリ若シ吾人ニシテ協定ニ到達スルヲ得ナルニ於テハ戰闘艦隊及戰闘艦建造縮減ハ望全ク失ハルシ吾人ハ米國トノ間ニ補助艦ニ関スル競争ヲ一掃スクキ取極ラ為スヨトナルシ然レニヤ日本ノ関スハ限りハ海軍競争再開スルニ至ルクシ

411 昭和5年3月21日 幣原外務大臣より
ノハンド軍縮会議全権宛(電報)

米國側最終讓歩案に關スルトマツハ電

報キャッブル大使より手交シテ

別電 三月二十一日幣原外務大臣よりノハンド軍縮

右スティーブンの電報

第九八号(極秘) 本省 3月21日後7時発

二十日午後「カッブル」大使來訪「ベホムヘン」ニハ電報ノ写ナリトテ別電第九九号「タマバ」ヤハシヘト手交セラ(別電)

第九九号 本省 3月21日後7時発

Constant use of term 'American proposal', as it appears in all press reports from Japan, disturbs us. Of

our naval experts to give Japan defensive position which is fully adequate. Japan makes only one concession; namely, to reduce her submarine fleet from 78,000 tons to 52,700, and even this concession is secured by qualifying parity in this category with the U.S. and ourselves.

If we fail to reach agreement, all hope of reduction in battle fleet and battleship construction will be lost. We may be able to make arrangement with the U.S. to preclude naval competition in auxiliary craft. But so far as Japan is concerned, naval competition will recommence.

(右記文)

英國首相ヨリ在本邦英國大使ニ宛テタル電報記文

予ハ妥協不成立ト謂フカ如キ不幸事ハ飽ク迄モ避ケムハト
ヲ望ム妥協案ハ三国間ノ長期ニ亘ル商議ノ結果ニシテ英
國側乃至米國側ハ容認シ得キ最大讓歩ヲ包含シ我海軍專
門家ハ日本ニ対シ十分妥当ナル防禦的地位ヲ付スルモノ
ナリテ觀察シ居シリ日本ハ僅ニ一箇ノ讓歩則チ其ノ潜水艦
隊ハ七万八千噸ニ五万一千七百噸ニ縮少スルノ讓歩ヲ為

course it may well originate with papers which hope Conference will fail, such papers being aggressive in all countries, but use of phrase is causing very severe criticism of American delegation in United States. Suggestions as you very well know, are not ours but are rather result of agreement reached after six weeks of negotiations between Japanese British and American delegations. They go long way beyond any proposals which were ever made by British delegation or American and they represent very limit of concessions which either British or ourselves can accept. If Japan should not agree we see nothing to do except to make two-power treaty covering only auxiliary vessels with British. If on other hand, Japanese Government should agree to proposals we stand ready to conclude three-power treaty, and naturally five-power treaty if this proves possible. All hope of holiday in battleship construction depends on acceptance of agreement which has been reached by three delegations by Japanese Government. We hope

that this situations is clearly understood by Japanese Government.

412

昭和5年3月21日 在英國松平大使宛（電報）

幣原外務大臣より

今次の妥協案にて協定するよつ海軍省當局に
對し財部全權より意見開示方若槻全權へ要請

について

（館長専用符号）

本省 3月21日後6時30分発

在英 松平大使宛

幣原大臣

若槻全權へ内密ニ伝ヘラレ度シ

今次ノ妥協案ヲ得ルニ付テハ全權各位ノ御苦心一方ナラサルモノアリタルコトト拝察感佩ニ堪エス然カルニ該案ニ対シ軍令部方面ニ強硬ナル反対論アリ海軍省當局ニ於テ差当タリ海軍部内ノ議ヲ取纏ムルニ困難ナル現状ニテ政府トンテモ余リ性急ニ回訓案ヲ決定セムトスルトキハ國內的ニ面白カラサル事態ニ立至ルナキヲ保セス切角苦慮致居ル次第ナル處軍令部トシテハ今日迄強硬ナル態度ヲ世間ニ揚言シ来リタル行懸上急ニ之ヲ棄テテ軟論ニ聽從スルコトヲ得サル苦シキ立場ニ陥リ居ルモノト推察セラルニ依リ若シ此

際財部海相ヨリ海軍省當局ニ對シ今次ノ妥協案ニ到達スル迄ニハ所有ル方面ヨリ論議ヲ尽シ所有ル手段ヲ試ミタルモノニテ最早之レ以上ニ英米側ヨリ実質的ノ讓歩ヲ期待シ得サル情勢ナルニ顧ミ結局此程度ニ於テ協定スルノ覺悟ヲ極ムルハ大局ノ為メ賢明ト信スル旨ノ意見ヲ電報セラルルコトヲ得ハ先輩タル海軍大臣ノ言ハ軍令部方面ノ議論ニ反省ノ転機ヲ与ヘ又海軍省當局トシテモ部内ノ意見ヲ纏ムルニ有力ナル支援ヲ得ルコト思料ス恰モ山梨次官ヨリ軍令部方面ノ情況ヲ安保大將ニ電報シテ長官タル財部大臣ノ腹蔵ナキ意見ノ開示ヲ請ヒタル由ニテ右ニハ最モ好モ合ノ機会ト存スルニ付前陳ノ趣閣下ヨリ財部全權へ御懇談相煩シ度シ

413

昭和5年3月22日 在英國松平大使宛（電報）

幣原外務大臣より

我方の回訓手続などに関する若槻・マクドナルド会談について

ロンドン 3月22日前発
本省 3月22日後着

第一二三号（極秘）

二十二日求メニ応シ若槻英首相ヲ官邸ニ往訪ス「マ」ハ日本ヨリノ新聞電報殊ニ今朝ノ「タイムズ」所報ハ全ク自分ヲ当惑セシムルモノナリ新聞所報ハ十中八九信ヲ措キ難キコト勿論ナルモ日本政府カ代案ヲ作成シツアリト言フハ果シテ事実ナリヤト尋ねタルニ対シ若槻ハ先日モ申述ヘタル通り我方ノ有スル訓令ノ範囲内ニテ協定成立ノ場合ハ問題ナキモ之ト異ナル決定ニ至ラントスルニ於テハ帝国政府ノ訓令ヲ請ハサルヲ得ス而シテ我カ国情ハ英米ト同シカラス各方面ノ意見ヲ纏メ回訓ヲ發スル迄ニハ相当ノ時日ヲ要スヘキハ繰返シ既ニ貴聞ニ達シ置ケル通リナリ今日政府ニ於テ折角苦心中ナルコトハ新聞報ニテ片鱗ヲ窺ヒ得ヘシト存ス然レ共政府意見ノ内容ニ付テハ未タ何等報道ヲ受ケ居リスト答ヘタリ

「マ」ハ若槻ノ協定成立ニ対スル誠意ニ謝意ヲ表シ兎ニ角今回ノ會議ニ於テハ一九三六年迄ノ一時的協定ヲ遂クルコトヲ目的トシ三五年會議ニ於テ列国何レモ今日ト同様ノ立場ニ立ツヘキコトヲ基調トルモノナルニ付其ノ趣旨ニテ何等杞憂ナク協定案ニ考慮ヲ加ヘラレムコトヲ切望スト述

ヘ若槻ハ其ノ点ハ日本側ニ於テ充分諒得シ居ルモ意見ヲ纏ムル迄ニハ政府ニ於テ一方ナラサル困難ヲ嘗メ居ル事情ハ之ヲ善解セラレムコトヲ冀ハナルヲ得スト応酬セリ尚「マ」ハ昨日米國側ト会見ノ際新聞紙カ頻リニ米國側提案ナル字句ヲ使用シ居ルニ対シ不満ノ意ヲ洩ラシ居タリト述べタルニ付若槻ハ今回ノ妥協私案カ決シテ米國側発案ト云フ可カラサルコトハ政府ニ明言シアル所ニシテ當路責任者ニ諒解アル筈ナリ唯内外新聞紙カ勝手ニ斯ル字句ヲ用フルハ如何トモ致シ難ク政府ニ於テ日本新聞紙ノ右字句使用ヲ今差シ止メ得ヘキヤ否ヤ保障シ難シ然レトモ政府ニ対シテハ再応其ノ点ニ付注意ヲ喚起スヘシト答ヘ「マ」ハ誠ニ新聞紙ノ無責任ナル言説ハ已ムヲ得サル所ナルモ政府ノ注意ヲ喚起セラルヲ得ハ幸甚ノ至リナリト述ヘタリ

次テ若槻カ仮伊側トノ交渉模様ヲ尋ねタルニ対シ「マ」ハ全ク停頓ノ状態ニアリト答ヘ貴方ニ対スルト同様仮國側ニ対シ理論ヲ離レテ数字ニ付考究ヲ加ヘンコトヲ提議セルニ或ル程度迄話進ム毎ニ仮ハ凡テハ伊ノ態度如何ニ懸ルモノナルコトヲ留保シ困惑ノ至リニ堪ヘス又伊ニ対シ全ク仮ノ関係ヲ離レ必要ノ「グロウバル、トンネージ」ヲ提示セ

ンコトヲ切望シタルニ「グランジ」ハ渢々三十五万噸ナル

数字ヲ擧ケタルカ之ニ対シ仏側ハ少クトモ右数字ヨリ二十
五万噸ノ優勢ヲ主張セサルヲ得スト主張シ今日迄全ク進展

ヲ見サル実情ナリト答ヘタリ

在米大使へ転電シ仏伊へ暗送セリ

ける日本の主張を拘束するものに非ざること

を予め声明方考慮について

ロンドン 3月22日前発
本省 3月22日後着

第三二五号（極秘）

414 昭和5年3月22日 ロンドン軍縮会議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

日本妥協案を米国側提案と呼称の場合の米国

側の感情について

415 昭和5年3月22日 ロンドン軍縮会議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

往電第二二〇七号ヲ以テ留保案英米二案ヲ報告セシカ右ハ英
米側ニ留保ヲ付シテモ可ナリトノ意向アルコトヲ報告シタ
ル迄ニシテ本委員等ハ之ニ賛成シ居ルモノニ非ス若シ妥協
案ニテ會議ヲ取極ムルコトスルナラハ條約ニハ留保ヲ付
セス（留保ヲ付スルトキハ勢ヒ之ニ対スル反対留保ヲ誘致
シ事態ノ粉糾ヲ來シ面白カラス）唯會議ニ際シ日本カ本協
定ニ賛成シタルハ條約カ短期ナルニ依ルモノニシテ本協定
ニ賛成シタルカ為ニ從来國防ニ付日本ノ主張シ来レル処ヲ
変更スル意思アルモノニアラズ次ノ會議ニ於テハ日本ハ自
由ニ其ノ意見ヲ主張スヘキコトヲ予メ言明シ置クモノナリ
トノ意味ヲ声明スル方可ナリト思考シ右形式ニ付目下考究
中ナリ

貴電第九六号英國大使トノ御會議アリシコト故右御参考迄
電報ス

今回の軍縮會議における妥協は次の會議にお

在米大使へ転電シ、仏、伊へ暗送セリ

416 昭和5年3月22日 在英國松平大使より
幣原外務大臣宛（電報）

海軍側の意見による回訓あらば交渉決裂の恐

れある旨若槻全権より稟申について

ロンドン 3月22日前1時30分発
本省 3月22日後5時20分着

（館長符号扱）

幣原大臣

松平大使

左ノ電報若槻氏ヨリ極秘ニテ閣下ニ發信依頼セラレタリ
事情アリ詳細理由ヲ述ブル能ハズシテ政府ニ請訓シ又新聞
ガ日々不愉快ナル報道ヲ為スニ拘ラズ何等政府ニ進言スル
コトヲ得ズ一日千秋ノ思ラ以テ政府ノ回訓ヲ待チツツアリ
予ノ苦心ハ首相及ビ閣下ノ諒トセラルル所ナルベシ当地及
ビ内地ノ海軍々人中ニハ仏國ノ態度如何ニテ日本ノ要求ヲ

有利ニスルヲ得ルニ至ルベシト考ヘ居ル者アルガ如シト雖
モ仏國ノ態度ニ依リ米国ノ保有量ガ増加セラルルニ至ル場

合ノ外日本ノ保有量ヲ増スコトヲ得ル見込ハ全然立タズ而
カモ尚此ノ状態ノ儘ニテ政府ヨリ日本保有量ヲ増加スペキ

について

417 昭和5年3月22日 在仏國河合臨時代理大使より
幣原外務大臣宛（電報）

ロンドン軍縮會議に関する仏國各紙の論調に

パリ 3月22日後着
本省 3月23日前着

第八九号

倫敦會議ニ関シ當地新聞紙ハ何レモ仏國ハ安全保障ノ問題ニシテ解決セラレサル限り其ノ海軍ノ絶対必要量ヲ低下シ得ストノ從来ノ主張ヲ繰返シ且日米仏伊ノ交渉ニシテ纏ラサル以上會議ノ成行ハ樂觀ヲ許ササルモノアリト観測シ居ル尙其ノ他ノ主ナル点左ノ如シ

一、英、米両政府ハ同時ニ各在日本自國代表者ニ訓令ヲ發シ日本政府ニ對シ共同ノ措置ヲ執ラシメタルモノニ依リ

テハ米国提案ノ受諾ヲ見ルカ如キコトナカルヘク(「エコド、パリ」)

米国提案ニ對スル日本ノ対案ハ英、米間ノ談合ヲ根本ヨリ覆スニ至ルヘク此ノ点ニ難闇アリ(「タン」)

二、幣原大臣ハ在日本英國代表者ニ對シ日本ハ三國協定ヲ欲スルモノニハ非サレトモ之カ審議ヲ拒ムモノニ非スト

述ヘタル趣ニテ日本ハ目下ノ處三國協定ヲ希望シ居ラサル如キモ英國側ニ於テハ三國協定ノ準備トシテ華府海軍條約第二十一条ヲ更ニ拡張セル条文案ニ付研究シツアルモノノ如シ(「エコド、パリ」)

三、日米間潛水艦五万二千噸ノ「パリティ」ニ關スル米国

提案ニ對シ日本側ハ右ノ結果一隻ノ潛水艦ノ新造スラ不能トナリ結局ニ於テ潛水艦廃止ニ一步ヲ進ムルモノトシテ反対シ居ル趣ナルカ右ハ尤ノコトナリ又仏國トシテハ其ノ主張スル三千噸大型潛水艦ニシテ承認セラレサルニ於テハ仏國ハ三千噸級ノ *immersible croiseur* 乃チ水上艦ト潛水艦ノ中間ニ介在スル新艦ヲ案出シ対抗スルノ外ナシ(「エクセルシオール」)

全權委員ニ郵送セリ

418 昭和5年3月22日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛(電報)

軍縮會議の解決策に関する東京日日及び大阪

毎日などの論調について

本省 3月22日後1時40分発

第一〇〇号

軍縮新聞情報

二十一日日及大毎ハ日米ガ比率ニ関シ最初ヨリ正面衝突セル儘今日ニ至レル以上唯一ノ解決策ハ數字的議論ヲ離レテ大所高所ヨリ政治的解決ヲナスニ在リ元來政治的背景ナシニ軍縮ヲ議スルハ無意味ニシテ我七割要求ノ背後ニ米国

極東政策ニ對スル考慮カ存スルコトハ否認シ得ズ故ニ米國カ東亞ニ於ケル日本ノ地位ヲ認メ之ヲ活用シテ日米ノ利害ヲ一致セシメ得ルコトニ醒ムベキデアルコノ政治的了解ダニ成ラハ軍縮問題ノ解決ハ極メテ容易ナリト述ヘ中外ハ日本カ劣勢ニ甘スル誠意ニ鑑ミ米国ハ反省ヲ要スト述ヘタリ

419 昭和5年3月22日 幣原外務大臣より

在英國松平大使宛(電報)

財部全權に対する早期帰朝要望の事情について

(館長専用符号)

若槻全權へ内密ニ伝ヘラレ度シ

本省 3月22日後9時10分発

420 昭和5年3月22日 海軍側作成の回訓案

回訓案

五一三一一二

極秘

リ其電信カ交渉未決ノ儘財部全權ノ帰朝ヲ必要トスルノ意味ニ解セラレテハ重大ナル行違ヲ生シ閣下ニ於テ御迷惑ノ事ナルヘント考ヘ交渉ノ大綱纏マリタル上ハノ辞句ヲ插入スル様注意シタルモノナリ内密ノ御含迄

今次ノ米国提案(第一〇六号電)ハ從來執リ來リン英米ノ

態度ニ較ベ顯著ナル讓歩ヲ為セルモノト謂フベク遠ク国外ニ在リテ直接折衝ノ任ニ当ラル全權各位ノ御心勞ヲ想察シ深ク感佩ニ堪ヘザル次第ナリ

右提案ニヨリ我カ三大主張ノ一ハ略ボ完全ニ容認セラレタルモ尚他ノ二大眼目ニ関シテハ遺憾乍ラ我カ所望ノ域ヲ距ルコト遠ク從ツテ今次協定が殆ンド永久ニ我国ヲ束縛スルノ虞レアルモノナルコトニ想到スルトキ又翻テ仮令短期間に協定ナリトシテ之ヲ考察スル場合ニ於テモ容易ニ同意ヲ与フルコト能ハス即チ我ノ最モ重大視スル二十粍砲搭載巡

(一) 第六回国際連盟軍縮準備委員会ニ於ケル「ギブソン」声明ノ主旨ニ基キ補助艦各艦種間ニ融通ヲ認メ(適当ノ尺度ヲ用フルヲ妨ゲズ)其ノ最大限ヲ融通ヲ受クル当該艦種保有量ノ二〇「ペーセント」トス

(二) 二十粍砲搭載巡洋艦ニ関スル融通ノ実施ハ米国ニ優先ヲ譲リ米ガ融通ヲ為シタル後我之ヲ行フ

(欄外注記) 三月廿七日山梨次官持参

洋艦ニ於ケル比率六割ニ関シテハ専門的見地ハ元ヨリ海軍ノ士氣ニ及ボス影響ヲ考慮シ且将来主力艦廃止ノ空氣ヲ認メラル現状ニ鑑ミルニ单ニ眼前ニ於ケル一時のノ國際関係上ノ杞憂ニミ囚ハレ國家永遠ノ利否ヲ察スルトコロナク彼ノ主張ニ応諾ヲ与フルノ責任ヲトルハ政府トシテ此際躊躇セサルヲ得スルニ現下各方面ノ技術的進歩駆々トシテ将来ノ予測ヲ許ザル時ニ当リ米国カ独リ二十粍砲搭載一万噸巡洋艦多数ノ新造ヲ敢テスルニ対シ我ハ一九二一年計画ニ係ル古鷹級ノ旧艦ヲ擁シテ比率ノ低下スルニ委セ向フ六ヶ年間ニ亘リ何等之ニ対応スルニ足ル新造ヲ行ハズ時運ノ域外ニ袖手傍観ヲ余儀ナクセシメラルノミナラズ潜水艦ニ於テモ亦公衆ニ受ケヨキ均等ノ美名ヲ借り来リテ我ニ一隻ノ代艦建造ヲサヘ認メズ以テ我ガ造艦機能ヲ萎靡センメ次期会議ニ於ケル潜水艦廃止ノ素地ヲ釀成セントスルノ前提ナルガ如ク推断セラル曾テ「スチムスン」出淵大使ノ会談ニ於テ潜水艦ハ建造ヲ終止シ自然減滅ニ終ラシメント提言セル事實アルニ顧ミルモ益々其ノ感ラ深クスル所以ニシテ該提案ハ彼ガ主張タル全廃説ノ具体化ニコソアレ讓歩ノ誠意ヲ示セルモノト解釈スルヲ得ズ

実ヲ示シタル左記ヲ最終案トシテ機宜折衝我ガ主張ヲ貫徹アランコト切望ノ至リニ堪ヘズ

左記

(一) 二月五日ノ米国提案(オプション)ニ基キ米ノ二十粍砲巡洋艦ノ保有ヲ十五隻(十五万噸)トス

但シ此ノ場合ニ於ケル米ノ十五粍砲以下ノ輕巡洋艦保有量ヲ十七万三千五百噸(一七三、五〇〇)トス

(二) 日本ハ潛水艦驅逐艦ニ於テ左記ノ如ク譲歩ス

(イ) 帝国保有量六万五千五百噸(六五、五〇〇)トシ

(ロ) 駆逐艦保有量ヲ九万二千七百噸(九二、七〇〇)ニ低減ス

421 昭和5年3月23日

在英國松平大使より
整原外務大臣宛(電報)

日米妥協案承認のやむを得ざる所以を発電方

若槻全権の依頼に対する財部全権の躊躇の態度について

ロンドン 3月23日後3時発
本省 3月24日 着

(館長符号扱)

松平大使

若槻全権ヨリ極秘左ノ電信依頼セラレタリ

御來電ノ趣ニ依リ財部全権ヲシテ海軍省側ニ仮協定案ヲ承認スルノ已ムヲ得サル所以ヲ発電セシムル為メ委曲相談シタル結果漸ヤク考慮スベシトノ答ヲ得タルマデトナレリ不取敢報告ス

元來当地海軍側ノ隨員ハ日本ガ頑強ニ固守セハ必ズ先方ガ折レ來ルベシトノ觀察ヲ有スルノミナラズ仏伊ガ脱退セントスル場合ニハ英米ハ困惑ノ余リ日本ニ好条件ヲ与フベク其ノ際之ニ乗スルコト我方ノ為メ有利ナリトノ考ヲ抱キ之ヲ以テ財部全権ヲ擁シ居ルガ如クナルガ故ニ財部全権直ニ其意見ヲ定ムルコト能ハザルモノノ如ク見受ケラル

ク彼ノ主張ニ応諾ヲ与フルノ責任ヲトルハ政府トシテ此際躊躇セサルヲ得スルニ現下各方面ノ技術的進歩駆々トシテ将来ノ予測ヲ許ザル時ニ当リ米国カ独リ二十粍砲搭載一万噸巡洋艦多数ノ新造ヲ敢テスルニ対シ我ハ一九二一年計画ニ係ル古鷹級ノ旧艦ヲ擁シテ比率ノ低下スルニ委セ向フ六ヶ年間ニ亘リ何等之ニ対応スルニ足ル新造ヲ行ハズ時運ノ域外ニ袖手傍観ヲ余儀ナクセシメラルノミナラズ潜水艦ニ於テモ亦公衆ニ受ケヨキ均等ノ美名ヲ借り来リテ我ニ一隻ノ代艦建造ヲサヘ認メズ以テ我ガ造艦機能ヲ萎靡センメ次期会議ニ於ケル潜水艦廃止ノ素地ヲ釀成セントスルノ前提ナルガ如ク推断セラル曾テ「スチムスン」出淵大使ノ会談ニ於テ潜水艦ハ建造ヲ終止シ自然減滅ニ終ラシメント提言セル事實アルニ顧ミルモ益々其ノ感ラ深クスル所以ニシテ該提案ハ彼ガ主張タル全廃説ノ具体化ニコソアレ讓歩ノ誠意ヲ示セルモノト解釈スルヲ得ズ

以上ノ如ク各方面ヨリ反覆慎重ニ考慮ヲ加ヘタル結果我が防衛ニ必要ナル最低限度ヲ更ニ下リテ今次ノ米国提案ニ讓ルガ如キコトハ仮令形ニ於テ會議ノ円満ナル終結ヲ見ルコトアリトスルモ挽回スベカラザル悔ヲ胎スモノニシテ政府トシテ絶対ニ同意シ得ザル所ナリ我ニ対シテ二十粍砲搭載巡洋艦ノ古鷹型ヲ一万噸型ニ代換スルコトハ勿論一隻ノ建造着手ヲモ肯ンゼズトイフ「スチムスン」「マクドナルド」ノ言ヲ以テ果シテ彼等ノ真意ニ出デタリトセバ今日ハ英米ト共ニ軍備ノ協定ヲ望ムノ時機ニ非ズトナスノ外ナク遺憾乍ラ會議ノ外ニ退カザルヲ得ザルナリ

全権各位ニ於カレテハ内地御出発以来已ニ十旬ヲ超エ此ノ間終始困難ナル直接ノ折衝ニ当ラレ御心労ノ程ハ諒察ニ余リアルトコロナルモ帝国永遠ノ權益ヲ確保スルガ為メニ茲ニ重ネテ一段ノ御尽力ヲ願フコトトシ我方ヨリ交譲妥協ノ乍ラ會議ノ外ニ退カザルヲ得ザルナリ

先般予等全権ヨリ政府ニ請訓シタル場合ニ於テ財部ヲシテ右請訓ニ同意セシムルガ為ミニハ大ナル苦心ヲナシタルモ

ノニシテ政府ニ進ムルガ如キ文句ハ全然之ヲ避クルコトトシ始メテ其同意ヲ得ルニ至リタルモノナリ

今日中尚海軍側ハ仏國ノ態度如何ニテ日本ノ要求ガ少シニ

テモ有利トナルベシトノ望ヲ有シ居ル為メ財部全権ハ常ニ躊躇ノ態度ヲ持シ居ルモノノ如シ此点ニ付テハ全然意見ヲ異ニス此際日本ヨリ何等カ有利ノ条件ヲ得ントシテ交渉スルナラバ先方ガ之ヲ聽キ入レサルトキハ協定ヲ決裂セシム

拒絶ニ会ヒ之ニ屈服スルガ如キアラバ日本ノ威信ハ全然失墜スペシ予ノ痛心ハ一二茲ニ在リ殊ニ若シ協定成立スルモ

唯タ五年間ノ條約ニ過ギズシテ次ノ會議ニ於テハ我レハ自由ニ我国防ノ必要トスル所ヲ主張シ得ルガ故ニ仮協定案ハ

我ニ取リテ大イニ不利ノモノニアラズ尚英米大使ガ直接ニ日本首相ニ威圧ヲ加フルガ如ク提言ヲナシタルコトハ当地

海軍側ノ憤滿ヲ招キタルコト少カラズ之ガ為メ一層彼等ノ反抗心ヲ固カラシメタルモノノ如シ右英米ノ遣リ口ハ余り

感服セサルコトナルモ此事アリシ故ヲ以テ會議ノ結果ヲ左

我ニ取リテ大イニ不利ノモノニアラズ尚英米大使ガ直接ニ日本首相ニ威圧ヲ加フルガ如ク提言ヲナシタルコトハ当地

海軍側ノ憤滿ヲ招キタルコト少カラズ之ガ為メ一層彼等ノ反抗心ヲ固カラシメタルモノノ如シ右英米ノ遣リ口ハ余り

感服セサルコトナルモ此事アリシ故ヲ以テ會議ノ結果ヲ左

右セシムルマデニ至ルハ大局ノ上ヨリ觀テ然ルベキコトニ非ズト考フ

山梨次官ヨリ財部ニ対シ西比利亞鐵道ニテ帰朝云々ノ件ハ態ト予ハ財部ニ向ツテ之ニ言及セズ

422 昭和5年3月24日 在英國松平大使より

幣原外務大臣宛(電報)

日米妥協案による海軍部内の収拾方若槻全権

の依頼に対する財部全権の拒絶について

付記一 三月二十六日左近司軍結会議首席隨員より山

梨海軍次官宛軍縮海軍機密第六一番電
若槻・財部両全権がその所信を別々に発電の事情について

二 三月二十六日財部海軍大臣より山梨海軍次官宛機密第六番電

日米妥協案に対する批判について
ロンドン 3月24日後2時発
本省 3月25日前6時着

(館長符号板)

若槻氏ヨリ極秘左ノ発電依頼セラレタリ

幣原大臣

松平大使

財部全権ヨリ内地海軍部内ニ發電ノコト懇々同全権ノ承諾ヲ求メタル処考慮スベシト答ヘラレタルノミニテ其同意ヲ得ルコト能ハサリシガ財部全権ハ部下ニ相談セラレタルモノノ如ク昨夕ニ至リ何分兵力ニ関スルコト故ニ自分ヨリ予ノ依頼シタルガ如キ電報ヲ發スルコトハ出来ズトテ断然拒絶セラレタリ其際予ハ仮協定案ヲ得ルニ至ル迄ニハ予ノ力ノ許ス限リヲ尽シタルモノニシテ此ノ上英米ノ讓歩ヲ得ルノ見込ナク而カモ仮協定案ヲ得タル後十数日全ク交渉ヲ為サザリシ今日我ヨリ何等カノ要求ヲ為スナラハ會議ヲ決裂セシムルノ決心ヲ以テセサルベカラズ會議決裂ノ結果ハ明ニ至ルベク之ガ財源ノ負担ハ疲弊シタル日本經濟界ノ回復ヲ阻害スルコト甚ダシカルベク又明年一月ニ償還期ノ到達スル英貨公債ノ借換ヘモ之カ為メ如何ナルコトトナルヤ計リ難ク更ニ國際關係ニ及ホ斯影響ニ至リテハ英米ノ感情ヲ損シタル日本ノ立場ガ頗ル苦境ニ陥ルベキコトハ火ヲ睹ルヨリモ明カナリトテ財部全権ガ政治家トシテ決然起ツテ大局ヲ救フノ途ニ出テラレソコトヲ力説シタリシガ會議決裂

(付記一) 昭和五年三月二十六日午前六時五五分着 発 左近司首席隨員 宛 海軍次官

(特密親展)

軍縮海軍機密第六一番電

全權發第二〇八號請訓電報ハ事情ヲ尽ササルノ恨アリトテ
若槻全權自ラ執筆セラレ過去交渉ノ經緯ヲ詳述シタル後末
段ニ左記ノ所見ヲ付シ之ヲ全權電トシテ外務大臣ニ申報方
財部全權ノ同意ヲ求メラレタル處財部全權ハ自己ノ立場ト
情勢ノ観測ニ関シ所見ヲ異ニセラル結果遂ニ右電報ハ若
槻全權ヨリ外務大臣ニ呈スルモノトシテ發信セラルコト
トナリ大臣ハ若槻全權ノ了解ヲ得テ其ノ内容ヲ示シタル上
別電機密第六番電ノ通取計ハレタリ此ノ種ノ措置ハ両全權
ニ於テモ甚だ遺憾トセラル所ナルモ刻下重大ノ時局ニ際
会シ各自其ノ最善ヲ尽スノ趣旨ニ於テ両全權快ク内議ヲ遂
ケラレタル次第ナリ

左記

以上ノ次第ナルニ依リ所謂妥協案ハ日本当初ノ主張ニ比シ
異ルトヨロアルモ條約ノ有効期間ヲ五年ト解シ次回會議ニ
於テハ從来ノ主張ヲ自由ニナシ得ルコトヲ考量スルトキハ
其ノ間ハ大巡ニ在リテハ大体米國トノ間ニ七割ノ比率ヲ保
チ居リ總括的ニハ殆ト七割ノ勢力ヲ有シ只潛水艦ノ保有量
ラサルヘシト信ス

(付記二)

昭和五年三月二六日午後七時一〇分着

発 財部大臣
宛 海軍次官

(特密親展)

本電海軍大臣事務管理及外務大臣ニ申進方取計ハルヘシ
承知ノ通ニシテ今次ノ妥協私案ヲ得ルニ至ル迄ノ若槻松
平両全權ノ御苦心ハ真ニ名状スヘカラサルモノアルヲ多
トスル次第ナリ而シテ屢々報告ノ通り本私案ノ作製ハ双
方自由ノ意見交換ニ依リ同意シ得ヘキ一致点ヲ發見セン

ハ少キモ英米又共ニ其ノ保有量ヲ日本ト同シクシ居ル次第

ニシテ右状態ニテ日本カ不同意ヲ唱ヘ會議ヲ決裂セシムル
トキハ輿論ハ決シテ日本ニ同情スルモノニアラス會議ヲ決
裂セシムル場合ニ日本ノ蒙ルヘキ不利不幸ハ実ニ云フニ忍

ヒサルモノアリト信スルモ此ノ点ハ閣下ノ最モ能ク承知セ
ラル所ニシテ本委員ノ陳述ヲ要セス目下仏伊ノ態度ニテ
倫敦會議ハ当初期待ノ如ク五國協定ヲ得ルコト困難ナリト
認メラレ結局三国協定ニナルニアラスヤト察セラル

斯クノ如キ状態ナルヲ以テ英米両国當局カ頗ル困惑シツツ
アルヘシト想像シ此際日本ヨリ我条件ヲ有利ニスヘキコ
トヲ交渉スレハ其ノ目的ヲ達スルコトナキニアラストノ観
察アルカ如キモ英米ノ間ニハ夙ニ共鳴スルトコロアリ所謂
妥協案ヲ固持スル決心ヲナシ居ルモノト認メラルヲ以テ
本委員ハ右ノ観察ヲ是認スル能ハス殊ニ英米両国ニ於テ場
合ニヨリ二国間ノ協定ヲ辞セサル決意ヲ仄メカシタルコト
曩ニ電報シアル通ナルヲ以テ本委員ハ一層前述ノ感想ヲ深
クスルモノナリ從テ日本カ其ノ条件ヲ有利ニスル提議ヲ為
サントスルニ於テハ彼等カ聞カサルトキハ断然會議ヨリ脱
退スルノ決意ヲ有セサルヘカラス若シ此ノ決心ナクシテ交
渉シ彼等カ応諾セサル場合ニ於テ結局妥協案ニ屈伏スルノ
止ムナキコトアリトスレハ帝國ノ威信ハ断然失墜スヘシ本
委員ノ最モ痛心スル所ナリ今ヤ政府ハ全權委員ヨリ請訓シ
タルニ対シ慎重ナル考慮ヲ加ヘラレツツアル大切ナル時期
ナリト存シ本委員ノ卑見ヲ御参考ニ供スルハ全ク無益ニア
ラサルヘシト信ス

二十六日午前二時

トスル一考案ニシテ最後迄双方全權ニ於テ何等ノ拘束ヲ
モ受ケサル態度ニ終始シタルハ特ニ御了知ノ通ナリ而シ
テ過去ニ於ケル交渉ノ実況ニ顧ミ刻下ノ情勢ヲ観測スル
ニ英米カ今次ノ妥協私案ヲ以テ最終的ノモノナリトシ飽
ク迄之ニ固着シテ我ヨリ提示スルコトアルヘキ対案ニ考
慮ヲ加ヘントスル意志絶無ナリト断スルハ聊カ早計ニ失
スル嫌ナキニアラス大巡問題ノ如キモ今日迄ノ交渉ニ於
テ日本ノ考案ニ付殆ント論議ヲ尽シ終レリトノ見方モ一
応尤モナカラ既往一再ナラス米側ノ消息トシテ耳ニシタ
ル一万噸級一隻建造公認説ノ如キアリ又潛水艦問題ニ付
私案ニ示ス五万二千七百噸ノ数字ノ如キ偶然ノ思付キト
シテ提議シタルモノニ過キサルヤノ感アリ且仮ラシテ六
万八千噸ヲ保有セシメントシタル消息等ヲ考フレバ此際
政府ノ訓令トシテ三国協定ノ成否ヲ賭シテ掛合フ場合尚
相当折衝ノ余地ナキニアラスト認メサルヲ得ス

尚英米トシテモ諸般ノ関係上セメテモ三国協定ノ成立ヲ
団ラント焦慮シツツアルハ歴然タル事實ニシテ這般「マ
クドナルド」「スマチムソン」等カ我政府ニ迫ツテ其ノ所
決ヲ促スニ至リタル態度ノ如キニ日本ノ脱退ヲ阻止セ

ントスル消息ノ一面トモ見ルヲ得ヘク必シモ最終的決意ヲ示シタルモノトハ認メ難シ

一、妥協私案ニ依ル我兵力量ノ内容ニ関シテハ再三海軍当路ノ所見御聴取ノコト存セラルル処余ニ於テモ亦国防計画ノ当任者タル軍令部長ノ見解ヲ諒トシ妥協私案受諾ニハ同意ヲ表スルヲ至難トスルモノナリ然レトモ此際四閑ノ情勢ヲ考慮シ我ヨリモ一時的忍ビ得ヘキ相当ノ讓歩ヲ行ヒ別途ノ対案ヲ提議スルハ大局上止ムヲ得サル措置ト云フヘク之ヲ以テ英米側ノ反省ヲ求メ最善ノ努力ヲ払テ協定成立ノ運ヒニ至ランコトヲ切望スル次第ナリ

二、今後ノ対策ニ関スル所見ノ大要右ノ通ナル処不幸會議決裂ノ場合ニ於テ帝国ノ蒙ルヘキ影響ニ付テハ固ヨリ深甚ノ考慮ヲ回ラササルベカラサルハ申ス迄モナキ儀ナカラ此ノ観測ハ人ニ依リテ其ノ程度ヲ異ニス且會議脱退ノ止ムヲ得サルニ至レリトシ如何ナル機会ニ於テ脱退スヘキカ其ノ進退決定ノ時機如何ニ依リ利害消長アルヲ免レ

ス

按スルニ政府カ前述ノ決意ヲ以テ最後案ヲ突付ケタリトスルモ固ヨリ成否両様ノ場合ヲ覚悟セサルベカラス而シ

セービ・伝達差控えに関するキャッスル駐日大使の内話について

本省 3月24日後5時15分発

第一〇一號 極秘

二十三日「カッスル」大使吉田次官ヲ他用ニテ来訪シ余談トシテ実ハ「スチムソン」ヨリ今回ノ日英米協議ハ是非トモ成立セシメ度キニ付浜口首相ニ於テ右ニ尽力アリ度シトノ「メッセイジ」ヲ同首相ニ伝達方電訓ニ接シタルカ日本ノ態度ニ付テハ幣原大臣ノ用意周到ニシテ力強キ外交方針ニ信頼シ此際右ノ如キ「メッセイジ」ヲ特ニ浜口首相ニ伝達スルコトハ米国側ニ於テ日本政府当局ニ不当ノ強圧ヲ加フルモノナルヤノ印象ヲ与ヘ国民ノ感情ニ好マンカラサル影響ヲ与フルノ虞アルニ付ヘラ差控ヘ度キ旨「ス」ニ回電シタリト内話セリ

臣宛書簡
ステイムソン國務長官の浜口首相宛のメッセージ
シ伝達について

本省 3月24日後7時40分発

第一〇二號 (極秘)

往電第一〇一號ニ関シ

二十四日「カッスル」大使来訪浜口首相ニ対スル「スチムソン」ノ「パーソナル、メッセイジ」トシテ別電第一〇四号ノ通読ミ上ケタルニ依リ本大臣ハ往電第九六号「マクドナルド」首相ノ「メッセイジ」ニ言及シ「ティリー」大使トノ応酬ノ次第ヲ告ケタル処「カ」ハ本件「ス」ノ「メッセイジ」ハ「カ」自身及本大臣ニ於テ賛成ナラハ浜口首相ニ伝達スヘシトノ趣旨ナルニ付同首相ニ伝フルト否トハ本大臣ニ一任スヘシト述ヘタリ尚「カ」大使来訪ニ先タチ「ピューマン」書記官ハ吉田次官ニ「カ」ノ來意ヲ告ケ実ハ往電第一〇一號末段「カ」ノ電報ニ対シ「スチムソン」ヨリ文句ヲ更ニ漠然且概活的トシタル「メッセイジ」ヲ浜口首相ニ伝達方重ネテ電報シ来リタルニ依ル旨説明セリ

424 昭和5年3月24日 憲原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全権宛 (電報)

國務長官の浜口首相宛のメッセージを米国大

使より手交し

付記 三月二十四日付在本邦米国大使より憲原外務大

テ万一彼等ノ同意ヲ得スシテ脱退ノ已ムナキ不利ノ機会ニ遭遇スルヲ避ケ且會議ノ成功ヲ企図スル一対策ヲ考フルニ寧ロ五國協定不成立ヲ機会トシテ三国間ノ審議ニ深入リスルニ先立チ我方ヨリ政府トシテ日米妥協私案ハ到底同意ヲ表シ難ク此ノ上審議ヲ進ムルモ効果少キノミナラス或ハ却テ不幸ノ結果ニ立到ルコトアルヘキニ付一旦會議ヲ延期シ徐ロニ時期ノ到ルヲ待チ度意向ナル旨ヲ述へ脱退ノ決意ヲ示シ若シ先方ヨリ三国協定成立希望ノ誠意ヲ示スニ於テハ始メテ我方ヨリ最後案ヲ突付ケ帝国讓歩ノ実ヲ示シ彼ノ諾否ニ依リ進退ヲ決スルコトスレハ會議決裂ノ結果ハ必スシモ深ク之ヲ恐ルルニ足足ラサルカトモ思考セラル

四、右ハ帝国海軍統制ノ重責ト現内閣ノ重大使命ニ連座スル閣僚ノ一人トシテ内外諸般ノ情勢ヲ慎重考慮シタル上敢テ卑見ヲ具シ兩閣下ノ御清鑑ヲ仰カントスル次第ナリ

一十六日午前三時

423 昭和5年3月24日 憲原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全権宛 (電報)

ステイムソン・國務長官より浜口首相宛のメツ

Tokyo, March 24, 1930.

Excellency:

I have the honor to communicate the following personal message from the Secretary of State, the Honorable Henry L. Stimson, chief delegate of the United States to the Naval Conference in London:

"I believe this to be an excellent opportunity to consolidate the good relations which exist between the world's three greatest naval Powers. If at this time we are able to remove any question of competitive naval building we shall be able to move forward in full harmony in the peaceful development of the welfare of these three great nations, and at the same time to increase the stability of peace throughout the world."

I take this occasion to express to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(右訳文)

浜口首相「ベネッセ」「ベニヤーニ」

ノ箇所ノ訳文

予ハ此ノ時ヲ以テ世界ノ[[最大海軍国ノ間ニ存スル良好ナ

ル関係ヲ鞏固ナラシムル一好機会ナリト信ス若シ此ノ時ニ当リ製艦競争ノ問題ヲ除去シ得ルニ於テハ吾人ハ十分ナル協調ヲ以テ此等三[四大國ノ福祉ノ平和的増進ニ進ミ得ベク同時ニ世界全般ノ平和ノ安固ヲ増大シ得くシ

425 昭和5年3月24日 整原外務大臣より

在英國松平大使宛（電報）

日米交換を変改する修正案を提出せば余議
決裂の危険ある眞正申方を望むべし

本省 3月24日後8時発

極秘、館長符号

在英 松平大使

幣原

若槻全権限りノ極秘私電トシテ左ノ通御伝ヲ請フ
過般御請訓ノ妥協案ニ対シ我海軍部内ノ強硬論者ト雖交渉ノ決裂ニ付テハ必スシモ強キ覺悟アルニ非ス唯[[英米両国政府カ其内政上ノ見地ヨリスルモ軍縮協定ノ成立ヲ絶対ニ必要トル立場ニ在リテ之カ為ニハ尚ホ若干ノ譲歩ヲ為ス余地アリト認メラルコト]]日本ヲ除外シテハ事實上何等協定ノ途ナキコト[[伊トノ關係ニ於ケル難問題未タ解決ノ徵ナキハ英米ヨシテ深ク焦慮セシメツツアルコト]]從テ

立場ハ十分ニ諒察スル所ナルモ回訓ノ決定ハ既ニ遷延シ今日急ニ難局ヲ打開スル所適當ノ考案ハ右以外ニ思ヒ當ラサルニ付篤ト御考量ヲ煩ハシ度浜口首相モ同意見ナリ
二十三日發閣下ノ極秘私電拝承ス

426 昭和5年3月25日 ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛（電報）

第十二回首席全権會議における會議進行の現状及び次回総会開催問題の討議について

ロンドン 3月25日後発 本省 3月26日前着

第11111号

三月二十五日「セントジョームス」宮ニ於テ首席會議開催ニ妥協案ニ屈服セサルヲ得サル場合ニ至ラハ帝国ノ威信ハ全然失墜スヘキカ故ニ右修正案ヲ提出スルニ付テハ最早交渉ノ最後的決裂ヲ覚悟スルノ外ナカルヘキ旨ヲ稟申セラル様致度斯クノ如キ閣下ノ電稟ハ軍部ノ異論ヲ説得スルニ有力ナル根拠ヲ与フヘク又仮令説得シ得サル場合ニモ政府ハ断然異論ヲ無視シテ回訓ヲ決定シ得ベシ固ヨリ回訓決定ニ付テハ政府ニ於テ全責任ヲ執ル決心ナリ閣下ノ困難ナル

問解決セラレス日英米間ニハ日本政府ニアル案ヲ提示スルコトニ合意成立セリ右案ハ度々米国案ト謳ハレ居ルモ夫ハ不正確ニシテ三代表部ノ合意セル案ト云ハサルヘカラス目下東京ヨリノ回答ヲ待チツアリト語リ更ニ會議ニ対スル一般ノ評判ニ言及シ總会ヲ開クノ必要ヲ説キ来週中ニハ是非共開催シ度キ旨希望シ議題トシテハ本會議カ軍備縮減ノ実際的方法ヲ発見セムトンテ努力シツアル点ヲ高唱スルコトトシテハ如何ト提言セリ（右ハ仏ノ態度ニ対スル當付ケトモ感セラレタリ）

若槻ハ首相ノ言ハレタル通一案ヲ具シテ帝国政府ノ考量ニ俟チソソアル事ハ事實ナルモ首相ノ用ヒラレタル三代表部ノ同意セル案ナル語ハ不正確ニシテ我方ニテハ未タ考量ヲ留保シ居ル点モアリ三代表部一致ト言フハ迷惑ヲ感スト述ヘタルニ「スチムソン」ハ稍氣色バミテ今日其ノ言ヲ若槻全權ヨリ聞クハ余ノ意外トスル所ナリト言ヒタルニ付若槻ハ御承知ノ通「アクセプト」トカ「アグリー」トカ謂フ形式ニ依ラス話ヲ半途ノ儘トシテ東京ニ移牒シ考慮ヲ求メ居ル成行ニ付斯ル用語ヲ記録ニ残スコトヲ避ケタキ希望ナリト答ヘ「マ」ハ用語ノ不正確ナリシコトヲ謝シ「三代表部

428 昭和5年3月25日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

海軍省軍務局長より手交の海軍側私案の取扱について

本省 3月25日後7時20分発

第一〇六号

数日來海軍側訓令案ナルモノヲ上ニ伝ヘラレ貴方ニモ電報セラレ居ル模様ナル処右ハ軍務局長ヨリ全クノ私（ワタクシ）案トシテ歐米局長ニ手交シタルモノニシテ當方ニ於テハ之ヲ海軍案トシテ取扱居ラサル次第ナリ將又二十四日軍事參議官會議ニ於テ右海軍案ナルモノヲ是認セリトノ記事各新聞ニ掲載セラレ外国通信員中ニハ其結果今ヤ右海軍案カ全權宛訓令ノ骨子トナルヘキコト疑ナシトノ通信ヲナセルモノアル処右軍事參議官會議ナルモノハ海軍軍事參議官及海軍首腦者カ軍縮問題ニ關シ意見交換ノ為メ会合セルマテニテ正式會議ニ非ラス又右会合ニ於テ議論ハ新聞所報ノ

間ノ交渉ヨリ「エマージ」シ來リ日本代表部カ政府ニ「リコンメンド」スルコトヲ「アグリー」シタル一「妥協案」ト改ムヘント言ヘリ

「ス」ハ總会開催ノ必要ニ付英首相ニ共鳴ノ意ヲ表シ會議ノ仕事モ相當進ミタレハ適當ノ議題ヲ見出スコト難カラサルヘシト述ヘ更ニ本會議ノ議長トシテ英首相カ隱忍懇篤ノ美德ヲ發揮シ巧ニ難局ヲ處理セラレタルニ対シ同僚ト共ニ謝意ヲ表セサルヲ得スト述ヘ「ジユメニル」「グランジ」若槻何レモ之ニ和シ次テ「ブリアン」ノ來英ヲ待チ二十七日午後再ヒ首席會議ヲ開クコトニ決定シテ散会セリ米ヘ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

427 昭和5年3月25日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日米妥協案の補助艦種別割当をめぐる朝日、時事の論調について

本省 3月25日後7時20分発

第一〇五号

二十五日朝日ハ今回ノ案ニ於テ米国ノ示シタル協調的精神ト潜水艦ニ融通スルカ又ハ米カ三万噸ヲ輕巡ニ融通スルカ或ハ古鷹級代艦ヲ一万噸トスルカノ方法ニテ更ニ一步ノ努力ヲナスヘシト述ヘタリ

ト潛水艦ニ融通スルカ又ハ米カ三万噸ヲ輕巡ニ融通スルカ或ハ古鷹級代艦ヲ一万噸トスルカノ方法ニテ更ニ一步ノ努力ヲナスヘシト述ヘタリ

ト潛水艦ニ融通スルカ又ハ米カ三万噸ヲ輕巡ニ融通スルカ或ハ古鷹級代艦ヲ一万噸トスルカノ方法ニテ更ニ一步ノ努力ヲナスヘシト述ヘタリ

如ク一致ヲ見タル次第ニ非ラス從テ何等纏マリタル決議等ハ之ナカリシ趣確聞ス併セテ御参考マテ

429 昭和5年3月(26)日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

日米妥協案の成立までの経過について

ロンドン

本省 3月26日前着

第二二九号(至急、極秘)
此ノ電報ハ若槻全権委員ヨリ外務大臣閣下ニ呈スルモノナリ

全権委員ヨリ政府ノ訓令ヲ仰キタル第二〇八号電報ハ事情ヲ尽ササル感アルヲ以テ茲ニ聊カ本委員ノ所見ヲ述ヘ御参考ニ供セントス

今回ノ會議ニ於ケル我重要ナル主張ハ小出シニ之ヲ提議セス当初ヨリ總テ之ヲ公言シ以テ正々堂々ト世界ノ輿論ニ訴フルコト一般ノ諒解ヲ得ルニ付適當ノ途ナリト考ヘ會議開始前米国ニ於テ又英國ニ於テ委曲当局ニ交渉シタルノミナラス其ノ大要ハ之ヲ世間ニ公表シタリ故ニ會議開催ノトキハ英米ノ全権委員ハ皆日本ノ主張ノ如何ナルモノナリヤフ

承知シタルヲ以テ開会後我ヨリ進シテ我数字ノ承認ヲ得ンコトニ焦慮スルトキハ彼等ハ我提議ニ若干掛値アルヤノ疑ヲ起スノ惧アリト考ヘ彼等ヨリ進シテ我ト協議スル態度ニ出ツル迄我々ハ態ト余り急カサルカ如キ風ヲ示シ居リタリ勿論其ノ間日本ノ主張ヲ明カニスルヲ要スト認メタル場合ハサシムル迄ニ至リタルコト累次ノ電報ニテ御承知ノ通ナリ斯ノ如クシテ開会後五六週ニ亘リ英米ノ間ヲ除クノ外何レノ国モ数字ニ付協議ノ進ミタルモノナク輿論ハ漸ク會議ノ前途ヲ悲観セントスルニ至リタルヲ以テ屢々首席全権會議ヲ開キ會議ノ進捗ニ付意見ヲ交換シ遂ニ英首相ヨリ日期シテ数字ニ就キテノ各國ノ意見ヲ定メコトヲ提議シ米仏之ニ賛成シ本委員モ亦其ノ成否ハ予期スルヲ得サルモ期限ヲ定メテ會議ノ進捗ヲ計ルコトニハ同意シタリ日本ノ関スル限り数字ニ付テハ米国ト極メテ密接ナル關係アルヲ以テ日米ノ交渉ニ最モ重キヲ置カサルヘカラス而モ日米ノ間ニハ既ニ充分ノ意見交換ヲ為シノ間頗ル距離アリテ之ヲ繰返シ居レハ何時迄待ツモ双方ノ一致スル帰着点ニ到達スルコト能ハサルノ情勢トナレリ故ニ双方共ニ自由ニ大胆ニ

意見ヲ述ヘ而モ其ノ意見ハ双方共ニ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得何等拘束ヲ受ケサルコトトシ其ノ間ニ双方ノ同意シ得ヘキ一致点ヲ発見スルニ努ムルヲ可ナリト認メ本委員ト「スチムソン」トノ間ニ其ノ申合セヲ為シタリシカ本委員自ラ「ス」ト交渉スルトキハ如何ニ拘束ヲ受ケサルノ約束アリトスルモ自然余リ大胆ナル意見ヲ述ヘ難キ感ヲ有スヘキノミナラス動モスレハ右ナリ左ナリ断定セサルヘカラサルコトナリ纏マルヘキモノモ纏マラナルニ至ル虞アリト信シ松平全権ト「リード」トノ間ニ交渉ヲ為サシムルコトトセリ両氏間ノ交渉ハ如何ナル意見ヲ述フルモ其ノ人ノ提議ト称セス兩氏間ニ生シタル試案ト称スルコトトシ一週間以上ニ亘リ互ニ忌憚ナキ意見ノ交換ヲ為シタルモ頗ル距離アリテ一致点ヲ発見スルニ至ラス其ノ間本委員ハ「ス」ニ面会シ本委員ハ倫敦會議ハ是非成功セシメタキ切ナル希望ヲ有シ終始一貫之カ目的達成ニ努力シツツアリ又今後モ之カ為ニ努力セムト欲スルモノナルモ「リード」氏ヲ通シテ示サルルカ如キ米国ノ態度ニテハ乍遺憾日本ハ協定ニ参加スル能ハス予ノ誠意ヲ諒トセラルルナラハ貴下モ亦其ノ誠意ヲ示サレサルヘカラス「リード」氏ニ対シテ然ルヘク指揮セ

會議の経過
ラレタシト申入レ「ス」大イニ感動ノ色ヲ現ハシ其ノ後「リード」ハ幾分我カ主張ヲ斟酌スルノ態度ニ出テタルモ尚日本ノ三大主張ノ何レニ付テモ同意セス會議ハ停頓シ互ニ同一ノ意見ヲ繰返スニ過ギサルニ至レリ松平「リード」交渉ノ間ニハ松平全権ハ総括的七割ノコト此ノ際一万噸大巡一隻建造ノコト古鷹級四隻ヲ一万噸ニ改造スルコト潛水艦六万噸「パリチイ」ノコト等繰返シ少シニテモ我カ条件ヲ有利ニスルコトニ関シテ米国ノ同意ヲ求メタルモ「リード」ハ固ク執テ之ヲ聴カス依テ本委員ハ「ス」ヲ訪問シ過日予ハ誠意ヲ披瀝シテ日米ノ間ニ協定ヲ得ムコトヲ切望シ貴下モ之ニ共鳴セラレタルニ拘ラス「リード」氏ノ主張セラルル如キコトニテハ日本ハ断シテ之ニ同意スルコト能ハス第一艦齡超過艦ヲ加ヘテ総括的七割ヲ認ムヘント言フカ如キハ如何ニモ人ヲ馬鹿ニシタルモノナリ此ノ点ハ絶対ニ匡正セラレサルヘカラス米国ニ於テ是非艦齡内ノ艦艇ノミヲ敢テ総括的七割ヲ認ムルコトトセラレタシト論シ総括的七割丈ヶハ大体其ノ同意ヲ得タリ

タルモ「ス」及「リード」ハ頑トシテ聽カス遂ニ彼ヨリ一万二千七百噸「パリチイ」ヲ提議シ本委員ニ是非之ニ同意スルコトヲ求メ本委員ハ之ニ対シ難色ヲ示シタルモ其ノ儘ニテ大巡問題ニ移リ総括的七割ノ為此ノ際一万噸大巡一隻建造ノコト難カシキモノトセハ古鷹級ヲ一万噸ニ代換スルコト丈ケハ此ノ際是非決定シ置カサルヘカラストテ数回ニ亘リテ論議シタリシカ米國側ハ大巡ニ付米國カ一万噸三隻ノ建造ヲ千九百三十三年ヨリ三年間ニ一隻宛起工スルコトトシ次ノ會議迄ニハ之ヲ竣工セシメサルコトシタルハ米國ノ最後ノ讓歩案ニシテ之上ノ讓歩ハ上院ノ承認ヲ得ルコト絶対ニ望ナキカ故ニ我主張ニハ応スル能ハストテ固ク執ツテ動カス依テ本委員ハ斯ノ如キコトニテハ之以上話ヲ進ムル能ハス本日ハ此ノ程度ニ止メ置キタシトテ両人カ頗ル不機嫌ノ顔付ヲ為シ居ル間ニ引揚ケタリ今日仮妥協案ト称セラルモノハ以上ノ経過ニ依テ成レルモノニシテ勿論本委員ハ之ニ同意ヲ与ヘタルモノニアラサルモ此處ニ至ル迄ノコトヲ詳悉スル本委員ハ之以上讓歩セシムルコトハ全然見込立タサルナリ日米ノ交渉状態ハ之ヲ英國ニモ知ラシ

タルモ「ス」及「リード」ハ頑トシテ聽カス遂ニ彼ヨリ一万二千七百噸「パリチイ」ヲ提議シ本委員ニ是非之ニ同意スルコトヲ求メ本委員ハ之ニ対シ難色ヲ示シタルモ其ノ儘ニテ大巡問題ニ移リ総括的七割ノ為此ノ際一万噸大巡一隻建造ノコト難カシキモノトセハ古鷹級ヲ一万噸ニ代換スルコト丈ケハ此ノ際是非決定シ置カサルヘカラストテ数回ニ亘リテ論議シタリシカ米國側ハ大巡ニ付米國カ一万噸三隻ノ建造ヲ千九百三十三年ヨリ三年間ニ一隻宛起工スルコトトシ次ノ會議迄ニハ之ヲ竣工セシメサルコトシタルハ米國ノ最後ノ讓歩案ニシテ之上ノ讓歩ハ上院ノ承認ヲ得ルコト絶対ニ望ナキカ故ニ我主張ニハ応スル能ハストテ固ク執ツテ動カス依テ本委員ハ斯ノ如キコトニテハ之以上話ヲ進ムル能ハス本日ハ此ノ程度ニ止メ置キタシトテ両人カ頗ル不機嫌ノ顔付ヲ為シ居ル間ニ引揚ケタリ今日仮妥協案ト称セラルモノハ以上ノ経過ニ依テ成レルモノニシテ勿論本委員ハ之ニ同意ヲ与ヘタルモノニアラサルモ此處ニ至ル迄ノコトヲ詳悉スル本委員ハ之以上讓歩セシムルコトハ全然見込立タサルナリ日米ノ交渉状態ハ之ヲ英國ニモ知ラシ

ノ如ク協定ヲ得ル事困難ナリト認メラレ結局三国協定トナルニアラスヤト察セラル

スノ如キ状態ナルヲ以テ英米両国当局カ頗ル困惑シツアルヘシト想像シ此ノ際日本ヨリ我条件ヲ有利ニスヘキ事ヲ交渉スレハ其ノ目的ヲ達スルコトナキニアラストノ観察アルカ如キモ英米ノ間ニハ夙ニ共鳴スル処アリ所謂妥協案ヲ固持スル深キ決心ヲ為シ居ルモノト認メラルヲ以テ本委員ハ右ノ觀察ヲ是認スル能ハス英米両国ニ於テハ場合ニ依リ二国間ノ協定ヲ辞セサル決意ヲ仄メカシタルコト曩ニ電報シタル通リナルヲ以テ本委員ハ一層前述ノ感想ヲ深クスルモノナリ從ツテ日本カ其ノ条件ヲ有利ニスル提議ヲ為サントスルニ於テハ彼等カ聽カサルトキハ断然會議ヨリ脱退スルノ決心ヲ有セサル可カラストキハ断然會議ヨリ脱退シ彼等カ応諾セサル場合ニ於テ結局妥協案ニ屈服スル如キ事アリトセハ帝国ノ威信ハ全然失墜スヘシ本委員ノ最痛心スル処ナリ今ヤ政府ハ全権委員ヨリ請訓シタルニ対シ慎重ナル考慮ヲ加ヘラレツツアル大切ナル時期ナリト存シ本委員ノ卑見ヲ御参考ニ供スルハ全ク無益ニ非サルヘシト信

ス

倫敦全権ニ郵送セリ

430 昭和5年3月26日 在仏國河合臨時代理大使より

幣原外務大臣宛（電報）

軍縮會議への仏國の態度に関するブリアン外相の言明について

本省 3月27日前着 パリ 3月26日後発

第九三号

二十五日上院ニ於ケル一九三〇年度外務省予算ノ討議ニ際シ「ブリアン」外相ハ倫敦會議ニ言及シ仏國ハ軍縮問題ニ対シテハ連盟規約第八条ノ精神ヲ出発点トスルモノナリトナシタル後

(イ) 仏國ハ其ノ隣邦トノ友誼ヲ維持スルニ咨ナルモノニハアラサレトモ理論上ノ均勢ニ依リ事實上ノ不平等ヲ招来スルカ如キコトヲ認ムルコト能ハス

(ロ) 仏國カ安全保障ヲ主張スルハ自國ノ利益ノミヲ目的トルモノニハアラスシテ各國ニ必要ナル一般的相互安全保障ノ制度ノ確立ヲ希望スルカ為ニ外ナラストノ趣旨ヲ述ヘアリ

ムルコト之迄ノ例ナルヲ以テ本委員ハ右ノ経過ヲ英首相ニ話シタル後「クレーギー」トモ話ヲ続ケタルニ同人ハ日本カ右ノ条件ニ同意セラルルナラハ英國ニテモ海軍當局ニ相談スヘント述ヘタルニ対シ本委員ハ日本ハ全部ニハ同意シ居ラスト答へ「ク」ハ然ラハ英國ニテモ海軍側ニハ相談セスト言ヒ放チ相別レタリ然ルニ拘ハラス翌日米國側ノ勧誘ニ依リ英國モ海軍側ノ同意ヲ得今日ニテハ所謂妥協案ナルモノカ英米ノ主張トナレル事御熟知ノ通ナリ以上ノ次第ナルニ依リ所謂妥協案ハ日本当初ノ主張ニ比シ異ル處アルモ約ノ有効期間ヲ五年トシ次回會議ニ於テハ從來ノ主張ヲ執ツテ動カス依テ本委員ハ斯ノ如キコトニテハ之以上話ヲ進ムル能ハス本日ハ此ノ程度ニ止メ置キタシトテ両人カ頗ル不機嫌ノ顔付ヲ為シ居ル間ニ引揚ケタリ今日仮妥協案ト称セラルモノハ以上ノ経過ニ依テ成レルモノニシテ勿論本委員ハ之ニ同意ヲ与ヘタルモノニアラサルモ此處ニ至ル迄ノコトヲ詳悉スル本委員ハ之以上讓歩セシムルコトハ全然見込立タサルナリ日米ノ交渉状態ハ之ヲ英國ニモ知ラシ

ムルコト之迄ノ例ナルヲ以テ本委員ハ右ノ経過ヲ英首相ニ話シタル後「クレーギー」トモ話ヲ続ケタルニ同人ハ日本カ右ノ条件ニ同意セラルルナラハ英國ニテモ海軍當局ニ相談スヘント述ヘタルニ対シ本委員ハ日本ハ全部ニハ同意シ居ラスト答へ「ク」ハ然ラハ英國ニテモ海軍側ニハ相談セスト言ヒ放チ相別レタリ然ルニ拘ハラス翌日米國側ノ勧誘ニ依リ英國モ海軍側ノ同意ヲ得今日ニテハ所謂妥協案ナルモノカ英米ノ主張トナレル事御熟知ノ通ナリ以上ノ次第ナルニ依リ所謂妥協案ハ日本当初ノ主張ニ比シ異ル處アルモ約ノ有効期間ヲ五年トシ次回會議ニ於テハ從來ノ主張ヲ執ツテ動カス依テ本委員ハ斯ノ如キコトニテハ之以上話ヲ進ムル能ハス本日ハ此ノ程度ニ止メ置キタシトテ両人カ頗ル不機嫌ノ顔付ヲ為シ居ル間ニ引揚ケタリ今日仮妥協案ト称セラルモノハ以上ノ経過ニ依テ成レルモノニシテ勿論本委員ハ之ニ同意ヲ与ヘタルモノニアラサルモ此處ニ至ル迄ノコトヲ詳悉スル本委員ハ之以上讓歩セシムルコトハ全然見込立タサルナリ日米ノ交渉状態ハ之ヲ英國ニモ知ラシ

431 昭和5年3月(27)日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

日米妥協案に対する回訓方稟請につき在米大使に通報について

使に通報について

ロンドン

本省 3月27日前着

第二三二号

本官発在米大使宛電報

第二四九号(極秘)

外務大臣宛往電第一〇一、一〇四、一〇五、一〇六及第二〇七号ニ閲シ

三月十四日大臣宛往電第二〇八号ヲ以テ要旨別電第一五〇号ノ通稟請回訓ヲ求メ置キタルモ未タ回電ニ接セサル処三月二十五日若槻全権ヨリ前電第二五一号ノ通大臣宛電報シ置キタリ

本電ノミ外務大臣ニ転電シ本電及別電仮、伊ニ暗送セリ

432 昭和5年3月27日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

第十三回首席全権会議における総会開催問題
の討議について

「ブリアン」「ジユメニル」出席
「マクドナルド」ハ前回ニ引続キ総会開催ノ件ヲ議シタキ
處自分ノ意見ハ先日述ヘタレハ他ノ意見ヲ聞カント言ヒ
「ブリアン」ハ第一委員会議題中潜水艦使用制限問題ハ未
了ナルモ制限方式ノ問題ハ決定セルニ付之ヲ總会ニ持出シ
然ルヘシ尤モ前回議長ノ提議セラレタルカ如キ一般的声明
ヲナスモ不同意ニアラスト言ヒ「マ」ハ新聞紙等ハ細目ニ
捉ハレ会議ノ本体ヲ忘レ居ル傾アルニ付此ノ際會議ノ真使
命ニ付再ヒ言明ヲナスコト有益ナルヘシト主張シ若槻「ス
チムソン」ハ別段異議ナキモ何等カ実ノアルコトヲ言ハサ
レハ公衆ヲ失望セシムルノ虞アルヘシト述ヘ「マ」ハ然ラ
ハ會議ノ現状即チ専門家ノ協定シ得タル事項其ノ他非公式
内談ノ進行模様等差支無キ程度ニ公表スルコトシテハ如
何ト提言シ若槻ハ異議ナキモ発表ノ際細心ノ注意ヲ加ヘラ
レ事實ノ相違ヲ指摘シテ討論セサルヘカラサルコトナキヲ

要スト言ヒ「マ」ハ幾分討論カマシキ言説アルハ已ムヲ得
ストスルモ決シテ「ダメジング、デベイト」ヲ交ヘサルコ
トヲ要スト述ヘタリ夫レヨリ難談ノ形式ニテ「マ」ハ「グ
ランジー」ニ対シ五国協定成立ノ為此ノ上トモ援助セラレ
タシトテ婉曲ニ讓歩ヲ求メ「グ」ハ之余ノ最モ望ム処ナリ
ト答ヘ又「マ」ハ仏國側ニ対シ貴我ノ関係ハ却々困難ナル
モコトノ進ミツツアルハ喜フ処ナリト言ヒ「ブ」ハオ互ニ
全力ヲ尽ササルヘカラスト言ヘリ

総会ハ四月四日午前十時半開催ノコトニ決定之ニ先立チ三
月三十一日首席会議ヲ開ク筈

米へ転電ス仮、伊へ暗送セリ

433 昭和5年3月27日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

マクドナルド首相より若槻全権宛我が回訓取

急ぎ方依頼について

ロンドン 3月27日後発
本省 3月28日後着

第二三六号
「マクドナルド」ハ昨日ヨリ若槻トノ会見ヲ希望シタルモ
遠カラス回答ニ接スヘシト思考ス尚自分ハ当初ヨリ五国協

ロンドン 3月27日後発
本省 3月28日後着

第二三五号

二十七日午後「セントゼイムス」宮首席全権会議仏ハ

「ブリアン」「ジユメニル」出席

「マクドナルド」ハ前回ニ引続キ総会開催ノ件ヲ議シタキ

處自分ノ意見ハ先日述ヘタレハ他ノ意見ヲ聞カント言ヒ
「ブリアン」ハ第一委員会議題中潜水艦使用制限問題ハ未
了ナルモ制限方式ノ問題ハ決定セルニ付之ヲ總会ニ持出シ
然ルヘシ尤モ前回議長ノ提議セラレタルカ如キ一般的声明
ヲナスモ不同意ニアラスト言ヒ「マ」ハ新聞紙等ハ細目ニ
捉ハレ会議ノ本体ヲ忘レ居ル傾アルニ付此ノ際會議ノ真使
命ニ付再ヒ言明ヲナスコト有益ナルヘシト主張シ若槻「ス
チムソン」ハ別段異議ナキモ何等カ実ノアルコトヲ言ハサ
レハ公衆ヲ失望セシムルノ虞アルヘシト述ヘ「マ」ハ然ラ
ハ會議ノ現状即チ専門家ノ協定シ得タル事項其ノ他非公式
内談ノ進行模様等差支無キ程度ニ公表スルコトシテハ如
何ト提言シ若槻ハ異議ナキモ発表ノ際細心ノ注意ヲ加ヘラ
レ事實ノ相違ヲ指摘シテ討論セサルヘカラサルコトナキヲ
都合付カス本二十七日首席全権会議開催十五分前会見ノコ
トトナリ「マ」ハ自分ハ出来得ル限り五国協定ヲ成立セシ
メントシテ努力シツツアルモノナルカ各国全権トモ忙シキ
身ナレハ會議ハ成ルヘク速ニ切り上ケサルヘカラス就テハ
決シテ不平カマシキコトヲ申スニハ非サルモ出来得レハ東
京ヨリノ回答ヲ取急ク様尽力願タシ會議議長トシテ全ク友
好的ノ意味ニテ申上クル義ナルカ回答遲延ヲ「エンカレ
ジ」スルカ如キコトナキ様切望ス尚自分ノ手抜リニ對シ切
ニ御寛恕ヲ仰ガサルヘカラサル一事アリ先日日英米代表部
ニ於テ仮妥協案ヲ得タル際之ヲ在東京英國大使ニ電示シタ
ルカ右措置ハ日本代表部ニテ東京ニ請訓セラレタルコトヲ
知リタル後始メテ之ヲ採リタルモノニシテ當時貴全権ニ早
速其ノコトヲ御通知スヘカリシヲ失念シタルハ申証ナシ但
シ日本代表部ヲ出抜キテ日本政府ニ申入ヲナサントスル意
向毛頭ナカリシコトヲ御諒得願ヒタシト述ヘタルニ對シ若
槻ハ東京ヨリノ返事ハ自分モ待チ居ル処ニシテ実ハ其ノ遲
延ヲ氣ニシ居レリ但シ先日モ申述ヘタル通我国情ニ見テ回
答ニ暇取ルコトハ初ヨリ覚悟シ居タル処ナリ然レトモ最早

前ノ既成艦ニ其ノ儘適用スルベカラズ

(欄外朱記二)

古鷹ノ代換ハ七一〇〇噸型ニテハ八吋砲艦トシテ小サ
キニ過グルコト

(欄外朱記三)

代換艦齡ヲ十三年トシテ五二、七〇〇噸ヲ受諾スルハ

実質ニ於テ全廢ヲ認ムルニ同ジ

(編注)

本書は、昭和五年三月二十八日、堀海軍省軍務局長より
堀田外務省歐米局長に送付した参考書類中の一つである。

436

昭和五年三月28日

堀海軍省軍務局長より
堀田外務省歐米局長宛

日本両国の現有艦船などの比較表送付について

表の説明

一、日米の現有艦船は第一表の通りでこれは第二表の記事欄にある艦齡内の既成艦と建造命令発布済のものを合算したものである合計に於て対米七〇、九%、大巡及潛水艦に於て各八〇、六%及一〇三、一%を現実に持て居

り三六年迄の六年間に平均すれば毎年五、〇〇〇噸となり軽巡一隻にも足りないから事實上造船工業の破滅となる就中潜水艦は一隻も造れぬから科学技術の進歩に立ち遅れ陥り大巡亦一隻も造れぬから科学技術の進歩に立ち遅れ名義上の七割は実質上五割以下にも下がることとなる

五、第五表は米国案の結果日本が古船撤ひとなり実力が全般に亘りて愈々低下することを示す。

(第一表) 現有艦船(艦齡内既成艦及建造) 昭和五年三月調

艦種	日	米	記	事
大巡	二隻 一〇八,四〇〇	二隻 二〇〇,〇〇〇	内 日ハ八隻、米ハ 一隻竣工 対米 % 八三・四	
軽巡	三隻 八、四三五	二〇隻 七、四〇〇	同	
駆	二九隻 三三、四五五	三〇五隻 三〇、一五五	同	
潜	七隻 八、四六	二九隻 七、四〇〇	同	
合計	三三隻 四二七、八〇六	四五隻 八三、七五五	同	セ・六

(第二表) 現有艦船中一九三六年迄ニ艦齡ヲ超過スルモノ

艦種	日	米	記	事
大巡	○	○		
軽巡	四隻 一六、九六〇	○		
駆	四七隻 三九、二九〇	二七隻 二七、五四〇	駆逐艦十六年	
潜	三隻 三五、七六	一〇一隻 三五、一〇〇	潜水艦十三年	
合計	八隻 三二、〇一六	三五隻 三五、六四四	トス	

(第三表) 一九三六年末ニ於ケル艦齡内現有艦船

艦種	日	米	記	事
大巡	二隻 一〇八,四〇〇	二隻 二〇〇,〇〇〇	対米 %	八三・四
軽巡	一七隻 八、四三五	一〇隻 七、四〇〇	同	二五・六
駆	三隻 三三、四五五	三三隻 三三、五七一	同	三七・四
潜	三六隻 三三、七三六	二七隻 三三、九五〇	同	三九・一
合計	三五隻 三五、七六八	三五隻 三五、〇三一	同	一三〇・六

る大巡の記事に内日本は八隻、米国は一隻竣工とあるのは現に完備の状態で海上に浮び居るものとの比較である日本の大巡たる大巡対米七割潜水艦所要量の二大眼目を内容とする対米総括的七割の根拠は實に茲にある而して此の地位は国防の最小限度を目標として多年の努力により築き得たものである。

二、第二表は今回の協定期限たる一九三六年迄に艦齡を超過して廢艦になるものの隻数と噸数とを示すこれに依り

米国が日本に比し如何に多数の古艦を有するかが判ると共に日本の現有する対米七割は實質上更に優勢なものであることも明である。

三、第三表は競争を止むる為めお互に新艦を造らず現状に止むる場合一九三六年末に於ける実勢力の比較を示す

四、第四表は米国案に依る場合一九三六年迄に造り得る両国の分量を示す即ち日本は此の期間に僅に三一、〇〇〇噸を造り得るに反し米国は二六九、〇〇〇噸といふ大量を造り得るのである米国は此の外に船台上に工程幾何も進まる多数の大巡を擁するから實際の分量は三十数万噸に上るであらう日本の三一、〇〇〇噸を一九三一年よ

(第四表) 米国案ニ依ル場合一九三六年迄ニ建造シ得ベキ量

艦種	日	米	記	事
大巡	0	五隻 五〇,〇〇〇		
軽巡	一六,〇〇〇	二六,〇〇〇		
駆	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇		
潛	0	三六,〇〇〇		
合計	三,〇〇〇	三六,〇〇〇	米建造量ハ日ノ九倍	

(第五表) 一九三六年未整備艦船ノ平均艦齡

艦種	日	米
大巡	七年一	四年五
軽巡	一〇年七	七年六
駆	九年〇	四年一
潛	八年五	六年一

(編注) 本書は、昭和五年三月二十八日、堀海軍省軍務局長より堀田外務省歐米局長に送付した参考書類中の一つである。

437 昭和5年3月29日 ロンドン軍縮会議全權宛(電報)

国防に脅威を感じしむる讓歩には反対との報

438 昭和5年3月(30)日 ロンドン軍縮会議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
日本妥協案への日本側の反応に関する新聞報道について

ロンドン
本 省 3月30日前着

第二三八号

二十九日新聞情報

一、「テレグラフ」ハ米国提案ニ対スル日本ノ反対ト題シ
大要左ノ如キ二十八日付東京特電ヲ掲ケ居レリ
浜口内閣ハ若槻全権ニ対スル最終的訓令ノ問題ニ付頗ル
難局ニアルカ如シ海軍側ハ七割要求ヲ一步ニテモ讓ラン
ヨリハ内閣ノ倒壊センコトヲ望ミ居レリト信セラル軍令
部ハ其ノ強硬ナル態度ヲ固持スヘク新聞論調ハ明カニ此
ノ態度ヲ反映シ居リ外務省ノ妥協的傾向ヲ支持スルモノ

ナシ新聞論調ハ対外硬ニシテ米国ノ誠意ナキヲ難シ居レ
リ云々

二、「タイムズ」ハ左ノ如キ二十八日付東京特電ヲ掲ク
今夕専ラナル報道ニ依レハ日本ノ回答ハ從来倫敦ニ於テ

知の論調及び政友会の声明について

本省 3月29日後2時発

第一〇九号

軍縮新聞情報

二十八日報知ハ是以譲歩ノ余地ナシト題シ米國力何等脅威トナラサル我大巡及潛水艦要求ヲ抑圧シ日本譲歩セスムハ會議ハ夫レ迄ナリ又補助艦協定成ラスムハ主力艦ニ付テモ協定セスト云フカ如キ高压的態度ヲ採ル以上遺憾乍ラ其為スカ儘ニ委スル他ナカルヘン會議ノ成功ハ之ヲ熱望スルモ国防ノ安全ヲ犠牲ニスルコトハ出来スト述ヘタリ

尚政友会ハ二十七日森幹事長談ノ形式ニテ要旨左ノ如キ声明ヲナシタル旨各新聞ニ報セラル

曩ニ議会ニ於テ犬養總裁ハ我國防ノ最小限度タル三原則ハ断シテ妥協ノ犠牲ニ供ス可ラサルヲ指摘シテ政府ノ所信ヲ質シタリ此主張ヲ破ルカ如キ會議ノ結果ニ對シテハ國民ハク首相ノ發意ニ依リ日本ノ輿論ヲ緩和スルカ如キ新提案行ハルヘク右提案ノ性質ハ公ニセラレサルモ「リード」松平案ノ数字ヲ変化セシムルコトナカルヘシ消息通ノ或方面ニ於テハ首相ハ「リード」松平案カ大巡ニ関シ六割ノ比率ヲ永久ニ承認スルモノニアラサルコトヲ明カニスルカ如キ何等カノ留保ヲ提議スヘント信セラル斯ル留保ハ海軍保守派ヲ満足セシメサルモ同派ハ重大ナル危機ヲ惹起セシムル勢力ナシ一海軍要人ハ辞職スルコトアラント這ハ驚クニ足ラス政府ハ帝国ノ最有力ナル意見ノ支持ヲ受ケ米国トノ円満ナル了解ハ一二隻ノ巡洋艦ヨリモ重要ナルコトヲ自覺シ居レリ

439 昭和5年3月(30)日 安保ロンドン軍縮会議顧問より
山梨海軍次官宛

財部全権の最後案通報について

財部海軍大臣案(最後案)

帝国ハ其ノ重要主張タル三点ニ關シテハ既定ノ方針ヲ捨ツルモノニアラス但シ千九百三十六年(今次協定ノ有効期間)迄ノ措置トシテ左ノ通り協定スルニ異議ナシ

一、八時巡洋艦米国十八隻建造ハ之ヲ認ム

但シ其ノ第十六隻迄ハ日本ハ現有十二隻保有ニ留メ第十七隻日起工ノ場合日本ハ新ニ一万噸級一隻ヲ起工ス

二、潜水艦ハ日本ノ保有量ヲ七万噸トス

三、補助艦ニ於テハ日本ハ対米総括的七割ヲ保有ス

二十九日午後七時

(註) 本案ハ三月三十日本省着安保大将ヨリ次官宛電報ニ記載セルモノニシテ当方ニテハ本案ノ根拠タル各般ノ考察資料ヲ知悉スルノ暇ナキモ兎モ角大臣カ専門的見地ヨリ出発シ内外ノ情勢ヲ察シ決定セラレタルモノト推察ス

440 昭和5年3月31日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

第十四回首席全權會議の経過について

本省 3月31日後發
ロンドン 3月31日後間
4月1日前着

第二四一号

三十一日前聖「ジエームス」宮首席全權會議出席者前回ト同シ「マクドナルド」ハ未タ日本ヨリ回答ナク英仏、英伊ノ交渉ハ引続キ行ハレ居ルモ結末ニ達セス會議モ永引キ

第一一〇号

軍縮新聞情報

二十九日日々及大毎ハ米ヲシテ一九三三年後ノ大巡三隻起工ヲ断念セシムヘシ然ラスムハ日本モ之ニ対応スル建艦ノ

441 昭和5年3月31日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛(電報)

日米妥協案をめぐる各紙の論調について

本省 3月31日後6時10分發

第一一〇号

自由ヲ保留セヨト述ヘ三十日時事ハ今回ノ案ハ日米全權間ニ討議ヲ儘シタル結果ナルコトヲ認メサル可ラス殊ニ一九年迄ハ大巡七割及總括七割要求ヲ完全ニ達成シ大体ニ於テ我主張ヲ容レタルモノニシテ此成果ヲ得タル我全權ノ努力ト米國側ノ交譲的態度ヲ多トス然レ共本協定カ一九三六年迄ノ保有勢力ヲ規定シ其後ノ問題ニ付テハ改メテ會議ヲナスヘキモノナルニ米ノミ一方的ニ同年後ノ勢力拡張ヲ確保セル点ハ折角ノ七割容認ヲ無意義ナラシムモノナレハ非是訂正ヲ要ス此点一段ノ努力ヲナシ協定ニ達セムコトヲ望ムト述ヘ大阪朝日ハ問題ハ米大巡十五隻以外ノ三隻起工ニ在ル処之ニ対シテハ協定期限後日本モ建造シ得ルコトニ

ノ同情ヲ禁シ得サルモ他方何トカシテ協定ヲ遂ケ軍事費ヲ節約セムトスル國民ノ熱烈ナル希望モ見逃カシ得ス海軍側モ忍ヒ得ヘキハ忍ヒ會議成功ノ為最善ノ努力ヲナサムコトヲ望ムト共ニ英米トテモ決裂ハ最モ忌ム處ナルヘキヲ以テ政府及全權ハ飽迄粘リ強キ努力ヲナサムコトヲ望ムト述ヘ読売ハ正々堂々ノ決裂タル限り決裂モ已ムナシト述ヘタリ

442 昭和5年3月31日 在英國松平大臣より
幣原外務大臣(電報)

日米妥協案承認の回訓内容予告について

(館長符号)

本省 3月31日後6時30分發

松平全權

幣原

左ノ通り極ク内密ニ若槻全權へ伝ヘラレ度シ

大要左ノ趣旨ノ回訓案ヲ明日閣議ニ提出直チニ内奏ノ上即刻発電スル手筈ナルカ若槻全權ニ於テハ回訓大要一刻モ早

ク御承知相成置クコト然ルヘクト考ヘ同全權限リノ極内密ノ含迄ニ電報ス

人ノ聴カムト欲スル処ナリト述ヘ都ハ海軍側主張ニハ多大

居ルニ依リ取り急クヲ要スルモ今日ハ此等ノ点ニ付何等報告スヘキコトナシト述ヘタル後第一委員会ノ報告ニ言及シ其ノ中ニハ首席會議ニテ採決スヘキ一二三ノ事項アルヲ以テ次回会合ニ於テ考慮ヲ加ヘタキ意向ナリト説明セシテ回付スヘシト言ヘリ右話シ中潜水艦使用制限問題ニ付全然非公式ニ英米仏専門家間ニ華府条約ヲ書直シタル一案ヲ得タリ米國側ハ華府条約其ノ儘ヲ再議センコトヲ主張シタルモ互讓ノ精神ヨリ之ヲ緩和スルコトニ同意セリ最近日伊側ノ参加ヲモ願ヒ更ニ考究ヲ加ヘタキ意向ナリト説明セリ次回會議ハ四月二日午後開催ノ筈

米ヘ転電シ、仏、伊ヘ暗送セリ

一、日本カ本案ニ同意ヲ表スルハ予メ八時砲艦ニ関シ一九

三五年ノ會議ニ於ケル我国ノ主張又ハ立場ヲ何等拘束セ
ストノ明瞭ナル諒解ヲ得ルヲ要スルコト

三、潜水艦問題ニ付テハ新艦建造ノ余地ナキ為製艦技術及
工業力維持ノ見地ヨリ我ニ於テ苦痛トスル事情ヲ開示シ
此困難ヲ緩和スル方法ヲ講セムカ為關係各國ノ友好的考
慮ヲ希望スルコト

四、以上ノ趣旨ニテ英米側ニ回答セラルヘキコト

443 昭和5年3月31日 横原外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

會議決裂の齎らす危險性に關し財部全權へ披

瀝について

付記 三月三十一日山梨海軍次官より財部海軍大臣

宛機密第二番電

若機全權と別個の行動をとられざるよう自重
方要望について

（館長符号）

本省 3月31日後6時30分発
整原

松平大使

極秘

財部海軍大臣へ本官ノ極秘私電トシテ左ノ通御伝アリタン
(若規全權ヘモ内示セラレ差支ナシ)

海軍次官宛貴電機密第六番ヲ熟読シ一方ナラサル御苦心ノ
存スル所篤ト拝承セリ私カニ思フニ此際我方ヨリ更ニ何等
カノ譲歩ヲ含ム対案ヲ提議スル場合ニ於テ先方ノ同意ヲ得
ラルベキ見込アリヤ否ヤニ付テハ種々ナル観測アルヘント

雖若シ其対案ノ拒絶セラルカ如キコトアラバ帝国ノ威信
上交渉ノ決裂ハ到底避クベカラズ事茲ニ至ラハ(一)一旦我国
ガ斯カル譲歩案ヲ提出シテ而モ拒絶ニ遭ヒタル事実ハ次回
ノ會議ニ於テ自然我立場ヲ拘束シ最早該譲歩案以上ニ我ニ

有利ナル条件ヲ提議スルノ余地ナキコトトナル虞ナキヤ(二)
寿府會議不成功ノ結果英米間ノ国交ニ深刻ナル惡影響ヲ來
タシタル実例ニ鑑ミ我國ト英米両国トノ関係モ今回交渉決
裂ノ上ハ同様ノ不幸ナル事態ニ陥ルコトナキヲ保シ得ベキ
ヤ又(三)今後數年間最困難ナル我財政情態ハ補助艦ノ造艦競
争(御承知ノ通米國ノ現行法ハ別段ノ國際協定アル場合ヲ
除クノ外大巡二十三隻ヲ建造スヘキコトヲ規定シ倫敦會議
決裂ノ上ハ米國行政部ハ此規定ニ依リ造艦計畫ヲ進行スル

ノ義務ヲ有ス)並ニ寿府條約ニ依ル主力艦ノ代換建造ニ堪
ユベキヤ此等ノ諸点ニ至リテハ閣下モ予ト憂慮ヲ一ニセラ

ルルヲ信ズ以上ノ情勢ニ顧ミ今日或ハ先方ノ同意ヲ得ラル

ルコトモアルベキヲ頼ミトシテ最後ノ譲歩案ヲ提出スルハ
少クトモ乾坤一擲ノ冒險的行動タルヲ免レザルヤニ思考ス

我國トシテ此際強イテ斯カル危険ヲ冒カスノ必要アリヤ寧

ロ大型巡洋艦並ニ潛水艦問題ニ関スル爭点ノ解決ハ之ヲ千

九百三十五年ノ會議ニ讓リ其間國際關係ノ推移ト兵器製造

技術ノ進歩トニ応シテ次回ノ會議ニ備フルト共ニ少クトモ

今後數年間民力ノ休養ヲ図ルコトヲ大局上得策トセザルヤ

是レ予ガ僭越ヲ顧ミ斯敢テ閣下ノ御考察ヲ願ハムトスル所

ナリ今ヤ我國ノ一部ニ於テハ故サラニ海軍ト外務省トノ意

見不一致ヲ宣伝シ之ヲ政争ノ具ニ供セムトスル者アルハ明

瞭ナル事實ニシテ今回貴電ノ要旨モ如何ナル筋ヨリカ外部

ニ漏泄シ之カ為現内閣ニ好感ヲ有セザル諸方面ニ屈強ノロ

実ヲ与フルニ至レル形跡アリ彼此思ヒヲ旋ラシテ痛心ノ至

ニ堪ヘズ斯クノ如ク倫敦會議ヲ中心トスル内外ノ時局ハ頗

ル重大ナルモノアリ此難局ノ收拾ハ一二閣下ノ御協力ニ待
ソノ外ナキヲ信シ茲ニ腹藏ナク卑見ヲ披瀝シテ御参考ニ供

セムトスル所以ナリ

（付記）

特極秘、親展、至急

昭和五年三月三十一日午後七時発電

海軍次官

財部大臣宛

機密第二番

本電報ハ首相ノ御内意ニ基キ申上グル次第ナリ

機密第六番御電報ノ次第ハ小官ヨリ再び浜口事務管理及外

務大臣ニ申上ケ又岡田大將軍令部長モ同列ニテ去ル二十七

日浜口事務管理ヲ訪問ノ上御要望ノ次第ヲ詳細敷衍シテ依

頼サレタリ然ルニ浜口事務管理ト會見サレシ軍令部長等ノ

受ケラレシ印象及小官ノ觀ル所ニ依レバ政府ニ於テハ全權

請訓ノ案ハ我所期ニ達セサルモ全權カ最善ノ努力ヲ以テ到

達セルモノニシテ今之ヲ捨ツル結果會議ノ決裂ヲ誘起スル

コトアリテハ帝國ノ前途ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘシ等諸

般ノ考慮ヨリシテ方針トシテハ大体全權請訓ノ案ヲ基礎ト

シタルモノニ決スルカ如ク推測セラル大臣再次ノ御電報ノ
次第ニ閑シテハ當方一同最善ノ努力ヲ致シツツアルモ時機

稍遅レタルヤニ思ハレ又小官等ノ力足ラスシテ事茲ニ至レルハ誠ニ恐縮ニ堪ヘサルモ大勢右ノ如クナル此ノ際大臣閣

下ノ御行動ニ関シテハ特ニ慎重最高ノ御考慮ヲ要スルヤニ

存セラル政府ノ方針決定以前ニ於テハ自ラ別ナルヘキモ政

府ノ態度右ノ如ク決スル場合若シ倫敦ニ於テ若規全權ト別

個ノ御行動ヲ採ラルカ如キコトアリトセハ外ニ在リテハ

我全權團ハ両分シテ外部ニ対スル威力ヲ失ヒ内国内ニ在リ

テハ容易ナラサル政治問題ヲ惹起シ单リ海軍カ最不利ノ立

場ニ立チ深キ創痍ヲ蒙ムルノミナラス帝国ノ将来ノ為メ甚

タ憂フヘキ重大ナル事態ヲ釀スコトアルニアラスヤト憂慮

セラル尚小官私ニ心配スル処ハ結局海軍トシテ現在以上有利ナル能ハサルノミナラス為メニ海軍大臣資格問題惹起ノ

有力ナル根拠ヲ作ルコトモ思ハルニ就テハ從来ノ関係

並御立場上甚タ御困難トハ存スルモ希クハ叙上現下ノ情勢

ト利否ノ岐ルル所トヲ御賢察ノ上此ノ際ハ國家大局ノ上ヨ

リシテ難キヲ忍ンテ御自重全權トシテノ御任務ヲ完フセラ

レンコトヲ懇願スル次第ナリ以上岡田大将同意見ナリ

(欄外注記)

写、幣原外務大臣閣下

昭和5年4月1日 ロンドン 豊原外務大臣宛(電報)
日本政府の日米妥協案に対する回訓並びに英
仏間交渉などに関する各紙の報道について

ロンドン

本省 4月1日前着

第二四〇号

三十一日新聞情報

一、「タイムズ」ハ昨夜ニ於ケル會議一般ノ空氣ハ最早遷延ヲ許サス金曜日迄ニ各全權ハ其ノ立場ヲ公表スル準備ヲ為ササルヘカラスト為セリト報シ更ニ東京通信トシテ

大要左ノ如キ記事ヲ掲ケタリ

信スヘキ報道ニ依レハ火曜日ノ閣議ニ於テ議セラルヘキ

米提案ニ対スル回答案ハ「リード」松平案ニ條約ハ單ニ

五年間ノミ有効ナルコト並ニ日本ハ八時巡洋艦ニ関スル

要求ヲ放棄スルモノニアラサルコトノ二条件ヲ付シテ之

ヲ受諾スルモノナルヘシ尚日本提案ハ造船工場維持ノ為

潜水艦ヲ艦齡内ニテ代換スヘシト信セラル日本ハ右保留

ニ依リ其ノ地位ヲ保障セラルヘキヲ以テ次期會議迄ニ軍

艦何隻砲何門ト言フカ如クニハ具体化スル能ハサル意見ノ差ニ依リ米提案ヲ拒絶スルカ如キハ愚ナリ倫敦妥協案ヲ其ノ儘受諾スルハ軍令部ノ到底忍フ能ハサル処ナルモ政府カ細心ニ反省ノ時日ヲ与ヘシ為其ノ効果アリタリ貴族院ノ有力者ハ日米建艦競争ヲ最希望セサル処ナリトシ政派ニ関係ナキ最有力ナル政治家ノ一人ハ倫敦提案受諾ニ賛成ナリト断言シ得ヘシ尚「タイムズ」ハ社説ニ於テ英仏ハ目下妥協ノ方式ヲ研究中ナルカ連盟規約「ロカルノ」及「ケロッグ」条約ヲ以テシテ尚慊ラサル仏國ヲ満足セシムヘキ方式ヲ発見スルコトハ容易ノ業ニアラサルヘク英米トモ何等軍事的義務ヲ負フヲ欲セサルハ明カナリ若シ何等カノ方式発見セラルレハ五国条約ノ復活スヘキモ然ラサル場合ニハ愈日英米三国条約ノ商議ニ入ルノ外ナカルヘク日本政府カ日米妥協案ヲ応諾スルニ決セリトノ本日ノ東京電報ハ三國条約ノ商議ノ困難ヲ除クヘントノ趣旨ヲ論セリ

二、各紙ノ報スル所ニ依レハ仏國ノ安全要求ノ問題ニ関シ土曜日昼「バーカンド」「ヘンダーソン」ノ会談アリ昨

日日曜日ニハ「チエカース」ニ於テ「マクドナルド」

445 昭和5年4月1日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

英仏間の軍縮内交渉の模様に関するマクドナルド

ロンドン 4月1日後発

第二四二号

三十一日佐藤「マ」首相ト会見ノ際佐藤ヨリ最近英仏間内交渉ノ模様ヲ尋ネタル處「マ」ハ先週「ブリアン」帰英以来保障協定問題ニ関シ英仏間ニ談合行ハレ自分ト英國側法律専門家トノ間ニ英仏双方ノ受諾シ得ヘキ「フォウミュラ」作製ヲ試ミルコトナリ最初仏側ヨリ連盟規約第十一條ヲ基礎トシテ談ヲ進メ度キ旨提議セルモ其ノ後英側ヨリ第十六条ノ解釈問題トシテ討議シ度シト申出タルヲ以テ右ニ基キ種々協議ヲ重ねタルモ妥協案ヲ発見スルニ至ラス遂ニ三十日夕英國側ノ声明（往電第二四〇号）ヲ見ルニ至レル次

第二ニシテ仏側トシテハ目下ノ処何ヲ中心トシテ交渉スヘキヤ見当着カサル現状ナリ元々仏國側ハ保障問題ニ付今次會議ニ於テ關係国間ニ正式ノ条約ヲ締結スルコト困難ナルヘシト考ヘ關係国ノ宣言ノ形式ニテ満足スル意向ナリシカ英側ノ態度右ノ如クナル以上之亦実現頗ル困難ト思ハルト述ヘ次イテ佐藤ヨリ然ラハ仏國ハ条約又ハ宣言ノ何レカノ形ニテ政治的保障ヲ得ル迄ハ数字ノ問題ハ全然処理セサル意向ナリヤト問ヒタルニ対シ「マ」ハ必スシモ然ラス現ニ先

446 昭和5年4月1日 財部海軍大臣より
過般の請訓が惹起した事態への次官の善処に
對し謝意表明について

（特極秘親展）

昭和五年四月一日 午後五時四十七分倫敦發
昭和五年四月二日 午前六時四十分海軍省着

受 次官

山梨海軍次官宛（電報）

發 財部大臣

機密第八番電
機密第二十一、第二十二番電受領
過般ノ請訓ニ関シ内地各方面ニ多大ノ紛議ヲ惹起シ就中海軍部内ニ於ケル諸官ニ深甚ナル憂慮ヲ煩ハシタルハ本職ノ真ニ痛心ニ耐ヘサル処ナリ此ノ間貴官ノ慘憺タル心労ト善処トニ対シテハ特ニ深ク感謝ノ意ヲ表ス尚貴官ノ来趣ハ本職ニ於テモ深ク之ヲ省察スル處ニシテ此ノ際徒ニ一身ノ小節ニ依リテ國家ノ大事ヲ誤リ累ラ将来ニ残スカ如キ挙措ヲ慎ミ最善ヲ尽シテ重責ニ応ヘンコトヲ期ス此ノ点特ニ諒承ヲ望ム

右岡田大将、軍令部長ニモ伝ヘラレ度

四月一日午後五時

（欄外注記）
写、幣原外務大臣閣下

447 昭和5年4月1日 海軍側作成覚書

日英米三国妥協案承認に伴う国防計画実施上

の諸対策について

幣原外務大臣閣下

般英仏間ニテ仏國所要量問題ヲ議シ仏ハ一定量（極メテ小量ナリシモ）ノ減少ヲ申出テタルモ英側之ニ満足セサリシ迄ニテ仏側トシテハ政治的保障ヲ得レハ其ノ程度ニ伴ヒ更ニ所要量ヲ減少セントスルモノナリト答ヘ尚仏伊関係ニ付テハ両國カ次回會議迄現有勢力ノ釣合ヲ維持スル（双方新ニ建造スル場合ニモ）ノ案ニテ尚話ヲ進メ得ヘキカト思考スル旨語レル由ナリ

要スルニ英仏間話合ハ今日迄ノ処何等目鼻付カス其ノ成否甚タ疑ハシキモノアルヤノ印象ヲ与ヘタル趣ナリ

米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

448 昭和5年4月1日 幣原外務大臣より
日英米三国間妥協案承認の旨回訓について

別電 四月一日幣原外務大臣よりロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日英米三国間妥協案の内容確認について

第一一二号（極秘） 本省 4月1日後7時発

一、英米両国全権トノ内交渉ノ結果トシテ過般稟申セラレタル日英米三国間妥協案ハ別電ノ通ト諒解セラルモ念

ノ為一応之ヲ確カメラレタル上左記ノ趣旨ヲ英米両国全

権ニ回答セラレタシ

二、帝国政府ハ特ニ國際ノ平和親善ヲ増進スルノ目的ニ重キヲ置キ之カ為ニ終始及フ限り倫敦會議ノ成功ニ協力スルノ強固ナル決心ヲ有ス此見地ヨリ今回ノ妥協案ヲ查スルニ本案ノ成立スル場合ニハ數年ノ後帝国海軍ノ相對的実勢力ハ追次低下スルコトナルヘキヲ以テ自然我國民ハ自國ノ国防ニ関シ不安ノ念ヲ抱クコトナキヲ保シ難ク事效ニ至ラハ前記ノ主要ナル目的ハ達成セラレスシテ却テ國際關係ノ疑惑誤解ハ深キヲ加フルノ虞ナントセス是レ帝国政府ノ最痛心スル所ナリ然レトモ本案ハ千九百三十六年迄ノ事態ヲ律セムトスルニ止マリ爾後各國ノ保有スヘキ兵力量ニ至リテハ別ニ一千九百三十五年ノ會議ニ於テ協議決定セラルヘキ趣旨ト解セラルカ故ニ帝国政府ハ関係各國全権カ本案ノ作成ニ當リテ示サレタル交譲協調ノ精神ヲ深ク諒トシ本案ノ骨子ヲ條約案ノ基礎トシテ

三、帝国政府カ此決定ヲ為スニ至リタル趣旨ハ前述ノ通ナルヲ以テ八吋砲巡洋艦ノ問題ニ付テハ此際日本カ本案ニ同意ヲ表示スルハ予メ千九百三十五年ノ會議ニ於ケル我國ノ主張又ハ立場ヲ何等拘束スルモノニ非ス（entirely without prejudice）トノ明瞭ナル諒解ヲ得ルコトヲ要ス

斯クノ如キハ殆ト自明ノ理ニ過キスト雖之ヲ反覆闡明スルハ幾分我民心ノ不安ヲ除クニ効果アリト信スルカ為ナリ

四、潜水艦問題ニ付本案カ我製艦技術及工業力ヲ維持スルニ重大ナル障害アルヘキハ關係各國全権ニ於テモ容易ニ諒解セラル所ナルヘン即チ本案ニ依ルトキハ全然潜水艦ノ新造ヲ認メラレサルカ故ニ熟練職工ノ解雇並ニ若干民間工場ノ閉鎖ヲ要シ之ニ伴ヒテ失業問題ヲ一層深刻ナラシムルノ結果ヲ免レス帝国政府ハ之カ為本妥協案ニ対スル具体的修正案ヲ提出シテ會議ノ進行ニ新ナル紛糾ヲ加フルコトヲ欲セスト雖本案ノ必然我國ニ齎ラスヘキ事實上ノ困難ヲ卒直ニ開示シテ此困難ヲ緩和スルニ足ルヘキ何等カノ方法ヲ講セムカ為ニ關係各國ニ於テ友好的考

量ヲ加ヘラレムコトヲ希望ス是レ亦以テ本件協定ノ円満ナル施行ヲ期スルノ意ニ外ナラサルナリ將又仮、伊トノ關係上等潜水艦ニ關スル英米ノ保有量增加スル場合ニハ我が國ノ保有量モ亦當然增加シテ均勢ヲ保ツヘキモノト諒解ス

（別電）

第一一二号 本省 4月1日後5時20分発

（一）日英米三国妥協案ハ左ノ通りト了解ス

第一、一九三六年ニ於ケル日英米補助艦保有量左ノ如シ

甲 八吋砲巡洋艦

日本 十二隻十万八千四百噸（米国カ十五隻十五万噸

ヲ超エテ建造ヲ行フ場合ニハ日本モ亦之ニ相当スル

新艦建造ノ権利ヲ一九三五年ニ開催セラルヘキ會議

ニ於テ主張スルノ自由ヲ有ス此ノ趣旨ニ依ル留保ノ

案文形式ニ付テハ未決定

英國 十五隻十四万六千噸

米国 十八隻十八万噸（一九三五年ノ會議以前ニ竣工

スルモノハ十五隻十五万噸ヲ超エス第十六隻ハ一九三三年第十七隻ハ一九三四年第十八隻ハ一九三五年

ニ起工スルモノトス）		
乙 軽巡洋艦	日本	十万四百五十噸
丙 駆逐艦	日本	十五万五千五百噸
丁 潜水艦	英、米	五万二千七百噸
総計	日本	三十六万七千五十噸
	英國	五十三万七千四百噸
	米国	五十二万六千二百噸

第二、条約存続期間ヲ一九三六年末迄トシ右期日以後ノ

事態ニ付テハ一九三五年ニ締約国間ノ會議ヲ開催シテ

協議ス

第三、本仮協定ハ仮伊ヲ加ヘタル五国条約ノ一部ヲナス

(二) 英国ノ巡洋艦保有量不明ナル処八時砲艦ニ関シテハ日英
保有勢力ノ近接ヲ論拠トセル英國側ノ言説ニ徵シ十五隻
十四万六千噸ニ満足スルモノニシテ貴電第一〇七号ノ

「オプション」ヲ行使セサルモノト了解ス從テ輕巡洋艦
ニ関シテモ「オプション」ヲ行使セサル保有量ヲ基礎ト

シ米国保有量減少噸數ト同量ノ削減ヲ行ヒテ算定セリ

(三) 潜水艦ニ付テハ仏伊トノ関係上等英米ノ保有量増加スル
場合ニハ我カ國ノ保有量モ亦当然增加シテ均勢ヲ保ツヘ
キモノト了解ス

(四) 仏伊ノ参加ヲ見サル場合ニ於テモ日英米三国ハ本仮協定
ノ趣旨ニ依リ海軍条約ヲ締結スル決意ヲ有スルモノニシ

テ右条約ハ主力艦代換建造延期ニ関スル三国間ノ協定ヲ
包含スヘキモノト了解ス

(五) 前掲ノ諸項ハ何レモ我カ國ノ重要視スル所ナルニ付明確
ニ英米側ノ言質ヲ取付ケ置カルル様致度シ尤モ(四)ノ了解
ハ仏伊トノ交渉ノ結果ヲ見ル迄敵重秘密ニ付シ外部ニ發
表セサルコトト致度シ

449 昭和5年4月1日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

八時砲巡洋艦に関する了解及び潜水艦に関する希望表明方に関する回訓について

本省 4月1日後7時30分発

第一一四号（極秘）

往電第一一二二号ニ関シ

(一) 同電(三)、八時砲巡洋艦ニ関スル了解ヲ如何ナル形式ニテ
表明スヘキカハ内政上ノ見地ニモ関係アル処貴電第二二
五号ニ依レハ目下貴方ニ於テ御考案中ノ趣ニ付右電訓ノ

趣旨ニ依リ予メ案ヲ具シテ電稟セラル様致度シ

(二) 同電四、潜水艦ニ関スル希望ニ付テハ特ニ我方ヨリ具体
案ヲ提示スルコトナク英米側ニ於テ適當ナル解決案ヲ考
慮セムコトヲ求ムルニ止メタル次第ナルカ其解決案トシ
テハ例ヘハ(イ)駆逐艦保有量ヨリ融通シテ潜水艦保有量ヲ
増加スルコト（我方トシテ最モ此方法ヲ希望スルコトハ
夙ニ御了知ノ通り）又ハ(イ)五万二千七百噸ノ範囲内ニ於
テ艦齡未満ノモノ若干隻ノ代換ヲ繰リ上ヶ新造スルノ余
地ヲ存セシムルコト等ヲ考へ得ラルヘク要スルニ交渉
決裂ノ危険ヲ冒カササル範囲内ニ於テ先方ト意見ヲ交換
ノ上閣下ノ御裁量ニ依リ適當ニ議ヲ纏メラレ度シ

450 昭和5年4月1日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日英米妥協案公表の場合はその日時など通報 方について

本省 4月1日後5時30分発

第一一六号

ル為メ本条約カ其ノ存続期間満了後ノ兵力量ヲ拘束スル
モノニアラサルコトヲ明カニスル様特ニ御留意アリ度シ
次第ナルカ妥協案ノ主眼タル本問題ニ手ヲ触ルルコトハ
協定全部ヲ覆ス結果ヲ見ルヘキニ付之ニ言及スルヲ避ケ
タルモノナリ然カレトモ古鷹級ノ如キ小型艦ニ在ツテハ
竣工後十六年ヲ以テ代換ノ予定ニテ計画建造セルモノナ
ルニ付一万噸級ト同シク二十年ノ代換艦齡トナスコトハ
到底不可能ノ実情ニテ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルモ
ノナルモ右ハ今回ノ条約存続期間中ニ生スル現実ノ問題
ニアラサルカ故ニ此際提起スルコトヲ差控ヘタリ唯同艦
型ハ八時砲艦トシテ小サキニ過キ之レカ代換ニ際シテハ
稍大型艦ニ変更スルコトヲ要スルモノナルニ付条約存続
期間中ニ破壊又ハ亡失スル場合ノ規定ヲ設クルニ当リテ
ハ右ノ趣旨ヲ入ルル様御尽力アリ度シ

(四) 軽巡洋艦及駆逐艦ニ関シテモ艦齡問題討議セラル機会
ニ於テハ工業力維持ノ見地ヨリモ既成艦ニ対シテ一定ノ
特例ヲ設ケ度キ意向ナリ

451 昭和5年4月1日 幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日米妥協案に関する英國政府の通牒への東京 批判について

本省 4月1日後7時30分発

(五) 条約ノ効力ニ関スル規定（華府海軍条約第二十三条參
照）ヲ起草スルニ當リテハ本電(一)ノ了解ノ趣旨ニ適応ス

第一一七号

三十一日日日及大毎夕刊ハ同日貴地発左記要旨ノ特電ヲ掲

ゲタリ

倫敦ニ於テハ英首相ガ二十一日付在東京同國大使ヲ通シ日

本政府ニ通牒ヲ發シタルコト明白トナリ問題トナリ居レル

カ英國政府ハ之ヲ極力否定シタリ右通牒ノ内容ヲ確聞スル

ニ恰モ戰敗国ニ対スル如キ無遠慮ナルモノニテ(所謂日米

妥協案ハ日英米三国全權協議ノ結果ニシテ日本全權ヨリ日

本政府ニ承認方勸説シタルモノナル処右ハ英米両国ノミノ

讓歩ニ依リ成レルモノニテ日本ノ讓歩ト云ヘハ潛水艦ニ付

テノミナルカ之モ見方ニ依リ英米カ日本ニ均等ヲ認メ讓歩

セル形トナリ居レリ(万一日本政府カ之ヲ承認セサレハ主

力艦建造延期及制限モ成立ノ見込ナカルヘシ(且ツ其場合

ハ英米限リ協定スルコトトナルヘシ)然ル時ハ将来英米対

日本ノ関係ヲ悪化セシムル外英米対日本ノ形ニテ建艦競争

ヲ余儀ナカラシムヘシ(且日本ノ該案不承認ハ對仏關係ヲ困

難ニシ日本ハ五國協定不成立ノ責任ヲ負ハサルヲ得サルニ

至ルヘシト云フニ在リ尚在東京米国大使ヨリモ其翌日同趣

旨ノ通牒ヲ幣原外相ニ手交セル筈ニテ英米カ威嚇的手段ヲ

弄シ居レルコト十分ニ窺ハル

452 昭和5年4月1日 整原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛(電報)
三国妥協案に対する留保は最小限度に止め会
議の成功を希望した朝日新聞その他の論調について

本省 4月1日後7時発

第一一八号

軍縮新聞情報

一日東京朝日ハ今回ノ案ハ絶対的最終案テハナイカ之カ纏

マルニ至ツタ経過ニ鑑ミ之ニ対スル修正若クハ保留ハ最少

限度ニ止ムルヲ要ス而シテ一九三六年後ノ大巡勢力ニ関シ

我方ノ権利ヲ明ニスル為適當ノ保障ヲ講スルコトハ正当テ

アリ吾人ハ其実現ヲ望ムノテアルカ同時ニ會議ヲ成功セシ

ムル様吳々モ注意ヲ要ス政府ノ回訓カ此趣旨ニテ為サレム

コトヲ望ムト述ヘ大阪朝日ハ一九三六年後ノ大巡比率ニ付

テハ外交的措置ニ依リ政治的保障ヲ求メムトスルモノナレ

ハ海軍側主張カ躊躇サレタハ断シテ思ハレス軍事ト外交

トハ国防上車ノ兩輪テアリ軍部カ外交ヲ支配スルハ極メテ

危険アル軍部ハ協調スルヲ要スト述ヘ都ハ協調主義モ軍

危險アル軍部ハ協調スルヲ要スト述ヘ都ハ協調主義モ軍

山川顧問ヨリ堀田局長へ

部ノ強硬意見モ共ニ愛國心ノ發露ナル處吾人ハ軍備競争ヲ
覺悟シテ決裂セシムルヨリモ今回ノ案ニ留保ヲ付シテ會議
ヲ成功セシムルヲ大局上可ナリト思考スト述ヘ中外ハ國際
平和トカ國民負担輕減トカハ今更讓歩スル理由トハナラヌ
カ夫レ以外ニ相當ノ理由カアレハ海軍側モ隱忍スルヲ可ト
スヘク单ニ政治上ノ理由ノミニテ讓ラムトスルナラハ海軍
側ノ態度亦謂レナシトセスト述ヘ又往電第一一七号ニ閑シ
日々及大毎ハ英國政府ハ我全權ヲ差シ置キ何故我政府ニ直
接ノ通牒ヲナセルヤ夫レトモ我全權ト相談ノ上若クハ其默
認ヲ得テナセルモノナリヤ等ノ事情判明スル迄ハ英政府ノ
措置ヲ批評スルヲ控フルモ何レニシテモ全權ヲ差置キタル
ハ奇怪ナルト共ニ英米カ直接我政府ニ言葉ヲカクルヲ好都
合ト認メタル処ニ彼等ノ対日本觀念カ明ニセラレタル感ア
リト述ヘタリ

453 昭和5年4月2日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

財部全權の帰朝の時期について

(館長符号板) 币原大臣

本省 4月2日着

454

昭和5年4月2日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

以上ハ機微ノ關係アリ何レノ全權ニモ相談セス御一覽後本
電破棄セラレ度シ

日英米妥協案の中の軽巡洋艦保有量の修正について

日英米妥協案承認方の我が回訓に関する各紙の論調について

ついで

ロンドン 4月2日前発
本省 4月2日後着

第二四五号（極秘）

一、貴電第一一二三号（一）第一乙及（二）御申越ノ軽巡英國保有量ハ米國ノ保有量ニ関連シテ低下スヘキモノニアラス米國保有量ノ低下ハ往電第一七〇号末段申報ノ通米國カ八時艦三万噸ヲ六時艦ニ振代フルニ當リ英國側ニ於テ米國ノ主張ヨリ七千噸ヲ減セムコトヲ主張シ結局三千五百噸減少ニ折合ヒタルモノニシテ（右往電ノ数字ハ五百噸ノ誤アリ）從テ英國保有量ハ從來通リ一九一、二〇〇ノ筈ニテ貴電御來示ノ儘提出スルハ幾分米國側ニノミ重キヲ置キテ英國側ヲ蔑ニスル嫌アルニ付前記ノ数字ニ改メ置ケリ

二、同電（一）甲八時艦英國保有量ハ正確ニ「十四万六千八百噸」ト記シ置ケリ

455 昭和5年4月2日 廉原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

第一二〇号

本省 4月2日後6時発

軍縮新聞情報

二日時事ハ我方回訓ニ依リ軍縮実現ノ可能性ヲ増シタルハ國民ノ満足スル処ナリ唯米ノ大巡三隻起工ハ軍縮精神ニ反シ我國民ノ如何ニシテモ同意シ得サル處ニテ我回訓カ此点ニ関シ適當ナルヘキヲ信スルト共ニ全權ニ於テ此点ニ関スル我國民ノ所見ヲ表明シ且ツ軍拡ヲ絶対ニ排シ軍縮ニ徹底セントスル我國民ノ確乎タル信念ヲ十分中外ニ明示スル為適切ナル措置ヲ執ラムコトヲ望ム今回ノ會議ニ於テ国防ノ必要ヲ力説スル余リ真ノ軍縮力度外視セラレツツアルハ憂フヘシト述ヘ「國民」ハ海軍側主張モ無理ナラサルモ帰スル處我要求固執ハ結局英米ノ内政的事情ノ為協定ヲ不可能ナラシメ英米ノ對日感情ヲ悪化セシメ政治的經濟的ニ重大ナル影響アルヘク又我財政上ノ影響ヲモ考慮セハ妥協案ニ付請訓シタル我全權ノ苦衷モ察スルニ難カラス又兎モ角モ一九三六年迄ハ實質的ニ我要求ヲ容レタル英米ノ態度モ認

メテ可ナルヘク大巡一、二隻ノ為我國際的地位ヲ悪化セシムルハ却テ国防上欠陥ヲ大ナラシムヘシ而シテ我方カ從来ノ主張ヲ留保セル以上海軍側意向モ十分尊重セラレタリト見ルヘク從テ之ヲ政争ノ具ニ供スルハ敵ニ戒メサル可ラスト述ヘ報知ハ我回訓カ大巡七割要求ヲ殺サスシテ他方米國大海軍論者ヲ満足セシムル粉飾ヲ施シタル処ニ妙味アルハ看取スルニ難カラス唯一九三六年後ノ或ル期間大巡ニ於テ重大ナル劣勢ニ立シ惧アルニ付政府ハ此点ノ不安除去ノ為全權ヲシテ適當ノ措置ヲ執ラシムル用意アリテ然ルヘシ又我方ノ留保ヲ確実且有權的ノモノトスルコトハ最モ肝要ニシテ若シ欠クル処アラハ國民ハ決シテ仮借セサルヘシ要スルニ我回訓ハ忍ヒ難キヲ忍ヒテ會議ノ成功ヲ熱望セルモノナレハ英米ハ之ニ同意スルヲ要スト述ヘ日々及大毎ハ一九三五年ニ會議ヲ開クコトニ付十分ノ見込アリヤ又米國カ其時我大巡七割ヲ認ムヘキヤ吾人ハ妥協案カ寧ロ一九三五年以後ヲ目的トシ從テ之ヲ容ルルコトカ同年後ノコトヲ拘束スルコトトナラサルヤヲ疑フモノナリ尚潛水艦保有量低下ハ作戦上苦痛ナルヘキモ均等ナル点ヲ買ツテ辛棒シテ可ナルヘシト述ヘタリ

456 昭和5年4月2日 廉原外務大臣より
在ロンドン若槻首席全權宛（電報）

全權各位の苦心に対し謝意表明について

第一二二号
永井政務次官ヨリ

457 昭和5年4月3日 在米國出淵大使より
日本政府の日米妥協案承認に關する各紙の論調について

ワシントン
第一二三号
本省 4月3日後着

軍縮新聞報

日本政府ハ「リード」松平妥協案承認ニ決シ若槻全權ニ電訓セリトノ報道四月一日当地方各紙ニ現ハレタルカ右ニ関スル各紙論評ヲ見ルニ大体ニ於テ日本受諾ノ結果少クトモ

三国協定成立ハ疑ナキニ至レリトテ之ヲ歓迎シ特ニ浜口内閣カ海軍ノ一部ニ頑強ナル反対アリタルニ拘ラス受諾ニ決シタルハ國際親善關係上慶賀スヘキコトナリトノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

又留保ニ関シテハ三国協定ノ成立ヲ妨クヘキ性質ノモノニアラスト為スモノ多キモ之ヲ以テ将来日本カ益々高率ヲ要求スル基礎タルヘク充分検討ヲ要ストテ幾分不満足ノ意ヲ表スルモノアリ

主要新聞論評概要左ノ如シ

一日華府「スター」

今回ノ三国妥協ハ久シキニ亘ル商議ノ結果ニシテ忍耐ト妥協ノ賜ナリ其ノ結果ハ勝者モ敗者モナク双方ヲ満足セシメ其ノ面目ヲ立テタル理想的ノ解決ヲ見タリ右ハ特ニ「リード」松平兩全權ノ努力ニ負フ処大ナリト言フヘシ今後少クトモ六年間ハ日米間ニ海軍競争ノ憂ナカルヘク其ノ間ニ両国民モ軍備競争ノ愚ヲ悟リ漸次軍備協定ノ相互的利益ヲ認識スルニ至リ條約満期後ト雖再ヒ競争開始ヲ見ルカ如キコト万ナカルヘシ東京電報ニ依レハ日本政府ハ今回ノ妥協ニ付海軍側一部ノ反対ヲ排シ國家ノ國際的利益ノ大局ヨリ判

断シ英米両国トノ一層緊密ナル協調及友誼的關係ヲ維持セムトスルニ決シタル趣ナルカ為政者ノ此ノ英断ハ日本ノ将来ニトリ其ノ大艦隊ヨリモ遙ニ重大ナル価値ヲ有ス

二日紐育「タイムズ」

日本ハ大海軍論者ノ反対モアリ其ノ決定ニ暇取リタルカ今回ノ措置ハ明カニ同國カ米国トノ協調的態度ヲ失ハサラムトスル証左ナリト称スヘク右ハ同國ニトリテ賢明ノ策ナルト共ニ米国ニ対スル友誼的精神ノ表示ナリ

二日「フィラデルフィア、インクアイアード」

日本ノ同意ハ倫敦會議ノ成功ニ資スル處頗ル大ナルモノアリ吾人ハ日本カ七割要求ニ関シテ為シタル留保ニ対シ何等不満ノ意ヲ表スヘキ理由ナシ米国トシテハ仮令日本カ将来ニ於テ米国トノ「パリティー」ヲ主張スル權利ヲ留保シタリスルモ尚之ヲ承諾スルニ客ナルヘキ理由ナカルヘシ純理上各國カ其ノ主權ノ一部トシテ「パリティー」ヲ主張シ得ヘキコトヲ認メサル結果會議ハ難闇ニ逢着シタルカ元來主權ノ問題ノ如キ本會議ノ闊与スヘキ筋合ノモノニアラス本會議ノ目的ハ權利ノ制限又ハ縮小ニアラスシテ一定期間ニ於ケル建艦制限海軍力ノ縮小ヲ計ラムトスルニ在リ

二日「ワシントン、ポスト」

日本ノ留保付承諾ハ日本海軍力比較ニ関スル問題ヲ實際上再燃スル結果トナルヘシ英米両国ハ三国條約ノ締結ニ焦慮セルモ若シ米国カ留保ヲ承諾スル時ハ今後現在ノ比率ヲ固執スルコト能ハサルヘシ今回ノ提案ハ米国ノ犠牲ニ於テ日本ニ利益ヲ付与シタルモノニシテ殊ニ日本ノ留保ハ今後同國ヲシテ更ニ大ナル海軍力ヲ要求セシムルロ実トナルヘシ日本妥協案ハ英米妥協案ニ依存シ後者ハ五國條約ノ成立ニ係ルモノナルカ故ニ米国全權ト雖五國條約成立シ軍備競争ノ中止及英米「パリティー」ノ確立ヲ見ル迄ハ或ル一国ノミニ対シ讓歩ヲ為スコトヲ得サルヘシ

458 昭和5年4月3日 ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛(電報)

別電一 日英米全權會議における三国妥協案内容の確認並びに回訓の通報について

別電一 四月三日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第二四九号

全權會議における三国妥協案内容の確認について
二 四月三日ロンドン軍縮會議全權より幣原外

務大臣宛第二五〇号

三国妥協案に対する回訓英訳

ロンドン 4月3日前發

本省 4月3日後着

第二四八号(極秘)

貴電第一一二号ニ依ル御訓令及関係電報ハ昨日午後接到シタル處之ト前後シテ右回訓発送ノ趣頻リニ新聞電報ニテ当地ニ伝ヘラレ英米側ヨリ其ノ真否ヲ問合セ来リ打合セノ結果本日午後三時十五分即チ四時ニ開催セラルヘキ首席會議直前「セントジェイムス」宮ニ於テ英米全權同席ノ上訓令ノ趣旨ヲ伝達スル手筈トセリ

出席者日本若槻財部松平、英「マクドナルド」「アレキサンダー」、米「スチムソン」「リード」

(一)若槻ハ先日來種々英米代表者ト御相談ノ末一ノ案ヲ得タルカ右ニ付テハ我方ニ於テ最後ノ御同意ヲ表スルヲ得サルカ永々交渉ノ結果ナリシヲ以テ之ヲ日本政府ニ報告シ其ノ考量ヲ求メタルハ御承知ノ通ナリ成ルヘク速ニ回答ヲ得シコトヲ希望シタルモ日本ノ国情ハ之ヲ許サス遲延ニ亘リ居タルカ愈々昨日回訓ニ接セリ就テハ右回訓ヲ

其ノ儘貴覽ニ供シ尚種々ノ点ニ付御相談ヲ進メ度キモ其ノ前今日迄ノ談合ノ結果トシテ我方ノ了解スル所ヲ書キ

記シタルモノヲ持參シタルニ付為念一応御承認ヲ経タントテ別電第二四九号ヲ読み上ケタリ

(1) 「リード」ハ八時艦ノ点同電一ノ(1)ノa付 Prior to the conference in 1935 ナル字句ハ勿論趣旨ニ於テ差支ナキ

モ万一会議カ延期セラル場合ヲモ慮リ the conference in ノ字句ヲ削除シタント謂ヒ若規ハ何レ他ノ場所ニテ一九三五年ニ會議開催ノ希望ヲ述ヘタル筈ナルニ付右字句ヲ除クニ異存ナシト答ヘ「マ」ハ右ハ確カニ開催スルコトトセサル可カラスト述ヘタリ

(3) 八時径ニ関スル日本ノ留保ニ付テハ

(4) a 英米ハ書付ケ記載ノ通ナリト云ヒ若規ハ右ハ從来英米側ノ云ハレタル所ヲ其ノ儘記シタルモノナルカ留保ノ形式ニ付テハ果シテ之ヲ條約ノ条項トスルカ宣言ニ依ルカ或ハ其ノ他ノ方法ニ依ルカハ未定ナリト述ヘ英米側ハ夫ニテ差支ナシト答ヘタリ

(5) 本案確定ノ上ハ仏伊ヲ含ム五国条約ノ一部タルヘシトノ点ニ付「マ」ハ吾人ハ目下五国条約ヲ成立セシメントン

テ焦慮シツツアリト述ヘタリ

(5) 潜水艦ノ保有量自然増加(1)ノ点ニ付テハ英米側異口同音ニ勿論ナリ

(6) 製艦力維持(3)ノ点ニ付テハ (本項ハ御訓令中ニ列記セラ

レサリシモ從來ノ会談中ニテ既ニ先方ノ言及シタルコトアル点ニモアリ潜水艦ノ外巡洋艦駆逐艦ニ付テモ要求ヲ為ス必要アルニ付之ヲ挿入スルコトセリ) 先方ニテ説明ヲ求メ松平ハ本案成立ノ上ハ日本側ニテ製艦能力ノ維持ニ種々實際上ノ困難ヲ感スヘキニ付何等カ救済ノ方法ヲ講スルノ必要アル事ハ兼々自分ヨリ「リード」全權ニモ御話シ若規全權ヨリ英首相ニモ話サレ斎藤「クレイギ

」会談中ニモ言及セラレ大体御同意ヲ得居ル事ト思考スト述ヘタルニ「リード」ハ真ニ其ノ通ナリ右ノ点ハ特ニ潛水艦ニ付テ考量ノ必要アルヘシト語リ「スチムソン」ハ右ハ總噸数ヲ変スル事ナク艦齡前ニ艦ヲ廃棄シ造船所ノ仕事ノ杜絶セサル様スヘシトノ意ナルヘシト言ヒ松平ハ其ノ主義ノ確認ヲ請フ次第ナリト述ヘ「マ」ハ此ノ考ニハ全然異議ナシ日本ノ困難ヲ輕減スルニ尽力スヘキ事ヲ御約束スヘシ実ハ英國モ亦同様ノ困難ヲ感スルヤモ知レ

ス其ノ際ハ又我方ヨリモ同様ノ考量ヲ請ハサルヲ得ス總噸数ニ変化ナキ限り或程度ノ満限前廃棄ハ差支ナシト述べ若規ハ英國側ニテ右様ノ困難アル場合ニハ勿論其ノ手段ヲ取ラル事ニ対シ我方ニ於テ異議ナシト答ヘタリ

(7) 海軍休日 (御訓令ニハ本件ニ関シ仏伊參加セサル場合三國協定ヲ成立セシムル事ヲ記シアリタルモ英米側ニテハ其ノ場合ニハ華府條約ニ拘ラス主力艦ニ付テモ三国協定ヲ為スノ意思アル事明カナルノミナラス御申越ノ通稍機微ノ問題ニテモアリ又必要アラハロ頭ニテ申入レ差支ナシト考ヘラレタルヲ以テ其ノ点ヲ削除セリ) 「リード」ハ之ニ関連シテ主力艦廃棄ノ件ハ如何ト尋ネ若規ハ日本ハ之ニ同意スル意向ナリト答ヘ最後ニ「and an agreement as to the scrapping down to 15-15-9」ナル文句ヲ挿入スル事トシ更ニ「リード」ノ問ニ対シ若規財部ハ日本ノ廃棄スル艦ハ果シテ金剛トナルヘキヤハ不明ナルモ金剛型ノ何レカノ一艦ヲ撰フコトトスヘシト答ヘ英米側ハ無論右ニテ差支ナシト述ヘリ

(8) 「スチムソン」ハ本書付中ニ言及セラレス又實際上寧ロ

英米間ノ問題ナルカ英米両国ハ八時艦十八隻十五隻ノ

次テ「スチムソン」へ右へ回調ノ全部ナリヤト尋ネ若槻
ベ其ノ主要部分ナリト答タルニ「スチムソン」ハ然ラ
ヘ一畠シ度キヨアリ此ノ機会ニ於テ本件ニ関スル閣下
等ノ御努力並ニ會議成功ノ為和衷協同ノ精神ヲ以テ事ニ
当ハシタル日本政府殊ニ幣原男ノ御厚志ニ對シ感謝ノ意
ヲ表シ度シト述く「マクドナルド」ハ自分モ同様日本ノ
同僚及日本政府ニ對シ其ノ協力及諒解ニ對シ謝意ヲ表セ
ノトベ此ノ上ハ仏伊ヲ加ヘタル五国協約ノ成立ニ一層努
カスくシテハく

此ノ時既ニ首席會議開会ノ時刻トナリタルニ付若槻ハ尚

唯今読上ケタル回訓中ニモ示シアル通數件討議ヲ進メサ
ルベカラナル点アルモ最早時間無キニ付成ルベク取急キ
再会ヲ期シ度シト述く明四日午前十一時余合ベハカル
ナレラ

〔ト〕「マクドナルド」ハ引続キ行バニタル首席會議ニ於テ右

会談ニ付報告ヤハニモ若槻ニ懸望シ若槻ハナリ承諾ヲ
与タラ

〔ト〕別ルルニ臨ム「スチムソン」ハ今回日英米間ニ大体協議

纏マリタル点ニ付テハ新聞發表ハ第1ハ日本側ニテ為サ
ナレラ

ルルコト然ルくシ日本側リテ適當ト思考セラル形式及
時期ニ於テ発表セラシタル後我方ニ於テモ又上艦歸スル
コト無キ様取計シ度シト述くタルニ付若槻ハ其ノ好意ヲ
謝シ未タ別段ニ腹案ヲ定メ居ラナルヤセ知レスト答タリ
单ナル声明ヲ為ベシトナリヤセ知レスト答タリ
米く転電シ仏伊く暗送セリ

(別 聞1)

London, April 3rd, a.m., 1930.
Rec'd., April 3rd, p.m., 1930.

Gainudaijin, Tokyo.
No. 249

Points to be confirmed.

1. It is understood as the purport of the compromise
plan, as follows:-

(1) The holdings in the auxiliary craft by the
United States, Great Britain and Japan in 1936 will
be:-

(A) 8-inch gun cruisers;
United States: 18 units-180,000 tons prior to the

Conference in 1935, more than 15 units-150,000
tons will not be completed. The 16th unit will
be laid down in 1933, the 17th in 1934, the
18th in 1935.

Great Britain: 15 units-146,800 tons.
Japan : 12 units-108,400 tons.
In case the United States build more than 15
units -150,000 tons, Japan will be free to claim
at the Conference of 1935 the right to build
correspondingly. The formula of reservation in
this sense to be agreed upon.

(B) 6-inch gun cruisers:
United States..... 143,500 tons.
Great Britain..... 192,200 tons.
Japan..... 100,450 tons.

(C) Destroyers:
United States and Great Britain.....
150,000 tons each.
Japan..... 105,500 tons.

(D) Submarines:
United States, Great Britain and Japan:
Totals:
United States..... 526,200 tons.
Great Britain..... 541,700 tons.
Japan..... 367,050 tons.

(2) The Treaty to be in force until the end of 1936.
As to the arrangements thereafter, they will be con-
sidered at the Conference of the Signatory Powers to
be held in 1935.

(3) The provisional agreement now to be made
will form part of a Treaty between the Five Powers
including France and Italy.
2. As to submarines, it is understood that in case the
tonnage to be held by the United States and Great
Britain becomes larger on account of their relation with
France and Italy, the Japanese holdings will automati-
cally be increased to maintain the parity.

3. It is understood that due consideration be given to maintenance of ship building art and industry in war vessels in Japan.

4. The Treaty will also comprise an agreement as to the institution of a naval holiday in regard to the capital ships.

Zenken.

(署 署)

London, April 3rd, a.m., 1930.

Rec'd., April 3rd, p.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokyo.

No. 250

The Japanese Government place special emphasis on the promotion of international peace and good will and have for the purpose of furthering that object a firm resolve to co-operate with the other participating powers to bring the naval conference of London to successful conclusion. They have examined most carefully the compromise plan in such spirit, and they fear that, since

to be drafted.

2. Such being the fundamental thought that has prompted the Japanese Government to come to this decision, it is considered necessary, in giving their accord to the arrangement to the 8-inch gun cruisers, to do so only on a precise understanding that it will not have a binding force and will be entirely without prejudice to the claim or stand of Japan in this respect at the Conference of 1935. It may certainly be self-evident, but it is believed highly important to reiterate this point and make the situation unmistakably clear so as to assuage the possible disquietude of the people.

3. As to the question of submarines, it will be easily understood by the American and British Delegations that the proposal contained in the present plan will seriously operate against the maintenance of the ship-building art and industry of Japan. Since no new building in submarine is thereby authorised, the discharge of skilled mechanics and the closing of several

the adoption of the plan will result in a gradual decrease in the actual relative strength of the Japanese Navy in a few years to come, the Japanese people cannot but entertain a sense of uneasiness as to their national defense.

In such eventuality, the essential object above referred to will by no means be attained, but on the contrary, suspicions and misunderstanding in international relations will only be deepened. This is what the Japanese Government view with the most serious concern. It is however understood that the plan under review is intended merely to take care of the situation up to 1936 and, as to the naval strengths to be possessed thereafter, they will be discussed and decided anew at the Conference of 1935. The Japanese Government, therefore, sincerely appreciating the spirit of accommodation and co-operation manifested by the American and British delegation in the formulation of the present plan, have decided to agree to make the plan from the substance of the Treaty

of the private yards will consequently be necessitated. The result will be that the question of unemployment will become thereby even more accentuated.

While the Japanese Government do not desire to add complications to the work of the Conference by proposing a material amendment in this connection to the plan under review, they wish to make a frank statement of the practical difficulties which Japan will surely encounter on this score and sincerely hope that the other Powers concerned will give a friendly consideration to the matter in order to work out some means to alleviate such difficulties. In seeking the solution of this point, they are of course actuated by no other motive than to carry the matter to a successful issue.

Further, it is to be understood that, in case the tonnage to be held by the United States and Great Britain in submarines will become larger on account of their relations with France and Italy or for any other reason, the Japanese holdings will automatically be increased

to maintain the parity.

Zenkenjin.

本省 4月4日前着

會議の経過

459

昭和5年4月3日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

三國妥協案への政府回訓に関する声明書の発表

表立つじて

往電第二四八号末段(十一)ニ関シ

ロンドン 4月3日前發

本省 4月3日後着

第二五一號

新聞紙ハ本日ノ會議ニ付当然種々ノ記事ヲ掲載スルコトニ想像セラレタルニ付當日(二日)夜特電ノ通声明書ヲ發表セリ

460 昭和5年4月3日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

第十五回国首席全權會議における我が回訓の披露並びに専門委員会関係事項などの討議について

ロンドン 4月3日前發

(一)砲口径ノ外排水量ヲモ分類表中ニ掲記スルノ件ハ保有量決定後迄之ヲ持越ス事トス

(二)補助航空母艦及飛行機ヲ何レノ類別ニ属セシムヘキヤノ問題ニ関シ「スチムソン」ヨリ米国専門家ノ意見ニ依ルモノナリトテ水上艦艇中(イ)六百噸以上二千噸ヲ越エサルモノハ駆逐艦ノ割当噸数中ニ(ア)一千噸以上一万噸ヲ越エサルモノハ巡洋艦ノ割当噸数中ニ入レバ「リスト」ニ記載セラルル現存特種艦ハ何レノ制限類別ニモ入レス(二)或國力前記ノ類別中ニ入ルルヲ欲セサルモノニ付テハ艦名ヲ示シテ例外ヲ認ムトノ提案ヲ為シ補助航空母艦ハ八時ヲ積ミ得ルニ付巡洋艦ト看做シ得ヘキ場合アリト説明シタルニ対シ「アレキサンダー」及若槻ヨリ夫々補助航空母艦ハ華府條約所定ノ噸数ニテ賄フコトニ決定シ居リ且巡洋艦ト航空母艦トハ其ノ性能ヲ異ニスル等ノ理由ニテ反対シ結局専門家間非公式ノ話合ニ移スコトトス

乙、総会開催問題

四日総会ヲ開催スルノ件ニ関シ「ブリアン」ヨリ先日本会合ニ於テ総会開催ヲ決定セルハ會議ノ形勢稍混沌タリ

第二五一號

二日午後四時ヨリ「セントゼイムス」宮ニ於テ首席會議開催各國首席ノ外米ヨリ「ギブソン」仏ヨリ「ジユメニル」出席ス

劈頭若槻ヨリ我方ハ數週間來主トシテ数字ニ関シ英米トノ間ニ交渉ヲ重ねタル結果一案ヲ得タルヲ以テ本国政府ニ電報シ置キタル処昨日同案ヲ大体受諾スヘキ旨ノ訓令ニ接シタリ我方カ該案ヲ受諾セルハ専ラ會議ノ成功ニ貢献セムトスルノ誠意ニ出ツルモノニシテ同案ノ或ル点ハ我方ニトリ必スシモ満足ナラサリシモ今次ノ條約カ暫定的ノモノナルニモ鑑ミ之ニ同意セル次第ナリ尤モ二二三ノ点ニ付尚交渉ヲ要スルモノアリト披露セルニ対シ「マ」ヨリ我方ノ協力ニ對スル謝意ヲ述ヘ次テ會議事務總長ノ作成ニ係ル議題表ヲ基礎トシテ討議セルカ決定事項左ノ通

甲、第一委員会及専門委員会関係事項

(一)六時巡洋艦最小噸数及駆逐艦最大噸数(即チ付件全体)

問題ニ付テハ再ヒ「スチムソン」ヨリ反対意見ヲ述ヘ結局若槻ヨリ他ニモ一層重要問題アル事故之ヲ固執セスト

461 昭和5年4月3日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

日英米全權會議における潛水艦融通問題など

討議の経過について

ロンドン 4月3日後發
本省 4月4日後着

第二五四號

往電第二四八号會議ノ際打合セノ通四月三日午前十一時「セントヂエムス」宮ニ於テ日英米全權會合ス出席者同シ但シ「スチムソン」ハ「ブリアン」トノ會見ノ為遲參セリ

若槻ハ昨日政府ノ訓令ヲ御伝ヘシタル際尚細目ニ付御相談シタント申述ヘタルカ日本ノ製艦能力ニ付切実ナル考慮ヲ

加ヘラレントコトヲ希望ス尚万一不幸ニシテ軍艦難破ノ場合ニ於ケル代換問題ニ付テモ決定シ置キ度キ点アリ製艦能力維持ニ付テハ潜水艦巡洋艦駆逐艦トモニ皆其ノ必要アリ就中潜水艦ニ付テ最重要ナリ之力解決ノ最良方法ハ融通ニシテ巡洋艦駆逐艦ヨリ一定ノ割合ニテ潜水艦ニ融通スルノ権利ヲ各国カ保有スルコトセハ可ナルヘシ此ノ点御承諾ヲ請フト云ヘルニ対シ「リード」ハ妥協案ノ数字ニ依レハ日本ハ一九三五年迄ニ巡洋艦一万九千噸ヲ建造シ潜水艦ハ建造セサルコトナルヘキニ付製艦能力保護ノ為ニ何等カノ途ヲ講スルノ必要ナルコトハ充充諒解スル所ナリ從テ各艦種保有量ヲ増スコト無ク解決案ヲ得ルコト難カラサルヘク専門家ノ考究ニ委ネテ然ルヘン然レ共融通ノ問題ハ度々之ヲ提起シタル国アルモ米国ハ之ニ反対ノ態度ヲ維持セサルヘカラサル立場ニアリ又軍艦難破ノ場合ニ付テハ華府条約ニモ規定アリ其ノ代換ヲ建造シ差支ナカルヘシト述ヘ「マクドナルド」ハ英國ハ勿論製艦能力維持ニ関スル日本ノ理由アル要求ハ喜ンテ之ヲ容レントスルモノナリ昨日モ申シタル通英國モ同シ困難ニ逢着スヘク之ニ対シテハ協定全体ノ構成ヲ累セサル方法ニテ解決策ヲ講セントシ居レリ

途ヲ講スルノ必要ナルコトハ充充諒解スル所ナリ從テ各艦種保有量ヲ増スコト無ク解決案ヲ得ルコト難カラサルヘク専門家ノ考究ニ委ネテ然ルヘン然レ共融通ノ問題ハ度々之ヲ提起シタル国アルモ米国ハ之ニ反対ノ態度ヲ維持セサルヘカラサル立場ニアリ又軍艦難破ノ場合ニ付テハ華府条約ニモ規定アリ其ノ代換ヲ建造シ差支ナカルヘシト述ヘ「マクドナルド」ハ英國ハ勿論製艦能力維持ニ関スル日本ノ理由アル要求ハ喜ンテ之ヲ容レントスルモノナリ昨日モ申シタル通英國モ同シ困難ニ逢着スヘク之ニ対シテハ協定全体ノ構成ヲ累セサル方法ニテ解決策ヲ講セントシ居レリ

又難破ノ場合ニ付テハ「リード」全權ノ云ハルル通華府條約ノ筋合ニテ各艦種保有量及総括的保有量ニ変更ヲ來スコト無ク代艦ヲ建造スルコトシテ可ナルヘシ若シ夫レ融通問題ニ付テハ元來之ヲ最少限度ニ止メサルニ於テハ協定ノ根本ニ動搖ヲ來スノ惧アリ特ニ世界各地ニ散在セル利益保護ノ任ヲ有スル國トシテハ他ノ諸國ノ製艦計画カ融通ニ依リテ見定メ付カサル場合ニハ右顧左眄其ノ拠ル所ヲ知ラサルニ至ルヘン從テ主力艦航空母艦及潜水艦ニ付テハ融通ヲ認ムル能ハサルコト二月七日議会ニ提出セル我白書ニ明言セル所ナリト反対意見ヲ主張セリ

茲ニ於テ若観ハ実ハ融通問題ニ付テハ初メヨリ我態度ヲ明カニシ主力艦八吋艦ノ融通ハ之ヲ認メス乍然潜水艦巡洋艦駆逐艦ノ融通ハ或程度ニ於テ之ヲ認ムヘキコトヲ首席會議ニテ主張シタルコトアリ此ノ点ハ未タ決定未了ト了解シ居レリ若シ此ノ点我要求通トナラハ當面ノ潜水艦問題モ解決容易ナルヘシト思考ス仏伊側ノ列席ナキ此ノ席上ニ於テ率直ニ申上ケンカ仏國カ高率ノ潜水艦保有量ヲ固持スル關係上英國カ其ノ駆逐艦ノ保有量ヲ变更セサルヘカラサル場合ニ於テ融通ノ原則ヲ認メ置クニ於テハ解決ニ最モ便ナルヘ

テ之ヲ必要トセス潜水艦保有量ノ增加ヲ要スルコトアリ得ヘシ此ノ点ハ本日決定ヲ求ムルモノニ非サルモ自分一己ノ意見ヲ茲ニ明ニシ置クコトヲ許サレタシ

融通問題ニ立戻リ之カ潜水艦建造ノ能力保護ノ必要上最都合良キ方策ナルコトハ英米側ノ御諒解ヲ得度ク余カ政府ヨリ受ケタル訓令ニ於テモ我政府ハ此ノ事ニ重キヲ置ク処ナルヲ以テ深甚ノ御考慮ヲ煩シ度シト希望セルニ「マクドナルド」ハ製艦能力ノ維持ニ付日本ノ立場ヲ容易ナランシメンカ為ニハ全力ヲ尽シ度キ希望ナルモ各艦種間ノ噸數割ニ動搖ヲ來ササルコト肝要ナリト答ヘ「リード」ハ潜水艦ニ対スル融通案ハ米国ニ於テ uncomfortable reception ヲ受クヘキヲ恐ル日本側ハ今回全ク公正ノ態度ヲ持セラレ米國側モ之ニ酬シコトヲ欲スルモ此ノ一点ハ結局難問ノ種ヲ植付クルモノトシテ反対セサルヲ得サルヲ悲シムト述ヘ「マクドナルド」ハ更ニ友邦タル日本ニ對シ数千噸ノ出シ惜ミヲ為スモノト諒解セラレサランコトヲ希望ス有機的全体トシテ造リ上ケタル協定案ノ根底ヲ動カスカ如キ融通問題ハ之ヲ受入レ難キヲ遺憾トス乍然艦種間双互ノ融通ハ原則問題トシテ現ニ第一委員会ニ於テ攻究シ居レリ本問題モ之ニ付

託スルコトシテハ如何ト提言セリ

(此ノ時「スチムソン」來会)

若楨ハ然ラハ融通問題ハ第一委員会ノ一般討議ニ俟チテ工業能力保護ノ方策ヲ講スルコトトスルコトニ同意スヘシ而シテ本件解決策ニ付テハ昨日モ言及セラレタル如ク満限前代換ノ方面ヨリモ考究シ得ヘシ目下専ラ潜水艦ニ付テ御話シ居タルモ巡洋艦駆逐艦ニ付テモ同様ナル問題アリ之等ニ関スル数字ハ茲ニ持參シタルハ御差支無クハ自分ヨリ委細申述フヘキモ専門的事項ニ亘ルヲ以テ専門家ヲシテ考究セシムル方然ルヘシトノ御意向ナルニ於テハ之亦夫ニテモ差支無シト述ヘタルニ「リード」「マクドナルド」何レモ専門家間ニ討議セシムルヲ可トシ英國「ファイシャー」中将「ペレイル」大佐米国「プラット」大将「バンキュー」レノ「大佐日本安保大將豊田大佐ニ依リ専門委員会ヲ開クコトトナレリ(其ノ後日本ヨリハ左近司中將豊田大佐中村大佐ヲ出席セシムルコトニ変更セリ)

次テ若楨ハ軍艦難破ノ件ニ付一般問題トシテハ華府條約ノ筋合ニテ差支ナキモ自分カ本日本件ニ言及セルハ具体的の考察ニ出ツルモノニシテ我カ古鷹級ハ僅ニ七千噸ノ排水量ニ

八時砲ヲ積載セル無理ナル艦型ニシテ從テ艦齡二十年ヲ俟タスシテ代換ノ必要アル義ナルモ之ハ一九三六年以後生スヘキ問題ナルニ付今日ハ強テ此ノコトヲ主張セス然レトモ一九三六年以前之カ不幸難破ノ場合アリトセハ直ニ代換ノ問題生スヘク其ノ際ハ再ヒ無理ナルモノ致シタキ考ヘナリ斯ノ如キハ真ニ想像ノ必要モナキ程ノ万ノ場合ノコトナレトモ能ハサルニ付今少シ大ナルモノトシタキ考ヘナリ斯ノ如キハ真ニ想像ノ必要モナキ程ノ万ノ場合ノコトナレトモ為念御同意ヲ得テ條約ニ明記シ置キタキ希望ナリ我海軍側ノ心配モアリ杞憂ニ過キサルヘキモ此ノ点御考量ヲ請フト

述ヘタルニ「リード」ハ米国側ニ於テモ主力艦ニ関シ同様ノ心配アリト言ヒ「マ」ハ御尤モノ点アルモ噸数ニ変更ヲ动摇ヲ不可ナリトシ結局此ノ問題モ併セテ専門委員会ニ研究セシムルコトト為セリ若楨ハ次イテ「マ」及「ス」ノ問ニ対シ本日申上ケタキ点ハ之ニテ尽シタルモ尚昨日提起セラレタル英米側 option ノ問題ニ関シ申上ケタキコトアルモ他日ニ讓ルヘシト述ヘ(「マ」「グランジ」ト会見ノ為退席)「ス」ハ只今決定セル専門委員会ニテ要求セシムヘキ問題ニ付万ノ専門委員カ難局ニ逢着セル場合ニハ再ヒ我等

全權會議ニ廻付セシメ若ハ我等自ラ専門委員会ニ参加シテ解決ヲ計ルコトト致シタシト唱ヘ一同之ニ賛成シ散会スルコトトセリ

米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

462 昭和5年4月3日

在仏國河合臨時代理大使より
幣原外務大臣宛(電報)

ロンドン軍縮會議に対する各紙の観測について

第一〇〇号

当地新聞紙ハ何レモ保障問題ニ関スル英仏同意見ノ接近並ニ米国提案ニ對スル日本ノ原則的承認ニ依リ倫敦會議ハ何等カノ成果ヲ收ムヘシトノ觀測ヲ下シ居ル処

(一) 保障協定ニ關シ Journal Matin Excelsior 等ハ右協定ハ各国ノ利益ノ為ニシテ仏國ノミノ利益ニアラサルヲ以テ協定成立ノ曉ニハ各国何レモ軍備ヲ制限スヘク仏國ノミニ軍備制限ヲ求ムヘキニアラスト論シ「エコ、ド、パリ」ハ連盟規約第一六条ノ解釈ニ関シテハ國際連盟ノ承

(二) 日本ノ回答ニ關シテハ「エコ、ド、パリ」ハ日本カ米国ノ提案ヲ受諾シタルハ日本カ英米市場ニ於テ財政的援助ヲ受クルノ必要アルト日本間ニ滿州ニ於ケル日本ノ特殊地位並ニ米国移民法ノ適用ニ關シ何等カノ黙契成立シタルニ依ルモノナルヘシトナシ「マタン」「ブティパリジアン」ハ日本カ其ノ對英米比率ニ関スル主張ヲ協定中ニ記載スル事無ク單ナル一方的宣言ニ依ラムトスルコトハ注意スヘキ点ニシテ仏國トノ「パリティ」ヲ條約文中ニ挿入スルコトヲ要求シツツアル伊太利ニ好教訓ヲ与フルモノナリト論シ「ジュルナル、エコ、ド、パリ」「ブティパリジアン」ハ潛水艦ニ關スル日英米間五万二千噸ノ「パリティ」ハ仏國ノ十万噸要求ヲ困難ナラシムヘク仏國ノ大ニ不利トスル處ナリト論シタルカ更ニ「エコ、ド、パリ」ハ右ハ仏國政府カ本邦ニ正式大使ヲ赴任セシメス在本邦英米大使ト外務大臣トノ交渉ニ際シ何等有効ナル措置ヲ執ラサリシニ起因スルモノニシテ仏國政府ノ

責任ナリトセリ

尚「デバ」ハ伊国ハ依然仏国トノ「パリティ」要求ヲ固執シ居ル処仏国トシテハ之カ対策トシテ寧ロ日本トノ「パリティ」ヲ要求スルノ態度ニ出ツル事然ルヘシト述ヘ「ブティパリジアン」ハ今回締結セラルヘキ条約カ一九三五年迄ノ一時的ノモノナリトセハ仏国ハ伊国ノ勧誘ナクトモ之ニ参加スルニ吝カナルモノニ非ストセリ全權及米ニ転電シ伊ニ郵送セリ

463

昭和5年4月(4日)

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

加藤軍令部長の帷幄上奏に関するタイムスの記事について

新聞情報
第二五三号

ロンドン
本省 4月4日前着

「タイムス」ハ軍令部長ノ帷幄上奏ニ関シ此ノ種ノ国防ニ關スル上奏ハ軍人トシテ執り得ヘキ最重大ナル措置ニシテ其ノ目的ハ明カニ政府ノ倫敦會議ニ対スル計画ニ大ナル反

464

昭和5年4月4日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

軍縮會議の現況に関する新聞記事について

新聞情報
第二五五号

ロンドン
本省 4月5日前着

尤モナル見解ナリト記シ尚大洋諸國間ノ現在ノ形勢ハ即チ三国協定カ事實上完結セラレタリトスルニ在リト報シタリ

二、「タイムス」東京通信トシテ左ノ記事アリ
三日ノ諸新聞ハ印度綿糸關稅問題ニ紙面ヲ占領セラレ加藤大將ノ帷幄上奏ニ關シ言及シタルモノナシ幣原外相ノ妥協案ノ批准セラルルコトヲ確信ス目下ノ所財部大將カ辞職スルカ如キ新事實進展セサル限り加藤大將ノ反対ハ協約成立ヲ危クセス又政府ヲ困惑セシムルコトスラナカルヘシ今日財部大將ニシテ辞職セハ政府ハ後繼者ヲ得ルコト能ハス内閣ハ其ノ存在ノ危キニ至ルヘシ「ジャパン、アドバタイザー」ハ加藤大將ノ行動ヲ評シ日本ノ諺ニ江戸ノ仇ヲ長崎テ討ツト言フコトカアルカ彼ハ倫敦ノ

ルコトニ關シ「タイムス」ハ英米全權ハ共ニ會議ニ対シ協力セントスル日本政府ノ意思ヲ徳トシ居レリ其ノ留保条項モ五國協定不可能ノ場合三国協定ヲ成立セシムルニ付何等ノ困難ヲ呈スルモノニアラサルヘシトノ意見広ク行ハルト報シ「テレグラフ」ハ米国各全權ハ日本全權ニ對スル東京ノ訓令ニ非常ナル満足ノ意ヲ表シ居レリ「リード」全權ハ昨日米国記者團ニ対シ此ノ結果何人ニ対スル勝利ニモアラス日英米三国ノ間ニ於ケル公明正大ニシテ又妥当ナル協定ナリト語レリ尚同全權ハ日本ノ主眼トスル留保即チ大巡七割要求ヲ放棄スルモノニアラサル主張ニ關シテハ巧妙ナル言廻シヲ以テオ茶ヲ濁シタリト報シ「ガーディアン」モ米国代表ハ日英米三国間ノ協定ニ対シ包ミ切レサル満足ノ意ヲ表シ居レリト述ヘタル後前記「リード」ノ会談ヲ掲ケ尚日本留保ノ諸問題カ満足ニ慢ナル代換ノ方法ニ依リ其ノ造船所ヲ維持セントスル處置セラルヘキコトニ付テハ何人モ疑ヲ挿ムモノナシト報シ「ポスト」ハ日本ノ留保中最モ興味アルハ日本カ緩ニシテ右ハ日本カ過去二十年ニ亘リ苦心ヲ重ネテ築キ上ケタル造船組織ヲ頽廢セシメサラムトスル考ニ出テ誠ニ

対ヲ誘起セシメ以テ枢密院ヲシテ批准奏請ヲ拒否セシメム

トルニ在リ上奏ノ影響カ如何ナル程度迄拡大サルルヤハ将来ニ残サレタル問題ナリ政府ノ政策ハ有力ナル支援者ヲ有シ又加藤大將モ政界ノ陰謀者ト策動スヘシトモ思ハレス然レトモ條約ハ急転スルコトモアルヘシトノ記事ヲ掲ケ「マンチエスター、ガージアン」モ若シ海軍首腦部カ該提案ヲ受諾スルコトニ依リ国防ヲ危殆ニ陥ラシムルモノナリトノ報道ヲ宣伝スレハ輿論ハ政府ニ反対シ枢密院ハ批准奏請ヲ拒否スヘク又如何ナル場合ニ於テモ貴族院ハ來ルヘキ特別議会ニ於テ猛烈ニ政府ヲ攻撃スヘシト予期セラルト記セリ

ヲ得ス藏相ハ本日軍縮成立ニ依リ一九三六年迄ニ六億六千三百万円ヲ節約シ得ル旨公表シ幣原男ハ提案拒絶ノ場合日本ノ國際的地位ニ及ホス惡影響ヲ指摘セリ政府カ時日ヲ遷延セシムル為政界ハ決裂ノ為拠フヘキ代償ヲ認識シ得ル充分ナル機會ヲ有シ協定カ拒否セラルヲ恐ルル何等ノ實質的理由ナシ云々

三、安全保障ノ問題ニ関シ諸紙ノ報道スル處ニ依レハ一昨日英仏ノ間ニ案出セラレタリト称セラル方式ハ「タルジウ」ヨリノ反対修正アリ其ノ後モ専門家ノ手ニ於テ各種ノ案ヲ考究中ナルモ未タ何等ノ満足ナル結果ニ到達セサル趣ニテ一方仏國カ仮令満足ナル保障ヲ与ヘラルル場合ニ於テモ其ノ實際ニ低下スヘキ頗數ハ極メテ僅少ナルヘシトノ態度ヲ表明シツツアルコトハ本問題ノ前途ヲ更ニ悲観ニ導キツツアル模様ナリ

尚「グランデ」ハ昨日「マクドナルド」「ヘンダーソン」

ト会見シタル際伊国ハ此ノ會議ニ於テ現在条約ノ新解釈ト云フカ如キ方式ヲ考究スルコトヲ適當ト認メス連盟規約第十六条ノ新解釈ヲ基礎トスル五國協定ニハ反対ナル旨並ニ伊国ハ対仏均勢ノ要求ハ依然之ヲ固執スルモノニ

ヘシ云々

465

昭和5年4月4日 紛糾外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日英米妥協案への政府回訓と軍令部の動向に 關する各紙の論調について

本省 4月4日後7時発

第一二四号

軍縮新聞情報

三日日日ハ政府回訓ノ趣旨ハ協定有効期間ヲ一九三六年迄トシ且ツ次回會議ニ於テ我大巡七割要求ヲ英米側ニ承認セシムルコトヲ予諾セシムル何等カノ方法ヲ今日ニ於テ講シノ保留カ確実ニ得ラルレハ全權ノ大成功ナリ海軍側ノ不同意ハ妥協案ノ原則カ一九三六年以後ニ効力ヲ持ツコトヲ前提トセルモノナレハ協定カ一九三六年ニ期間満了ト決セハ何等反対アルヘキ理ナシ而シテ右ノ英米側諒解ヲ将来ニ拘束力アル如キ形式ニテ獲得スルコトハ容易ナラスト思ハルモ政府カ之ヲ唯一ノ条件トシテ妥協案ヲ鵜呑ミニセル以

上全權ノ手腕ニ非常ナル信頼ヲ寄セ居ルモノト思ハル右ノ

シテ仏國ニシテ此ノ要求ヲ承認セサル限り五國協定ノ前途ハ遼遠ナリト思考スル旨ヲ明カニシタリト

四、「テレグラフ」ハ國際政治ニ関シ最近或ル一英國政治家ノ意見ナリトシ左ノ如キ記事ヲ掲ケタリ

(イ)若シ英國カ仏國ノ誅求ニ從ヒ伊国ヲ犠牲トスル結果英

伊ノ伝統的友好關係ヲ破ルニ於テハ歐州平和ノ為「ロカルノ」ニ於テ組立テラレタル全組織ハ崩壊スルニ至ルヘシ此ノ場合伊国カ自己ヲ蔑ニシタル英仏ノ合意ハ「ロカルノ」條約ニ違反スルモノナリトシテ之ヲ廢棄スルト否トニ拘ハラス伊国ハ最早仏獨均勢ノ維持ニ関シ英國ノ責任ハ力者ナリト認ムルコト能ハサルヘシトシ伊国ニシテ独逸ノ許ニ馳セ参スルニ於テハ保障國トシテノ英國ノ責任ハ無限ニ増大セラルヘクスカル骨抜ノ「ロカルノ」條約ヲ以テシテハ戦争ノ發生ヲ防遏スルコト不可能ナルニ至ルヘシ

(ロ)太平洋ニ於テハ英國ニ對スル日本ノ戰鬪的行為ハ平和ノ維持ニ就キ最重要ナル要素ナル處日本ノ要求ヲ低下セシメンカ為「マクドナルド」ノ日本ニ加ヘタリト称セラルル圧迫ハ太平洋ニ於テ不幸ナル結果ヲ招來スルニ至ル

リ

条約の有効期間及び留保条項に関する規定挿
入方請訓について

ロンドン 4月5日後発
本省 4月6日前着

第二五七号

貴電第一一四号ニ関シ

留保ノ案文ニ付キ攻究シタルカ留保ハ先方ヨリモ反対留保ヲセラル虞アリ面白カラス依テ関係国ニシテ同意スルニ於テハ左ノ趣旨ノ条項ヲ条約中ニ插入シ所謂留保ハナサナル方我方ノ立場ヲ最モ自由ニナシ置ク上ニ於テ得策ナリト思考セラル

本条約ハ一九三六年十二月三十一日迄効力ヲ有ス締約国ハ本条約終了後ニ於ケル海軍軍備制限ニ付更ニ協定ヲ遂ケントスル場合ニハ日本国政府ハ国防ニ関シ其ノ認メテ必要トスル主張ヲナスノ自由ヲ有スルモノナリ

ニ非ス

右ノ中前段ハ条約ノ有効期間ニ関スルモノニシテ必ス条約ニ規定セラルヘク又後段モ当然ノ事項ニ属スルヲ以テ関係國ニ於テ別段異議アルヘントモ認メラレサルモ（今迄ノ処

467 昭和5年4月5日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

特別専門委員会における補助艦建造線上、古鷹級代換、潜水艦融通の各問題討議について

ロンドン 4月5日後発
本省 4月6日前着

第二五九号

往電第二五四号ニ関シ

「クレーギー」ハ贊意ヲ表シ居レリ）若シ反対アリテ成立セス有効期間ニ関スル条項ノミ存置セラル場合ハ左記ノ趣旨ニテ公開ノ席上ニ於ケル我方陳述中ニ宣言ヲナシ之ヲ議事録ニ止ムルコトトシ度所存ナリ就テハ右ニテ差支ナキヤ何分ノ儀折返シ御回電アリタシ

「日本国政府ハ本条約ニ贊意ヲ表シタルカ為其ノ国防ニ関スル從来ノ主張ヲ变更シタルモノニ非ス從テ締約國カ本条約終了後ニ於ケル海軍軍備制限ニ付更ニ協定ヲ遂ケントスル場合ニハ日本国政府ハ国防ニ関シ其ノ認メテ必要トスル主張ヲナスノ自由ヲ有スルモノナリ」

米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

四月四日午前午後各二時間特別専門委員会ヲ開催左ノ問題ヲ討議ス

(一)一九三六年未ニ至ル日本補助艦建造量

(二)喪失ノ場合ニ於ケル古鷹級代換

経過要点左ノ如シ

(一)(1)潜水艦ノ建造量ハ融通ト不可分ノ関係アルヲ以テ融通問題決定迄之ヲ留保ス

(2)巡洋艦駆逐艦ニ対シ我方委員ハ一九三六年未迄ニ建造ニ着手スヘキモノトシテ巡洋艦ニアリテハ妥協案保有量ト現有量トノ差一、〇三五噸及利根ヨリ大井ニ至ル十一隻計四七、〇〇七噸合計四九〇四二噸ヲ又駆逐艦ニアリテハ沢風ヨリ吳竹ニ至ル三十四隻計三万三千七十噸ヲ基礎トセル仮造船案ヲ提出スルコトトナリ七日更ニ会合審議スル予定

切レリ

以上ハ経過ノ極ク概要ナルカ議長（英「ファイッシャー」中

モ右ハ永久ニ日本保有量一〇八、四〇〇ヲ変更セサルヘキコト換言スレハ今後ノ新建造艦型ハ一〇八四〇〇噸ノ保有量内ニテ調節スヘキモノナルコトヲ条件トスヘキコ

為午前ハ「リード」午後ハ「ヘバン」少将「ゴルドン」參事官出席セリ

米へ転電シ仏伊ニ暗送セリ

468

昭和5年4月5日

在米国出淵大使より
整原外務大臣宛（電報）

日本政府の三国妥協案承認及び英仏会談の進行ぶりに関するコットン國務長官代理の談話について

ワシントン 4月5日後発
本 省 4月6日後着

第一一五号（極秘）

五日他用ヲ以テ「コットン」國務長官代理ニ会見ノ際軍縮問題ニ言及シタル處「ヨ」ハ大要左ノ通語レリ

(一)日本政府カ今回三国全權團案ニ対シ承認ヲ与ヘラレタル公正ナル態度ハ自分ノ深ク多トスル所ニシテ大統領ニ於テモ大イニ満足シ居レリ又上院方面ノ空氣ハ自分モ常ニ注意ヲ払ヒ居ルカ三国條約ニ対シテハ別段反対意見ナキ模様ナリ從テ英國又ハ日本ヨリ矢釜敷キ保留等ヲナササ

ル限り條約ハ存外簡単ニ協賛ヲ得ヘキ見込ナリ議会ハ今

秋ノ選挙ノ関係上昨今頻リニ議事ノ進行ヲ急キツツアリ旁々多分六月中旬頃閉会スルコトトナルヘシ

(二)今朝モ「スマソン」ト長距離電話ニテ話シヲシタルカ自分（「ヨ」）ノ観ル所ニテハ英仏ノ政治協定ニ関スル協

議ハ両国政府トモ互ニ其ノ相手方政府ノ寿命幾許モ無力ルヘシト見居ル關係モアリ仲々思フ様ニハ進マサルカ最近ニ至リ追々両者ノ主張接近シツツアル模様ナリ尤モ下両国間ニ相談中ノ政治協定ハ大陸ノ諸小国ヲモ参加セシムルコトヲ必要トスルニ付独逸ニ対スル微妙ナル關係モアリ急速ニ進行スヘキ見込ナシ從テ此ノ際取急キ日英米三國間ノ協約ニ調印シテ倫敦會議ヲ解散シ英（仏）ノ

政治協定問題ハ右両国ヲシテ引続キ氣永ニ交渉セシムルコトトナス外致方ナカルヘシ而シテ三国條約ハ材料モ大体揃ヒ居ルニ付余リ手間取ラサス調印ノ運トナルヘク米國全權一行ハ二十二日発「レビアサン」ニテ倫敦ヲ引揚ケルコトニ内定セリ

全權ニ転電シ仏、伊ニ暗送セシム

469

昭和5年4月5日

整原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

日英米三国妥協案の承認に関する各紙の論調について

第一二六号

軍縮新聞情報

本省 4月5日後3時30分発

五日朝日ハ主力艦建造延期ハ一大財政的利益ヲ与フルモノト云フベク補助艦総括噸数ハ我要求ニ合シ大巡モ一九三六年迄ハ我要求通ニテ其後ノ我自由ナル立場モ損セラレザルベク唯「ギブソン」ノ嘗テ声明セル噸數融通ノ公約ガ今回ノ日米交渉ニ果サレザリシハ米国ノ信義ノ為ニ遺憾トス今回ノ協定ガ十分軍縮ニ徹底セザリシコト及大巡比率ヲ根本的ニ決定シ得ザリシコト等ノ不満足ハアルモ他方協定不成立ノ場合莫大ナル海軍費支出ヲ要シ日米外交ノ一般的悪化ヲ伴フコトヲ思ハバ吾人ハ今回ノ協定ヲ歓迎シ多少ノ欠陥ニ付テハ次回会議ニテ匡正ノ機アルベキヲ信ズト述べ時事ハ國民一般ニ是認セラルベキヲ信ズ今回ノ協定成立ニ付テハ英ハ巡洋艦五十隻ヲ甘受シ米ハ大巡十五迄ニ低下セシモノ

ナレバ決シテ我方ノミ犠牲ヲ払ヘルモノニ非ズ會議ノ成功ニ寄与スルハ我國民ノ平和愛好ノ精神ニ一致スルニ協定ノ結果タル負担ノ輕減ハ國民ニ對スル福音トシテ歓迎セラルベク唯米ガ大巡三隻起工ヲ權利トシテノミ保留シ軍縮精神ニ則シテ實現セザルヲ望ムト述べ大阪朝日ハ今回ノ三国協定ハ華府會議ノ成果以上ニ有意義ナルモノナリ海軍側ニ不满アル如キモ英米モ今日迄ニ相當讓歩セルモノナレバ我方多少ノ讓歩ハ已ムナキ处ナリ若シ我要求ヲ其儘貫徹セムトセバ予備交渉ニテ英米ノ言質ヲ求メ之ヲ得ザリシ時會議參加ヲ拒ムベキナリキ會議ニ參加セル以上ハ互讓シテ協定ニ達スルコト參加國ノ義務ナリ今回英米ニ与ヘタル我回答ノ趣旨ハ國民ノ眞ノ意見ヲ代表セル真実ノ言ナリ日本ガ妥協案ヲ受諾セルハ決シテ卑屈ノ讓歩ニ非ズ而カモ英米兩國民ニ与ヘタル好印象ハ此讓歩ヲ償ヒテ余アリ況シヤ國民負担輕減ノ効大ナルヲ思ハバ我方今回ノ措置ハ頗ル賢明ナリ此上ハ軍縮ノ効果ヲ一層大ニスル為五國協定ニ努力ヲ要スト述べ都ハ會議ニ於テ歩ミ合ヒハ本則ナリ今回ノ協定ニ依リ財界始メテ生色アルベシト述ベタリ

470 昭和5年4月7日 紛原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全権宛（電報）

軍縮による剩余財源の用途に関する各紙の論
調について

第一二七号 本省 4月7日後5時30分発

軍縮新聞情報

六日朝日ハ吾人ハ今ヤ協定ノ結果ヲ如何ニ善用スベキカラ
考フルヲ要ス協定ヲ前ニシテ国防ノ欠陥ヲ大声疾呼スルハ
賢明ニ非ズ軍縮ニヨル剩余財源ノ大部分ヲ空軍ノ拡張ニ充
テントスルハ軍縮ニ対スル國民ノ期待ニ反ス若シ軍部ガ自
ラ「内閣内ノ内閣」タリト意識シ行動スルコトアラムカ吾
人ハ軍部大臣武官制ノ適否ヲ検討セムト欲スト述べ時事ハ
今日國民經濟ガ財政上ヨリ大ナル圧迫ヲ受ケ居ルコトハ華
府會議當時ノ比ニ非ズ今回ノ協定ハ國民トシテ大旱ニ雲霓
ヲ望ム思アリ畢竟外交モ軍備モ國力以上ノモノヲ望ミ得ザ
ルコトニ付冷静ニ考フルヲ要ス次ノ會議ニ再ビ我主張ノ貫
徹ヲ期スルニモ之ヲ支持スル國力ノ伴フヲ要スルヲ以テ軍
縮ニ依ル財政ノ余裕ハ凡テ減税ニ充ツルヲ要ス海軍當局ハ
讓歩ノ代償トシテ余裕財源ヲ新タル國防費目ニ振当テン

トルモノノ如クナルモ吾人ハ断シテ之ニ反対スト述べ報
知及大阪朝日モ軍縮ニ依ル財政上ノ余裕ヲ減税ニ充ツベシ
ト述べタリ

471 昭和5年4月8日 在英國松平大使より
紛原外務大臣宛（電報）

八時砲巡洋艦に關し米國が十八隻を十五隻に

するとのオプション行使承認方について
(館長符号板)

昭和5年4月8日着

紛原大臣

松平大使

若槻氏ヨリ左ノ發電依頼セラレタリ
全権電報第二四八号ニテ御承知ノ通「ステイムソン」ハ米
國ハ政治的理由ニ依リ八時艦十八隻ヲ十五隻トスルノ「オ
ブション」ヲ存置スル意向ナル旨ヲ述ヘタリ若シ米國ガ八
時艦十五隻ノ方ヲ選択シタリトスルモ日米間ノ比例ハ大巡
ニ於テハ七割二分二厘、総括的ニハ六割七分七厘トナリ米
國ガ八時艦十八隻ノ場合ニ比シ日本ハ有利ノ地位ヲ得ルコ
トトナルヲ以テ余ハ之ニ異議ヲ言ハサリシモ尚一九三六年
以後ニハ日本ハ主張ノ自由ヲ有スル旨ノ留保ヲ為スコトア
ルベシト述ヘ置キタリ

当地海軍側ハ例ニヨリテ右ニテ満足セス小巡ニ於テ一万七
百八十五噸ノ増加ヲ要求シ総括的ニ約七割トナスベキ交渉
方ヲ希望シ出テ居レリ米國ノ同意セサルハ火ヲ睹ルヨリモ
瞭カナリ若シ此事ニ関シ内地ト往復スルコトトナラハ協定
ノ成立ハ甚タシク遅延スルカ又ハ談判不調トナルベシ米國
側ハ來ル二十二日ノ汽船ニテ帰國ノ準備ヲ為シ居ル際如斯
難題ヲ持出スハ策ノ得タルモノニアラス余ハ右「オプショ
ン」ヲ其儘同意スルノ考ナリ貴意如何至急返電ヲ請フ

472 昭和5年4月8日 ロンドン軍縮会議全権より
紛原外務大臣宛（電報）

第三回特別専門委員会における補助艦建造繰
上問題審議の経過について

ロンドン 4月8日後発
本省 4月9日前着

往電第二五九号ニ閲シ

第二六一号

四月七日午後約四時間第三回特別専門委員会開催我方委員
提出仮増艦案ヲ審議ス経過左ノ如シ

(一)潜水艦ノ建造量ニ関シテハ融通問題決定迄之ヲ留保ス

キモノノトシテ仮決定ヲ見タリ

(二)巡洋艦ニ関シテハ当初英委員ヨリ代換艦齡十二年ヲ巡洋
艦同様一九二〇年一月一日以前起工ノモノニ適用センコ
トヲ提案セルカ我方委員ハ強硬ニ原案ヲ主張シ最後ニ英
ヨリ代換艦齡十二年ヲ一九二一年一月一日以前起工ノモ
ノ即チ海風ヨリ菱迄五十九隻五一〇〇噸及菱董ノ二隻

一五四〇噸ヲ加へ計六十一隻五二七四〇噸ニ適用スルコ
トトシ右ノ内海風ヨリ菱迄三十四隻二六六一〇噸ハ一九
三六年末迄ニ逐次之ヲ廢棄シ残リ二十七隻二六一三〇噸
ニ対シテハ代換ノ竣工ニ伴ヒ之ヲ廢棄シテ結局一九三六年
年末迄ニ保有量一〇五五〇〇噸ニ達スル如クスルノ案ヲ
提出シ米之ニ賛セルモ我方委員ハ同意スルニ至ラス其ノ
儘夫々首席全権ニ報告スルコトシ會議ヲ結了セリ

473 昭和5年4月8日 整原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全権宛（電報）

日英米三国妥協案に関する各紙の論調について

て

本省 4月8日後6時10分発

第一二八号

軍縮新聞情報

八日「報知」ハ英米両国ガ淡白ニ我要求ヲ容レタルハ些カ誠意ノ表現ト認ムベキデアルガ我留保要求ガ単ナル希望条件程度ノモノト取ラル傾向アルヤニ伝ヘラル国民ノ断ジテ承服シ得ザル処ナリ全権ハ我留保ヲ及ブ限り有權的ナラシムル為最後ノ努力ヲ傾倒スルヲ要ス蓋シ協定案ハ決シテ吾人ノ期待ニ合致スルモノナラザルモ國際平和ノ大局ノ為次回會議迄暫ク隠忍セントスルモノナレバナリ夫レニシテモ六割ヲ強要スル英米ノ鋒鏑ヲ此程度ニテ喰ヒ止メタルハ特筆ニ値スト述べ「國民」ハ主力艦ニ付単ナル建艦休日ニテ満足セズ全廢ガ不可能トンテモ艦型及備砲ノ縮小ヲ商議セヨト述べ「都」ハ軍縮余剩財源ハ減税ニ充ツベク之ヲ他ノ軍備ニ充ツル謂ハレナシ協定満期後大巡対米六割トナル

テ満足セズ全廢ガ不可能トンテモ艦型及備砲ノ縮小ヲ商議

セヨト述べ「都」ハ軍縮余剩財源ハ減税ニ充ツベク之ヲ他

ノ軍備ニ充ツル謂ハレナシ協定満期後大巡対米六割トナル

474 昭和5年4月9日 在英國松平大使より

整原外務大臣宛（電報）

帰朝の日程に關し若槻全権より照会について

（館長符号扱） 昭和5年4月9日着

幣原大臣

松平大使

第一二六四号

若槻ヨリ
本委員ハ最初本會議終了後印度洋經由帰朝ノ心組ナリシモ條約成立ノ場合内地ニ於テハ或ハ急遽本委員ノ帰朝ヲ希望セラルベキヤモ知レス其節ハ西比利亞經由ニ改ムルヲ要スベキカトモ考ヘ居リタル処昨今ニ至リ内地新聞論調モ緩和シ輿論モ漸次鎮靜ニ帰シソツアルガ如ク見受ケラレ且ツ會議ハ終局ニ近シキツツアルハ事實ナルモ目下ノ處未タ何時頃終了スペキヤ明確ニ見据エ付カズ西比利亞經由トスルモ或ハ臨時議会中ニ間ニ合フ様帰朝覚束ナキヤモ計り難シ事情右ノ如クナルニ付内地ノ政情上差シタル支障ナキ限り当初ノ計画通り印度洋經由帰朝ノコトト致度ク右ニ関シ閣下ノ腹蔵ナキ御意見御回示ヲ得ハ幸甚ニ存ス

475 昭和5年4月9日 ロンドン軍縮会議全権より
整原外務大臣宛（電報）

日英米全権会議における補助艦建造線上及び
古鷹級巡洋艦代換問題の討議について

本省 4月9日前着

モノト速断シテ此次陥ノ補充ヲ要スト云フトセバ暫定協定ヲ自ラ永久的ノモノト認ムルニ等シ次回會議ノ為ニモ茲數年間民力ノ涵養ヲ要スト述べ「大阪朝日」ハ政府反対ノ最有力ナル論拠ハ政府ガ海軍国防直接ノ責任者タル軍令部ノ意見ヲ無視セリト云フニ在ル処国民ハ軍令部ノ意見モ將又政府ガ如何ナル程度ニ之ヲ無視セルヤモ知ラズ万一御批准困難トナルコトアリトセバ國民ノ利害ニ重大關係アル條約ガ全ク國民ノ背後ニ於テ暗カラ暗ニ葬ラルノ奇怪事ヲ現出スルコトモアリ得ル訳ナリ故ニ政府反対者モ政府モ夫レ夫レノ理由トスル所ヲ國民ニ詳細ニ説明スルヲ要ス協定案承認ニ至レル經過ヲ發表シ之ガ為我方ノ犠牲ガ如何ニ大ナリシカヲ明ニスルハ倫敦ニ於ケル細目協定交渉ニ當リ我方ノ立場ニ好影響アルベシ政府ハ本協定ノ御諮詢前ナルノ故ヲ以テ議会ニ於テ答弁回避ヲナス可ラザルノミナラズ議会ヲ俟タズ一切ノ経過ヲ國民ニ發表セヨト述べタリ

右候タズ一切ノ経過ヲ國民ニ發表セヨト述べタリ
モノト速断シテ此次陥ノ補充ヲ要スト云フトセバ暫定協定ヲ自ラ永久的ノモノト認ムルニ等シ次回會議ノ為ニモ茲數年間民力ノ涵養ヲ要スト述べ「大阪朝日」ハ政府反対ノ最有力ナル論拠ハ政府ガ海軍国防直接ノ責任者タル軍令部ノ意見ヲ無視セリト云フニ在ル処国民ハ軍令部ノ意見モ將又政府ガ如何ナル程度ニ之ヲ無視セルヤモ知ラズ万一御批准困難トナルコトアリトセバ國民ノ利害ニ重大關係アル條約ガ全ク國民ノ背後ニ於テ暗カラ暗ニ葬ラルノ奇怪事ヲ現出スルコトモアリ得ル訳ナリ故ニ政府反対者モ政府モ夫レ夫レノ理由トスル所ヲ國民ニ詳細ニ説明スルヲ要ス協定案承認ニ至レル經過ヲ發表シ之ガ為我方ノ犠牲ガ如何ニ大ナリシカヲ明ニスルハ倫敦ニ於ケル細目協定交渉ニ當リ我方ノ立場ニ好影響アルベシ政府ハ本協定ノ御諮詢前ナルノ故ヲ以テ議会ニ於テ答弁回避ヲナス可ラザルノミナラズ議会ヲ俟タズ一切ノ経過ヲ國民ニ發表セヨト述べタリ

レニテ正シキヤト問ヒ「フ」ハ之ヲ首肯セリ

二、次ニ駆逐艦ニ付テハ日本ノ現有保有量ハ十三万二千余
噸ニシテ新協定ノ数字ハ十万五千五百噸ナルニ付日本ハ
二万六千六百噸ノ縮減即チ年割ニシテ四千余噸ノ縮(減)

ヲ必要トスヘシ而シテ日本ノ新保有量ヲ新艦齡十六年ノ
数字ニテ割ル時ハ其ノ勢力維持ノ為年々建造スヘキ数量
トシテ六千六百噸ヲ得ヘシ從テ右数字ヨリ稍少キ数字ニ
テ新条約有効期間内ヲ償フコト然ルヘシト考ヘ小型巡洋
艦ノ場合ニ於ケルト同シク一九二〇年一月一日ヲ境界ト
シテ艦齡ヲ十二年及十六年トナシ年々二千五百噸ノ起工
ヲ以テ工業力維持ニ差支ナカルヘシト考ヘ英米側ヨリ其
ノ案ヲ提示シタルカ日本側専門家ハ年々六千噸ノ起工ヲ
主張シ英米側ハ数量過大ナリトシテ之ニ反対シ結局境界
時ヲ一年延期シテ一九二一年一月一日トシ自然五万二千
七百二十噸ヲ廢棄シ得ルコトトナシ之ヨリ日本ノ縮減ス
ヘキ噸数二万六千六百噸ヲ減シタル二万六千二十噸換言
スレハ年々五千一百噸ヲ代換シ得ルコトトセンコトヲ提
議シ種々論議ヲ重ねタル後英米側ハ豊田大佐ニ於テ之ニ
承認スル用意アルモノト了解シ居レリ

「リード」ハ駆逐艦代換ノ点ニ付テハ英米側ニ於テモ同様
ノ権利ヲ保有スヘキコトヲ申出テ日本側ニ於テ反対ナカリ
肯ンセス小巡及駆逐艦ヨリノ融通ヲ主張シ其ノ問題ノ決
定セサル以上ハ本問題ヲ考量スルコト能ハスト固持シ研
究ヲ進メ能ハサルコトトナレリト報告セリ

四、潜水艦代換ノ問題ニ付テハ日本ノ保有量七万八千噸ヨ
リ新協定案ノ数字タル五万二千七百噸ヲ減スルトキハ約
二万五千噸トナリ年割ニシテ四千噸ノ縮減ヲ見ル訳ナル
カ豊田大佐ハ五万二千七百噸ヲ考量ノ基礎トスルコトヲ
ト云フコト英米側専門家ノ見解ナリ

三、古鷹級代換ノ問題ニ付テハ可能性少ナキ問題ニシテ殆
ト之ヲ考量外ニ置キ差支ナキモノト考ヘタリ兎ニ角八時
型ノ保有噸数ヲ増加スルコトハ仮令一時ニテモ認メ難ン
シテ艦齡ヲ十二年及十六年トナシ年々二千五百噸ノ起工
ヲ以テ工業力維持ニ差支ナカルヘシト考ヘ英米側ヨリ其
ノ案ヲ提示シタルカ日本側専門家ハ年々六千噸ノ起工ヲ
主張シ英米側ハ数量過大ナリトシテ之ニ反対シ結局境界
時ヲ一年延期シテ一九二一年一月一日トシ自然五万二千
七百二十噸ヲ廢棄シ得ルコトトナシ之ヨリ日本ノ縮減ス
ヘキ噸数二万六千六百噸ヲ減シタル二万六千二十噸換言
スレハ年々五千一百噸ヲ代換シ得ルコトトセンコトヲ提
議シ種々論議ヲ重ねタル後英米側ハ豊田大佐ニ於テ之ニ
承認スル用意アルモノト了解シ居レリ

「フ」ハ之ニ對シ委員会付託事項トシテハ日本側ノ代換問
題ノミヲ攻究スヘク英米側ノ立場ニ論及スルコトハ委員会
ノ權限外ト了解セリト答ヘ
「ハンケイ」ハ付託ノ字句ニ依レハ必スシモ日本ノ代換問
題ノミニ限ルノ必要ナカルヘシト注意シ

「マ」及「リ」ハ委員会ノ議事録ヲ指摘シテ此ノ点ニ付テ
ハ日本側ノ同意アリタリト考ヘラルト述ヘタリ
財部ハ「ファイシャー」ノ説明セル日本ノ小型巡洋艦代換案
ニ付テハ大体差支ナキ積リナリ駆逐艦代換案ニ付テモ亦大
体差支ナシト思考スルモ唯今御話シノ年々割当ノ起工数量
以外一九三六年以前ニ起工シテ同年終リ迄ニ完成セサルモ
ノ多少ヲ必要トル考ナリ其ノ点ニ付テハ考量ヲ加ヘタル
上尚御相談シタン英米側代換権利ノ問題モ言及セラレタル
カ其ノ問題決定ノ際此ノ点モ決定シタント述ヘタルニ
「フ」ハ一九三〇年ヨリ三四四年ニ至ル五年間ハ年々五千二
百噸ヲ起工スヘク三四年起工ノ分ハ三六年ニ完成スヘシ而
シテ艦齡ヲ十六年トスル以上三十四年以後ニ付テハ日本ハ
充分ノ建造量ヲ有セラル筈ナリ此ノ筋合ノ案ナラハ英米
側ニ於テモ同様ノ権利ヲ留保シ同意ヲ表シ差支ナシト考ヘ
タリト言ヒ財部ハ仮ニ二十二年建造ノ艦ヲ採ランカ十六年
艦齡トシテ三十八年ニ至リ始メテ満限トナリ從テ建造ノ中
断ヲ生スルノ惧アリト述ヘタルニ「フ」ハ財部全権ハ果シテ
細カク数字ニ當リ御研究ノ上唯今ノ御申出アル儀ナリヤ否
ヤ存セサルモ自分等ノ計算ニテハ其ノ御配慮ニ及ハスト信

ス又万一御心配ノ如キ事態ヲ生スル場合ニハ建艦引延シノ
方法モアリト述ヘ「リ」ハ十六年ノ艦齡滿限カ三十七年トナ
ラハ之カ代換ハ三十五年ヨリ着手セサルヘカラス從テ建艦
中断ノ心配ナカルヘシト言ヒ財部ハ細カキ数字ニ当リ申述
ヘ居ル儀ニアラス我方専門家ニ心配アリト聞キタルニ依リ
此ノ点ニ言及セリ大シタル問題ニアラサレハ委細ハ専門家
ニ委ネタント考フルモ主義丈ハ認メ置カレタント述ヘ「マ」
ハ兎ニ角日本側専門家ハ一応英米側ノ提議ニ承諾ヲ与ヘラ
レタルモノト承知セリト述ヘ財部ハ自分ノ受ケタル日本側
専門家ノ報告ハ異レリト答ヘ「リ」ハ本問題解決ノ一案ト
シテ三十五年三十六年ニ於テモ日本ハ五千二百噸ヲ下ラサ
ル数量ノ起工ヲナスコトトシ艦齡滿限ノ關係上其ノ数量ノ
増加ハ差支ナキコトトシテハ如何ト提言シ財部ハ兎ニ角小
サキ問題ナレハ専門家ニ委ヌルコトシ唯今確答ヲ差控ヘ
タント答ヘタルカ「ス」ハ英米側ハ日本ノ御都合ヲ考慮シ
喜ンテ讓歩セントスルモノナリ今日會議モ長引キ一日ヲ争
ヒ居ル際再ヒ問題ヲ専門家ニ付託シ更ニ遷延ヲ重ヌルカ如
キコトヲナササルコト最モ必要ト思考セラルト述ヘ「フ」
ハ艦齡ヲ區別スル境界線ヲ二十一年一月一日トナスニ付日

本カ二十一年ニ竣工セル一等駆逐艦六隻及二等駆逐艦六隻約一万二千噸三十七年ニ満限トナルヲ以テ三十五年ニ起工スルコトナルヘシ却テ之ニテハ数量多キニ過ギ繰延ヘノ必要ヲ生スルヤモ知レスト述ヘ

「マ」ハ四日ノ専門家會議議事録ヲ援用シテ日本側専門家ハ既ニ本問題ニ承諾ヲ与ヘ居ルモノト思考スト云ヒ「フ」ハ四日會議ノ成行如何ニ拘ラス昨日ノ會議ニテ更ニ日本専門家ノ同意ヲ得タリト述ヘ財部ハ若槻松平ト相談ノ上承諾ノ旨ヲ確言セリ

次テ「マ」ハ残ル問題ハ潛水艦ナリヤト云ヒタルニ若槻ハ尚古鷹級亡失ノ際ノ代換問題アリ先日東京ヨリノ回訓御報告ノ際申述ヘタル通り其ノ場合ニハ八千噸又ハ八千五百噸型ニ代換スルノ権利ヲ得置キ度ク此ノ問題ハ専門委員ヨリ聞ク所ニ依レハ英米側ニテモ左迄彼此云ハサルヘシトノ趣ナルカ實際上生起セサルヤモ知レサルコトナルモ訓令ニモ明記シアリ我方ノ重キヲ置ク点ナルニ付今日決定シ置キ度シト述ヘタルニ「ファイシャー」ハ英米ノ重キヲ置クハ八時型保有量ヲ超過スヘカラサル点ニアリ然レトモ万一千鷹級ノ一隻カ全然亡失セラレタル場合再ヒ不満足ナル艦型ヲ建

訓練令モアルコトナレハ之ヲ決定セサルコトトナレハ又政府ノ意向ヲ問ハサルヘカラサルコトトナリ時日ヲ空費スル恨アリト述ヘタルニ「フ」ハ若槻全權ノ云ハレタル通り専門家會議ニ於テ非公式ニ其ノ筋ノ話アリタリト云ヒ

「マ」ハ夫ハ要スルニ保有量ニ変更ナキ限り単艦噸数ノ増加差支ナシトノ意味ニテ即チ「ファイジカル、インボンビリチー」ニ帰着スヘシト言ヒ若槻ハ然ラス保有量總噸数ニ超過スル部分丈ハ小巡ニ於テ噸数ヲ減シ調節スヘキコトハ先日モ申上ケタル通ナリト述ヘ「マ」ハ其ノ案ニハ承諾ヲ与ヘ能ハサルコトヲ遺憾トスト答ヘ「ス」ハ實ハ本問題ニハ二ノ異ナレル問題含マレ居レリ巡洋艦ヲ一万噸トスルコトハ既ニ認メラレ居ルコトニシテ本来問題トスヘキモノニ非ス若槻全權ノ謂ハルル所ハ古鷹級亡失ノ際之ヲ八千五百噸ニ代換セントスルニアリテ勿論保有総量ノ増加ヲ見ルニ至ルヘシ難問ハ此ノ点ニ存ス之ニ関シ條約ノ明記ヲナスハ承諾シ能ハサルモ万ノ場合ニ於テハ日本ハ関係国ニ申出テヲナシ我々ハ之ニ対シ好意的考量ヲ加フルニ咨ナルモノニ非スト述ヘ「フ」ハ全ク其ノ通ナリト言ヒ「マ」ハ之ニ同情的考慮ヲ加フヘキハ勿論ナルモ八時型ニ関スル條約ノ規定ヲ動カス如キ個々ノ規定ヲ條約中ニ包含セシムルコト能ハ

造スルコトヲ欲セラレサルハ英米側モ諒トスル処ナリ萬一ノ場合ニ立至リ考量ヲ加フルコトトシテ未タ逞カラサルヘシト云ヒ「リード」ハ本件ニ付御希望ヲ其ノ儘容レ難キ重要ナル理由ノ一ハ実ハ日本ト無関係ナル方面ニアリ日本ニ對シテ充分御希望ニ副ヒ度キ心組ナルモ若シ本件ヲ一般原則ノ問題トシテ條約ニ明記スル時ハ茲ニ明言スルコトヲ憚ルモ某国ヨリ右原則ノ延長ヲ申出テ難問ヲ生スルノ虞アリ本問題ハ疾ク今日決定シ置ク必要ナカルヘシト云ヒ「マ」ハ「リ」ノ云ハレタルカ如キ精神ニ於テ同意ヲ表スヘシト述ヘ若槻ハ日本側専門家ノ報告ニ依レハ専門家委員会ニ於テハ八千噸型ニ代換スルコトハ差支無ク場合ニ依リテハ一万噸ト為スモ然ルヘシ唯十万八千四百噸ノ保有量ヲ超過セサルコトヲ必要トストノコトニテ右報告ハ誤リ無シト考ヘ居レリ之等ノ点ニ話ノ齟齬アリテハ甚タ困却セサルヲ得ス自分ハ八千噸乃至八千五百噸型ニ代換シ得ルコトシテ話ヲ纏メ置キ度シト考ヘ條約ニ明記スルニ如クハ無キモ已ムヲ得サレハ記録ニ残スコトシテ万一ノ場合生シタル時ハ日本ノ理由アル要求ニ対シ英米側ニ於テ善(意)ヲ以テ之ニ考量ヲ加フルコトニ決定シ置キ度シ本件ハ前述ノ通政府ノ

ハ充分和衷ノ精神ヲ以テ之ニ応スヘク米国政府ノ関スル限り同情的考量ヲ加フヘキコトヲ確信スト述ヘ若槻ハ英米側ノ好意ヲ謝シ然ラハ「ハンケー」氏ノ作リ居ラル議事録(此ノ種會議ニ於テ「ハンケー」ハ議事録ヲ作成シ居ルモ右ハ英國側ノミノ心覚ニシテ配布シ居ラス)中本日本件ニ関スル部分ヲ配布セラルルコト致度シト述ヘ「ス」ハ夫レニテ差支ヘナク三国政府間ノ機密文書トシテ保存シ然ルヘシト答ヘ「マ」モ之ニ同意ヲ表シ若槻ハ政府訓令ニハ条約ニ明記スルコトヲ要求シ居ルモ事ヲ纏メンカ為右案ニ決定スルコトトシ其ノ旨政府ニ報告シ政府ヲシテ之ニ決定セシムル事ニ最善ヲ尽スヘシト述ヘタリ御承認ヲ請フ尚「マ」ハ條約中ニハ右ノ点トハ別問題ナルモ船カ全ク亡失シタル場合ニハ之ヲ代換スヘキコトノ原則ヲ規定シタント提言シ若槻ハ右ハ當然ノコトニシテ余ハ之ヲ前提トシテ余ノ発議ヲナシタリト言ヒ「ス」ハ右ハ華府條約ニテ既ニ認メラレタルコトニシテ本條約ニモ其ノ趣旨ノ規定ヲ置クコト然ルヘシト言ヒ「マ」ハ再ヒ日本ノ古鷹級亡失ノ際友好的同情的考量ヲ加フヘキハ勿論ナルモ八時型ニ関スル條約ノ規定ヲ動カス如キ個々ノ規定ヲ條約中ニ包含セシムルコト能ハ

ス其ノ点ハ吾人ノ間ノ諒解ニ止メ一般的代換ノ原則丈ヲ約ニ明記スルコト致度シト述ヘタリ明九日午後二時半再ヒ会合シ潜水艦ノ問題ヲ討議スルコトトナレリ

米へ転電シ仏伊ニ暗送セリ

476 昭和5年4月9日 帽原外務大臣より
ロンドン軍縮会議全權宛(電報)

条約の有効期間及び留保条項に関する規定挿入に關し回訓について

本省 4月9日後7時発

貴電第二五七号ニ関シ

第一二九号

(一)御来示ノ趣旨ノ条項ヲ条約中ニ插入スル案ニテ話合ヲ纏メラレ度ク案文ハ原文ニテ電報アリ度シ
(二)右条項ヲ条約中ニ插入ノ場合ニ於テモ将来誤解ナキ様公開ノ席上我方ニ於テ日英米妥協案ヲ受諾シタルハ往電第一一二号(二)ノ通該案カ千九百三十六年迄ノ短期間ノ事態ヲ律スルニ止マリ爾後各国ノ保有スヘキ兵力量殊ニ八吋砲巡洋艦ノ保有量ハ千九百三十五年ノ會議ニ於テ自由ノ立場ニテ協定スヘキモノナルニ依ル次第ヲ述ヘ本件条項

477 昭和5年4月10日 ロンドン軍縮会議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
日英米全權會議における潜水艦保有量などを
めぐる討議について

ロンドン 4月10日後発
本省 4月11日前着

九日午後「セントゼイムス」宮三國全權會議開催出席者昨日ニ同シ
一、「マクドナルド」ハ本日ハ潜水艦融通問題ヲ討議スル旨ナルニ付日本ノ利害ニ付日本側ノ意見ヲ聞キ度シト宣シ

若機ハ日本ノ工業力維持ノ問題ニ付テハ英米両国側ヨリ懇切ナル考察ヲ加ヘラレ喜フ処ナリ其ノ中潜水艦ノ問題ハ先日モ申上ケタル通り融通ノ方法ニ依リテ解決スルコト日本政府ノ最モ望ム処ニシテ英米両国ノ好意的諒解ヲ求ムヘキ旨訓令ヲ受ケ居リ充分御考置キ願ヒタル次第ナルカ専門家ノ會議ニ於テ英米側ハ本件ニ同情アル考量ヲ加ヘラレタル趣我専門家ヨリ報告ヲ受ケタリ妥協案ニ協

ヲ設クルニ至リタル經緯ヲ明ニシ之ヲ議事録ニ止メ置カル様致シ度ク本件声明ノ案文モ事前ニ電報シ當方ノ承認ヲ求メラレ度シ

(三)貴電第二四八号(ハ)ノ如ク英米側ニテ「オブショーン」ヲ保持スル場合ニハ右声明中ニ補助艦總括七割ノ問題ヲモ含マシムル趣旨ノ辞句ヲ加フルコトニ取計ハレ度シ

(四)貴電ノ声明案文ハ「国防ニ闕スル從來ノ主張ヲ变更シタルモノニ非ス」ト言明スル点ニ於テ他国ノ反対声明ヲ誘発スル余地アリト考ヘラルル処元來本件声明ハ我方単獨ニ自己ノ立場ヲ闡明シ英米ヲシテ道義的ニ之ヲ承認セシメムトスルモノニシテ他国ニ於テ反対声明ヲ為シニ対抗スルニ於テハ其ノ価値ヲ失フヘキカ故ニ此ノ点ニ付テハ予メ英米側ト充分ナル了解ヲ遂ケ置カレ度シ往電第一一二号(三)「日本カ妥協案ニ同意ヲ表示スルハ予メ千九百三十五年ノ會議ニ於ケル我国ノ主張又ハ立場ヲ何等拘束スルモノニ非ス」トノ「フォーミュラ」ヲ案出シタルハ英米側ヲシテ之ニ対抗スル声明ヲ行フ余地ナカラシメムトスル趣旨ニ出テタルモノナリ

米へ転電シ仏伊へ暗送アリ度シ

定セラレタル我保有量少量ニ過キ我國防ノ任ニ當レル当局ノ失望スル処トナリハ強テ此処ニ繰返ヘサナルモ何トカシテ當局ヲ安心セシムルノ方法ヲ講シ度夫レニハ融通ニ依ルコト最妥當ニシテ依テ以テ一面幾分ノ安心ヲ増シ他面工業能力ヲ維持シ得ヘシ幸ニシテ英米専門家モ我事情ヲ諒解セラレ融通ヲ以テ補フコトスルカ如キ案ヲ考量セントスルノ態度ヲ示サレタルハ甚タ多トスル処ナリ就テハ重ネテ此ノ点ニ関シ充分考量ヲ煩ハシ度同僚財部全權ヨリモ御話アル筈ニ付良ク御聽取アリタシト言ヒ財部ハ余モ全權ノ一員トシテ今日兎ニ角此処迄ニ立至レル所謂妥協案ノ完全ニ成立センコトヲ切望スルモノニシテ其ノ一念ヨリ此処ニ英米両国ノ全權各位ニ対シ考ヲ申述ヘ充分ノ御考量ヲ願ヒタシ少シク諄クナルノ虞アレト潜水艦ニ付テハ日本ノ最初ノ要求ハ七万八千噸ニシテ此ノ數量ハ全ク自衛上ノ見地ヨリ割出シ日本海軍側ニテ深キ信念ヲ有スル処ナリ故ニ曩ニ所謂妥協案ノ數字ニ接シタル時日本海軍軍人ノ驚愕ノ程度ハ各位ノ御想像ノ及ハサル所ト確信ス東京政府ヨリノ回訓遅レタルモ此ノ際潜水艦ノ問題カ原因ノ主ナルモノノ一トナリタリト考フ政

府ノ回訓ノ留保トシテハ工業力維持ヲ主要目的トシテ掲ケラレ居ルモ其ノ裏面ニ數量ノ過少ニ対スル不平不満ノ念ノ伏在セルコトノ真相ナリ併シ斯カル間ニモ彼等カ一縷ノ望ラ繫キタル点アリソハ曩ニ英米両国各位カ日本ノ立場ヲ充分ニ諒解シ総括的七割ニ同意セラレタルニ付テハ此ノ七割ノ保有量ノ範囲内ニ於テ国防上最モ痛切ニ必要ヲ感スル部分ニ対シ多少ノ融通ヲナスコトモ亦必スヤ各位ノ御諒解ヲ得ヘシト云フコト即チ是ナリ各国ノ潜水艦保有量ニ付テハ「ゼネバ」會議以来歴史アリ最近ニ至リテハ仏國ニ対シ六万六千噸保有方ヲ提議シタルコトアレ趣新聞等ニテ承知セリ之等ノ事實ニ依リテ一層日本ノ海軍側ハ前述ノ如ク何トカ方法ヲ見出シ得ヘシト云フ望ミヲ深カラシメ居ル次第ナリ融通又ハ「オプション」等何等カノ方法ニシテ彼等ハ或程度ノ安心ヲ得ヘシト一途ニ思ヒ込ミニ居レリ斯カル実情ナルヲ以テ万ニモ此ノコトノ実現ヲ見サルニ於テハ我海軍側ノ失望又ハ公憤ハナルヘク其ノ点ニ付余ハ強ク心ヲ痛メ居ルモノナリ願クハ之等ノ事情ヲ掬ミ取ラレ友好的考慮ヲ加ヘラレンコト切望ニ堪ヘスト述ヘタリ

「マ」ハ先第一ニ申上ケ度ハ専門家カ潛水艦ニ対スル融通ニ付申述ヘタル所ニ重大ナル誤解アルコトヲ指セサルヘカラス現ニ自分カ昨夏渡米セントスルニ当リ種々準備ヲ整ヘタルカ其ノ時夙ニ我専門家ハ潛水艦ニ融通ヲ認ムルハ全体ノ案ヲ打壊スルモノニシテ到底之ヲ支持スル能ハスト主張シ自分ノ知ル限ニ於テハ他艦種ニ於テハ兎ニ角潛水艦ニ付テハ到底融通ヲ認メ難キコト終始一貫セル立場ナリ此ノ点ニ関スル不正確ノ報道流布セラルルコトハ是非共之ヲ差止ムルコト最モ肝要ナリ翻ツテ若規、財部両全權カ常ニ最モ懇切ナル態度ヲ持セラレタルニ対シ不公正ノ態度ヲ持セラレサランコトヲ切望ス英國ハ現ニ総括的七割ニ於テ讓歩シ古鷹代艦問題ニ付充分好意的考量ヲ約セリ吾人ハ友誼的精神ヲ以テ相対シ懸引ヲ事トスルモノニ非ス我モ和衷ノ精神ヲ發揮シタル以上貴方モ潛水艦問題ニ付我カ因難ヲ諒トセラレ度シ貴方ノ要求ハ事実上案ノ構成ヲ覆ヘスモノニシテ受諾ノ不可能ナルヲ悲ム日本側全權特ニ財部全權ハ今日迄種々難キヲ忍ヒテ協定成立ニ努力セラレ実ニ感佩ノ外ナシ冀クハ本件ニ

付テモ御諒承ヲ願ヒ度シ財部全權ニシテ我海軍大臣タラハ必スヤ最モ強硬ニ本件ニ反対セラルヘキコトト思考ス英國カ本件ニ閑シ日本ニ対シテ執リ居ル態度ハ仏國ニ対シテモ其ノ執ラントスル処ニシテ潛水艦ノ融通ハ何国ニ対シテモ我カ同意シ能ハサル処ナリト答ヘタリ

財部ハ茲ニ於テ融通ハ一定ノ率ヲ定メテ之ヲ行フニ於テハ左程總テノモノヲ覆ヘスコトトナルヘシトハ考ヘサルモ徒ニ論議ヲ重ネントスルモノニ非サルニ付之ヲ縷説セサルヘシ吾人ノ希望スル処ハ融通ニ限ラサルモ唯融通カ最モ他ニ支障ヲ起ササル方式ナリト考ヘタルニ外ナラス要点ハ幾分我潛水艦保有量ヲ増加シテ相当安心ヲ加フルニアルヲ以テ幸ニ出来得レハ日英米三国何レモ其ノ潛水艦保有量ヲ増加スルノ方法ニ依リテ此ノ問題ヲ解決スルコト一案ナリ此ノ点ニ付好意的御考量ヲ煩ハシ度シト述ヘタルニ

「マ」ハ之ニ対スル「スチムソン」ノ意見ヲ求メ「ス」

ハ米国側ハ之ニ強キ反対ヲ感セサルヲ得ス潛水艦カ非人道的武器トシテ又諸国間ノ問題ヲ紛糾セシムモノトシテ其ノ数量ヲ出來得ル丈ヶ少カラシメントスルハ大統領

ノ意見ナリト言ヒ「リ」ハ米カ日本トノ均勢ヲ承諾スルニ至リタルハ全ク其ノ数量ノ適當ニ低率ナルニ依ルモノナリ而シテ右均勢ヲ實現スルカ為ニハ米ハ最モ多量ノ廢棄ヲ甘受スルモノナレハ只今御申出ノ如キ案ハ米国ヲ困惑セシムルモノナリト述ヘ

「ス」ハ重ネテ大統領ハ軍事的見地ヨリモ寧ロ人道的見地ヨリ潛水艦ノ増量ニ対シ強キ反対ヲ有スルモノナリト言ヒ「マ」ハ一言申添ヘ度コトアリ即チ英國側ハ既ニ一度貴方ニ讓歩セリ始メ日本ノ保有量ヲ四万噸ト計上シタルニ貴方ノ苦衷ヲ察シテ五万二千噸ニ増量セリ再ヒ讓歩スルハ甚タ難シタル所ナリ尚潛水艦ハ甚タ不幸ナル武器ニシテ其ノ量ヲ増スニ伴ヒ駆逐艦ノ増量ヲ誘致ス潛水艦一万噸ニ対抗スル為駆逐艦三万噸ヲ必要トスルヲ以テ潛水艦一噸ノ増ハ直ニ補助艦總噸数四噸ノ増量ヲ招クニ至ルヘシ之此ノ艦種ノ噸数ヲ動カスヘカラサルコトヲ力説スル所以ナリト述ヘタリ

若規ハ首相ノ御話ノ中ニ相互ニ信ヲ置キ友好的態度ヲ以テ事ニ當ルノ必要ヲ説カレタルヲ聞キタルカ自分等ハ当初ヨリ其ノ考ヲ以テ御話ヲ進メ居レリ財部全權モ余モ今

日全ク友好的精神ヲ以テ申出ヲナシ居ルモノニシテ決シ

テ懸引ヲ試ミ居ラサルコトハ御諒解願度シ次ニ四万噸ヲ

出発点トシタルコト及潛水艦及駆逐艦ノ相互関係ニ付テ

ハ余ハ別ニ意見ヲ有スルモ今ハ討論ノ時ニ非サルヲ以テ

只日本ノ誠意精神ヲ披瀝シ日本ノ困難トスル所ヲ申述ヘ

テ御考量ヲ願フ次第ナリト言ヒ

「マ」ハ誠ニ吾人ハ懸引ヲナシ居ルモノニアラス実ハ英

国トシテハ五万二千噸以上一噸ヲモ欲スルコトナシ

(「ス」ハ喙ヲ挾ミ米國ハ全廢ヲ主張シ潛水艦ヲ一噸ヲモ

保有セムト欲セスト言ヒ「マ」ハ英國モ其ノ通ナリト応

セリ)英國ハ全廢ヲ最モ重點トスルモ潛水艦ヲ有スル以

上ハ意味アル最モ少キ数量ヲ保有セムトスルモノニシテ

専門家ノ意見ニテハ四万噸以下ニテハ保有ノ甲斐ナシト

ノコトナルニ付之ヲ基準トスルモノナリ然レトモ日本側

ノ立場ニ同情シ五万二千噸ノ数字ニ到達セルコト從来ノ

成行ナリ之以上ニ增量スルコトハ肯スルコト能ハス然レ

トモ工業能力維持ノ点ハ喜ムテ御相談スヘシ唯専門家委

員会ニテハ融通ノ問題ヲ考量スルニ由ナシトテ停頓ノ状

態ニアルモ我々ハ僚友ニシテ此ノ点ヲ考量シ得サルヘキ

カト申出テ

若槻ハ潛水艦ニ付テハ工業能力維持ノ為ニハ融通ノ問題

認メラルルトスルモ尚代換ノ問題ヲ御相談スルコトヲ要

ス而シテ首相ノ言及セラレタル四万噸ノ点ニ付テハ決シ

テ議論ヲ構フルモノニハ非サルモ率直ニ言ハムカ英米六

万噸均勢日本五万二千噸ナル提案アリタルコトモアリ夫

レ故ニ日本海軍側ニハ六万噸丈ハ御相談スレハ之ヲ得ウ

ルモノト考ヘ居ルモノアリ旁々何トカ左様御相談ノ余地

ナキヤト尋ネ

「ス」ハ若槻全權カ潛水艦ニ関シテ日本國民ニ於テ危惧

不安ノ念ヲ抱カルル様述ヘラレタルコトアルモ之ハ米國

ノ立場ニ幾分ノ誤解アラムカト思考ス歐州大戰ノ際潛水

艦ノ実功ヲ挙ケタルハ僅ニ食料其ノ他供給ヲ妨クルニ止

レリ米國ハ其ノ國柄上斯カル危險ナキモ日本ハ島國トシ

テ海外ヨリノ供給ニ俟タサルヘカラサルコト多ク從テ此

ノ点ニ閑スル日本ノ不安ヲ除カンカ為ニ商船攻撃ヲ禁止

スル方法ハ充分之ヲ講シ又我潛水艦保有量モ低率ニ止

メ日本ト均勢ヲ保ツコトセリ此ノ如ク日本ニ対シ充

分同情的立場ヲ採ラントスルト同時ニ潛水艦ノ数量ヲ少

シク日本側ノ困難ヲ緩和スルニ咨ナルモノニ非スト言ヒ

セルカ今數字ヲ査スルニ日本ハ一九三四年五年六年ニ

亘リ日本ハ當然一万八千噸ノ代換起工ヲナシ得ルニ付右

噸數ヲ六年間ニ引キ延ハシ年々三千噸ヲ建造セラルルコ

トニハ異議ナシ吾人ハ巡洋艦駆逐艦ノ場合ニ於ケルト同

シク日本側ノ困難ヲ緩和スルニ咨ナルモノニ非スト言ヒ

「マ」モ余モ同様ノコトヲ考ヘ居タリ又先程若槻全權カ

英米側ニテ六万噸ヲ提唱シタル事アル様述ヘラレタルカ

右ハ寿府會議當時問題ノ悪化シテ混沌タリソシ時代ノコト

ナリシト思考スト言ヒ掛ケタルカ若槻ハ之等ノコトハオ

互ニ能ク承知シ居リ只今ハ討論ヲナス時ニ非スト之ヲ遡

リ「マ」ハ笑ツテ先程ノオ話ニ索カレテ遂一言シタリト

述ヘ

次テ若槻ハ只今「リード」全權カ代艦ノコトニ付同情的オ話アリタルニ対シテ余ハ謝意ヲ表スルモ実ハ素人ニテ

ニテ三国協定ヲ目標トシ居ルモノト諒解シ居ルモハ仏伊ヲ加ヘテ五國協定成立スルヤモ知レス其ノ際仏伊ノ潛

水艦保有量カ大ナル時ハ自然日本側ノ感情刺激セラル
ルコトナルヘシ其ノ際ハ其ノ際トシテ再考ヲ要スヘシ
ト述ヘタルニ「マ」ハ万一仏伊側ニ対ン潜水艦噸数ヲ高
率ニスルノ已ムヲ得サルニ至ラハ本問題ハ總テ再考ニ付
セサルヘカラス英米ノ噸数増加セハ日本ノ噸数モ之ニ伴
ヒ增加スヘキコトハ英國側ノ閑スル限り之ヲ明言スヘシ
乍併仏伊側ノ噸数増加ニハ能フ限り抵抗スル積リナリト
言ヒ暫時雑談ノ後「マ」ハ再ヒ如何ナル場合ニモ仏國側
ニ対シ潜水艦ノ融通ハ之ヲ認ムルコトナシ又其ノ保有量
五万二千噸ヲ超ユルコト余リニ大ニシテ脅威ヲ感シ協定
案ノ根柢ヲ覆ヘス如キ場合ニハ當然問題ノ再考ヲ必要ト
スト言ヒ若楳ハ斯ル場合ニハ新事態ヲ生シ何レノ国モ自
由ニ其ノ意見ヲ開陳スルコトセサルヘカラス唯今ハ三
國共事情ヲ尽シテ意見ヲ交換シタルカ如何ニ力説スルモ
英米カ極力之ニ反対セラル以上潜水艦ノ融通ハ出来サ
ルモノトシテ話ヲ進ムルノ外無キヲ以テ茲ニハ之以上主
張スルコトヲ為ササルモ融通ノ問題ハ現ニ第一委員会ニ
於テ講究中ナルニ付之ヲ輕巡及駆逐艦ノ間ニノミ止ムル
カ或ハ潜水艦ニモ及ホスヘキカ其ノ席上ニ於テ日本ハ自

由ニ其ノ主義上ノ見解ヲ述ヘムト欲ス勿論之ニ對シ反対
ノ意見ヲ述ヘラルコトモ自由ナルヘン三国丈ノ協定ト
シテハ代換ノ方法ニ依ルノ外無ク我同意ハ其ノ意味ニ諒
解セラレ度シト述ヘ「ス」ハ米国ハ如何ナル場合ニモ日
本ヨリ多量ノ潜水艦ヲ所有セムト欲セス從テ何等カノ理
由ニ依リ之ヲ增量スルノ已ムヲ得サル場合ニハ日本モ之
ヲ自働的ニ增量セラルニ異議無シト述ヘ

若楳ハ工業能力維持ノ為代換ノ件ハ我々ノ間ニテ相談ス
ヘキカ又ハ専門家ニ委託スヘキカ実ハ日本側専門家ハ別
室ニ來リ居ルニ付必要ナラハ直ニ専門家間ニ話合ヲ為サ
シムルモ然ルヘシト述ヘタルカ「リ」ハ専門家ニ委ヌル
迄モナク一万六千噸ヲ年割リニ振当ツルコトニハ異存ナ
シト言ヒ若楳ハ財部ト数字ニ當リ相談ノ結果正確ニ言ヘ
ハ一万六千二百七十七噸ナルモ端数ハ強テ主張スル処ニ
アラスト補足シ「リ」ハ夫ニテ差支無シト言ヒ「マ」ハ
細カキ数字ハ何レニテモ可ナリ一万六千噸代換ノ原則ニ
同意スヘシ専門家ラシテ適宜ニ年割リ噸数ヲ定メシメ
然ルヘシト述ヘ財部ハ右一万六千噸ノ外僅少ノ自然代換
噸数アルコトヲ申添ヘ置キ度シト言ヒ「リ」「フ」ハ各

国計算方法ノ異ナル関係上僅少噸数ノ自然代換アルコト
ハ承知シ居レリト答ヘタリ

二、若楳ハ昨日協定ノ小巡及駆逐艦代換ノ数字ヲ明記シタ
ル書付ヲ提出シ其ノ確認ヲ求メタルニ大体其ノ儘ニテ宜
シキモ尚英米側ニテ検討ノ上確認スヘキ旨ヲ約セリ

三、「リ」ハ曩ニ専門家會議ニ於テ日本カ岩手、出雲、浅
間、春日ノ五隻ヲ練習用トシテ維持スルコトヲ認メタル
カ之ニ加フルニ日英米三国ハ更ニ米戦艦二隻英戦艦一隻
日戦艦一隻球磨級小巡五隻及駆逐艦六隻ノ保有ヲ提議シ
居レリ米ハ其ノ後考慮ノ結果斯ノ如キハ軍縮ノ精神ニ反
スルモノトシテ其ノ要求ヲ放棄スルニ決セリ既ニ決定セ
ル日本ノ旧巡五隻保有ハ之ヲ認ムルモ其ノ代換ハ認メ難
ク又其ノ他ノ国ハ一切旧艦保有ヲ為ササルコトト致度シ
ト述く「マ」ハ英ノ主張スル処ハ練習用ニアラスシテ
gunnery trial 用トシテ承知セリト言ヒ「フィッシュヤ

ー」ハ gunnery firing ship ヲ必要トスル処其ノ使用ニ

堪ヘサルニ至リタル場合代換ヲ必要トスヘク中間ノモノ
トシテ gunnery trial ship ヲ保有スルコト最經濟的ナリ
然ラサレハ現役ノ船ヲ艦隊中ヨリ融通セサルヘカラサル

四、「マ」ヨリ今日迄決定セル事項ヲ整理スルコト及条約
案起草ニ取り掛ル必要アリ其ノ目的ニテ三國委員会ヲ設
クルコト必要ナルヘシトノ「ハンケイ」ノ提言ヲ披瀝シ
其ノ通決定英國「クレーギー」、「ブレイル」米国「メリ
ナ」、「トレイン」大佐日本左近司、斎藤ヲ指名セリ（此
ノ時「マ」退席）

ヲ為ササル条件ニテ之ヲ認メタルモノニシテ當分ノ中之ニテ間ニ合ハセ其ノ間ニ艦艤内ノ船ニテ都合付ク様準備

ヲ整ヘラレ然ルヘキカト考フルモノナリ「若」ハ日本ニテ保有セントスル五隻ハ三十年ニモ及フ旧艦ニシテ両三年後ニハ役ニ立タヌコトナルヘク從テ最近廃棄スヘキ

モノノ中ヨリ之ニ換ルモノヲ得タシトノ希望ナルカ本問題ハ現ニ五国委員会ニ上提セラレ居ルヲ以テ我三国ニテ

ハ定メ兼ヌル次第ナリト述ヘタルニ「ア」ハ専門家之ヲ決定シ兼ネ全權ニ回付シタル問題ナルニ付三国カ政府會議ニテ決定スルコト致シタント述ヘ兎ニ角明日ノ會議ニテ更ニ本件ヲ考究スルコトトナレリ

次会合ハ十日午前十時半開催ノコトニ決ス

米ヘ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

478

昭和5年4月11日

ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛(電報)

日英米全權會議における潛水艦代換、練習艦

代換及び條約骨組案に関する討議について

別電一 四月十一日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第二七〇号

「スチムソン」ハ結局五万二千七百噸ノ保有量ニ影響ヲ來ササル範囲内ナラハ何トカ考ヘタント述ヘ財部ヨリ表ニ付説明ヲ加ヘ「リ」ハ米國側ニテハ潛水艦ノ建造ニ三年ヲ要スルモノト考ヘ居タルカ日本側ニテハ之ニ四年ヲ振当テラルルコトヲ初メテ承知セリト肯キ英米側ニテ暫ク内談ノ結果「マ」ヨリ保有量ニ累ヲ及ホササルヲ条件トシテ諒解スヘク細目ハ専門家ヲシテ決定セシムヘシト同意ヲ表明セリ

一、「マ」ハ旧艦保有問題ニ移リ度シト宣シ若規ハ浅間、出雲等ノ旧艦五隻ハ既ニ御認諾ヲ得タル所ナルモ既ニ申上ケタル如ク何レモ老齡ニシテ両三年中ニハ正ニ不用ニ帰セントス然ルニ日本ハ特異ノ事情ヲ有シ候補生ノ訓練ハ單ニ大砲水雷等ノ操縦ニ止マラス歐米ノ事情ヲ見学セシムル必要アリ言語風俗ヲ異ニスル遠隔ノ國ナルヲ以テ遠洋航海ニ依リ歐米ノ空氣ニ触レ其ノ風習ニ馴染ムノ機会ヲ与ヘ歐米ノ海軍士官ト相伍スルノ素養ヲ収メルノ必要アリ之力為ニハ両三年中ニ之等老朽艦ノ命脈尽キタル後何等カノ補給ヲ考ヘサルヘカラサル立場ニアリ就テハ今回廢棄スルコトナリタル小巡ノ武装ヲ減シ例ヘハ大差

二 四月十一日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第二七二号

ロンドン 4月11日前發 軽巡洋艦及び駆逐艦の代換について

本省 4月11日後着

第二六九号

十日午前「セントゼイムス」宮日英米全權會議開催出席者前回ニ同シ

一、若規ハ潛水艦滿限前代換ノ問題ニ付テハ好意アル御考量ヲ得昨日ノ我提案ニ同意セラレタルハ多トスル所ナリ

然ルニ余ハ専門的知識無キ為其ノ節申上ケタル数字ノ説明不完全ニシテ我方専門家ノ注意ヲ受ケタリ即チ一万六千噸ト云フハ一九三六年迄ニ竣工スルモノ及工程ニアルモノヲ加ヘタル建造総量ニシテ三六年以前起工スルモノ

トシテ計算スレハ一万九千噸トナル勘定ナリ其ノ意味ニ於テ昨日ノ決定ヲ確認セラル様希望スト述ヘ「リード」ハ自分等ハ大体日本側ニ於テ年々一隻ヲ建造スルモノトシテ計算ヲ立テ居タルニ(財部全權ノ示シタル製艦計畫表ヲ見乍ラ)日本案ハ毎年四隻ヲ起工セントスルモノノ如シ余リニ建造率高キニ過キスマヤト注意シ「マクド」及

砲七門アルヲ四門ト為シ又速力ヲ減スル為ニ「ボイラー」数ヲ半減シ水雷発射管ヲ撤去シ飛行機装置ヲ取除ク等戦闘力ヲ失ハシムルノ方法ヲ講シテ代換スルコトヲ認メラレ度シ尚武装解除ノ点ニ付テハ財部全權ヨリ申述ヘラルヘシト言ヒ財部ハ換言スレハ恰モ制限外艦船ト同様ノ武装艦装ヲ有スルモノトナサンコトヲ提議スルモノナリ新ニ制限外艦船トシテ建造シ得ヘキモ偶々廃棄スヘキ軍艦アルヲ以テ之ヲ充当スルコト經濟上ヨリ見テモ利益多シ是非共御承認ヲ得度キ点ナリト希望シ「リ」ハ唯今御話ノ如キ用途ニ當ツルモノトセハ何故ニ五隻ノ多数ヲ必要トセラルヤト尋ね財部ハ何レモ古キ船ナルヲ以テ年々遠洋航海ニ使用スルカ為ニハ半数ハ常ニ修理ノ必要アリ五隻ヲ必要トスル所以ナリト答ヘ「リ」ハ出雲等ニ付テハ誠ニ其ノ通リナルヘキモ若シ球磨級ヲ使用セラル場合ニハ比較的新艦ナルヲ以テ五隻ノ必要ナカルヘシト述ヘ「財」ハ艦齡ヨリ觀レハ貴説御尤ナルモ實際ハ大差ナキコトト思考ス磐手浅間等ハ三五年ノ老艦ナレトモ何レモ装甲巡洋艦ニシテ堅牢ニ建造セラレ居レリ之ニ反シ球磨級以下ハ速力ニ重キヲ置キタルカ為纖弱ノ構造ナル

カ故ニ修理ヲ要スル点ニ於テ却テ老朽艦ニ勝ルヤモ知レ
ス之等ノ点ハ貴方専門家ニ於テ充分御諒解ノコトト信ス
加之頓数ニ於テ一方ハ一万噸ニ近ク他方ハ四五千噸ニ足
ラス曩ニハ二百人ノ候補生ヲ一隻ニテ収容シ得タルモ將
来ハ之ニ三隻四隻ヲ要スルコトナルヘシト説明シ「リ
ード」カ武装解除ノ点ニ付質問ヲ發シタルニ対シ「フイ
ッシャー」ハ唯日本側ノ云ハルカ如キ武装解除ハ実
ハ一時的性質ヲ有シ其ノ戦闘力ヲ恢復スルコト難カラス
ト述ヘ「リ」ハ球磨級ハ barbette ナリヤ turret ヲ有ス
ルヤト尋ネ「財」ハ露砲艦ナリト答ヘタル後大砲ハ五時
半ノ軽砲ナレハ一旦取除キテモ再ヒ之ヲ搭載スルコトヲ
得ヘキカトモ考ヘラルモ釜ハ一旦取外シタル以上恢復
スルコトハ容易ニ非ス制限外艦船ノ性質ヲ賦与スルコト
トナルヘシト述ヘ「リ」ハ本件ニ関スル實際ノ難点ハ實
ハ日本カ之等ノ數艦ヲ保有スルヤ否ヤノ問題ニ非シテ
寧ロ主義トシテ此ノ種廢棄艦ノ保有ヲ認メ初ムルトキハ
先例ヲ作り他國ヲシテ溢リニ同様ノ要求ヲナサシムルニ
至ランコトヲ恐ルニアリ米国カ戰艦二隻保留ノ主張ヲ
捨テタルモ全ク其ノ慮リニ出テタリ日本ノ必要ヲ考量ス

ルニ各ナルニ非サルモ之ヲ口実トシテ軍縮ノ精神ヲ没却
スルカ如キ要求ノ出テ來ランコトヲ憂ヒテオ互ニ此ノ種
ノ要求ヲナササルコトヲ希望スルモノナリ加之之等旧艦
ノ維持モ新艦ノ維持ト大差ナキ費用ヲ要スルモノナルコ
トヲ忘ルヘカラスト述ヘ若観ハ戰艦廢棄ノ議出テタル際
之ヲ他ノ用途ニ充テントスルノ案英米側ヨリ出テタルヲ
以テ日本モ亦之ヲ利用シタシトノ要求ヲナシタル趣専門
家ヨリ報告ヲ受ケタルカ英米側ニテ其ノ要求ヲ撤回スル
以上日本モ之ヲ撤回スルニ異存ナキハ勿論ナリ唯曩ニモ
述ヘタル通り我海軍士官カ英米同僚ト相伍スルノ修養ヲ
得ンカ為而シテ我軍艦カ外国ニ赴キ種々外国人ト接触ヲ
必要トスル際徒ニ誤解ヲ生シ不祥事ヲ招カサラシムカ為特
殊ノ訓練ヲ与フル必要上本件要求ヲナスモノニシテ從テ
他ニ惡例ヲ貽スカ如キコトナシト信スト言ヒタルニ「リ」
ハ「スチムソン」「マクドナルド」「ファイッシュヤー」等ト
相談ノ上日本ノ御要求ニ応センカ為茲ニ一案ヲ得タリ即
チ日英米各国トモ専門家ノ決定スヘキ程度ニ武装ヲ解除
セル戰艦一隻ヲ gunnery practice 用トシテ保有シ日本
ハ其ノ以外ニ先程日本側ノ御話ノ通砲ヲ四門トシ釜ヲ半

減スル等充分武装ヲ解除シタル上球磨級三隻ヲ保有スル
コトトシテ老朽艦五隻ニ代フルコトシテハ如何尚三国
何レモ将来決シテ之等ノ船ヲ戦闘ニ使用セサルヘキ確約
ヲナシ置クコトヲ必要トスヘシト提議セリ此ノ時財部ハ
日本ハ僅少ノ廢棄駆逐艦ヲ保有セシコトヲ要求シ居レル
カ之ニ考量ヲ加ヘラレタリヤト尋ネ「リ」ハ駆逐艦ハ何レ
モ多量ヲ保有シ居レルニ付其ノ必要ナシト考フト答ヘ財
部ハ御反対ナルニ於テハ已ムヲ得スト考フルモ制限外艦
船ト等シキ程度ニ武装ヲ解除スルコトナレハ我駆逐艦ニ
関スル要求ノ半数即チ三隻ヲ認メラレサルヘキヤト尋ネ
「リ」ハ米国ニテハ沿岸巡邏ノ為日本カ練習用ニ當テラレ
ル数量ヨリモ遙ニ大ナル数量ヲ割当ヅルコトヲ必要トス
ルモノニシテ日本カ既ニ多大ノ駆逐艦頓数ヲ有セラル
以上此ノ点ヲ強要セラレサランコトヲ希望スト述ヘ「ス」
「マ」亦反対ノ意ヲ表シ「マ」ハ御希望ノ点ニ付テハ出
来得レハ唯今ノ「リード」案ニテ解決シタシト希望シ日
本側ハ相談ノ上若観ヨリ専門家ニ於テハ尚不満足ナルヘ
キモ英米側ニテ之迄ニ懇篤ナル好意ヲ示サレタル以上日
本側モ之ニ酬ヒ茲ニ同意ヲ表スルモノナリト述ヘ「マ」

始英米側全権之ニ対シ謝辞ヲ表シタリ

三、「マ」ハ之ニテ三国間ノ問題ハ大体協定ニ達シタリ相
互ニ誠ニ慶賀ニ堪ヘスト言ヒ若観「ス」亦同感ヲ表セリ
四、若観ハ此ノ場限リノ御話ナルカ五国條約ハ素ヨリ吾人
ノ希望スル処ナルモ交渉状況如何相成リ居ルヤ出来得ル
丈速ニ事ヲ定メ度余等モ帰朝ヲ急カサルヘカラスト述ヘ
「ス」ハ全ク御同感ナリ吾人ハ此ノ會議ニ於テ一大事業
ヲ完成セリ唯ニ日英米間ノ重要ナル協定ヲ遂ケタルノミ
ナラス五国協定ノ根柢ヲ作り上ケタリ就テハ之ヨリ条約
ノ形式ニ付考量ヲ進メ其ノ成立ヲ促進スルヲ要スルニ付
今朝程取急キ書キ認メタル條約ノ骨組案ヲ貴覽ニ供シタ
シトテ別電第二七〇号ノ案文ヲ提示シ我等三国側ニテ異
議ナクハ仮伊側ノ同意ヲ取付ケ度ト述ヘタリ（此ノ時
「マ」ハ仮國全権トノ会見ノ約束時間トナリタルヲ以テ
右「ス」案ヲ一瞥シ英國側ハ異議ナキニ付日米側ニテ別
室ニテ討議ヲ進メラレタシト述ヘ日米全権ハ別室ニ移レ
リ）若観ハ大体右條約案ノ形式ニテ差支ナシト思考スル
ニ付日本政府ノ同意ヲ求ムヘシ（右案ハ討議ノ出発点ニ
過キス又例へハ潛水艦使用制限ノ問題ノ如キハ別個ノ条

約トシテ他ノ諸点ヨリモ長期ノ効果ヲ与フルコトトスル
方然ルヘシトモ思考セラル等尚考量ノ余地アルニ付大体
ノ御承認ヲ経テ最後ノ決定ハ當方ノ裁量ニ任セラル様
致シタシ) 尚艦型艦齡問題等ニ付テハ未タ話繙リ居ラサ
ル處右ハ如何ニ處理スル御考ナリヤ之ハ三國ノミニテ定

メス五国協定トスル御意向ナリヤト尋ネタルニ「ス」ハ
唯今差上ケタル案ニテ主力艦及航空母艦ニ付テ昨日第一
委員会ノ決定セル修正以外華府條約ヲ其ノ儘適用スベク
補助艦ニ付テハ part 3 ニテ艦型艦齡ノ決定ヲモ包含セ

シメ然ルヘシト述く「コ」ハ補助艦ニ関スル艦型艦齡ハ
五国協定ナラサル場合ニ於テモ仏伊側ヲ参加セシメ得ヘ
キカムヒ若規ハ最早時日モ尠キコト故茲ニテ御尋ネス
五国協定ナラサル場合ニ於テモ仏伊側ヲ参加セシメ得ヘ
キカムヒ若規ハ今強テ同意ヲ求ムル次第ニアラサルモ
議ニ譲ル御趣旨ナリヤト尋ネ「ス」ハ艦齡問題ハ休日案
ニ包含サレ居ノリト答ヘ若規ハ事実上ハ真ニ其ノ通ナル
モ主義トシテ一九一六年レバナラス夫ニテ差支ナシトノ御
意向ナリヤト聞ヒ「ス」「リ」ハ其ノ点ハ次回會議ニテ
解決シ遲カラスト答ヘタリ若規ハ然ラハ補助艦ニ付テハ
「十、十六、十三」ノ艦齡ヲ定メ之ヲ條約ニ記入スルカト

巡洋艦主力艦ノ艦齡ヲ同シク為シ置クカ如キハ街頭ノ人
ヨリ吾人ニ於テ氣力付カサリントノ非難ヲ招クノ惧アリ
代換表ノ点ハ兎ニ角艦齡ノ点丈ハ明記スル方然ルヘシト
考フヘ述く「ス」ハ真ニ同感ナリ今日定メ得ヘキコトハ
總テ定メ置ク様然ルヘシト同意ヲ表シ統テ今回ノ會議カ
不幸ニシテ仏伊ノ協定ヲ得ルコトナク終了スル場合ニ於
テモ将来仏伊ノ參加ノ途ヲ開キ置クコト然ルヘシ幸ヒ各
國ハ當地駐在大使向レモ今回會議ノ全權委員ナルニ付將

トルノ義ナリヤト質問シ「ス」ハ其ノ通リナリト答ヘ
松平ハ若シ補助艦ニ付艦齡ヲ定ムルナラハ主力艦航空母
艦ニ付テモ之ヲ定メ置クコト然ルヘク然ラサレハ巡洋艦
ト主力艦トノ艦齡ハ何レモ二十年トナリ軍縮ノ精神ヨリ
見テモ体裁ヲ為ササル嫌アリ之ヲ一九一六年ト規定シ置ク
コト然ルヘキニアラスヤト提言シ「リ」ハ右ハ真ニ賢明
ナル提議ナリ万一一九三五年會議カ不成立ニ終ル場合ニ
於テ艦齡ヲ現在ノ儘トナシ置カハ直ニ翌年ヨリ建艦ヲ必
要トスルニ至ルヘシト述く「ス」ハ代換表ヲ研究セサレ
ハ不明確ナルモ必スシモ其ノ翌年ヨリ建艦ノ必要無カル
ヘシト云ヒ若規ハ今強テ同意ヲ求ムル次第ニアラサルモ
巡洋艦主力艦ノ艦齡ヲ同シク為シ置クカ如キハ街頭ノ人
ヨリ吾人ニ於テ氣力付カサリントノ非難ヲ招クノ惧アリ
代換表ノ点ハ兎ニ角艦齡ノ点丈ハ明記スル方然ルヘシト
考フヘ述く「ス」ハ真ニ同感ナリ今日定メ得ヘキコトハ
總テ定メ置ク様然ルヘシト同意ヲ表シ統テ今回ノ會議カ
不幸ニシテ仏伊ノ協定ヲ得ルコトナク終了スル場合ニ於
テモ将来仏伊ノ參加ノ途ヲ開キ置クコト然ルヘシ幸ヒ各
國ハ當地駐在大使向レモ今回會議ノ全權委員ナルニ付將

来仏伊トノ交渉起ル場合ニハ大使ヲシテ其ノ任リ期トハ
メ得ヘシト述クタリ

五、此ヘ時英國側全權再ニ参加必要ハ場合再ニ余裕ベニ
ムムシテ散会ヤリ

六、往電第[一六六号]ハ書付(別電第[一七一號])ハ英米側
ノ確認ヲ得タリ

別電ト共ニ米ニ轉電シ仏伊ニ郵送ヤリ

(司 番)

London, April 11th a.m.
Rec'd, April 11th p.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokyo.

No. 270

Skeleton of Proposed Five Power Treaty.

Part One. Five Power agreement amending Washington
Treaty so as to provide;

(1) for capital holiday of all Five Powers, France
and Italy to have right to still lay down tonnage which
they were entitled to lay down in 1927 and 1929,

(2) agreement for scrapping three capital ships by

トルノ義ナリヤト質問シ「ス」ハ其ノ通リナリト答ヘ
松平ハ若シ補助艦ニ付艦齡ヲ定ムルナラハ主力艦航空母
艦ニ付テモ之ヲ定メ置クコト然ルヘク然ラサレハ巡洋艦
ト主力艦トノ艦齡ハ何レモ二十年トナリ軍縮ノ精神ヨリ
見テモ体裁ヲ為ササル嫌アリ之ヲ一九一六年ト規定シ置ク
コト然ルヘキニアラスヤト提言シ「リ」ハ右ハ真ニ賢明
ナル提議ナリ万一一九三五年會議カ不成立ニ終ル場合ニ
於テ艦齡ヲ現在ノ儘トナシ置カハ直ニ翌年ヨリ建艦ヲ必
要トスルニ至ルヘシト述く「ス」ハ代換表ヲ研究セサレ
ハ不明確ナルモ必スシモ其ノ翌年ヨリ建艦ノ必要無カル
ヘシト云ヒ若規ハ今強テ同意ヲ求ムル次第ニアラサルモ
巡洋艦主力艦ノ艦齡ヲ同シク為シ置クカ如キハ街頭ノ人
ヨリ吾人ニ於テ氣力付カサリントノ非難ヲ招クノ惧アリ
代換表ノ点ハ兎ニ角艦齡ノ点丈ハ明記スル方然ルヘシト
考フヘ述く「ス」ハ真ニ同感ナリ今日定メ得ヘキコトハ
總テ定メ置ク様然ルヘシト同意ヲ表シ統テ今回ノ會議カ
不幸ニシテ仏伊ノ協定ヲ得ルコトナク終了スル場合ニ於
テモ将来仏伊ノ參加ノ途ヲ開キ置クコト然ルヘシ幸ヒ各
國ハ當地駐在大使向レモ今回會議ノ全權委員ナルニ付將

Zenken.

(別電二)

ロンドン 4月11日前発

本省 4月11日後着

第二七一号

一、軽巡洋艦

- (1) 一九二〇年一月一日以前ニ起工セルモノハ艦齡十六年
ニテ代換シ得

- (2) 日本ハ一九三六年未迄ニ保有量ト現有量トノ差二千三百
十五噸ヲ建造スルノ外利根ヨリ大井迄十一隻四万八千
九百二十噸ニ相当スル代換ヲ起工シ得即チ一九三六年
末迄ニ合計五万九百五十五噸ヲ建造ス

二、駆逐艦

- (1) 一九二一年一月一日以前ニ起工セルモノハ艦齡十二年
ニテ代換スルコトヲ得

- (2) 前項代換艦齡適用ノ結果日本ハ一九三六年未迄ニ五万
二千七百四十噸ヲ廢棄スルコトトナリ内保有量ニ対ス
ル現有量ノ超過量二万六千六百十噸ハ一九三六年未迄
ニ逐次之ヲ廢棄シ残リ二万六千百三十噸ニ対シテハ一
九三〇年以降一九三四年迄毎年平均五千二百噸ノ代換

如ク其ノ超過量ヲ廢棄ス

(1) 将来ノ代艦建造ニ関シテハ一九三六年迄ニ一二、〇〇〇
噸ヲ超過セサル範囲内ニ於テ代艦ヲ完成スルコトヲ得

(3) 前項ノ外一九三六年未迄ニ於テ日本ハ七、二〇〇噸ヲ超過
セサル範囲内ニ於テ建造中ノモノヲ有スルコトヲ得

(4) 日本カ以上代艦建造ノ権利ヲ全部実行スル場合ニ於テハ
一九三六年未迄ニ廢棄スヘキ総噸数ハ三七、〇〇〇噸ト
ナル

(5) 本協定ノ造船法実行後ニ於テハ艦齡十三年以内ニ於テ代
艦廃棄ヲ行フヲ得ス

米ニ転電仮、伊ニ暗送セリ

480 昭和5年4月11日 ロンドン軍縮會議全權より幣原外
務大臣宛第二七四号

三国協定案公表の際の日本側の声明案について

て

別電

四月十一日ロンドン軍縮會議全權より幣原外
務大臣宛第二七四号

三国協定案公表の際の日本側の声明案

ロンドン 4月11日後発
本省 4月12日前着

(別電三)

ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

第四回特別専門委員会における潜水艦線上建
造案仮決定について

ロンドン 4月11日前発

本省 4月11日後着

ケ起工ス

479

昭和5年4月11日 ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

第四回特別専門委員会における潜水艦線上建
造案仮決定について

ロンドン 4月11日前発

本省 4月11日後着

第二七二号

往電第二六六号ノ一末段ニ関シ

四月十日午後三時ヨリ第四回特別専門委員会開催日本ノ潛
水艦線上ヶ建造ニ関シ審議ス当初我方委員ヨリ当日午前全權會議ニ於テ決定セル要旨ニ
基キ(往電第二六九号)仮造船案ヲ提出シ原案通り仮決定
ス即チ次ノ如シ

(1) 日本ハ一九三六年未迄ニ保有量五、七〇〇噸ニ達スル

(2) 日本ハ一九三六年未迄ニ保有量トノ差ニ及バシムルコトト致度処右
号ノ趣旨ヲ声明シ會議ノ記録ニ止メシムルコトト致度処右
ニテ差支無キヤ至急何分ノ御回電ヲ請フ

日本全權ハ唯今議長ノ披露セラレタル三国協定案ニ関連シ
其ノ所感ヲ述フルヲ欣幸トスルモノナリ
日本ハ今回ノ會議ニ参加スルニ當リ平和的手段ニ依リ一切
ノ紛争ヲ解決スルコトヲ基調トスル不戦條約ノ崇高ナル精
神ニ則リ海軍軍備制限ニ関スル協定ノ成立ニ依リ各國間ノ
猜疑反目ヲ芟除シ平和ト友好ノ関係ヲ増進スルコトヲ重要
視シ之カ實現ノ為有ラユル方法ヲ尽シテ會議ヲ成功セシメ
ムコトヲ期シタリ

然レ共海軍軍備制限ニ関スル協定ノ締結ニ當リテハ該協定
カ果シテ関係各國ノ国防上必要ト認メラルル処ト合致スル

ヤヨ仔細ニ検討スルノ必要アリ由来我海軍兵力ハ我國士ヲ
防衛スルニ足ル最少限度ノ勢力ヲ保持シ依テ國民ノ安全感
ヲ確保スルト共ニ東洋方面ニ於ケル一般平和ヲ保障スルコ
トヲ主眼トスルモノニシテ我カ海軍力ハ如何ナル意味ニ於
テモ他海軍国ニ対シ脅威又ハ懸念ノ原因トナルカ如キモノ

我国カ今回ノ會議ニ関シ交渉ノ当初ヨリ主張シ来リシ所要
海軍兵力ハ右ノ見地ヨリ案出セラレタルモノニ外ナラサル

ナ
リ

ニ関シ次回會議ニ於テ更ニ其ノ必要ト認ムル所ヲ主張スヘキ完全ナル自由ヲ保持スルモノナリ

以上ノ見地ヨリ今回ノ協定案ヲ査スルニ本案実施後数年ニシテ日本海軍ノ給体的実勢力ハ逐次低下スルコトトナルヘシ全我國民ハ自國ノ国防ニ関シ不安ノ念ヲ抱クコトナキヲ保シ難ク是帝國政府ノ最痛心スル所ナリシモ本案ハ一九三六年迄ノ事態ヲ律セントスルニ止マリ爾後各國ノ保有スヘキ兵力量ニ至テハ別ニ一九三五年ニ開催セラルヘキ會議ニ於テ協議決定セラルヘキ趣旨ナルニ鑑ミ帝國政府ハ關係各國全權カ本案ノ作成ニ當リテ示サレタル交譲妥協ノ精神ヲ深ク諒トシ本案ヲ問題ノ骨子ト為スコトニ承認ヲ与ヘタル

リ
叙説ノ要ナキ所本協定成立ノ曉関係国民ノ間ニ釀成セラル
スル協定ノ成立ハ関係国民ノ相互善解ヲ根抵トスヘキコト
ヘキ友好ノ精神ハ軍備競争ニ伴フ猜疑誤解ヲ芟除シ延イテ
相互善解ニ一層緊密ノ度ヲ加フヘクスケテ次回会議開催ノ
円満ナル解決ヲ見ルニ至ルヘキハ余ノ信シテ疑ハサル所ナ

481 昭和5年4月11日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

本省 4月12日前着 ロンドン

第一七五号

、「マクドナルド」ハ昨夜下院ニ於テ倫敦會議ノ経過ニ
関シ左ノ如キ声明ヲナセリ

ノ批評ヲ差控フル旨並後日本問題ヲ討議スルノ機会アルコトヲ希望スル旨述へ尚之等協定カ日本ニ於テ相当手続ヲ經テ実施ニ至ル迄ニハ何程ノ時日ヲ要スルモノナリヤニ付質問シ「サ一、ハーバート・サムエル」ハ自由党ヲ代表シ後日批評スルノ機会アルコトヲ希望スルト同時ニ首相ノ成功ニ祝賀ト感謝ノ意ヲ表スル所アリ之ニ対シ「マクナルド」ハ協定実施ノ時日ニ付テハ日本ノ憲法上ノ手

ニ到達セリ協定ノ字句ハ目下起草中ナルモ其ノ数字ハ昨年英米会談當時発表セラレタルモノニ頗ル近ク軍備ノ実質的削減ヲ示ス右ハ白書ヲ以テ公表セラルヘシ又從来軍備ノ支障ヲナシタル諸問題會議中ニ解決セラレタルカ之等ハ一個ノ協定ニ取纏メラレ五ヶ国ノ調印スル所トナルヘシ

ロンドン軍縮会議の経過に関するマクドナルド首相の声明並びに三国協定成立に関する各紙の報道について

サル処今朝英仏伊ノ間ニ行ハレタル会談ニ於テ來週早々
総会ヲ開キテ之迄ニ成立済ノ諸協定ニ調印シ一旦會議ヲ
休会シタル後英米仏伊ノ間ニ於テ日英米協定ト一致ヲナ
スヘキ協定ニ到達スヘキ為ノ努力ヲ重ヌルコトト決定セ
リ之ニ対シ「ボーレードウイン」ハ白書ノ提出アル迄何等

ニ到達セリ協定ノ字句ハ目下起草中ナルモ其ノ数字ハ昨年英米会談當時發表セラレタルモノニ頗ル近ク軍備ノ実質的削減ヲ示ス右ハ白書ヲ以テ公表セラルヘシ又從來軍備ノ支障ヲナンタル諸問題會議中ニ解決セラレタルカ之等ハ一個ノ協定ニ取纏メラレ五ヶ国ノ調印スル所トナル
ヘシ

統ハ承知セサルモ米国ニ於テハ上院ノ議ヲ経ルコトトナ

ルヘク英國ニ関シテハ本協定カ条約ノ形式ヲ採ルニ於テ
ハ通常ノ手続ヲ以テ批准セラルヘキ旨ヲ述ヘ尚本問題ヲ

後日議会ノ討議ニ付スヘキヲ約スル旨ノ答弁ヲナシタリ

議会議事録郵送ス

一、本日ノ各紙ハ一斉ニ三国協定ノ成立ヲ報道シ「マクドナルド」ノ議会ニ於ケル声明ヲ掲載シ居レル處一般ノ論

調ハ五國協定ノ成立ハ軍縮ノ途ニ重要ナル一步ヲ進ムルモノトシテ之ヲ歓迎スト云フニアリ尚仏國ノ安全保障要

求ヲ中心トスル英仏ノ会談ハ五國協定ノ不成立ト共ニ一切消滅ニ帰シタリト看做サルヘキモノナル旨英國側見解

トシテ報セラル

二、本日ノ各紙ハ一斉ニ三国協定ノ成立ヲ報道シ「マクドナルド」ノ議会ニ於ケル声明ヲ掲載シ居レル處一般ノ論

調ハ五國協定ノ成立ハ軍縮ノ途ニ重要ナル一步ヲ進ムルモノトシテ之ヲ歓迎スト云フニアリ尚仏國ノ安全保障要

求ヲ中心トスル英仏ノ会談ハ五國協定ノ不成立ト共ニ一切消滅ニ帰シタリト看做サルヘキモノナル旨英國側見解

トシテ報セラル

482 昭和5年4月11日 ロンドン軍縮會議全權より

幣原外務大臣宛(電報)

第十六回首席全權會議における協定の整理、起草委員会設置、次回総会の期日に関する審議について

ロンドン 4月11日後発
本省 4月12日前着

議について

483 昭和5年4月11日 在英國松平大使宛(電報)

幣原外務大臣より

三、次ニ「マ」ヨリ将来仏伊両國ニ於テ大建造ヲ行フニ至ラハ日英米三国ハ折角成立セル協定ノ実施上極メテ具合

悪キ立場ニ陥ル惧アルヲ以テ例ヘハ今後十二箇月間ニ於

ケル仏、伊ノ建造量ニ関シ今次条約ノ署名前ニ何等カノ協定ヲ得タント述ヘ早速英仏伊三国間ニテ話合(ヒヲナス事)ニ決ス

四、条約起草委員会トシテ各国一名(英ハ「マルパ」米ハ「モロー」日ハ栗山仏ハ「マシグリ」伊ハ「ピロチ」)ヨリ成ル法律家委員会ヲ設ケ別ニ目下日英米三国間ニ於テ協定事項ノ整理ニ当リソツアル専門委員会(往電第二六六号ノ四)ニ仏伊委員ヲモ加ヘ起草委員会ヲ補佐セシムルコトニ決ス

五、総会開催ノ件ニ付テハ各国ノ立場ヲ声明スヘキ総会ト

条約署名ノ為ノ総会トヲ別々ニ開クヘキヤ双方同時ニ開クヘキヤ等ニ関シ議論アリ結局十四日十二時半ヨリ第一

委員会ノ各種報告ヲ採択スヘキ形式的總会ヲ開キ(一切声明等ヲナサス)他方起草委員会ヲシテ直ニ条約案ノ起

草ニ着手セシメ若シ十五日朝迄ニ案文決定ヲ見ハ十七日最終総会ヲ開キテ各国ノ声明及署名ヲ行フコトトセリ右ニ付テハ斯カル短時日ヲ以テ条約ノ起草ヲ完了スルコトハ事實上困難ナルヘシトノ意見モ出テタルカ十八日ヨリハ「イースター」休日ニ入り当國ノ習慣トシテ二十一日

第二七六号

十一日前「セントゼイムス」宮ニ於テ五國首席全權會議開催経過要領左ノ通

一、先ツ「マクドナルド」ヨリ最近ニ於ケル日英米三国ノ内協議及英仏伊三国内交渉ノ経過ヲ報告シ前者ニ付テハ

昨日完全ナル協定ニ達シタルモ後者ニ関シテハ各国数字ノ問題ヲ決定スル前ニ処理スヘキ問題ニシテ尚未解決ナルモノアリ是等ハ暫ク時ヲ置キ心持ヲ新ニシテ關係国間ニ交渉ヲ続クルコトトシタント述ヘ「ブリアン」「グラ

ンデ」之ニ贊意ヲ表ス

二、既ニ決定セル諸点ヲ規定スヘキ条約案ノ形式ニ関シテハ「マ」ヨリ往電第二七〇号ノ案ヲ披露セルニ対シ「スマムソン」ヨリ条約第三部(補助艦問題)ヲ日英米三国ノミニテ署名スル点ニ反対シ条約全部ニ対シ五國共署名シ唯三国ノ批准アラハ直ニ三国間ニテ効力ヲ發生セシムルコトトスル方可ナリト主張シ一同之ニ異議ヲ唱ヘス

三、次ニ「マ」ヨリ将来仏伊両國ニ於テ大建造ヲ行フニ至ラハ日英米三国ハ折角成立セル協定ノ実施上極メテ具合

悪キ立場ニ陥ル惧アルヲ以テ例ヘハ今後十二箇月間ニ於

迄事務ヲ採ラサルコトトナリ居リ又「イースター」以後トセハ余リ延ヒ延ヒトナルヘク米国全權等帰國ヲ急キ居ル關係モアリ旁一応右ノ如ク決定ヲ見タル次第ナリ尚条約文決定後各國全權ニ於テ本国政府ノ諒解ヲ得署名シ得ル迄ニ幾何ノ時間ヲ要スヘキヤトノ「マ」ノ質問ニ對シ我方ヲ除キ各國全權何レモ四十八時間以内ニテ必要ナル訓令ヲ取付ケ得ヘント言明セリ

米ヘ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

館長符号扱
松平大使
若槻全權ヘ内密私電左ノ通伝ヘラレタシ
御帰朝ノ旅程ハ印度洋經由ノコトニ決セラレ差支ナシト思考ス浜口首相モ同意見ナリ御來示ノ通昨今内地新聞論調モ一般世論モ漸次沈静シツツアリ差當リ臨時議会中ニ御着京ヲ煩ハスノ必要ナキ見込ナルノミナラズ却テ閉会後ニ御着

京ノ日取トセラル方、対議会関係ニ於テ宜シキヤニ存ゼラル、尚ホ今回財部大臣帰朝期日ニ付海軍次官ヨリ相談アリ、同次官トシテハ海軍大臣モ亦臨時議会中ニ着京セラレザル方宜シカルベク閉会後ハ部内統制上成ルベク速ニ着京セラレンコトヲ希望スト申出デタリ予ハ之ニ異議ナキト同時ニ何レノ場合モ海軍大臣ガ閣下ト共ニ條約ノ調印ニ加ハルコトヲ必要トスル旨ヲ答ヘ置キタリ右閣下限リノ御含迄

484 昭和5年4月12日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
起草委員会における条約草案作成の見込につ
じて

ロンドン 4月12日前發
本 省 4月12日後着

第一七七号

往電第二七〇号ニ閲シ

十一日午後会合ノ法律家起草委員会ハ十二日午前再ヒ会合ノ筈ニテ其ノ如何ニ依リテハ十二日又ハ十四日迄ニ大体条約草案案ノ起草ヲ完了スルコトトナル見込ナル右条約草案案ノ起草完了次第逐次電報致スヘキニ付右ニ基キ貴方ニ於テ

モ時ヲ移サス審議ヲ進メラル様子メ御手配置願度シ
本件ニ閲シ十一日午後「リード」カ松平ニ語ル所ニ依レバ十七日調印ノコトハ到底ムツカント思考セルニ付米全權一
行ハ出発ヲ一日延期シタル由ナリ右ノ次第ニ付調印ハ出来得レハ十七日ニシ度キモ已ムヲ得サレベ二十二日トスルノ
外ナント見タル模様ニテ遅クトモ二十二日ニ間ニ合ハサル
カ如キコトカ日本ノ関係ニテ生スルコトナリテハ甚タシ
ク彼等ヲ失望セシムヘキモノト存セラルニ付政府ニ於テ
モ右事情御含ノ上条約正文ニ対シ至急御回訓ノ運ニナル様
御配慮ヲ請フ

米ニ転電シ、仏、伊ニ暗送セリ

485 昭和5年4月12日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)
条約の有効期間及び留保事項に関する条項
入について

別 電 四月十一日 ロンドン軍縮會議全權より
大臣宛第二八一號

条約の有効期間及び留保事項に関する日英米三
国案

tracting Parties at the Conference agreed to.

Zenken.

貴電第一二九号ニ閲シ(留保案ニ閲スル件)
英米側ト協議ノ結果大体別電第一二八一号ノ通ナル条項ヲ
約中ニ挿入スルコトトナリ右ニテ御異存ナキヤ至急電報
請フ

米く転電シ仏伊く暗送セリ

(別 電)

London, April 12th p.m.
Rec'd, April 13th a.m., 1930

Gaimudaijin, Tokio.

No. 281.

The present Treaty shall remain in force until 31st December, 1936. The High Contracting Parties agree to meet in Conference in 1935 to consider whether any modification in the provisions of the Washington Treaty of 1922 and to frame a new Treaty to replace and to carry out the purposes of the present Treaty, it being understood that none of the terms of the present Treaty shall prejudice the attitude of any of the High Con-

過議の経過
4 賀屋ヨリ大藏省主計局長く
製艦工業力維持ノ為補助艦代艦建造時期繰上ノ協定ハ全權ヨリ外務大臣宛電報ニテ御承知ト存スル処右協定案ハ我カ海軍側作成要求原案ニ比較シ若干ノ変更アリタルニ止マリ大体該案通り決定セリ該案ニ閲シ海軍側隨員ヨリ當方ニ對シ「本案ハ工業力維持上適當ナル造艦計画ヲ樹立スルニ差支ナキ様権利ヲ留保シ置クコトヲ目的トスルモノニシテ現在考フル処ニヨルモ造艦計画ヲ定ムルニ当リテハ該案ヲ変更及繰延スル必要アリム思ハルル点モアリ旁造艦計画ノ決定ニ当リテハ内地ニ於テ海軍大藏両省間ニ充分協議ノ上ニ

為シ度ク今権利ヲ獲得シタリトテ直ニ其ノ儘実行セサルヘカラスト主張スル次第ニアラサル」旨申出有之又當方ニ於テ該案ノ内容ヲ研究致シタル処

一、該案ニ依ル一九三六年迄ノ平均毎一年度建造量ハ約二

万噸同上建造費ハ約七千二百万円ニシテ今回ノ補助艦協

定ノ保有噸数及其ノ一般艦齡ニ依ル将来ノ我カ国平均毎

年ノ建造量約二万一千噸同上建造費約七千五百万円ナルニ比較シ減少スル処少ク

二、該案通リニ建造ヲ実行スル時ハ繰上ノ結果却テ一九三

七年以後三年間ハ補助艦ノ建造量ヲ非常ニ減少スル結果

トナリ

其ノ他諸種ノ点ヨリ見テ該案ノ限度其ノ儘ヲ實行スルコトハ考究ノ余地多シト認メラレタルヲ以テ前記海軍側申出ノ如ク条約上権利ヲ獲得スルモ其ノ実行ニ関シ権利ヲ得タルモノナレハ其ノ限度通り実行スヘシト主張スル意味ニアラス全然内地ニ於ケル協議ニ委スヘキコトニ海軍側及當方間ノ諒解ヲ明カニ致シ置ケリ其ノ点御含迄ニ申進ス尚本件ニ関シテ本月四日付書面二十三日頃御手許ニ到着ノ筈

487 昭和5年4月(13)日 在米国出席大使より
幣原外務大臣宛(電報)
ロンドン軍縮會議に関する大統領の声明書について

ワシントン

本省 4月13日後着

第一二二号

大統領ハ十一日倫敦會議ニ開シ声明書ヲ発シ倫敦會議ノ成功ニ満足ノ意ヲ表シ米國全權ノ忍耐決意並各國全權ノ建設的努力ヲ賞揚スルト共ニ大要左ノ通リ述ヘタリ

壽府會議後建艦競争益々熾烈ヲ加ヘ國際間ノ猜疑憎惡ヲ増大シタルハ國民ノ記憶ニ新ナル所ナリ余ハ今回ノ交渉提議ニ際シ詳ニ同會議前後ノ事情ヲ検討シ其ノ結果充分ノ準備ヲ以テスレハ其ノ失敗原因ヲ除去スルコト至難ニアラサルヘキヲ確信スルニ至レルカ歐州大陸諸國カ海陸両軍備カ不即不離ノ關係ニアルコトヲ主張シ且ソ軍縮ノ前提トシテ政治協定ヲ重要視スルニ対シ米國カスル協定ニ參加シ得サル事情等アルニ鑑ミ余ハ最初ヨリ五國協定ノ極メテ望ミ薄キヲ感知シ居タリ然ルニ今回ノ會議ニ於テ仏伊共好意ヲ以テ世界平和増進ノ為協力ヲ惜マサリシノミナラス協定中重要

ハ何等ノ政治的協定ヲ包含セス而モ完全ニ英米均勢ヲ實現スルト共ニ世界平和ノ目的ニ一步ヲ進メタルモノト言フヲ得ヘシ

全權ニ転電セリ

488 昭和5年4月13日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

ロンドン海軍條約基礎案送付について

ロンドン 4月13日前發
本省 4月13日後着

第一二八四号

條約案ハ目下起草委員会ニテ起草中ナルカ米國側提案ノ構成(往電第二七〇号)ト異ル英國案ノ提出アリタルモノ仏伊側ノ意見ヲ纏ムルニハ不便ナル点アリ米案ノ方好都合ナリシヲ以テ大体右構成ニ依リ英國側ニテ基礎案ヲ作成スルコトトナリ今十二日夕右案全文ヲ送り来レリ右ハ尚幾多ノ修正ノ必要アルモ成ルヘク速ニ條約案御承認ヲ仰ク為予メ右ヲ貴覽ニ供シ置クコト便宜ト存シ別電第二八五号ノ通電報ス(条文ニa、b、c等トアルハ當方ニテ仮ニ記入シタルモノナリ)

489 昭和5年4月14日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

**若槻・スティムソン会談における軽巡洋艦、
駆逐艦間の融通問題討議について**

付記 四月十五日着在英國松平大使より幣原外務大臣宛

電報

右に関する若槻全権よりの依頼電報

ロンドン 4月14日後発 本省 4月15日前着

第二九二号

十四日若槻「スチムソン」ヲ往訪ス「リード」同席「ス」ハ御來訪ノ目的ハ融通ノ問題ト察スル處実ハ此ノ問題土曜日ニ突如提起セラレ（往電第二八三号）当惑セリ漸クニシテ保有量ノ協定成立シタルニ又之ニ動搖ヲ来スコトトナリテハ協定ノ精神ヲ没却スルモノト考ヘタルカ財部、永井両全權力政府訓令ニモ明記シアル点ナリト主張セラレ日本側御困難モ御察シ居レリト述ヘタルニ付若槻ハ右ノ問題ハ單ニ政府ノ訓令アルノミナラス曩ニ第一委員会ニ於テ既ニ決定セラレ又其ノ他ノ会合ニテモ言及シタルコトアリ旁自分ヨリ海軍側ニ対シ巡洋艦駆逐艦ノ融通ハ可能ナルモノト了解セシメ来レル処ナルヲ以テ是非トモ好意的御考慮ヲ仰キ

（付記）米へ転電シ仏伊へ暗送セリ

（館長符号扱）ロンドン 本省 4月15日前着
若槻ヨリ左ノ電報依頼セラレタリ

ロンドン 4月14日後発 本省 4月15日前着

（付記）

タシト言ヒタルニ「ス」ハ日本ノ要求セラルル最後ノ点ナリヤト質問シ若槻ハ既ニ最後ニ達シタリト思ヒ居タルニ此ノ問題ヲ生シ困却セル訳ニテ全ク最後ノ御協議ナリト答ヘ「ス」ハ其ノ後同僚及英國側ト相談シ自ラモ再考ヲ加ヘ本件カ最後ノ御要求ナラハ之ヲ容ルルコトト決スルニ至レリ但シ財部全権御要求タル一割五分ハ高キニ過ケル故一万曠位ニ止メラレ度シト云ヘルヲ以テ若槻ハ即チ一割位ナリヤト尋ネ「リード」ハ然リ一割ノ融通権ヲ日英米共ニ保有スルコトト致シ度シト説明シ若槻カ小巡駆逐何レノ一割トスヘキヤト相談セルニ「ス」及「リ」ハ日米ノ関スル限り何レニスルモ略々同數量トナルヘシ然レトモ希望モアリ融通ヲ受クヘキ艦種ノ一割ニ決定シ度シト述ヘ若槻ハ之ヲ諒承セリ「ス」ハニテ難問總テ一掃セラレ協定成立セルモノト考フト述ヘ若槻ハ其ノ通ナリト云ヒ握手シテ別レタリ

本日「ステイムソン」ニ面会シ「トランسفアーノ」ノ問題協議一割同意セシメタル後米国ノ「オプション」行使ノ時期ヲ明カニスベキ旨話シタル處米国ハ大巡十五隻ニ止ムルノミナラズ十六隻又ハ十七隻ニ止ムル「オプション」ヲモ有スルモノニシテ十八隻目ヲ起工スルヤ否ヤラ決スル迄ハ「オプション」ヲ有スト答ヘタリ右ハ今日初メテ明言シタルモノニテ甚タ迷惑シタルモ日本ニ取リテハ總括的ノ割合ハ幾分減少スルモ大巡ノ割合ハ増加シ却ツテ有利ナリト信スルヲ以テ当初ヨリ此話合ナリトシ此儘同意スルコトニ致度ク予ノ立場ハ之ニ不同意ヲ述フルニ苦シム次第ナルヲ以テ貴方ニ於テ反対セラレサル様切ニ祈ル

スルヲ以テ当初ヨリ此話合ナリトシ此儘同意スルコトニ致度ク予ノ立場ハ之ニ不同意ヲ述フルニ苦シム次第ナルヲ以テ貴方ニ於テ反対セラレサル様切ニ祈ル

び条約調印期日の決定について

490 昭和5年4月14日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

第五回総会における第一委員会諸報告採択及

ロンドン 4月14日後発 本省 4月15日前着

第二九五号

十四日午後零時半「セントゼイムス」宮ニ於テ第五回総会

491 昭和5年4月14日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛（電報）

ロンドン海軍条約調印期日に關し稟請について

ロンドン 4月14日後発

本省 4月15日前着

三国協定案の趣旨声明の案文に対する回訓について

第一九八号（至急）

条約調印ノ時期ニ関シテハ往電第二九五号末段ノ通本十四日ノ総会ニ於テ「マクドナルド」ヨリ特ニ我方ノ意見ヲ求

メ若槻之ニ承諾ノ旨確答ヲ与ヘタル次第ナルニ付我方ハ是非二十二日ニ調印出来得ル様手続ヲ終ラサルヘカラス依テ隨時電報スヘキ條約案文ニ付出来得ル丈速ニ審議ヲ進メラレ右調印期日ニ必ス間ニ合フ様御回訓ヲ得度ク往電第二七七号ヲ以テ電稟ノ次第ハアリタルモ此ノ点重ネテ電請ス

米ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ
貴電第二七三号ニ閲シ
貴電第二七四号ノ「本協定ニ依リ、、、」以下ヲ左ノ趣旨ニ改メ度シ其ノ他ハ貴電ノ通りニテ差支ナシ
「本協定ニ依リ保有スヘキ我カ兵力量殊ニ八吋砲巡洋艦ノ保有量ハ之ヲ本条約有効期間後ニ延長適用スルコトハ我カ国ノ認容スルコトヲ得サルモノナル処日本カ本協定ニ同意ヲ、、、、」

第一三四号

貴電第二七三号ニ閲シ
貴電第二七四号ノ「本協定ニ依リ、、、」以下ヲ左ノ趣

旨ニ改メ度シ其ノ他ハ貴電ノ通りニテ差支ナシ
「本協定ニ依リ保有スヘキ我カ兵力量殊ニ八吋砲巡洋艦ノ保有量ハ之ヲ本条約有効期間後ニ延長適用スルコトハ我カ国ノ認容スルコトヲ得サルモノナル処日本カ本協定ニ同意ヲ、、、、」

254

本省 4月14日後3時30分発

第一三九号

貴電第二七三号ニ閲シ
貴電第二七四号ノ「本協定ニ依リ、、、」以下ヲ左ノ趣

旨ニ改メ度シ其ノ他ハ貴電ノ通りニテ差支ナシ
「本協定ニ依リ保有スヘキ我カ兵力量殊ニ八吋砲巡洋艦ノ保有量ハ之ヲ本条約有効期間後ニ延長適用スルコトハ我カ国ノ認容スルコトヲ得サルモノナル処日本カ本協定ニ同意ヲ、、、、」

492 昭和5年4月14日 常原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

米国側提示の條約案の形式承認について

本省 4月14日後3時25分発

第一三五号

貴電第二六九号ノ四ニ閲シ

米国側提示ノ條約案形式ニテ差支ナシ

493 昭和5年4月14日 常原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

第一三九号

常原外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

貴電第二六九号ノ四ニ閲シ
貴電第二七三号ニ閲シ
貴電第二七四号ノ「本協定ニ依リ、、、」以下ヲ左ノ趣

旨ニ改メ度シ其ノ他ハ貴電ノ通りニテ差支ナシ
「本協定ニ依リ保有スヘキ我カ兵力量殊ニ八吋砲巡洋艦ノ保有量ハ之ヲ本条約有効期間後ニ延長適用スルコトハ我カ国ノ認容スルコトヲ得サルモノナル処日本カ本協定ニ同意ヲ、、、、」

494 昭和5年4月14日 常原外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

帰朝の日程に關し財部全權へ伝達方について

本省 4月14日後8時発

第一三九号

軍縮新聞情報

十五日日ハ軍縮會議ニ閲スル政府ノ措置ニ付國民ハ必ずシモ満足シ居ラザルモ之ガ直チニ政友會ノ政治的資本トナリ議會ニ於テ政府ヲ窮地ニ陥ルモノトハ見ルヲ得ズ貴族院亦絶対多数ヲ擁スル政府ヲ阻ム勇ナカルベク軍縮問題ノ閑スル限り特別議會ニ於ケル政府ノ押シハ通ルベシト述べ報知ハ會議ノ成果ニ付テハ未ダ公然ノ論議ヲ憚ルベキ部分モアルベク特別議會ハ我方ノ成敗ニ閑シ決定的論議ヲナスニ適當ナラズ海軍側強硬論ナルモノモ条约期間内ノ勢力保有及建造線上ニ依リ事實上緩和セシメラレタリト見ルベク從テ議會ニテ極端ナル論議ヲ見ルコトナカルベシ吾人ハ寧ニ付闇下ハ親シク條約ニ御調印ノ上五月十三日以後ニ御ガ内地ニ於ケル御主管事務處理ノ為成ルヘク速ニ御帰朝アルコトハ予モ亦希望スル所ナルモ右議會ニ對スル關係モアルニ付闇下ハ親シク條約ニ御調印ノ上五月十三日以後ニ御着京ノ予定ヲ以テ倫敦御出發ノ日取ヲ定メラレムコトヲ切望ス

495 昭和5年4月15日 整原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛（電報）

ロンドン軍縮會議をめぐる国内政情に關する各新聞論調について

本省 4月15日後4時35分発

ズ政友會ノ統帥権謀論ニ從ヘバ政府ハ軍令部ノ命ズル儘ニ予算ヲ編成セヨト云フコトトナルガ如何ト述ベタリ
ラルモノガ經濟的軍備論ナルニ於テオヤト述べ都ハ軍令部ノ管掌スル用兵作戦トハ國家ノ定メタル軍備内ニ於テ最善ヲ尽スコトニシテ軍備ヲ軍令部ノ意ノ儘ニスルコトニ非

255

次第モアリ全権ノ許ヲ得ルコトナク全ク自分モ一己ノ考ニ
テ申述ヘル儀ナルカ今朝委員会ノ際ニ於ケル「プラット」
大將ノ言葉モアリ「オプション」問題ニ付何等カノ方法ヲ
講スルコト能ハサルヘキヤ日本側トシテハ将来ニ対スル関
係上此ノ際何等カノ言質ヲ貴方ヨリ取付ケ置クノ必要アル
次第ニテ若シ條約中ニ規定スルコトハ英國トノ均勢問題ニ
モ影響ヲ及ホシ困難ヲ感セラルヘキカト存セラルモ我方
ニ何等カノ書付ニテモ送付セラルヲ得ハ夫レニテモ余程
好都合ナルヘシト云ヘル処「リ」ハ内密ナルモ率直ニ言ヘ
ハ米国ノ六時巡洋艦建造ハ目下ノ計画ニテハ到底一九四〇
年以前ニハ完成セス從テ「オプション」行使ノ場合ニモ今
次条約ノ満期迄ニ日本ノ六時保有量カ米国ノ七割以下トナ
ルカ如キコトハ實際起リ得ス然レトモ之ヲ條約ニ明記スル
コトハ政治的ニ困難アルコト全ク既説ノ通ナリ但シ右ノ事
実ヲ書付トナスニ於テハ今次會議ノ關係文書ハ一切公表ス
ルコトナルヤモ計リ難キニ付上院議員例ハ加州ノ「ジ
ヨンソン」等ニ於テ之ヲ捉ヘ又々日本ニ讓歩セリ等種々反
対ヲ唱フルノ危険アリ或ハ「キヤッスル」ヨリ幣原大臣ニ
申入レシムルモ一案ナルヘキモ之トテモ上院ニ知ラルル虞

アリ(トテ熟考ノ末)日米全権会合ノ席上米側ヨリ之ヲ言明
スルコトトシ之ヲ日本側ニテハ政府ニ報告セラルルコトト
シテハ如何日本側ハ右ニテ充分説明ノ材料ヲ得ラルヘント
思考ス米國側ハ日本ノ今次會議ニ對スル態度ヲ大イニ「ア
プレシエイト」シ居リ其ノ一言一句ニモ信ヲ置キ居ルモノ
ニシテ現ニ先般「ファイッシヤー」カ三國ノ軍艦廢棄ヲ監督
スヘキ委員会設置ヲ唱ヘタル際ニモ自分ハ過去ノ事實ニモ
鑑ミ日本ハ常ニ信義ヲ守ルヘク本案ノ如キハ却テ不信ノ念
ヲ醸ス危險アリトテ三國ニ閑スル限り(歐州諸國ナラハ多
少疑アルモ)之ニ反対セル次第ニテ「オプション」ノ件ニ
付テモ米国ノ他ノ全権カ前述ノ解決法ニハ異議ヲ唱ヘルコ
トナカルヘシト述ヘタリ依テ斎藤ハ我方全権ノ意向ハ全ク
承知セサルモ右ノ次第ヲ報告セハ必スヤ喜ハルナラント
答ヘ辞去セル趣ナリ

米ニ転電シ、仏、伊ニ暗送セリ

499 昭和5年4月16日 ロンドン軍縮會議全権より
幣原外務大臣宛(電報)
日米全権会合におけるオプション行使問題に
関する討議について

ロンドン 4月16日後発
本 省 4月17日前着

第三〇六号

往電第三〇五号ニ関シ

「リ」ハ日本海軍側ニ於テ米カ「オプション」ニ依リ大巡
三隻ノ代リニ輕巡四万五千五百噸ヲ建造スルニ於テハ右ハ
今後兩三年中ニ完成セラルヘシトノ懸念ヲ有セラル向ア
ルヤニ聞及ヒ居ル処昨十四日夜モ斎藤氏ニ御話シタル通り
「プラット」建造計画ハ多年ニ亘ルモノニシテ又「オプシ
ョン」行使ノ場合ニ於テモ右ニ基ク超過噸數カ一九三六年
迄ニ完成セラルルコトハ万無カルヘント往電第三〇五号ノ
趣旨ヲ繰返シ右ハ米首席全権タル「ス」及「ブ」ニ於テモ
確認セラルル所ナルヘシ惟フニ三国間ニ合意ヲ見タル協定
ニ付之以上新ナル難点ヲ惹起スルハ米代表部ノ米上院ニ対
ス立場ヲ困難ナラシムルモノナルニ依リ右余ノ言ニテ満
足セラレタシト述ヘ「ス」ハ自分ハ右問題ニ付専門的知識
ヲ有セサルモ「リ」氏所言ハ確認スルニ咨カナラサルヘシ

リ
仏、伊ヘ暗送セリ

502

昭和5年4月(17)日

在米国出席大使より
幣原外務大臣宛(電報)

ロンドン海軍条約に関する新聞報道について

四月十五日の日米全権会談におけるオプション問題討議内容に關し照会について

付記 四月十六日付オプション問題に関する海軍側見解

本省 4月16日後4時15分発

第一四五号

時事及日日ノ特電ニ拠レハ十五日午前「リツ、ホテル」

ニ於ケル日米会談ノ結果米國側ニ於テ「オプション」ヲ行

使スル場合ニモ輕巡ノ増大量四万五千五百噸ヲ千九百三十

六年前ニ増スコトヲ為サストノ紳士的了解成立シタル趣ナ

ル処右ハ事實ナリヤ折返シ回電アリ度シ

(付記)

覚

昭和五年四月十六日

全權請訓ニ係ル所謂妥協案ニヨル日英米保有兵力ハ英米ニ
於テ巡洋艦ニ関スル「オプション」ヲ行使セザル了解基礎
ノモトニ四月一日ノ回訓ヲ發セラレタルモノト信ジ居ル処
昨十五日回付ヲ受ケタル條約案(英文)ニヨレバ英米共巡
洋艦ニ於テ「オプション」ノ権利ヲ得居ルノミナラズ之ニ

第一四六号

幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全権宛(電報)

日及び都新聞の評価について

本省 4月16日後5時20分発

軍縮新聞情報

十六日日々及大毎ハ會議其モノモ世界ノ現状ニ顧ミレバ此
程度ニテ先ツ成功ト称シ得ベク次ニ日英米間ニ於テモ米国
ガ事實上軍拡トナレル等不満ノ点ハアルモ大体今回ノ協定
ガ英米ノ顔ヲ立ツルコトヲ主タル動機トナシ居ル以上姑息
的ナルモ已ム無カルベク兎ニ角三国間ノ海軍競争ヲ断然抑
止シ得タルハ消極的乍ラ何ト云ツテモ大手柄デ又主力艦建
造中止ハ財政上一大収穫ト云フベシ更ニ日本独自ノ立場ヨ

リ見ルニ我方ノ出所進退ハ大体當ヲ得タリ我方ガ協定成立
ノ為主役ヲ演シテ世界各国民ノ好感ヲ贏チ得タルハ日本ノ
為不利ナリトセズ唯当初ノ主張ヲ枉ゲテ海軍側ヲ失望セシ

メタルモ之トテ取極ガ全ク暫定的ナルコトヲ明確ナラシメ

我方ノ不利トスル協定ヲ六年後ニモ継続セシメントスル英
米ノ主張ヲ拠棄セシメタノデアリ我ノミ讓歩セリトハ云フ
ヲ得ズ而カモ協定期間中ハ大巡ニ於テ米ヲ凌駕スルモノナ
レバ實質上我國防ニ危険ナク我讓歩ガ单ニ名目ニ止マリヲ
思ハバ吾人ハ之ヲ忍ズベキナリ況シヤ我財政ニ多大ノ余裕
ヲ生ジ得ルニ於テラヤ茲ニ於テ吾人ハ全權ノ勞苦ト努力ニ
対シ当然ノ謝意ヲ表スベキナリト述べ都ハ會議ノ結果ガ軍
事専門家ノ見地ヨリセバ不満アルニモ拘ラズ国民ノ多数ガ
寧ロ其成功ヲ謳歌スルハ過重ノ負担ヲ免レテ之ヲ生産の方
面ニ振リ向ケ國利民福ヲ伸張セント期待スルガ為ナリ折角
ノ余剩財源ヲ代換線上空軍拡張ノ為割取セムトル軍部ノ
要求ハ之ヲ抑ヘザル可ラズト述ベタリ

第一二六号

軍縮新聞報

ワシントン

本省 4月17日前着

(一)十四日「コットン」國務長官代理ハ「スチムソン」カ十

三日「ラヂオ」ニテ米国全權ハ首尾ヨク其ノ使命ヲ果シ
タリト述ヘタル点ヲ引用シ會議ノ結果ハ勿論國務省トシ
テモ満足トスル処ニテ會議ハ吾人ノ期待セル以上ナリ条
約ノ真ノ試金石ハ海軍軍備競争ヲ防止シ得ルヤニアルモ
ノナルカ其ノ見込ハ充分ナリ余ハ三国カ海軍ニ関スル要
求ハ相對的ニシテ絶對的ノモノニアラサルコトヲ充分ニ
諒解シ以テ公明正大且互ニ他トノ関係ヲ考慮シテ一定期
間海軍計画全部ニ亘ル同意ヲナンタル点ヲ特ニ力説スル
モノナリト声明セリ又同日下院予算海軍分科會長「フレ
ンチ」ハ下院ニ於テ三国條約ニ依リ國際關係ハ一層改善
セラルヘキヲ説キ寿府會議當時ノ提案ニ比較シテ今回ノ
條約ニ依リ三国ノ削減シ得ル噸數及米國ノ節約シ得ル經
費ヲ列挙シテ同條約ハ重要ナル貢献ヲナセル旨演説シ上
院外交委員「カッパー」ハ「ラヂオ」ニテ噸數削減經費

昭和5年4月16日

幣原外務大臣より
ロンドン軍縮會議全權宛(電報)

「オプション」(大型一万噸ニ対シ輕巡一万四千噸)ノ數

字トモ著シク差異アルヲ認メラル
対応シ我方ニ何等ノ条件ヲモ見出シ得ズ加之今次「オプシ
ョン」ニ使用セントスル数字ハ大型一万噸ニ対シ輕巡一万
五千百七十噸ニシテ一月五日全權電第百七号ニテ提示セル
「オプション」(大型一万噸ニ対シ輕巡一万四千噸)ノ數

「ド」ハ若槻ニ五分間話シ度キコトアリト申出テ仏國ノ保有量高キ場合ニ於ケル保障條項規定ノ件ニ関シ英國カ増量ノ已ムヲ得サルニ立至ル際ニハ日米モ英國カ増量スルト同艦種ノ増量ヲナスコトトシ解決シ度シト申出テ若槻ハ右ハ余リニ限定窮屈ナルヲ以テ華府條約ノ場合ニ於ケルカ如ク追テ必要ノ際關係國間ニ相談スル規定ヲ設クルコト可然キニ非スマト答ヘ容易ニ談縺マラサリシヲ以テ同席ノ「マクドナルド」「アレキサンダー」等ト相談ノ上今十六日九時「マ」カ飛行機ニテ急用ノ為「スコットランド」郷里ニ出發スルニ先立チ首相官邸ニテ相談ヲ進ムルコトトナレリ今朝会合列席者「マ」「ア」及「クレーギ」「ス」「リ」及若槻英米側ハ若槻ニ別電第三一三号ノ如キ條約案ヲ示シテ「ア」ハ右ハ仏伊等ノ莫大ナル海軍計画ヲ造ラムトスル場合ニ備逐艦ニ於ケル増量ハ自然的ニ定マルコトトナリ居レルカ如キモ之ヲ外交機関ヲ通シテ相談ノ上定ムト云フカ如キ余裕アル形式ヲ採ルコト必要ナリト主張シ「ス」ハ「notif」ナル語ハ自ラ外交機関ヲ通スルコトヲ意味スルモノナリ然レトモ日本ニ於テ増量スル艦種ハ必ス英ト同艦種ナルコトヲ要ス

節約ノ点ハ素ヨリ世界輿論ニ及ホス精神的影響ヨリ見レハ會議ハ一層大ナル成功ヲ收メタリト述ヘ米國民及上院ハ條約ヲ各方面ヨリ精査スル必要アリ旁々同條約ニ対スル上院ノ最後ノ決定ハ今年冬迄ニハ期待セラレサルヤモ知レサルカ唯右決定ハ結局軍備負担ニ任スル國民一般ノ意向ニ基クモノナルニ付各人ハ其ノ将来並ニ世界平和ノ為多大ノ意義アル會議ノ結果ニ対シ充分考慮ヲ払フヘキモノナル旨勧説セリ

(二)両三日來ノ諸新聞報道ハ上院側ニテハ未タ倫敦條約ニ対シ意向ヲ明カニスル時機ニアラスト為シ居ル模様ナリト

報セルカ十四日紐育「タイムス」華府通信ハ上院ノ形勢

ハ結局同條約ヲ以テ軍縮ノ第一歩ニテ且ソ対英「パリチ

ー」ヲ確保セルモノト見ルカ又ハ右條約ハ米國ノ期待全

部ヲ実現セス殊ニ仏伊ノ參加ナキコト等ニ基キ之ヲ失敗

ト見做スカニ依リ定マルモノト言フヲ得ヘキカ輿論中ニ

ハ多大ノ削減ヲ齎ササリシ為會議ヲ失敗トスル一部民衆

及団体ト大型巡洋艦ヲ最重要視スル結果條約ヲ不満トス

ル大海軍論者ノ兩極端派アルコトハ當然予期セラルル処

ナルモ其ノ中間ニハ本條約ハ結局ニ於テ噸數削減及経費部ヲ実現セス殊ニ仏伊ノ參加ナキコト等ニ基キ之ヲ失敗

ト見做スカニ依リ定マルモノト言フヲ得ヘキカ輿論中ニ

ハ多大ノ削減ヲ齎ササリシ為會議ヲ失敗トスル一部民衆

及団体ト大型巡洋艦ヲ最重要視スル結果條約ヲ不満トス

ル大海軍論者ノ兩極端派アルコトハ當然予期セラルル処

ナルモ其ノ中間ニハ本條約ハ結局ニ於テ噸數削減及経費

節減ヲ實行シ得ヘク同時ニ三大海軍國ノ建艦競争ヲ終熄セシムルモノナリトスル多数ノモノアリ而シテ右中間派ニ於テハ條約ヲ不満足ナリトシテ上院ノ批准拒絶ヲ望ム一派ノ主張ハ寿府會議失敗後ノ事態再現ヲ希望スルモノニ外ナラスト為シ居レリ要スルニ上院ノ倫敦條約批准ハニ前記中間派ノ支持ニ係ル次第ナリ

全權ニ転電ス

503 昭和5年4月17日 ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛(電報)

フランスの保有量高き場合における保障条項

規定に関し日英米全權の協議について

別電一 四月十七日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第二二三号

英米側より若槻全權に提出した保障条項に関する條約案

二 四月十七日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第三一四号

右に対するリード全權の修正案

ロンドン 4月17日後発
第三一二号 本省 4月18日前着

昨十五日夜日本全權主催ノ宴会席上「スチムソン」及「リ

ト述ヘ「マ」モ亦同様ノ趣旨ヲ述ヘタルニ対シ若槻ハ率直ニ申サハ既ニ御承知ノ如ク日本ノ要求スルモノハ潛水艦ナリ然ルニ英國カ驅逐艦ヲ要求スレハ日本モ驅逐艦ヲ增量セサル可カラスト云フコトトナレハ現條約案ニ依ル保有量ニテ不満足ナル艦種ハ増量セス却テ充分ナルモノヲ增量スヘキコトトナリテ不合理ナリ切メテ巡洋艦及驅逐艦何レヲ拝フモ差支ナシト云フコトナラハ考慮ノ余地ナキニ非サルモ本案ノ如キ極端ナル限定ヲ今日ナシ置クハ不当ナリト述ヘ「ア」ハ潛水艦ノ数量ハ出来得ル丈ヶ減少スルコトニ腐心シ来レリ又巡洋艦驅逐艦ノ間ニハ既ニ一割ノ融通ヲ認メ居リ之以上ノ讓歩ヲナスコト能ハスト主張シ若槻ハ日本ノ苦シキ立場ヲ毫モ酌量セサルカ如キ形式ノ条項ヲ設ケ折角ノ協定ヲ徒勞ニ帰セラレサラムコトヲ切望スト述ヘ「ス」ハ本件ハ米國側ヨリ提起シタルモノニ非ス最近仏ノ態度ニ顧ミ英國側ニ於テ是非共此ノ規定ヲ必要トスルニ至リ一昨日「ア」全權ヨリノ申出テニ基キ本案ヲ作製セリ自分等ハ本規定ヲ余リニ広汎漠然トスルトキハ米國ニ於テ全然今回協定ノ趣旨ヲ没却スルモノナリトノ非難ヲ招クノ惧アリ出来得ル限リ狭キ規定ヲ設ケ度シトノ趣旨ニテ案出セラレタルモ

ノナリ米国ノ最モ重キヲ置ク所ハ英國カ増量ノ已ムナキニ至ル場合ニ於テ今回協定ノ根本カ変更セラレサルコトヲ最モ緊要トス若シ若規全權ノ主張ノ如ク他日更ニ交渉ノ上増量ヲ定ムルカ如キコトセハ現協定案ニ変更ヲ加フルノ余地ヲ存スルコトトナリ換言スレハ再ヒ會議ノ仕直シヲナスコトヲ予見スルモノニシテ米国上院及輿論ハ今回ノ會議ヲ無意義ニ陥ラシムルモノトシテ非難スヘク到底同意スル能ハスト繰返シ「リ」ハ米国モ亦日本ト同シク協定保有量以上ニ駆逐艦ヲ必要トセサルモ英國ノ困難ヲ救フ為本条項ヲ設クルニ同意シタルモノニシテ實際ニハ萬一英國カ右艦種ヲ増量スル場合米国ハ之ヲ増量セサル可能性多分ナリ然レトモ現協定ノ根柢ヲ動カササル範囲内ニテ三国間ノ均衡ヲ維持スル為本規定ノ必要ヲ見ル次第ナリト語リ若規ハ英國ノ必要ハ充分之ヲ了解ス唯此ノ形式ニテハ日本側ノ困難トスル所ナリト主張シ次テ或ハ英國ハ必要ニ応シ自由ニ増量スルコトトシ其ノ通知ヲ受ケタル際日米側ニテ相談スルコト如何トノ説出テタルモ「マ」「ス」ハ何レモ右ハ現協定ノ根柢ヲ不安定ナラシムルモノニシテ同意シ難シト主張シ又英國カ増量スル場合日米ニ更ニ英國ヲ加ヘテ相談スルノ案

保有ハ其ノ保有量ノ二割即チ二万一千六百八十噸トナリ米国ハ直ニ起工シ得ヘキ分三万噸一九三三年以後ニ始メテ起工シ得ヘキ分ハ六千噸トナル計画ニテ現協定ト全ク同様ナル均衡ヲ保ツ計算トナルベシ必要ナラハ此ノ趣旨ヲ最終総会ノ席上ニテ声明スルモ差支ナシト述ヘ又若規ハ本案ハ英國ヲ助ケナカラ現三國協定ノ均衡ヲ維持セントスルノ苦心ニ出テタル点ハ諒解スルモ英國ハ其ノ必要トスル駆逐艦ヲ増量シ日米ハ不必要ナル駆逐艦ノ増量ヲ為スノ外ナキ立場ニ置カルルハ不当ナリト論シタルモ「ス」ハ斯ノ如キハ駆逐艦ノ場合ニノミ起ル問題ニシテ又右ハ歐州ノ地方的問題ニ過キス日米ト直接関係ヲ生セサル処ナリト答ヘ尚若規カ本案ノ如キ条項ノ結局必要ナルコトハ承知シ居タルモ華府条約ノ保障条項程度ノモノニテ充分ナルヘシト考ヘ居タリト述ヘ「ス」ハ自分モ亦其ノ位ニテ差支ナカルヘシトノ意向ナリシモ最近ノ仏ノ態度ニ促サレ英國カ明確ナル権利ヲ保有スルノ必要ヲ感スルニ至リタル為已ムヲ得ス本案ヲ案出スルコトナレリト答ヘ種々約三時間ニ亘り押問答ヲ重ねタルモ我カ主張ノ案ヲ採用セシムルコト能ハス先方ノ言分ニ相当道理アリト考ヘタルヲ以テ「リード」起草ノ字句ヲ

ノナリ米国ノ最モ重キヲ置ク所ハ英國カ増量ノ已ムナキニ至ル場合ニ於テ今回協定ノ根本カ変更セラレサルコトヲ最モ緊要トス若シ若規全權ノ主張ノ如ク他日更ニ交渉ノ上増量ヲ定ムルカ如キコトセハ現協定案ニ変更ヲ加フルノ余地ヲ存スルコトトナリ換言スレハ再ヒ會議ノ仕直シヲナスコトヲ予見スルモノニシテ米国上院及輿論ハ今回ノ會議ヲ無意義ニ陥ラシムルモノトシテ非難スヘク到底同意スル能ハスト繰返シ「リ」ハ米国モ亦日本ト同シク協定保有量以上ニ駆逐艦ヲ必要トセサルモ英國ノ困難ヲ救フ為本条項ヲ設クルニ同意シタルモノニシテ實際ニハ萬一英國カ右艦種ヲ増量スル場合米国ハ之ヲ増量セサル可能性多分ナリ然レトモ現協定ノ根柢ヲ動カササル範囲内ニテ三国間ノ均衡ヲ維持スル為本規定ノ必要ヲ見ル次第ナリト語リ若規ハ英國ノ必要ハ充分之ヲ了解ス唯此ノ形式ニテハ日本側ノ困難トスル所ナリト主張シ次テ或ハ英國ハ必要ニ応シ自由ニ増量スルコトトシ其ノ通知ヲ受ケタル際日米側ニテ相談スルコト如何トノ説出テタルモ「マ」「ス」ハ何レモ右ハ現協定ノ根柢ヲ不安定ナラシムルモノニシテ同意シ難シト主張シ又英國カ増量スル場合日米ニ更ニ英國ヲ加ヘテ相談スルノ案

ニ対シテモ同様ノ非難ヲ加ヘ談全ク進行セサリシ處「リ」ハ本案ノ最後ニ若規全權ノ希望セラルルカ如キ意味ニテThe other powers shall promptly advise with each other through diplomatic channels as to the situation thus presented ト添加スルコトトシテハ如何ト提言シ若規ハ右ノ文句ヲ添加シテ原文ノ最後ニアル category or categories affected ナル字句ヲ削除セハ同意シ得ヘシト述ヘタリ英米側ハ右ハ矢張リ現協定ノ根本ヲ動カスモノナリト固持シテ動カス若規ハ本案ニ基キ英國カ或ル艦種ニ増量ヲ為スモ米国カ同様ノ増量ヲ為ササル場合日本ハ如何ナル立場ニ立ツヘキヤト尋ネ「ス」ハ日本ハ勿論比例的ニ増量スルノ權利ヲ有スヘシト答ヘ次イテ若規ハ proportionate increase ルコトトシ其ノ通知ヲ受ケタル際日米側ニテ相談スルコト如何ナル意味ナルヤ例ヘハ八時艦ノ増量ヲ必要トスル場合ヲ考フルニ現協定ハ甚タ機微ナル案ニシテ實際的ニハ日本ハ次回會議迄対米七割二分ヲ保有スルモ理論上ハ六割ナリ從テ本条項ハ不必要ナル比率ノ論ヲ誘起スルノ虞アリト述ヘタルニ「リード」ハ熟考ノ後其ノ虞ナント考フ即チ仮リニ日本カ八時艦三万噸ヲ増量スルコトトセハ右数量ハ保有量十四万六千八百噸ト約二割ヲ増ス依テ日本ノ分ハ其ノ

最後ニ添加スルコトトナリ若規限り承諾ヲ与ヘ政府ニ報告スヘキコトトシテ引取リタリ

其ノ後財部ト相談シタルカ原則トンテ右案ニ同意スルハ已ムヲ得サルモ全然潜水艦ニ言及セサルコトハ事實上ハ兎ニ角主義上面白カラサル点アリタルヲ以テ斎藤ヲシテ「リード」ヲ往訪セシメ cruisers and destroyers ムノミ記シ置クトキハ日本カ潜水艦ヲ希望シ居ル事實ニ顧ミ態々其ノ増量ヲ防カムカ為ニアラ記入セナリシモノトシ我カ輿論ノ反感ヲ誘発スルノ懼アリ就テハ之ヲ含マシムル為 vessels of war limited by Part 3 of the present Treaty ナル字句ヲ用フルコト致シ度サレハトテ日本カ本条項ヲ援用シテ潜水艦ノ増量ノ「イニシアチーブ」ヲ採ルカ如キコトナント申入レシタルニ「リード」ハ「スチムソン」ト相談ノ上回答スヘキ旨ヲ答ヘ夕刻ニ至リ同氏ヨリ若規ノ來訪ヲ求メ「スチムソン」列席ノ上左ノ会談ヲ交ヘタリ

「ス」ハ先ツ若シ此ノ点ノ修正ヲ加フレハ貴國政府ニ於テ承諾セラルヘキヤト尋ネ若規ハ自分限リニテハ勿論承諾スヘキモ日本政府ハ条文全体ニ対シ最後ノ決定ヲナスモノナルニ付其ノ諾否ヲ予測スルコト能ハス但シ全權ノ修正アラ

ハ政府ハ余程承諾ヲ与フルコト容易ナルシト答く「×」
ハ露骨ニ御尋ネ致シ度カ万一仏カ其ノ巡洋艦駆逐艦又ハ潛
水艦ニ付老大ナル建造計画ヲナス場合日本ハ之ヲ重大ナル
脅威トシテ本条項ニ依リ潛水艦ノ保有量增加ヲ提言スルカ
如キ意思ヲ有セラレサルヤト問ヒタルニ対シ若規ハ日仏ノ
関係ハ率直ニ言ハ日米ノ関係ノ如ク密接ニアラス其ノ海
軍力ノ増加カ日本ノ脅威トナルコトハ想像シ能ベスト答く
「×」ハ例くハ仏カ其ノ巡洋艦若ハ潛水艦ヲ印度支那
地方ニ回艦セシムル場合ニモ然ルヤト質問シ若規ハ仏ノ海
軍力カ英米ノ海軍力ヲ凌駕スルカ如キ場合ニ至ラハ兎ニ角
現在ノ状況ヨリ判断シテ斯ル心配ハアルシトセ思ハレス
日本ハ一九三五年ノ會議ニ於テ其ノ数量ノ過少ヲ憂ヒ居ル
潛水艦ノ増量ヲ主張スルコトアルヘキモ夫ハ全ク本条約カ
次回會議ニ於テ各國ヲ拘束セサルノ原則ニ依ルヘキモノニ
シテ我ニ於テ本条項ヲ奇貨トシテ潛水艦ノ増量ヲ主張スル
カ如キコト決シテ之ナキコトヲ確信ス「×」ハ其ノ点
ニ付テ日本ノ信義ハ余ノ疑ハサル處ナリト述べ「スチム
ン」ハ余等ハ決シテ日本ノ真実ヲ疑フモノニアラス此ノ種
ノ質問ヲ為スハ誠ニ心苦シキ次第ナルモ実ハ米国ニハ大海

軍論者其ノ他多数ノ批評家アリ質問ヲ受ケタル際之ニ答フ
ルノ準備トシテ心ナラスモ御尋ネスル次第ナリ彼等カ本条
項ヲ見テ日本ニ潛水艦増量ノロ実ヲ与フルモノナリト批評
スルヲ保シ難キ点ハ御諒察ヲ請フ尚日本ヨリ其ノ確言ヲ得
タル以上米国モ亦仏伊其ノ他如何ナル國ノ関係ヨリモ本条
項ヲ援用シテ保有量ノ増加ヲ提唱スルカ如キコトナキコト
ヲ確言スヘシ余ハ本日午後「アレキサンダー」ヘモ相談シ
タルカ貴方ノ御要求ヲ容レ尚些少ノ修正ヲ加ヘ英國側モ承
認シ得ル案ヲ得タリトテ別電第三三四号ノ案ヲ示シ尚「ア
レキサンダー」ハ「スコットランド」ニ赴ケル首相ニ電話
シ其ノ賛認ヲ経ルノ必要モアリ大体同意ヲ得ヘント語レル
且ラ述く若規ヘ右修正通ニテ異存ナシト答ヘタリ

次ニ「×」ハ茲ニ御願ヒシタキ一件アリ今朝proportionate
ナル文字ノ解釈トシテ八時砲艦ニ閱シ最終総会ニ於テ声明
シ差支ナキ旨申上ケタルモ此ノ際斯ル声明ヲナスコトベ又
復自分等カ日本ニ讓歩セリトノ非難ヲ招ク懸念アルニ付イ
ハナサルコトニ御許シ願度シ但シ貴方政府ニ対シ米国側
エシテハ其ノ通解釈シ居ルモノナルコトヲ御報告相成ルコ
トハ何等異存ナシ「×」ハ右ハ文字ノ解釈上当然ノロ

ヘリシテ態々声明スル迄モナキコトナシハ右取止メハカル
ヘ御ト承相成度シ然レム万一米国上院ニ於テ本件ニ付質
問アルカ如キ場合ニハ右ハ今朝申上ケタルト全ク同様ノ説
明ヲナバクキコト御約束スくシテ述べタリ
在米大使ニ転電シテ、伊リ暗送ヤ

(司 翻)

London, April 17th a.m.

Rec'd. April 18th a.m. 1930

Gaimudaijin, Tokio.

No. 313

such increase. Thereupon, the other Parties to Part 3
of this Treaty shall be entitled to make a proportionate
increase in the category affected.

Zenkenjin.

(司 翻)

London, April 17th p.m., 1930.

Rec'd., April 18th a.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 314

If, during the term of the present Treaty, the requirements of the national security of any High Contracting Party in respect of cruisers or destroyers are in the opinion of that Party materially affected by new construction of any Power other than those who have joined in Part 3 of this Treaty, that High Contracting Party will notify the other Parties to Part 3 as to the increase required to be made in its own tonnage in the categories of cruisers or destroyers and shall be entitled to make

軍論者其ノ他多数ノ批評家アリ質問ヲ受ケタル際之ニ答フ
ルノ準備トシテ心ナラスモ御尋ネスル次第ナリ彼等カ本条
項ヲ見テ日本ニ潛水艦増量ノロ実ヲ与フルモノナリト批評
スルヲ保シ難キ点ハ御諒察ヲ請フ尚日本ヨリ其ノ確言ヲ得
タル以上米国モ亦仏伊其ノ他如何ナル國ノ関係ヨリモ本条
項ヲ援用シテ保有量ノ増加ヲ提唱スルカ如キコトナキコト
ヲ確言スヘシ余ハ本日午後「アレキサンダー」ヘモ相談シ
タルカ貴方ノ御要求ヲ容レ尚些少ノ修正ヲ加ヘ英國側モ承
認シ得ル案ヲ得タリトテ別電第三三四号ノ案ヲ示シ尚「ア
レキサンダー」ハ「スコットランド」ニ赴ケル首相ニ電話
シ其ノ賛認ヲ経ルノ必要モアリ大体同意ヲ得ヘント語レル
且ラ述く若規ヘ右修正通ニテ異存ナシト答ヘタリ

次ニ「×」ハ茲ニ御願ヒシタキ一件アリ今朝proportionate
ナル文字ノ解釈トシテ八時砲艦ニ閱シ最終総会ニ於テ声明
シ差支ナキ旨申上ケタルモ此ノ際斯ル声明ヲナスコトベ又
復自分等カ日本ニ讓歩セリトノ非難ヲ招ク懸念アルニ付イ
ハナサルコトニ御許シ願度シ但シ貴方政府ニ対シ米国側
エシテハ其ノ通解釈シ居ルモノナルコトヲ御報告相成ルコ
トハ何等異存ナシ「×」ハ右ハ文字ノ解釈上当然ノロ

ticularly the proposed increase and the reasons therefore, and shall be entitled to make such increase. Thereupon

the other Parties to Part 3 of this Treaty shall be entitled to make a proportionate increase in the category or categories specified, and the said other Parties shall promptly advise with each other through diplomatic channels as to the situation thus presented.

Zenken.

504 昭和5年4月17日 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～

振替艦譲轉請書

中華人民國政府に對する日本軍事機関

504

I am directed by the Chairman of the London Naval Conference to enclose for record a copy of the Secretary-General's notes of part of a meeting between the Heads and other representatives of the Delegations of the United States of America, the United Kingdom and Japan, held on Tuesday, 8th April, at 12 noon. These notes contain a record of a discussion on the subject of the replacement, in the event of loss by accident, of a cruiser of the Japanese "Furutaka" class. Similar letters have been sent to Mr. Stimson and the Permanent Under-Secretary of State for Foreign Affairs.

I have the honour to be,

Your Excellency,

Your obedient Servant,

Signed: M.P.A. Hankey

Mr. Reijiro Wakatsuki.

17th April, 1930.

LONDON NAVAL CONFERENCE, 1930.

Your Excellency,

LONDON NAVAL CONFERENCE, 1930.

CONFIDENTIAL.

EXTRACT FROM THE SECRETARY-GENERAL'S NOTES OF A MEETING BETWEEN THE DELEGATIONS OF THE UNITED STATES OF AMERICA, GREAT BRITAIN AND JAPAN, HELD AT ST. JAMES'S PALACE, LONDON, S.W.I. ON TUESDAY, APRIL 8, 1930, AT 12 NOON.

PRESENT:-

UNITED STATES OF AMERICA.

The Hon. Henry L. Stimson, Secretary of State.

The Hon. David A. Reed, United States Senator.

Mr. J. Theodore Marriner.

GREAT BRITAIN.

The Right Hon. J. Ramsay MacDonald, M.P., Prime Minister and First Lord of the Treasury.

The Right Hon. A.V. Alexander, M.P., First Lord of the Admiralty.

Vice-Admiral Sir William W. Fisher, K.C.B., C.V.O., Deputy Chief of Naval Staff.

Mr. R.L. Craigie, C.M.G.

Captain R.M. Bellairs, C.M.G., R.N.

Class in the improbable event of a shipwreck. As he had stated when he had communicated to the United Kingdom and American Delegations the instructions from Tokio the other day, it was the desire of Japan to build a ship of from 8,000 tons to 8,500 tons in replacement and the Japanese Experts had reported to him that the United Kingdom and American Delegations had not much objection to such building. That of course was a very improbable event but as it was a matter expressly mentioned in the instructions from the Government and the Japanese Delegation attached importance to it, he hoped that his request would be received sympathetically.

ADMIRAL FISHER said that the United States and the United Kingdom Experts had felt it important that no country should be permitted to exceed the tonnage laid down in the Agreement, whether that increase resulted from replacement owing to accident or otherwise. They thought that if this contingency should arise the

FURUTAKA Class that might be lost by a ship of over 8,000 tons displacement. In fact, he was told they had gone further and did not object to a 10,000 ton ship so long as the total category tonnage was not exceeded. He believed this report to be worthy of credit. His thought was that it was now necessary to decide these matters very rapidly. If one thing were said in one Committee, and another thing in another, this oscillation of opinion would only cause delay. Consequently, if his friends could agree to a from 8,000 to 8,500 ton ship, he hoped that this might be inserted in the Treaty. But if it were not acceptable to do so, he would like to see a decision made to have it stated on the records of the Conference that favourable consideration would be given to the proposal in case the eventuality should arise. As he had said on a previous occasion, he had received instructions from Japan on this point, and if it could not be conceded he would have to seek fresh instructions from his Government,

proper course would be for the Japanese Government to make representations at the time to the effect that they did not wish to replace the lost vessel by an unsatisfactory and out-of-date ship. In short, the question should be left over until the case should arise. 270

SENATOR REED said that of course his Delegation's wish would be to accommodate Japan as far as possible, but there was one very cogent reason against the proposal which, properly speaking, had nothing to do with Japan, namely, that it would open the door within the Treaty to the adoption of a principle that might be capable of misuse and might prove very inconvenient.

MR. MACDONALD said that it was in that spirit, and in that spirit only, that he felt bound to associate himself with Senator Reed.

MR. WAKATSUKI said that the Japanese Experts had reported to him that the Experts of the United States and the United Kingdom did not appear to object very strongly that Japan should replace any ship of the

and that would involve still further delay. He hoped, therefore, that his friends would give him satisfaction. He surmised that conversations to this effect had taken place at the Experts Committee.

ADMIRAL FISHER said that there had been much informal talk at the Experts Committee and a great deal of ground had been covered.

R. MACDONALD said that of course it had always been understood that any increase of size would be on the understanding that the total tonnage was not exceeded.

ADMIRAL FISHER said that this was a physical impossibility.

MR. MACDONALD concurred in the Admiral's statement.

MR. WAKATSUKI did not consider that it was a physical impossibility. As he had said on a previous occasion, the increased tonnage could be compensated by some reduction in the 6-inch gun Cruiser tonnage.

MR. MACDONALD said that such a transfer of tonnage was not acceptable.

COLONEL STIMSON said that of course any country had a right to replace an 8-inch gun Cruiser by one up to 10,000 tons displacement provided that the total tonnage was not exceeded. He understood, however, that Mr. Wakatsuki was speaking of the replacement of the FURUTAKA Class of 7,100 tons, and that in the event of a casualty to one of those ships he wished to replace it by a Cruiser of from 8,000 to 8,500 tons. That would involve an increase beyond the Japanese aggregate of 108,400 tons for 8-inch gun Cruisers. That was the real point at issue. He understood that while the rule should not be altered, nevertheless if this eventuality should arise Japan would then make a request, and his Government, he felt sure, would be inclined to consider such a request sympathetically. That was as far as he could go.

MR. MACDONALD said that if the case should arise

was not in accordance with the requirements of Tokio. But in order to come to an agreement, he would recommend the Government to agree to decide the matter in the way just suggested and he would do his best to get the Government to make that decision.

MR. MACDONALD said that so far as the Treaty was concerned, a clause ought to be included to provide that ships lost by accident should be replaced.

SIR MAURICE HANKEY pointed out that a clause to that effect was included in Chapter II, Part 3, Section I (c) of the Washington Treaty.

COLONEL STIMSON said the point was also provided for in one of the Memoranda submitted by his Delegation.

MR. WAKATSUKI said that that was a matter of course and his proposal had been advanced on the premises that such an article would be inserted in the Treaty.

MR. MACDONALD said he thought it was generally

it would receive sympathetic consideration.

COLONEL STIMSON said that the relations of the three countries, as demonstrated by the relations of the Delegations here, were such that if the case arose and Japan made representations to his Government they would receive sympathetic consideration. That was the furthest point to which he could go.

MR. WAKATSUKI said he much appreciated the attitude of both Delegations towards this question. He suggested that Sir Maurice Hankey should prepare a Minute of the Conversation on this particular point and circulate it to the Delegations concerned, for record.

COLONEL STIMSON said he had no objection.

MR. MACDONALD said he also had no objection.

COLONEL STIMSON thought that the note should be retained for the confidential use of the Governments. MR. WAKATSUKI said the instructions from the Government required that the matter should be expressly mentioned in the Treaty and therefore this understanding

agreed that the undertaking to give sympathetic consideration to the desire of the Japanese Government in the event of the loss of a Cruiser of the FURUTAKA Class should not be included in the Treaty but should be kept as a confidential matter between the three Governments. He hoped that the Japanese Delegation would appreciate what a large concession this was.

.....

505 昭和5年4月17日 総理外務大臣より
日ノムニ軍縮合意書(電報)

総理の本意範囲及ハ領事事項ニ關する附文

附文

本紙 4月17日送付

第1回九郎

貴電第1181号添文ハト既存ナシ酒呑木文母 the Washington Treaty ハ次リ電報第119〇号田原ハ如ク is required ハ填入ヤルハト解ベ

506 昭和5年4月17日 総理外務大臣より
日ノムニ軍縮合意書(電報)

ロハニハ海軍条約に関する時事、報知新聞
の評価について

本省 4月17日後5時30分発

第一五〇号

軍縮新聞情報

十七日時事ハ會議ハ先以テ大成功ト称スベク各國ガ今回示シタル協調的精神ヲ拡張セバ次回會議ニテ更ニ大ナル収穫ヲ得ベシ今回ノ成功ニハ日英米何レモ劣ラザル寄与ヲナン

居ル處日米關係ニ於テモ日本ノミ讓歩セリト見ルハ公平ナラズ米ガ大巡十五隻トシ残リ三隻ヲ權利ノ保留ニ止メタルコト及從来米國官民ガ鉄則ナリトセル華府比率ヲ変更シテ我總括七割ヲ認メタルハ米國政府ガ如何ニ日米友好關係ヲ高ク評価セルカラ實証セルモノニシテ日米關係ヲ不戰ノ精神ノ上ニ導キ又各國間ノ誠意信賴ヲ立証シタル平和的精神ノ勝利コソ軍縮事業ノ成績其ノモノニモ増シタル會議最大ノ効果トシテ吾人ノ最モ重要視スル所ナリト述べ報知ハ我正當ナル要求ガ實現ニ至ラズシテ次回會議ニ持越ナレタルハ痛恨事ニシテ吾人ガ協定ノ内容ニ対シ积然タリ得ザルハ無理ナキ所ナルモ會議各種ノ成果ガ國民負担輕減ノ為将又

ラズ米ガ大巡十五隻トシ残リ三隻ヲ權利ノ保留ニ止メタルコト及從来米國官民ガ鉄則ナリトセル華府比率ヲ変更シテ我總括七割ヲ認メタルハ米國政府ガ如何ニ日米友好關係ヲ高ク評価セルカラ實証セルモノニシテ日米關係ヲ不戰ノ精神ノ上ニ導キ又各國間ノ誠意信賴ヲ立証シタル平和的精神ノ勝利コソ軍縮事業ノ成績其ノモノニモ増シタル會議最大ノ効果トシテ吾人ノ最モ重要視スル所ナリト述べ報知ハ我正當ナル要求ガ實現ニ至ラズシテ次回會議ニ持越ナレタルハ痛恨事ニシテ吾人ガ協定ノ内容ニ対シ积然タリ得ザルハ無理ナキ所ナルモ會議各種ノ成果ガ國民負担輕減ノ為將又

第三二一號

ロンドン 4月18日後発
本省 4月19日前着

主力艦艦齡延期問題に付テハ往電第二六九号三國全權會議

國際平和促進ノ為重大ナル意義アルヲ思ハバ如何ニ割引スルモ會議成敗ノ總決算ニ於テハ其成功ト有意義ナリシコトトヲ確認セザルヲ得ズト述バタリ

507 昭和5年4月18日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

主力艦艦齡延期問題に付テハ往電第二六九号三國全權會議

ニ於テ一応決定ヲ見タルモ本件ハ華盛頓條約規定ノ事項ニシテ五國ノ同意ヲ得スンハ最後ノ決定ヲナシ得サル關係ニアリ而シテ仏伊側ハ二十年ノ艦齡ヲ延長スルコトニ同意セス英米側ニテハ休日ヲ設定スル以上必シモ之ヲ強調スル必要ナント唱ヘ條約委員会及起草委員会ニ於テ日本側ヨリ已ムナ得スンハ三國丈ノ協定トシテ條約中ニ包含セシメンコトヲ主張シタルモ英米側ヲ同意セシムルコト能ハス結局一九二五年會議ノ問題ニ讓ル外ナキ事態トナレリ御了承願

度シ
米ヘ転電シ仏伊ヘ暗送セリ

508 昭和5年4月18日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛（電報）

保障條項中の用語の改訂方英國側の希望に付

する米国側の態度について

別電 四月十八日ロンドン軍縮會議全權より幣原外務大臣宛第三二五号
保障條項中の用語に關する英國首相の演説案
付記 四月二十一日の最終總會議における保障條項に
關する英國首相の声明

差支ナシトノロトナリシヲ以テ最終總會議席上「マクドナルド」首相ノ演説中ニ於テ此ノ点ヲ明瞭ニシ置キ度シト申入アリタルニ付差支ナキ旨回答セシメ置キタル處十八日「ク」ヨリ別電第三二一五号ノ通右文案送付越シタリ
在米大使ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

差支ナシトノロトナリシヲ以テ最終總會議席上「マクドナルド」首相ノ演説中ニ於テ此ノ点ヲ明瞭ニシ置キ度シト申入アリタルニ付差支ナキ旨回答セシメ置キタル處十八日「ク」ヨリ別電第三二一五号ノ通右文案送付越シタリ
在米大使ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

差支ナシトノロトナリシヲ以テ最終總會議席上「マクドナルド」首相ノ演説中ニ於テ此ノ点ヲ明瞭ニシ置キ度シト申入アリタルニ付差支ナキ旨回答セシメ置キタル處十八日「ク」ヨリ別電第三二一五号ノ通右文案送付越シタリ
在米大使ニ転電シ仏伊ニ暗送セリ

London, April 18th p.m., 1930.
Rec'd, April 19th a.m., 1930.
Gainudaijin, Tokio.
No. 325

In the draft Article the words used are "materially affected by new construction of any Power".

By this we mean that we might be obliged to have recourse to this clause if at any time hereafter the position of any Power or Powers in ships built, building and authorised, becomes such as materially to affect our naval position.

But we want to make it perfectly clear that we have no intention of operating this Clause unless it is ab-

solutely necessary and we have every hope that as a result of the conversations after the adjournment of the London Conference a position will be arrived at where it will be unnecessary to have recourse to it.

Zenken.

(**支那**)

The British Government place a very high value on Paris Pact and Treaties for the peaceful settlement of disputes, and they, therefore, made an offer to come to an agreement upon all-round reductions in naval strengths from battleships to submarines, in such a way as not to entail a loss of security upon any nation. Such an agreement has been come to between the United States, Japan and ourselves, but the European situation was harder to resolve. Until it is resolved and agreement is come to regarding it, every bond of limited scope must have the protection of a safeguarding clause such as that in the Treaty which we sign today. But I wish to say this about that clause. It is not put in as an

easy way to get round the Treaty. I hope it will never be used, but if it has to be, that will only happen after every effort has been made to avoid it. Only when it is apparent that, owing to the ships built, building or definitely authorised by any Power or Powers, our naval position is so affected that it is impossible for this country to rest in peace of mind upon the figures embodied in Part III of this Treaty. Only then shall this protection clause be thought about.

The British Government are ready now, and always will be, to strive with might and main to prevent this arising, and we have every hope that, as a result of the conversations after the adjournment of this Conference, an understanding will be arrived at which will make any use of it absolutely unnecessary. I will appeal to the public opinion of Europe to range itself behind those who are to conduct these further negotiations so that, with as little delay as possible, they may terminate in agreements on limitation and reduction which can

be fitted into the Treaty now open for signature.

509 臨時5年4月21日 ローマン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

第十七回首席全權會議の総理より

ローマン 4月21日後発
本 省 4月22日前着

第1111件印

四月二十一日最終首席全權會議開催(「パリト」)「ハハハ
」不在「ハハハ木」「シット」代理く)

1、「パリト」へ憲明日調印ハコトトタタルカ条

約ハ閣シ各國側ニ於テ最早何等問題之ナカルクキヤ此ハ

最終首席會議ニ於テ有ヨル問題ヲ一掃シ明日総会ハ席上

リテ問題ヲ起スカ如キヨナキヲ必要トスト述く一回問

題ナシト答く「ハ」ハ「ハハハ」ノ列席ヲ見サルクキ
く遺憾ナルヤ調印ノ手筈ハ既ニ各國トヤ手筈済ハナリト
テ賀ノ意ヲ表セリ

1、「ハハハ」ハ当然ノハナビトハ首席會議ノ承認ハ絶置
キ度キ一處アリテ潛水艦使用制限條項ニ所謂商船ハ勿

チムソン」ハ軍縮會議ハ将来隨時開催セラルモノナル

ヘキニ付年号ヲ付シ置クモ便利ナルヘシ從テ今回ノ條約

ハLondon Naval Treaty of 1930 ム命名シ然ルヘシト提

言シ或ハ華盛頓條約ノ如ク Limitation of Armaments

ナルコトヲ明言スル方然ルヘシトノ議論モアリタルモ広

汎ナル字句ノ方然ルヘシトノ説多ク原案通り決定セリ

米ニ転電シ、仏、伊ニ暗送セリ

510 昭和5年4月(22)日

ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

ロンドン海軍條約調印済について

ロンドン

本省 4月22日後着

第三四二号(至急)

二十二日午前十時半予定ノ通最終總会開催條約調印ヲ了セ

リ

511 昭和5年4月22日 外務省公表

最終總會議における若槻首席全權の声明

公表第四号

昭和五年四月二十二日

外務省

若規帝國全權ハ昭和五年四月二十二日倫敦海軍條約署名ニ

際シ左ノ声明ヲ為セリ

余ハ茲ニ日本全權ヲ代表シ議長カ常ニ其卓拔ナル識見ト懇

誠ト忍耐トヲ以テ會議ヲ指導セラレ以テ複雜多岐ナル問題

ニ関シ円満ナル解決ヲ齋サレタル努力ニ対シ滿腔ノ謝意ヲ

表セントスルモノナリ諸外國同僚ノ忠實ナル協力ト誠実ナ

ル友誼トハ余ノ感謝シテ措カサル所ナリ吾人ノ滯在中倫敦

市民ヨリ受ケタル好遇殊ニ英國政府カ今次會議ノ召集ヲ發

議セラレタル上ニ吾人ノ任務遂行ニ付多大ノ便宜ヲ与ヘラ

レタルハ余ノ感銘ニ堪エサル所ナリ

日本カ今回ノ會議ニ於テ戰爭ノ永久絶滅ヲ基調トセル不戰

條約ノ崇高ナル精神ニ則リ海軍軍備ノ縮減ニ関スル協定ノ

締結ニ依リ各國間ニ和平友好ノ關係ヲ確立スルノ最モ緊要

ナルヲ思ヒ全力ヲ尽シテ今回會議ノ成功ニ努メタルコトヲ

茲ニ述フルハ余ノ欣幸トスル所ナリ然レトモ軍備制限ニ関

スル協定ノ締結ニ當リテハ国防ノ安全ヲ十分ニ考量セサル

ヘカラサルヤ論ヲ俟タス帝國政府ノ方針ハ常ニ國土ヲ防衛

シ極東ニ於ケル一般平和維持ノ責務ヲ遂行スルニ足ルヘキ

最少限度ノ海軍力ヲ保持スルヲ主眼トセルモノニシテ日本海軍ハ如何ナル意味ニ於テモ他國民ニ懸念ヲ与フルカ如キモノニ非サルコトハ會議内外ニ於テ余ノ既ニ屢々述ヘタル所ナリ

斯ノ如キ帝國ノ態度ハ将来久シキニ亘ル事態ヲ律セント

テ若シ今回ノ條約ニシテ将来久シキニ亘ル事態ヲ律セント

スルモノナルニ於テハ日本國民ハ其國防ニ関シ不安ノ念ヲ抱クコト無キヲ保シ難キモ現協定ハ一九三六年迄ノ間關係各國ヲ拘束スルニ止マリ爾後各國ノ保有スヘキ海軍力ニ至リテハ次回會議ニ於テ改メテ考慮セラルヘキ趣旨ナルニ鑑ミ日本ハ此種條約ノ締結カ必然國民ノ安全感ヲ強固ナラシムヘシトノ確信ニ基キ且熱烈ナル平和促進ノ希望ト交譲妥協ノ精神ヨリシテ欣然本條約ニ承認ヲ与ヘタル次第ナリ今

回協定セラレタル我兵力量特ニ八時巡洋艦ノ保有量及「オ

ブショーン」ノ權利行使ノ場合ニ於ケル保有總數ハ本條約有効期間後何等制限ヲ受クルモノニ非シテ本條約ノ規定ハ次回會議ニ於ケル我國ノ立場ヲ何等拘束スヘキモノニア

ラサルコト關係各國間ニ明瞭ナル諒解アリタルハ帝國政府ノ重要視スル所ナリ

512 昭和5年4月22日 外務省公表

ロンドン海軍條約調印に際しての幣原外務大臣談話

公表第五号

昭和五年四月二十二日

外務省

倫敦條約調印ニ際シテ

幣原外務大臣談

平和ヲ欲スルモノハ軍備ヲ整ヘヨト云フ古イ言葉カ屢々善意ノ平和論者ニ依ツテ説カレタコトカアル軍備ノミニ依ツテ國家ノ安全ヲ図ラムトスル考ハ永イ間世界各国ノ頭脳ヲ支配シテ來タノテアル然シ乍ラ或ル國カ大ナル軍備ヲ整フレハ他ノ國カ之ニ猜疑恐怖敵愾ノ念ヲ抱クニ至リ自ラモ軍備ヲ拡張スルコトナルノハ當然デアツテ斯クシテ諸國民ハ過重ナル軍事費ノ負担ニ苦シミツツモ軍備競争ヲ行ヒ而カモ其勢ノ激スル所國際關係ヲ悪化シ往々ニシテ戰爭ヲ誘発シ大ナル軍備ハ却テ國家ノ安全ヲ危殆ナラシメ國民ニ凡ユル不幸ヲ齎スノテアツテ世界大戰ノ史実カ人類ニ与ヘタ最大ノ教訓ハ之テアル

然ルニ軍備ハ各國間相對的ノモノテアルカラ若シ國際協定ニ依ツテ各國共同時ニ其軍備ヲ縮小スルコトスルナラハ何レノ國モ安ンシテ之ヲ為シ得ルノテアツテ其結果ハ啻ニ善シ戰爭發生ノ危險ヲ輕減シ得ルノミナラス國際關係ヲ改善スコトニナルノテアル歐州大戰ニ苦キ經驗ヲ嘗メタル各國ノ輿論カ戰後真剣ニ平和ノ確立ヲ希求シ國際協力ニ依ツ

テ其希望ヲ達成セムト努メツツアルノハ此点ニ目覺メタルカ故テアル
尤モ人類鬭争ノ永キ歴史ハ一朝一夕ニシテ各國民ノ脳裏ヨリ消エ去ルモノテハナイ今ヤ文明諸國ハ正義ニ基ク平和ヲ確保セムカ為國際連盟其他ノ國際紛争解決機關ヲ設ケ他方不戰條約ニ依ツテ戰爭ノ絶滅ヲ期シ此不戰ノ決意ヲ基礎トシテ軍縮ヲ促進セシムルニ最善ヲ尽シツツアルト共ニ國際政局ニ於ケル現実ノ状態ヲ無視シテ一足飛ヒニ武備全廃ノ理想ニ到達スルノ事実不可能テアルコトモ認メテ居ル此際ハ國際關係改善ノ程度ニ伴ヒ漸ヲ趁ウテ進ムノ外ナインコト即チ今世紀ノ初頭海牙平和會議ニ於テ達成シ得サリシコトモバ里平和會議及華府會議ニ依ツテ成就セラレ數年前華府會議及壽府會議ニテ成ラサリシコトモ今日倫敦會議ニ於テ實現シ得ルニ至ツタノテアル

本日倫敦ニ於テ調印セラルル條約カ少クトモ其有効期間内日英米三國間ニハ一切ノ艦種ニ付テ建造競争ヲ全ク抑止シ而モ各自ノ安全感ヲ著シク昂メ國民ノ負担ヲ輕減スルニ成功シタコトハ世界各國民共通ノ崇高ナル目的ニ向ツテ大ナ

ル一步ヲ進メ得タモノテアル殊ニ若シ會議決裂ノ場合必然

生スヘキ國際關係ノ惡化各國民負担ノ加重國際平和協力ノ精神ニ加ヘラル重大ナル打擊等諸般ノ好マシカラサル結果ニ想到セハ特ニ此感ヲ深クスルノテアル

倫敦條約ハ參加各國全權カ苦心慘憺タル努力ノ結晶テアツ

テ此等全權カ世界各國民ヨリ深キ感謝ヲ贏チ得ヘキハ当然テアルト共ニ他方吾人ハ此會議ヲシテ茲ニ至ラシメタルハ此等各國民間ニ存スル平和及協力ノ精神ノ勝利テアルコトヲ認メサルヲ得ナイノテアル

号外
浜口總理大臣へ若槻ヨリ
本日條約ニ調印シタリ微力充分ノ成績ヲ挙クル能ハス慚愧ニ堪ヘス政府カ確乎タル信念ヲ以テ終始余ノ行動ヲ支持セ

ラレタルハ感謝ニ堪ヘス

514 昭和5年4月(23)日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

条約調印に當り山梨海軍次官への謝意表明について

ロンドン

本省 4月23日前着

号外
山梨海軍次官へ若槻ヨリ

本日條約ニ調印セリ成績ノ不充分ナリシハ慚愧ノ至リナリ終始多大ノ同情ヲ賜ハリタルコトヲ感謝ス

513 昭和5年4月(23)日 ロンドン軍縮會議全權より
幣原外務大臣宛(電報)

条約調印に當り政府に対する謝意表明について

ロンドン
本省 4月23日前着

ついて

ロンドン 4月23日後発

本省 4月24日後着

号外

浜口總理大臣へ若槻ヨリ

本日條約ニ調印シタリ微力充分ノ成績ヲ挙クル能ハス慚愧ニ堪ヘス政府カ確乎タル信念ヲ以テ終始余ノ行動ヲ支持セ

新聞報

第三四九号

4 会議の経過

倫敦海軍条約調印ニ関シ二十三日ノ諸新聞ハ一樣ニ社説ヲ掲ケ其ノ成功ヲ祝賀シ居レル处「タイムス」ハ今回ノ會議ハ久シキニ亘ル軍縮ノ道程ニ重要ナル一段ヲ画スルモノナリ完全ナル五国協定到達セラレサリン憾ハアルモソハ諸国全權ノ達成セル偉業ヲ唯一時のニ蔽フニ過キサルノミ三国協定交渉ノ成功ハ日本政府ノ政治的手腕並ニ其ノ實際的識見ニ負フコト真ニ大ナルモノアリト云フヘシ又三国協定ハ會議ノ最顯著ナル成功ナリト雖五ヶ国全部ノ間ニ結ハレタル諸協定ノ重要性ヲ輕視スルハ誤ナリ即チ主力艦他種艦艇ノ制限ト相俟ツテ多大ノ輕費節減ヲ齎スヘク専門技術的問題ニ関スル協定ハ将来ノ會議ヲ容易ニスルノ用ヲナスヘク制限方法ニ関スル嶮数主義並ニ艦種別主義間ノ妥協案ハ連盟ニ移牒セラレ軍縮準備委員会ニ貢献スル処大ナルモノアルヘシ尚之等具体的難問ヲ経過シタルニ拘ラス昨日真ノ友誼ト希望トノ中ニ互ニ袂ヲ分ツニ至レルハ誠ニ慶賀スヘキ事実ナリ「マクドナルド」氏カ會議中終始老練ナル手腕ト忍耐トヲ以テ困難ナル交渉ノ局ニ当リ平和ト軍縮ノ為ニ尽瘁セル誠意ハ各国全權及世人一般ノ等シク多トスル処ニシテ又「マクドナルド」「ボーリードウイン」「フーバー」「ス

ムル程度ノモノニアラサルコト現実ノ事態ニシテ今回調印セラレタル條約ハ恐ラク現存國際政治關係ノ親善ノ度ヲ相當正確ニ反映セルモノナリト言フヘン各國全權ハ其ノ利用シ得ヘキ材料ニ從ヒ最善ヲ尽シタルモノニシテ一九三六年ニ於テ再ヒ成功ヲ収ムル為ノ素地ヲ準備スルハ今後政治家ニ課セラレタル任務ナリト言ヒ「ポスト」ハ倫敦會議ハ華府ニ於ケル成果ヲ増進シタルモノニシテ首相ハ其ノ努力ニ依リ相当ノ事業ヲ達成セルモノナリト言フヲ得ヘシ三国協定ハ大型巡洋艦ノ脅威ヲ低下スル点ニ於テ有益ニシテ又留保条項ハ結局協定ヲシテ骨抜キノモノト為サシムル虞アルモ同時ニ英國ニ欠クヘカラサル保障ヲ与フルモノナリ海相ニ対シテハ節約カ海軍政策ノ目的ナリトノ誤謬ニ陥ラサラムコトヲ希望ス海軍政策ノ眼目ハ安全ニ在ルコト昔ト異ラス而シテ安全ハ絶エス油断ナク備フルコトニ依リテノミ之ヲ贏チ得ルモノナリ必要以上ニ建造セサルハ良シトスルモ決シテ必要以下ナラサルコト遙ニ重要ナリトス英國ハ巡洋艦驅逐艦ノ建造ニ遅レ居ルモノナレハ其ノ新造代換ヲ終始念頭ニ置クコトヲ要スト言ヒ「ヘラルド」ハ倫敦條約茲ニ調印セラレ一九二七年ニ保守党政府カ失敗シタル處ヲ一九

チムソン」諸氏ノ努力ニ係ル英米親交ノ增進ハ他ノ何物ヨリモ會議ノ成功ヲ齎スニ大ナル効果アリタリト述ヘ「テレグラフ」ハ倫敦條約カ既成ノ軍縮事業ニ對シ重要ナル進展ヲ加フルモノナルコト疑ナシ英米ノ間ニ於ケル海軍關係ハ新ニ確乎タル基礎ノ上ニ樹立セラルコトナルヘク一方日米ノ公正ナル協定ハ太平洋ニ於ケル両國間ノ諸問題ノ円満妥結ニ對スル途ヲ開キタリ又仏伊カ全ク胸襟ヲ開キ誠意ヲ以テ相互ノ見解ヲ披瀝セルコトハ両國ノ關係ヲ寧ロ善導スル處アリ両國ノ間ニ於ケル政治的妥協ハ其ノ影響スル處大ナルモノアルヘク「マクドナルド」氏ハ會議中ニ得タル教訓即チ嚴正ニ公平ナルヘキコト並ニ英國ヲシテ何等ノ新義務ヲ負ハシメサルヘキコトヲ念頭ニ置キツツ今後モノ間ニ斡旋ノ勞ヲ採ルヘシト云ビ「ガージアン」ハ會議ノ成功ト失敗トヲ顧ミテ幾多ノ教訓ヲ学ヒ得ルモ最明瞭ナル教訓ハ仏伊ノ相互關係並ニ會議ニ對スル關係ニ於テ示サレタルカ如ク有効ナル軍縮ノ唯一ノ基礎ハ政治的協定ニアリトノコトナリ今日各國民ノ安全感並ニ相互信賴ノ念ハ有効且一般的ナル軍縮ヲ可能ナラシ兩國ノ間ニ斡旋ノ勞ヲ採ルヘシト云ビ

延長セラレ其ノ種老大ナル軍艦カ将来新ニ建造セラレサルノ希望ヲ生スルニ至レリ然レトモ此ノ成果ハ未タ充分ノモノト言フヲ得ス軍備ノ制限ニシテ縮小ニハアラサルヲ以テ之ニ満足スルコトナク将来更ニ大ナル努力ヲ為スヘキナリ惟フニ一年以前ニハ眞面目ニ英米戦争ノ可能性ヲ論議スルモノアリタルモ今ヤ此ノ惡夢ハ腹藏ナキ談合ト勇邁ナル外交トニ依リ消散セラレタリ英米ノ親善ハ三国協定ヲ作り伊ノ確執ハ五国協定ヲ妨ケタリ唯恰モ英仏ノ確執カ一九二七年ニ露出セラレタルカ如ク仏伊ノ夫レカ今回ノ會議ニ於テ現ニセラレタルハ會議ノ一収穫トモ言フヘク終極ニ於テハ今回失敗ト看做サルル処ノモノ或ハ會議ノ最重要ナル成 功トナルニ至ルヤモ知レス云々ト述ヘタリ

パリ 4月23日後発
本省 4月24日前着

第一一四号

倫敦海軍協定成立ニ関スル新聞論調ノ重ナル点左ノ如シ

一、米國ハ英國ト名義上ノ「パリチー」ヲ得タルコトヲ以テ甘ンシ之ヲ実現セントハセサルヘク又仏伊両国ハ全ク自由ナル立場ニ置カレタリトハ言ヘ日英米三国ノ政治的

圧迫ニ依リ意表ニ出ツル造艦ヲ計画スルカ如キコトナカルヘシ尚本協定ノ成立ニ及ヒ日米間ニハ長期間ノ平和カ

確保セラレ太平洋及ヒ極東ニ於テ戦争発生ノ虞ハ消失セリ右ハ英國ノ海上霸權喪失ト共ニ會議ノ齋シタル二大結果ナリ（「マタン」）

二、本協定ノ成立ニ依リ仏國ハ日本ト同シク華府条約ノ拘束ヨリ脱スルコトヲ得タリ（「エクセルシオル」）

三、安全保障ノ問題解決セサリシ結果仏國カ完全ナル行動ノ自由ヲ維持シ其ノ信スル処ニ從テ国防ヲ計ルノ權利ヲ保有シ得タルハ大イニ喜フヘキコトナリ又五国協定ハ伊國ニシテ其ノ主張ヲ曲ケサル限り之カ實現困難ナルヘシ（「タン」）

517 昭和5年4月23日 佐藤ロンドン軍縮會議事務総長より
堀田欧米局長宛

日米妥協案成立前後の事情申進について

四月二十三日

倫敦ニテ

東京 佐藤 尚武

堀田老兄

拝啓客秋御厚情ニ預カリ候以来御不沙汰寵在候處愈々御清昌慶賀ノ到リニ存候今回會議ニ関シテハ一ト通リノ御骨折ニ無之當方態度不判明ノ為メ隨分御因リ相成候事ト存シ誠ニ恐懼ニ存候昨秋御面会ノ節当地情況逐一本省へ知ラスベク又都合ニ依リ特別符号ニテ貴台迄通報スル様ニトノ御話ニ有之候得共実ハ各種私會見ノ内容ハ詳シ過ギル程本省へ電報セラレ小生ヨリ繼足シスルニ及バザルト同時ニ小生ニ於テ余リ出過ギテハ全權中ニ不快ニ感ズル人ナキヲ保セズ

ト被察タル為メ態ト差控エタル次第不悪御含置被下度願上候

最後ノ決定ニ当リ本省ノ採ラレタル態度誠ニ感歎ノ外無御座実ハ四月一日ノ御回訓ニ依リ蘇生ノ思ヒ致候次第ニテ或ハ不可能ト知リツツモ今一応英米ニ懸合ヒヲ要スル杯ノ御訓令ニ不接哉ト心配罷在候矢先キ誠ニ理義徹底一点ノ批評ヲ許サザル御回訓ニ接シ小生等一同思ハズ喊声ヲ發シ候次第或ハ御想像以上カト存候

実ハ三月十四日請訓ノ電報差電迄ニハ隨分込入りタル経緯有之海軍側ニテハ終始自重隠忍説ニテ何等新提案ヲ出サズ唯最後ノ妥協案ニ対シ不贊成不許諾ノ態度ヲ持続セリト云フ迄ニテ一向責任ヲ執ラザル有様ニ有之如斯状態ヲ継続スルニ於テハ如何ナル事態ヲ醸サズトモ不限ト痛心セラレ依テ山川、斎藤、加藤、栗山ノ面々ト毎日毎夜凝議ノ結果吾々限リニテ請訓ノ電報案ヲ認メ十三日夜急ニ全權ノ集合ヲ願ヒ急遽決定シタル次第ニテ右請訓ノ原案ハ全然葬り去ラレ更ニ全權方ニ於テ自ラ執筆セラレタル請訓案ガ電報セラレタル次第ニテ之トテ最後ニ海軍側ヨリ苦情出デ更ラニ加筆セラレタル為メ妥協案ガ最後案ヤラ何ヤラ判明セザルニ

四、英國ハ軍備競争防止ノ目的ヲ達シタリトハ言ヘ之カ為

世界ニ於ケル海上霸權ヲ犠牲トシ単ニ歐州海上ノミニ於ケル二國標準主義ヲ以テ満足スルコトトナレリ（「デバ」）

到リ甚ダ不徹底ノ申出デト相成遺憾ノ至リニ存候得共當時ノ狀況ニ於テハ是以上ニ進ム能ハズ唯幸ヒニ本省ニ於テ当方ノ事情充分御参酌被下遂ニ最後ノ決定的訓令ヲ發セラルニ到リ破裂ノ危険全然一掃セラレ公明正大ナル政府ノ態度ハ英米側ヲシテ感歎措ク能ハザラシメタル次第誠ニ邦家ノ為メ慶賀至極ニ有之僅カニ潛水艦一二万屯若クハ巡洋艦一二隻増加ノ問題ニハ無之今回ノ政府御決心ハ英米及ビ全世界ニ対シ國威ヲ發揚シ信用ヲ増シタル事幾何ナルヲ知ラズ大臣ノ終始一貫セル卓見御決心且ツハ老兄方ノ御苦心唯々感佩ノ外無御座全權初メ出先キノ者共如何許リ助カリタルヤハ蓋シ筆紙ノ尽クサザル処ニ有之此等ノ事情ハ其内先發帰朝ノ斎藤兄ヨリ逐一御聞取願上候

唯茲ニ一言御参考延伸上置度一事有之上記ノ通り財部全權ハ勿論隠忍説ニテ今以テ請訓早過ギタリトノ感想ヲ有セラレ候次第ニ有之一日小生トノ会談中（調印ノ訓令接到後ノ事）再ビ右ニ言及相成候ニ付小生ヨリ政府ハ同全權ト此点ニ於テ見解ヲ同ウセザリシガ為メ日米妥協案ニ対シ最後ノ訓令ヲ發セラレタルモノト思考スル旨申述候處同全權ハ結果ハ小生ノ言ノ通リナリ併シ政府内部ニ於テモ此点ニ関シ

軍縮新聞報

二十二日米国全権「リード」ハ米国ニ対シ倫敦条約ニ関ス
ル放送演説ヲ為シタルカ右演説中吾人ハ決シテ外交的勝利
ヲ收メタリトハ思考シ居ラス條約ハ何レノ國ニ対スル勝利
ニモアラス公明正大且妥当ナル取極ニシテ何レノ國ニ対シ
テモ公正ナルモノナリト述ヘ同條約ハ日英米三大海軍國ノ
間ニ友好平和ナル關係ヲ維持スルコトヲ意味スルモノナリ

トテ英國トノ関係ヲ説キタル後日本ニ隣シ吾人ハ日本カ米國ニ対シ友誼的精神ヲ有スルコトヲ確信ス然ラサレハ日本ハ米国カ日本ヨリ有力ナル巡洋艦ヲ建造セントスルニ拘ハラス自國ニ於テハ巡洋艦ヲ建造セサルコトニ同意セサルヘシ同時ニ日本ニ於テモ米国ノ日本ニ対スル友誼的精神ヲ馳致スルニ相違ナシ然ラサレハ吾人ハ多数ノ駆逐艦ヲ廃棄シ且快ク潜水艦ノ「パリチ」ニ同意セサルヘケレハナリ本日ハ日米両国カ互ニ親善ナルコトノ歴然タル証拠ヲ示シタルモノニシテ其ノ価値ハ如何ナル日米親善論ニモ勝レリ吾人ハ単ニ両国ノ友好関係ヲ希望スト述フルニ止マルモノニアラスシテ如何ナル懷疑者ト雖疑フ挾ミ得サル様實質的ニ

車輪ノ勤キニテ内外ニ対シ重キヲ為シタルハ実ニ感服ノ
官ヘハ老兄ヨリ可然御伝被下度本省トシテハ之ヨリ枢府
控エ事務御多端ト被存折角御攝養專ニ祈上候小生ハ本
月未迄当地ニ在リテ報告ノ仕上ヶヲ手伝ヒ来月三四日頃寿
市ニ参リ伊藤君ニ代ハリ安全保障委員会へ出度存居候幸ヒ
頑健御放念被下度

草々 頓首

昭和5年4月(24)日 在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

第一三五号

演説について

ワシントン 本 省 4月24日後着

ロンドン海軍条約の批准手續などに関する放送

ツトン國務長官代理の談話について

第一三七号(極秘)

昭和5年4月24日 在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

十四日「コツトン」國務長官代理ニ面会ノ際倫敦条約ニ
スル同氏ノ意向ヲ探リタル処大要左ノ通語レリ
内密ノ御話ナルカ実ハ會議開催以来自分ハ毎週少クモ一
回上院外交委員長「ボラー」ニ親シク會議ノ経過ヲ知ラ
セ居リ從テ會議ノ内情ヲ良ク承知ス「ボラー」ハ元來主
義ノ人ニシテ軍縮ニ一步ヲ進メ得ハ制限スヘキ軍艦ノ数
ハ之ニ全然賛成ナルニ付上院ニ付議ノ際ニハ最善ノ努力
ニ頓著スルモノニアラス

287

286

ヲ以テ其ノ通過ヲ計ルモノト信ス又「リード」「ロビンソン」両全権モ夫々党内ノ同志ニ対シ隨時會議ノ経過ヲ内報シ其ノ諒解ヲ得ルコトニ努メタル趣ニテ右ハ多数上院議員カ會議ニ対シ沈黙ヲ守リ来レル所以ナリ依テ條約カ上院ニ提出セラレタル場合ニハ前記三氏協力シテ其ノ通過ニ努力スヘキコトハ明カニシテ「ヘル」「ブリテン」一派ノ大海軍論者ヨリ激烈ナル反対アルヘキモ協賛ハ疑ナシト信ス

「スマソン」唯今ノ処來火曜(二十九日)紐育着ノ予定ナルカ大統領ハ同氏華盛頓帰着次第成ルヘク速ニ條約ヲ上院ニ付議スル積リナリ時日ノ点ニ付テハ今日ヨリ予測シ難キモ五月末頃迄ニハ批准ノ運ニ至ルヘント思考セラル從テ議會ハ之力為会期ヲ延長スルコトナク予テ予測セラレ居ル通七月中旬頃ヲ以テ閉会スルコトトナルヘシ尚世上米國ハ先ツ英國ノ批准ヲ待ツヘシトノ説ヲナスモノアルモ米國自身カ是ト認メタル條約ハ他國ノ態度如何ニ拘ラス出来得ル限速ニ批准ノ手続ヲ進ムル考ナリ

(二)倫敦條約首尾善ク成立ノ結果日英米三国ノ関係益々親善ヲ加フルヲ得ルコトハ御同慶ノ至ニ堪ヘス仏國トノ関係カ其ノ間一部ニハ対英「パリチー」ト削減トハ兩立セサル旨ヲ指摘スル者モアリタルモ「パリチー」ニ対シ真向ヨリ反対ヲ唱フル者見当ラサル有様ニテ英米三国間ニ完全ナル合意成立ノ報伝ハルヤ一般輿論ハ先ツ対英「パリチー」ヲ確保シ得タルコトヲ極メテ満足トシタル如ク要スルニ今回ノ會議ニ際シ対英「パリチー」確保カ米國民一般ニ最強ク響キ居リ從テ一般ノ注意ハ専ラ此ノ点ニ向ケラレ居ルモノト見受ケラル一方他ノ三ヶ国トノ関係ニ付テハ五國条約ノ成否ニ関連シ就中仏伊ノ態度ハ相當ノ注意ヲ牽キ或ハ英米殊ニ英國側カ仏國ノ態度ヲ前以テ充分ニ考慮シ置カサリシコトヲ遺憾トスル者アリ又會議ノ進行ニ伴ヒ仏伊殊ニ仏ニ対シ非難スル者アリタリ前述ノ如ク當國輿論ハ対英均勢ヲ第一義トシ次テ仏伊ノ態度ヲモ相当重要視シタル關係上我が國ニ關シテハ表面特ニ目立テ論議シタルコト尠ク(個々ノ問題ニ付テハ終始報道乃至詳論セルハ勿論ナルカ之トテ別段攻撃カマシキ態度ニ出タルコトナシ)且概シテ好意的態度ヲ持続セリ殊ニ全權訪米ノ際當國一般カ極メテ良好ナル印象ヲ得タルコトハ既ニ御承知ノ通ニテ又寿府會議當時ノ總健ナル我態度並ニ近年我對外政策カ一般ニ平和的トナリタル

英ニ転電シ英ヲシテ全權ニ転達シ仏、伊ニ暗送セシム
~~~~~  
英ニ転電シ英ヲシテ全權ニ転達シ仏、伊ニ暗送セシム  
处ナリ

520 昭和5年4月25日 在米国出淵大使より

幣原外務大臣宛(電報)

### ロンドン軍縮會議の期間における輿論の推移

について

ワシントン 4月25日後  
本 省 4月26日後着

### 第一四二号

昨年大統領「マクドナルド」首相会見前後ヨリ倫敦會議ヲ通シ海軍問題ニ閑スル當國ノ輿論ハ隨時報告致置キタル通終始英國ニ対スル「パリチー」確保ヲ最重要視スルト共ニ海軍削減ニ依ル國民ノ負担輕減ヲ要望スル声強ク從テ大統領及政府當局ニ於テモ機會アル毎ニ対英「パリチー」確保及軍費節減ヲ會議ノ重要目的トシテ交渉シ来レル次第ナル

コト等ハ機会アル毎ニ新聞紙ノ言説ニ現レ海軍問題ニ閑スル我主張ニ対シ同情ヲ以テ理解セント努メタル傾向認メラレタリ而シテ三国妥協案ニ対スル帝國政府ノ回訓遲刻セル場合ニモ敢テ業々シク非難シタルモノナク又三国條約成立ノ報アルヤ一般輿論ハ右成立ヲ慶賀スルト共ニ同條約ニ依リ今後三国間ノ關係愈々親密ヲ告クヘシト云フニ一致シ唯一部ニ於テ米國ハ日本ニ総括七割ヲ認メ殊ニ松平「リード」協定ノ代償トシテ八吋砲艦十八隻中三隻ノ完成ヲ一九三六年以後トセルコトハ日本ニ譲歩シ過キタリトテ不満ヲ抱キ前記三隻ヲ條約有効期間内ニ完成シ得サル結果右有効期間ニハ対英「パリティ」ヲ実現シ得サルニ至レリトテ不服述ヘタル向アルニ過キス此ノ種論者ハ新聞電報ニ依リ伝ヘラレタル四月十五日付英國政府白書中八吋砲巡洋艦ニ関シ米國カ三隻ヲ建造スル場合 Japan will be free to advance the claim at the conference in 1935 for an increase in its eight inch tonnage ツアル点ニ相当注意ヲ払ヒ居ルモノノ如シ倫敦條約ハ米國全權帰國後速ニ上院ニ付議セラルコト略々確実ト認メラル処本條約ニ関シテハ外交委員会ノ外上下両院ノ各海軍委員会ニ於テモ聽取会

ヲ開クコトナルヘシト報セラル從テ右聴取会並ニ上院本會議等ノ機会ニ一部議員中ニハ我国トノ関係ニ付彼是議論ヲ為スヘキ者アルヘキモ既報「リード」其ノ他ノ米国全權等ノ放送演説ハ相當好反響ヲ与ヘ居リ現ニ排日傾向ヲ以テ知ラレ居ル上院議員「ジョンソン」(外交委員)ノ如キモ二十四日倫敦条約ニ対シ大体ノ意向ヲ公ニシタル際何等対日關係ニ言及シ居ラサルニキ顧ミ今日迄ノ情勢ヨリ推シ差當リ我國ニ対シ特ニ不利益ナル論評起ルヘキ傾向ナシ英ニ転電シ英ヲシテ全權ニ伝達シ仏伊ニ暗送セシム

521 昭和5年4月25日 在英國松平大使宛(電報)

### ロンドン海軍条約調印に関する各紙の論調について

本省 4月25日後1時30分発

第八〇号

#### 軍縮新聞情報

条約調印ニ關シ各新聞ハ一斉ニ祝意ヲ表シタルガ其論旨ハ何レモ大体条約ガ實質上三國条約ニ止マリシコト期待シタル程ニ實質的縮小ヲ實現シ得ザリシコト及我要求全部ヲ完

ルニ非ズヤ(條約ハ互讓妥協ノ結果ナレバ何レノ國ニモ不満足ノ点アルベキモ大局ヨリ見テ条約成立ノ場合ト決裂ノ場合トノ種々ノ結果ヲ考ヘ何レガ國民ノ安全感ヲ増スベキヤヲ考フルヲ要ス)

今一押シスルコトヲ得ザリシカ(如何ナル点デ話ヲ纏ムベキヤハ時機ノ観測如何ニアル處會議ニ於ケル交渉經過ニ付テハ述べ得ザルモ政府ハ我要求達成ニ付キ一切ノ方法ヲ尽シタル上適當ノ時機ニ適當ナル程度ニ纏メ得タリト信ズ)

妥協案ニ殆ド其儘同意セルハ若シ然ラザレバ會議決裂スベシト判断シ其結果造艦競争ヲ恐レタルニ非ザルカ(政府ノ措置ハ軍事外交財政經濟等諸般ノ見地ヨリ考慮セル結果ナリ其理由ヲ述ブルハ國家ノ利益ニ非ズ又造艦競争生ゼズトハ何人モ断言シ得ズ尚競争ガ特ニ我方ニ不利ニシテ之ヲ恐レタリト云フコトナシ何レノ國ニモ不利ナリ)

回訓ニ際シ軍令部長ノ同意アリタルヤ(回訓迄ノ半ヶ月間ハ軍部専門家ノ研究ヲ煩ハシ其結果タル意見ヲ質シ之ヲ十分ニ斟酌シ之ヲ取入ルル為百方努力シ然ル後軍部大臣ヲ含ム政府ニ於テ決定シタルモノニシテ之ニ基キ全權ハ非常ナル努力ヲナシ其結果ハ條約中ニ現ハレ居レリ軍部ノ専門的

全ニ認メシムルヲ得ザリシコト等ハ遺憾ナルニハ相違ナキモ世界ノ現状ヲ以テシテハ之以上ヲ望ムコト無理ナルベク又本条約ノ精神的効果ノ大ナルヲ思ハバ本条約成立ハ世界ノ為ニモ日本ノ為ニモ慶賀ニ堪エズ此成果ヲ齎シテ克ク使命ヲ果シタル我全權ニ対シ深ク感謝ス今後ハ世界ノ平和思想ヲ益々徹底セシメ軍縮事業ノ大成ヲ期スベシト云フニ在リ

522 昭和5年5月16日 在英國松平大使宛(電報)

### 第五十八議会における軍縮関係質疑応答の要旨について

本省 5月16日後1時発

第一〇六号

第五八議会ニ於ケル海軍會議ニ關スル重ナル質問応答ノ要旨左ノ如シ(括弧内ハ応答)

我三大要求中ノ二ガ貫徹サレズシテ国防安全ト云ヒ得ルヤ(条約存続期間内ハ我要求ヲ讓歩セリト云フヲ得ズ唯潜水艦ニ付テハ別ニ之ヲ補フ途アリ從テ国防ニ欠陥ヲ生ゼズ)最小限度トシテノ主張ヲ枉ゲ妥協セルハ国防ヲ犠牲ニ供セ

意見ヲ如何ナル範囲程度ニ採用セルヤ又軍令部長ノ同意アリタルヤ等ハ内部ノコトナレバ述ブルヲ得ズ)

次回ニ七割ヲ獲得ストシテモ米国大巡第十六隻以下起工ニ依リ我対米比率ガ一九三六年後両三年間低下スルハ危険ナラズヤ(右起工ノコトハ未ダ必ズシモ確定セズ又比率ガ両三年多少低下セリトテ直ニ危險ナリト云フハ極端論ニシテ國際關係ニ於テ武力ノ大小ガ万事ヲ決シタル時代ハ疾クニ過去レリ)

一九三六年以後ノ対米七割ガ保障セラルル見込ナク唯發言自由ノ留保ノ如キヲ頼ミニセルハ国防ニ不安ヲ貽スモノニ非ズヤ(留保ハ不安ヲ貽サザラムガ為ノモノナリ即チ一九三六年後ノコトハ次回會議ニテ決スベク其際如何ナル比率其他ノ要求ヲナスベキヤハ時ノ事情ニ応ジ定ムベク其際如何ナル要求ヲモ為シ得ル様自由ヲ留保セルナリ而シテ國際間ニ友好親善ノ感情ヲ助長スルハ次回會議ニ備フル所以ナリ)

最モ謙抑ナル我要求ヲ否ミタル英米ハ利己主義一点張リト云フベク何故正シキヲ履ムデ恐レザル態度ヲ執リ得ザリシカ(英米ノ心事ヲ忖度スルコトハ避ケ度シ各國共崇高ナル

理想精神ニテ終始シタルヲ確信ス)

米へ転電シ仏伊へ郵送アリタシ尚米ヲシテ紐育へ郵送セシ  
メラレタン

523

昭和5年5月16日

幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

**貴族院本会議における軍縮問題に関する答弁**

の要点について

本省 5月16日後4時45分発

貴族院本会議ニ於テ坂本俊篤男ノ質問ニ対スル本大臣答弁  
第一〇九号

海軍カ比率ニ付質問アリタルガ比率問題ノ具体的説明ハ自  
然英トカ米トカヲ対象トシテ論ズルコトナリ恰モ英又ハ  
米ノ海軍ニ対抗セムガ為我国ガ海軍ヲ保有スルカノ如キ誤  
解ヲ招キ易キ處云フ迄モナク我ト英米トノ関係ハ現ニ極メ  
テ満足スペキ状態ニ在リ将来モ何等不祥ナル事態ノ発生ヲ  
想像シ得ズ日英米三国ノ親善ハ世界平和維持ノ強キ保障ナ  
リ斯カル關係ヲ増進シ鞏固ニスルハ我歴代内閣ヲ一貫セル  
既定ノ方針ナリ從テ茲ニ比率ニ言及スルハ單ニ純理論トシ

激スル所造艦競争生セズトハ何人モ保障シ得ズ競争生ゼバ  
如何ニ軍備ヲ拡張スルモ何レノ国モ安全感ヲ増サズシテ却  
テ不安ノ念ヲ加フベシ今回条約ノ成立セルコト 자체が關係  
国間ニ新ナル平和親善ノ空氣ヲ注入セルハ明瞭ナリ此空氣  
ハ次回會議ノ事業ヲ容易ナラシムベシト期待セラル凡テ國  
際問題ノ解決ニハ斯カル精神的背景ガ何ヨリモ必要ナリ大  
局ヨリ見テ條約ノ成否各ノ場合ニ伴フベキ結果ヲ比較商量  
セバ何レガ我國民ニ安全感ヲ与フベキヤ常識ヲ以テ判断シ  
得ベシ條約不成立ノ場合ノ結果ヲ度外視シテ條約ノ価値ヲ  
批判スルハ不公平ナルベシ條約存続期間短シトノ批評アリ

テナスマノニシテ事實上我兵力ガ英又ハ米ノ夫レト対抗ス

ル場合ガ生ジ得ベキモノトハ毫モ予想シ居ル次第ニ非ズ条  
約存続中我対英比率ハ一定不变ナルモ對米比率ハ米ガ選択

権ヲ行使スルヤ否ヤニ依リテ變化アリ若シ之ヲ行使セバ我  
國ニトリテハ大巡問題ハ自然重要性ヲ減ジ輕巡ノ重要性ヲ  
増スコトトナルベシ斯カル場合ガ生ゼズトモ限ラズ過日ノ

演説中世界ノ形勢変遷シソツアリ今日ノ必要必ズンモ明日  
ノ必要ニ非ズト述ベタルハ此意味ナリ又一九三六年後兩三年  
間仮令我大巡比率低下スルコトアルモ其為我國際的地位  
ガ急ニ不安トナリ外侮ヲ招クモノトハ思考シ得ズ

國際關係ニ於テ武力ノ大小ガ万事ヲ決シタル時代ハ疾クニ  
過ぎ去レリ一國ノ發言權又ハ安全率ハ武力ト機械的ニ正比  
例スルモノニ非ズ若シ然リトセバ例ヘバ不測ノ災厄ノ為大  
巡一隻ヲ失ヘル場合其代換竣工迄ノ両三年絶エズ戦々兢々  
只管恐怖シ居ラザル可ラザル訳ナルモ今日ノ國際關係ハ斯  
クノ如キモノニ非ズト確信ス倫敦條約モ他ノ國際條約同様  
列国互讓妥協ニ依リ成レルモノナレバ何レノ国ニモ多少不  
満足ノ点ハアルベシ然レ共他方條約不成立ノ場合ヲモ一考  
シ見ルヲ要スペシ世界ノ輿論ハ絶大ノ失望ヲ感ズベク勢ノ

タルモ四、五年間ト雖モ纏メ得レバ纏ムルヲ可トス況シテ  
之ニ依リ國際關係ヲ改善シ國民負担ヲ輕減シ得タルモノナ  
レバ其利益ハ明瞭ナリ次回會議ガ列国間和氣囂々ノ裡ニ平  
和親善ノ空氣ヲ作ルコトハ國際問題解決ニ何ヨリモ必要ニ  
シテ余ハ此点ニ付深ク苦心シ居ル積リナリ

在米大使ヘ転電在歐各大使ヘ郵送アリ度ク米ヲシテ紐育ヘ  
郵送セシメラレ度シ